専　門　科　目

学科目	ページ
教育原論	28
教職概論	29
教育制度論	30
教育心理学	31
特別支援教育概論	32
教育課程論	33
道徳教育の指導法	34
総合的な学習の時間の指導法	35
特別活動の指導法	36
教育方法論	37
ICTを活用した教育の理論と方法	38
生徒・進路指導論	39
教育相談	40
国語(書写を含む)	41
社会	42
算数	43
理科	44
生活	45
初等音楽	46
図画工作	47
家庭	48
初等体育	49
初等英語	50
国語科教育法	51
社会科教育法	52
算数科教育法	53
理科教育法	54
生活科教育法	55
音楽科教育法	56
図画工作科教育法	57
家庭科教育法	58
体育科教育法	59
英語科教育法（小・中）	60
英語学概論	61
英語史	62
英文法演習	63
英語音声学	64
第二言語習得論	65
英語文学概論	66

学科目	ページ
Creative English Ⅰ	67
Creative English Ⅱ	68
Applied English Ⅰ	69
Applied English Ⅱ	70
Basic English Expression	71
Intermediate English Expression	72
Upper-Intermediate English Expression	73
Advanced English Expression	74
異文化理解	75
英語科教育法Ⅰ	76
英語科教育法Ⅱ	77
英語科教育法Ⅲ	78
保育内容の理解と方法・健康Ⅰ	79
保育内容の理解と方法・健康Ⅱ	80
保育内容の理解と方法・人間関係	81
保育内容の理解と方法・環境	82
保育内容の理解と方法・言葉Ⅰ	83
保育内容の理解と方法・言葉Ⅱ	84
保育内容の理解と方法・音楽表現	85
保育内容の理解と方法・造形表現	86
子どもと芸術表現Ⅰ	87
子どもと芸術表現Ⅱ	88
保育内容の指導法・健康	89
保育内容の指導法・人間関係	90
保育内容の指導法・環境	91
保育内容の指導法・言葉	92
保育内容の指導法・音楽表現	93
保育内容の指導法・造形表現	94
保育内容指導法	95
幼児教育概論	96
保育者論	97
保育の心理学	98
保育方法論	99
子どもの理解と援助	100
保育原理	101
子ども家庭福祉	102
社会福祉	103
子ども家庭支援論	104
社会的養護Ⅰ	105

学科目	ページ
子ども家庭支援の心理学 ……	106
子どもの保健 ……	107
子どもの食と栄養 ……	108
保育の計画と評価 ……	109
保育内容総論 ……	110
乳児保育Ⅰ ……	111
乳児保育Ⅱ ……	112
子どもの健康と安全 ……	113
障害児保育Ⅰ ……	114
障害児保育Ⅱ ……	115
社会的養護Ⅱ ……	116
子育て支援 ……	117
特別支援教育総論 ……	118
知的障害児の心理・生理・病理 ……	119
肢体不自由児の心理・生理・病理 …	120
病弱児の心理・生理・病理 ……	121
発達障害の心理アセスメント ……	122
知的障害教育論 ……	123
肢体不自由教育論 ……	124
病弱教育論 ……	125
知的障害教育指導論 ……	126
発達障害児の心理 ……	127
視覚障害児教育総論 ……	128
聴覚障害児教育総論 ……	129
現代教育課題Ⅰ ……	130
現代教育課題Ⅱ ……	131
資格英語Ⅰ ……	132
資格英語Ⅱ ……	133
障害の理解と支援 ……	134
自主課題演習Ⅰ ……	135
自主課題演習Ⅱ ……	136
デザインと造形 ……	137
わらべうたと地域文化 ……	138
ピアノ奏法Ⅰ ……	139
ピアノ奏法Ⅱ ……	140
即興伴奏法Ⅰ ……	141
即興伴奏法Ⅱ ……	142
子どもとリトミックⅠ ……	143
子どもとリトミックⅡ ……	144
子ども学	
子ども表現実践演習 ……	145
子ども実地研究Ⅰ ……	146
子ども実地研究Ⅱ ……	147
子どもと英語 ……	148
子どもと教育 ……	149
子どもの遊びと心理 ……	150
子どもと福祉 ……	151
グローバル学	
地域課題解決演習（PBL）Ⅰ ……	152
地域課題解決演習（PBL）Ⅱ ……	153
Global English ……	154
国際論 ……	155
教育実習	
教育実習指導（幼・小） ……	156
教育実習（幼・小）Ⅰ ……	157
教育実習（幼・小）Ⅱ ……	158
教育実習指導（小・中） ……	159
教育実習（小・中）Ⅰ ……	160
教育実習（小・中）Ⅱ ……	161
教育実習指導（中・高） ……	162
教育実習（中・高）Ⅰ ……	163
教育実習（中・高）Ⅱ ……	164
特別支援教育実習指導 ……	165
特別支援教育実習 ……	166
保育実習	
保育実習指導Ⅰ ……	167
保育実習Ⅰ ……	168
保育実習指導Ⅱ ……	169
保育実習Ⅱ ……	170
保育実習指導Ⅲ ……	171
保育実習Ⅲ ……	172
実践演習	
教職実践演習 ……	173
保育・教職実践演習（幼稚園） ……	174
ゼミナール	
卒業研究 ……	175

授業科目名	教育原論	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM1-2001-111110				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	2				英語教育専攻	必修

教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目 (幼稚園・小学校・中学校 (英語) ・高等学校 (英語))
各科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	教育の理念、思想、目的、現代教育課題の検討
授業概要	教育の基本的概念、教育の目標、教育を成立させている要因(子ども、教員、家庭、学校、地域)、代表的な教育思想について学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。さらに歴史や思想を踏まえた上で現代の教育課題についても考察する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.教育の基本的概念・本質・目標、教育が成立する要因(学校や家庭等)とその関係を理解する。	◎			
2.教育の歴史についての基礎的知識を身に付け、家族・社会・近代的教育制度の歴史的変遷を理解する。	◎			
3.教育に関する代表的な思想を理解する。	◎			
4.思想や歴史を踏まえた上で、現代の教育課題について理解し、考察する。				◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)
授業計画	第1回: 教育学の概念、教育の理念と思想を学ぶことの意義について。(目標 1) 第2回: 人間とは何か、人間と動物の違い、遺伝、人権と差別について。(目標 1,4) 第3回: ルソーの教育思想と近代教育について。(子どもの発見、近代以前から近代への教育の変遷)(目標 2,3) 第4回: ペスタロッチの教育思想について。(調和的発達、メトーデ)(目標 2,3) 第5回: フレーベルの教育思想について。(恩物、子どもの遊び、保育、家庭のあり方)(目標 2,3) 第6回: 近代教育制度の成立と展開について。(産業革命、国家と教会、モニトリアルシステム)(目標 2,3) 第7回: デューイの教育思想について。(経験、児童中心主義、発問)(目標 2,3) 第8回: 教育課程の変遷について。(昭和30年代の学習指導要領の定着、学力テスト)(目標 2) 第9回: 教育課程の変遷について。(昭和から平成にかけて、受験競争、ゆとり、学力向上)(目標 2) 第10回: 学校教育の本質と課題について。(特別活動、個性伸長、学級会、地域との関係)(目標 1,4) 第11回: 学校教育の本質と課題について。(生徒指導、人権尊重、いじめ、不登校、家庭との連携)(目標 1,4) 第12回: 学校教育の本質と課題について。(教育者の資質、リーダーシップ、研修、教員免許)(目標 1,4) 第13回: 学校教育の本質と課題について。(教育者の資質、褒める、叱る、学級崩壊、体罰)(目標 1,4) 第14回: 学校教育の本質と課題について。(保護者との関係、コミュニティスクールの導入)(目標 1,4) 第15回: 現代の教育課題について考察する。ディスカッション(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法:授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準: 教育学の基本的概念、教育の理念、代表的思想、歴史的変遷等の基本的事項についての説明できるか 歴史や思想を踏まえて現代の教育課題について考察できるか
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習:事前に配布したプリントを読み、用語について調べること、関連する書籍を読む。(90分程度) 復習:プリント、ノートを見て確認すること、授業内容についてスピーチが出来るように練習する。(90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:指定しない 参考書: 田代直人・佐々木司編著『新しい教育の原理』ミネルヴァ書房、2010年。 川野・阿川・栗原『小学校授業入門 山口学芸大学』
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教職概論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐々木 司
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-2002-001110</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">2年前期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教職の意義・役割、職務内容、資質能力、研修、服務・身分保障、教員養成制度、教師の専門職性、進路選択と教職論</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">この講義で教員としての基本的な資質を養うとともに、教職に就くにあたって基礎的基本的事項を考察する。教師をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションやグループプレゼンテーション等を通じて教職への意欲を高める。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解できている。(公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義、教職の職業的特徴を語ることができる)</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.教員の役割・資質能力を理解できている。(教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割、今日の教員に求められる基礎的な資質能力を語ることができる)</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解できている。(教員の職務の全体像、生涯にわたって学び続けることの必要性、職務上及び身分上の意義及び身分保障を語ることができる)</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4.学校内外の専門家と連携・分担して対応する必要性を理解できている。(チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を語ることができる)</td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ。テキスト等を事前に読んで、授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:オリエンテーション、教職の位置づけ－公教育の目的と教員(目標 1,2)
第2回:教育実習とそこへ至る学び～教職課程、教育実習について(目標 1,2)
第3回:教員免許状と教職への進路(目標 1,2,3)
第4回:授業をつくる－「教える」ということの意味(目標 1,2,3)
第5回:学級通信からみた学級経営(目標 1,2,3,4)
第6回:生き方の指導としての生徒指導・進路指導(目標 2,3)
第7回:特別活動の意義とその指導(目標 1,2,3,4)
第8回:「困っている子」として捉える特別支援教育(目標 1,2,3,4)
第9回:すべての教師が参画する学校経営(チームとしての活動)(目標 1,2,3,4)
第 10 回:研修と教師のライフステージ(目標 1,2,3)
第 11 回:小学校の教師に求められる資質・能力(目標 1,2,3)
第 12 回:中学校・高等学校の教師に求められる資質・能力(目標 1,2,3)
第 13 回:グローバル化社会における教師と教師教育(目標 2,3,4)
第 14 回:私(受講者)の進路選択と教職論～発表と指導(A グループ)(目標 1,2,3,4)
第 15 回:私(受講者)の進路選択と教職論～発表と指導(A グループ)(目標 1,2,3,4)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業内レポート(30%)・・・教職に対する適性や意欲を表明できるか
期末試験(70%)・・・教職に関する基礎的基本的事項(教員の存在意義、教職に求められている役割、職務内容、学校内外の多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担のあり方など)を修得しているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">希望者には、毎回、授業終了時刻から質問への応答、課題に対するコメント等を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストの事前通読、不明箇所のノートへの書き出し(各回 90 分)
復習:ノートの充実化、個別発展学習(各回 90 分)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:佐々木司・三山緑(編)『これからの学校教育と教師』ミネルヴァ書房、2014
参 考 書:授業中、適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">座席は出席番号順の固定制とする。予習＝90 分、授業＝90 分、復習＝90 分を基本とする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育制度論</td><td>教員名</td><td>川野 哲也
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-2003-011110</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育制度、教育法規、教育制度改革の歴史的変遷、現代的教育課題</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">戦前から戦後、現在に至る教育制度の変遷をとらえ、現代の教育制度についての基礎的な知識、学校と地域との連携に関する基礎的な知識、学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。さらに教育制度に関連する教育課題について考察する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.公教育の原理・理念、教育関係法規、教育行政の仕組みについて理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.学校と地域との連携について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.学校安全への対応について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.教育制度をめぐる教育課題について理解し、考察する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回: 公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。(明治時代における学制、教育令、等)(目標 1)
第2回: 公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。(戦後の改革、日本国憲法、教育基本法、等)(目標 1)
第3回: 教育制度の歴史的変遷について。(教育基本法の改正、現在における法体系、等)(目標 1)
第4回: 義務教育について。(就学義務、費用、国庫負担、教育財政、等)(目標 1,4)
第5回: 各学校の目的について。(一条学校、私立学校と宗教の問題、等)(目標 1,4)
第6回: 教育行政の仕組みについて。(中央と地方の役割分担、教育委員会、総合教育会議、等)(目標 1,4)
第7回: 教育水準の維持向上について。(ゆとりから学力向上策へ、中央教育審議会の役割、等)(目標 1,4)
第8回: アメリカにおける教育制度について。(公設民営学校:チャータースクール、等)。(目標 1,2,4)
第9回: 学校選択制度の導入について。(学区制、保護者の教育要求、等)(目標 1,2,4)
第10回: 学校の教員組織、開かれた学校づくりについて。(学校評議員、地域運営学校、等)(目標 1,2,4)
第11回: 教員の養成と研修について。(免許制度、教員の任用と免職、服務、研修制度、等)(目標 1,4)
第12回: 出席管理と記録について。(不登校、出席停止、指導要録、健康診断、等)(目標 1,4)
第13回: 学校生活の安全について。(安全な学校施設、事件や事故の対応、安全教育、等)(目標 1,3,4)
第14回: 自然災害への対応について。(各学校における取組)(目標 1,3,4)
第15回: 現代の教育制度をめぐる課題について。ディスカッション。(目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッションを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20%
評価の基準: 教育制度の基本的事項(公教育の原理、教育法規、教育行政の仕組み等)を説明できるか。
教育制度に関する現代の課題、今後の教育制度について考察できるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:事前にプリントを配布するので、用語については各自調べておくこと、現状の課題について考察しておくこと。(90分程度)
復習:授業で扱った内容については復習し、さらに図書館等で関連書籍を読むこと。(90分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参考書:『2021年度版 教育小六法』学陽書房、2021年。
河野和清編『現代教育の制度と行政』福村出版、2017年。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	教育心理学	教員名	堂野 佐俊 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM1-2004-001110				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))
各科目に含めることが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
授業テーマ	心理学的知見を教育の世界に適用して効果的な学習のあり方について理解する。
授業概要	教育という行為は、人間社会の多様な場面で行われるものである。大人と子ども、先生と生徒、先輩と後輩、障害のある子どもと適応に困難を示す子ども、など、教える側の人と教えられる側の人の関係は様々な形態となっている。また、教育の内容や方法も複雑多様で、単純な手引き書的な原理だけでは効果的な教育が期待できない場合が多い。望ましい教育関係の背景には、適切な理論的基盤に立脚した指導や実践が伴っている。本講では、心理学的な立場から子どもの発達や特性を理解し、子どもと関わる場合に必要となる教育の基本的な知識や技術について概説し、教育実践における効果の向上についての理解を深める。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.人間発達の概念及び教育心理の意義について理解する。	○		◎	
2.発達の過程及び特徴を理解する。	◎	○		
3.学習の領域と過程について理解する。	◎	○		
4.記憶と学習の転移について理解する。	◎	○		
5.学習過程と動機づけについて理解する。	◎		○	
6.学級集団の力学と構造について理解する。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:人間発達の概念と教育心理学の概念 (目標 1,2) 第2回:発達の過程と教育心理学の意義 (目標 1,2) 第3回:教育心理学的研究方法 (目標 1) 第4回:学習の概念 (目標 3) 第5回:学習の領域 (目標 3) 第6回:各時期における発達の特徴及び言語学習・思考的学習・社会的学習 (目標 2,3) 第7回:各時期における発達の特徴及び記憶と忘却 (目標 2,4) 第8回:学習の転移 (目標 4) 第9回:学習と動機づけ・レディネス (目標 5) 第 10 回:教授=学習過程と学習指導 (目標 5) 第 11 回:学級集団の概念 (目標 6) 第 12 回:学級集団の規範とリーダーシップ (目標 6) 第 13 回:学級集団構造の理解 (目標 6) 第 14 回:学級集団の人間関係 (目標 6) 第 15 回:学級集団の指導 (目標 6) 定期試験
アクティブ・ラーニング	毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。
成績評価基準	評価の方法:中途でのレポート(30%)、及び定期試験(70%)の結果を総合的に評価する。 評価の基準:60 点以上を合格とする。
フィードバックの方法	毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習:前もって配布された資料に従ってテキストを理解する。 復習:配布され授業中に書き込まれた資料を自分のノートとして作成する。 (予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:「教育心理学要論」(堂野佐俊・堂野恵子(編)) 北大路書房 参考書: 講義の進行に応じてその都度提示する。講義は、毎回(IT)パワーポイント等を使用し、視聴覚的にも提示する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	毎回の授業後の質問・コメントカードを積極的に活用してほしい Where there is a will, there is a way. 心理学教育に関して、中学校教員としての経験も加味しながら現場の教育に立脚した諸課題について話題を提供します。 山口県臨床心理士会長(8年間)としての立場で、多くの臨床心理士(スクールカウンセラー等としての)とともに不登校、いじめ等の事象に関する話題を提供します。 国立大学附属特別支援学校長(4年間)としての経験に基づいた子ども達の心理発達に関する話題を提供します。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>特別支援教育概論</td><td>教員名</td><td>門脇 弘樹
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM1-2005-011110</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年前期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園・小学校・中学校（英語）・高等学校（英語））</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">特別支援教育</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">多様なニーズのある子どもの理解と支援</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や発達について理解する。(インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する／発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する／視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける)</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援方法について理解する。(発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる／「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する／特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する／特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解する)</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の実態や支援方法について理解する。(母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する)</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第 1 回： 特別支援教育の歴史と制度の理念 （目標 1,3）
第 2 回： インクルーシブ教育システムの理念 （目標 1,3）
第 3 回： 障害のある幼児、児童及び生徒の発達 (1) ― 視覚障害・聴覚障害について （目標 1,2）
第 4 回： 障害のある幼児、児童及び生徒の発達 (2) ― 知的障害・肢体不自由・病弱について （目標 1,2）
第 5 回： 障害のある幼児、児童及び生徒の発達 (3) ― 発達障害・軽度知的障害について （目標 1,2）
第 6 回： 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程 ―「自立活動」について （目標 1,2）
第 7 回： 通常の学級における特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育的ニーズと支援方法 （目標 1,2,3）
第 8 回：「通級による指導」における特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育的ニーズと支援方法 （目標 1,2,3）
第 9 回： 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の保幼小接続・小中接続 （目標 1,2,3）
第 10 回： 個別の指導計画の作成 （目標 1,2,3）
第 11 回： 個別の教育支援計画の作成 （目標 1,2,3）
第 12 回： 特別支援教育コーディネーターの役割 ― 校内委員会の設置と校内連携について （目標 1,2,3）
第 13 回： 貧困の問題等により支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育的ニーズと支援方法 （目標 1,2,3）
第 14 回： 外国籍の幼児、児童及び生徒に対する教育的ニーズと支援方法 （目標 1,2,3）
第 15 回： 外部機関との連携 ― 家庭や療育施設等の関係機関との連携について （目標 1,2,3）
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業内レポート及び発表(50%)、定期試験(50%)
評価の基準:授業内レポート及び発表(授業で扱った内容について考察し、説明することができる)、定期試験(特別支援教育に関する基本的事項を理解できる)</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントを述べる。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業で配布する資料を読んでおく(各回90分程度)。
復習:授業で配布した資料を中心に復習する(各回90分程度)。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『特別支援教育総論―インクルーシブ時代の理論と実践』、川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己編著、北大路書房
参考書: 特になし。
参考資料等: 各授業において適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育課程論</td><td>教員名</td><td>松村 納央子
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-2006-011110</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園・小学校・中学校（英語）・高等学校（英語））</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義／教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法／複数の教科・領域・学年に渡って教育内容・教育方法を把握すること、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 学習指導要領の位置づけ、学校教育課程が社会において果たしている役割を理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 教育課程編成の基本原理を理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 教科・領域を横断して教育内容を選択・配置する方法、生徒の実態や学校が置かれている環境を踏まえた教育課程・指導計画を検討する重要性を理解する</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>4. カリキュラム・マネジメントの意義、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法: ①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">01 学校において教育課程はなぜ編成されるのか－公教育の目的を踏まえて［目標1］
02 ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(1)－昭和22年「試案」ならびに昭和26年改訂・昭和31年改訂 ［目標1・2］
03 ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(2)－昭和33年(中)・昭和35年(高)改訂ならびに昭和44年(中)・昭和45年(高)改訂［目標1・2］
04 ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(3)－昭和 52 年(中)・昭和 53 年(高)改訂ならびに平成元年改訂［目標1・2］
05 ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(4)－平成10年(中)・平成11年(高)改訂ならびに平成20年(中)・平成21年(高)改訂［目標1・2］
06 ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(5)－平成29(小・中)・平成30(高)年改訂［目標1・2］
07 教科・領域横断的な視点とは ［目標2・3・4］
08 教科・領域横断カリキュラムの事例(1)－メディアをテーマとしたカリキュラム［目標2・3・4］
09 教科・領域横断カリキュラムの事例(2)－市民性をテーマとしたカリキュラム［目標2・3・4］
10 教科・領域横断カリキュラムの事例(3)－防災を含む安全をテーマとしたカリキュラム［目標2・3・4］
11 カリキュラム・マネジメント(1)－教育目標の設定 ［目標1・2・3・4］
12 カリキュラム・マネジメント(2)－教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合せ ［目標1・2・3・4］
13 カリキュラム・マネジメント(3)－ルーブリックの作成と評価 ［目標1・2・3・4］
14 カリキュラム・マネジメント(4)－学習者自身の評価 ［目標1・2・3・4］
15 カリキュラム・マネジメント(5)－「社会に開かれた教育課程」とするには ［目標1・2・3・4］</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 毎回の授業後に取り組むレポート(30%)、定期試験(70%)
評価の基準: 毎回の授業後に取り組むレポートにおいてはその記述内容の適切さを求める。定期試験においては、毎回の授業で得た知識の定着度に加え、情報収集・取捨選択の妥当性を求める。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">面接授業であるが、授業中だけではなく共有すべき受講生からの質問に対してTeams上にて適宜フィードバックを行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 指定された資料を読み、不明な用語について調べる。各回90分程度。
復習: 授業中のキーワードを抽出し、解説を加える。各回90分程度。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 文部科学省2017a: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編、文部科学省2017b: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編、文部科学省2018: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編
参考書: 授業中適宜紹介する。
参考資料等: 授業中適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>道徳教育の指導法</td><td>教員名</td><td>川野 哲也
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-2007-001120</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
（小学校・中学校（英語）・高等学校（英語））</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">・道徳の理論及び指導法</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">道徳教育の理論、道徳の指導法</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">道徳教育の意義や本質等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究と模擬授業等を通して適切な授業計画を立案する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.現代社会における課題、道徳教育の意義、道徳の本質について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.道徳教育の目標、内容、評価、児童生徒の道徳性発達について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.道徳の授業計画と指導方法を理解し、自らも立案することができる。</td><td>○</td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ （状況によって②遠隔との併用の可能性もある）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回: 道徳の本質、現代における道徳教育の意義について。(いじめ、情報モラル、等)(目標 1)
第2回: 道徳の本質、古代ギリシアの思想について。(ソクラテスの議論、徳とは何か、等)(目標 1)
第3回: 道徳の本質、リベラリズムの思想について。(個人の自由とは何か、法と道徳、等)(目標 1)
第4回: 道徳の本質、カントの思想について。(結果と動機、自律と他律、普遍的法則、等)(目標 1)
第5回:道徳教育の理論、コールバーグの理論について。(道徳性発達、等)(目標 2)
第6回: 道徳教育の理論、学習指導要領の変遷について。(現代的課題、道徳科の設置、等)(目標 2)
第7回: 道徳教育の理論、道徳教育の目標と内容について。(学習指導要領、全体計画と指導計画、等)(目標 2)
第8回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:生活習慣、努力、希望)(目標 2,3)
第9回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:誠実、善悪の判断、自由)(目標 2,3)
第 10 回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:礼儀、親切、思いやり)(目標 2,3)
第 11 回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:友情、相互理解、寛容)(目標 2,3)
第 12 回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:勤労、公共の精神、学校生活)(目標 2,3)
第 13 回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:家族愛、伝統文化、愛国心)(目標 2,3)
第 14 回:道徳の指導法について。(指導計画と教材研究:生命の尊さ、動植物の命)(目標 2,3)
第 15 回:まとめ</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">1～7回では、ディスカッション、8～14 回では、模擬授業、ロールプレイを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業時に数回実施する確認テスト 80%、レポート 20%
評価の基準:道徳教育に関する基本的事項について説明できるか、適切な指導計画を立案できるか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:次週の課題を予告するので、用語など調べ、自分なりに考察すること。(90 分程度)
復習:よく復習しておくこと。関連する書籍を読むこと、道徳の教材を使った模擬授業を友人同士で行うこと。(90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領
参考書:西村正登著『現代道徳教育の構想』風間書房、2008 年。
『新しい道徳』東京書籍(教科書) 『道徳 きみがいちばんひかるとき』光村図書(教科書)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法	教員名	藤上 真弓 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM2-2008-001110				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	2年前期 (集中講義)		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))
各科目に含めることが必要な事項	総合的な学習の時間の指導法
授業テーマ	総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の原理・果たすべき役割の理解
授業概要	総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の教育理念や教育原理、子どもに育む資質・能力、カリキュラム・マネジメントや単元開発、授業づくり等に必要な視点や方法、考え方等について学ぶとともに、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を通じて、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。

達成目標	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の教育理念や教育原理、目標、内容、方法、課題等や、総合的な学習の時間の意義や果たすべき役割について、資質・能力の育成の視点から理解している。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する)	◎		○	
2.総合的な学習の時間・総合的な探究の時間において、主体的・対話的で深い学びを生み出すためのカリキュラム・マネジメントや単元計画、授業づくりに必要な視点や方法、考え方等や、各教科等の関連性の図り方について理解する。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。)	○	◎	○	○
3.探究的な学び・探究を生み出す教師の手立てや総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における評価方法について理解する。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。)	○		◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回: 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の意義と果たす役割(目標、教育理念、教育原理、カリキュラム・マネジメント)(目標 1,2) 第2回: 主体的・対話的で深い学びを生み出すカリキュラム・マネジメント、単元デザインのポイント(目標 2,3) 第3回: 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間に身に付けたい資質・能力とカリキュラム・マネジメント、指導計画作成のあり方(各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用のあり方)(目標 1,2,3) 第4回: 目標を実現するためにふさわしい探究的な課題や探究的な学習の過程、探究課題や探究の過程を生み出すための手立て(目標 1,2,3) 第5回: キャリア教育を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント(目標 1,2,3) 第6回: 環境や福祉等、現代的課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント(目標 1,2,3) 第7回: 地域や学校の特色に応じた課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント(目標 1,2,3) 第8回: 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における評価(見取り、グループモデレーション等)(目標 1,3) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク
成績評価基準	・定期試験(50%)…総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の存在意義や育むべき資質・能力、カリキュラム開発・単元づくり・授業づくり・評価等に関する知識・技能を修得しているか ・授業終了時の授業内レポート(35%)…講義内容を踏まえて総合的な学習の時間・総合的な探究の時間に対する考えを表明できるか ・授業の態度・授業への参加度[グループ活動、発表等](5%)…意欲的に自分の考えを述べたり、活動に参加したりしているか ・受講者の発表(10%)…グループディスカッションの過程や結果を論理的に説明できるか
フィードバックの方法	授業内レポートへのコメント等
時間外の学習について	予習:講義内で提示した資料や参考文献を次の講義までに読んでおくこと。各回90分程度。 復習:定期試験に備え、各回の講義内容の要旨を整理しておくこと。各回90分程度。
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、文部科学省「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」、文部科学省「高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編」 参考書:都留覚・藤上真弓「小学校プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」東洋館出版社、2012 文部科学省「(小学校編)今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版、2010 文部科学省「(中学校編)今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育図書出版社、2010 文部科学省「(高等学校編)今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版、2013 文部科学省教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[小学校総合的な学習の時間]」、東洋館出版社、2020 文部科学省国立教育政策所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[中学校総合的な学習の時間]」、東洋館出版社、2020 文部科学省国立教育政策所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[高等学校総合的な探究の時間]」、東洋館出版社、2021 文部科学省「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」教育出版、2011 文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版、2011 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版、2012 参考資料等:授業中に適宜配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	小学校教員経験

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>特別活動の指導法</td><td>教員名</td><td>森 俊博
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-2009-021110</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">大学が独自に設定する科目（幼稚園）
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校・中学校（英語）・高等学校（英語））</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">特別活動の指導法</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">特別活動, チームとしての学校, 合意形成, 意志決定</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">特別活動の意義や目標および内容と, 連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導を理解し, 基礎的な学習理論を踏まえた授業設計を行う方法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr><tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.特別活動の意義や目標および内容を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2.教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3.基礎的な学習理論を踏まえた授業設計を行う方法を身に付ける。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr><tr><td>4.特別活動における連携した組織的な対応の在り方を理解する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. オリエンテーション・特別活動はどんな学習活動か(目標1, 2)
2. 特別活動の背景(1)特別活動の教育上の特性(目標1)
3. 特別活動の背景(2)特別活動の目標と主な内容(目標1, 2)
4. 特別活動の背景(3)特別活動で教師に求められる力量(目標1, 2)
5. 特別活動の背景(4)特別活動で教師に求められる力量の具体(目標1, 2)
6. 特別活動の背景(5)特別活動と学級経営(目標1, 3)
7. 特別活動の背景(6)特別活動と学級集団の発達段階(目標1, 3)
8. 受講生による模擬授業(目標3)
9. 特別活動の実際(1)特別活動の全体計画と指導計画・受講生による模擬授業(目標1, 3)
10. 特別活動の実際(2)学級活動・ホームルーム活動とは(目標2, 3)
11. 特別活動の実際(3)学級活動の指導の実際(目標1, 3)
12. 特別活動の実際(4)学校行事の指導の実際(目標1, 3)
13. 特別活動の実際(5)特別活動における評価・小テスト(目標1, 2, 3)
14. 受講生による模擬授業(目標3)
15. 特別活動の実際(6)児童会・生徒会活動の指導の実際・受講生による模擬授業(目標2, 3, 4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション, グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:小テスト(30%), 授業内レポート(30%)、受講者の発表(40%)
評価の基準:小テスト(特別活動の指導に必要な基礎的な知識を理解することができる), 授業内レポート(根拠を明確にして論理的に自説を述べる), 受講者の発表(情報通信技術を活用して, 指導に関する理論を踏まえた基礎的な指導を例示できる)</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントを述べる</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。各回90分程度
復習:授業内で紹介した特別活動の内容について書籍や論文などで調べ, まとめること。各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特別活動の理論と実際(2018年 河村茂雄(編著) 図書文化社)
参考書:平成29年告示 学習指導要領解説特別活動編
参考資料等:授業中に適宜配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">グループ活動を行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。
小学校教員経験:自律性支援的な指導行動等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育方法論</td><td>教員名</td><td>森 俊博
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-2010-001110</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育の方法及び技術</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">授業設計, 指導技術, ICT の効果的な活用, 主体的・対話的な深い学び</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">授業設計に関わる基本的な考え方, 授業場面での指導技術, ICT の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.教育方法の基礎的理論と実践を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.授業を構成する基礎的な要件を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.基礎的な指導技術を理解し, 例示する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.学習評価の基礎的な考え方を理解し, 学習指導案を作成する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法 : ①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. オリエンテーション・教育方法論の位置づけとICT 活用(目標1, 2)
2. 教育方法論の歴史的展開(目標2, 3)
3. 教授・学習の諸理論(目標1, 2)
4. 学力問題の世界的動向とICT 活用(目標2, 4)
5. 主体的・対話的で深い学び(目標1, 2)
6. 学習評価(目標3)
7. 授業の研究:授業分析(目標1, 3)
8. 授業の研究:教師の学習・児童・生徒観作成(目標1, 2, 4)
9. レッスンスタディ授業研究の学校文化・教材観作成(目標1, 2, 4)
10. メディアリテラシーとICT リテラシー・本時案作成①(目標1, 2, 4)
11. ICT 活用 理論と実践・本時案作成②(目標1, 2, 4)
12. ICT 活用1人1台端末時代に向けて・模擬授業に向けて(目標2, 3)
13. 授業の基礎的技術①・模擬授業に向けて(目標2, 3)
14. 授業の基礎的技術②・小テスト(目標3)
15. 受講生による模擬授業(目標3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション, グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:小テスト(30%), 授業内レポート(50%)、模擬授業(20%)
評価の基準:小テスト(教育方法の基礎的な理論と実践方法を理解できる), 授業内レポート(基礎的な学習指導理論を踏まえて、指導案を作成することができる), 模擬授業(基礎的な学習指導の技術を活用することができる)</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントを述べる</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。各回90分程度
復習:授業内で紹介した教育方法の内容について書籍や論文などで調べ, まとめること。各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT 活用」 (2022年 武田明典・村瀬公胤編者 北樹出版)
参考書:平成29年告示 学習指導要領解説総則編
参考資料等:授業中に適宜配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">グループ活動を行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。
小学校教員経験:主体的・対話的で深い学び等の学校現場の今日的なテーマについての話を講義の中で行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>ICTを活用した教育の理論と方法</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">三池秀敏
長篤志
辻岡博之</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM1-2011-011110</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法(小・中・高)
・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) (幼稚園)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">ＩＣＴを活用した教育の歴史を学ぶとともに、日進月歩を続ける情報通信技術（ＩＣＴ）を幼・小・中・高の教育・校務に活用し、子どもたちの情報活用能力を育成する基礎理論と応用技術・手法を身に付けることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">①教育現場におけるICT活用について、その歴史的経緯や意義、最新の現状について学ぶとともに、②各教科の指導におけるICT活用の基本的な指導事例や指導法に加え、授業準備や学習評価への活用、校務システムへの活用、教育データの活用なども学ぶ。③また、児童生徒の情報活用能力の育成の意義や具体的な指導法、プログラミング教育の基本等を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 教育現場における情報通信技術(ICT)の活用の意義と理論を理解している。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 日進月歩を続ける情報通信技術(ICT)を幼・小・中・高の学習指導や校務の実際に活用するための方法や今後の在り方について理解している。</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 子どもたちの情報活用能力を育成する基礎理論及び育成方法を身に付けている。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法: ②面接授業と遠隔授業等の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:教育現場におけるICT活用の歴史的変遷と今日的な意義、今後の方向性 (辻岡博之)(目標1)
第2回:ICT活用の指導法の基本理論と、対話的な学びを深める指導事例の理解(辻岡博之)(目標2)
第3回:幼児や特別な支援を要する児童生徒に対するICT活用の意義と、個別最適な学びを支える基本的な指導事例や最新情報の理解(AIロボットの活用など)(辻岡博之)(目標1, 2)
第4回:教育データを活用した指導や学習評価、校務推進への活用の理解と、教育情報セキュリティの重要性の理解(辻岡博之)(目標1, 2)
第5回:子どもたちの情報活用能力(情報モラルを含む)の内容とその育成の指導事例の理解(辻岡博之)(目標3)
第6回:遠隔授業の意義や関連システムの理解と、デジタル教材の作成・活用(子どもたちによるICT機器操作のための指導の基本を含む)(三池秀敏)(目標2, 3)
第7回:対面授業を想定したデジタル教材の作成・活用の実践Ⅰ(子どもたちによるICT機器の活用や情報モラルの指導も含む)(三池秀敏)(目標2, 3)
第8回:対面授業を想定したデジタル教材の作成・活用の実践Ⅱ(具体的なテーマ選択での講義資料作成・活用の発表 (子どもたちの情報活用能力向上にかかる指導法の検討も含む)(三池秀敏)(目標2, 3)
第9 回:デジタル教材の作成・活用の発表と振り返り(グループ討議を含む)(三池秀敏)(目標1, 2, 3)
第10回:外部人材の活用や外部機関との連携、学校におけるICT環境の整備等の在り方の基本と、情報活用能力の育成に向けた活用の在り方の理解(辻岡博之)(目標1, 3)
第11回:プログラミング教育の意義と基本的なプログラミングの考え方、子どもたちへの指導方法(長篤志)(目標1, 2)
第12回:基本プログラミング言語による基本的教材開発と学習指導への活用の基本(長篤志)(目標2, 3)
第13回:基本プログラミング言語による開発ソフトの理解と学習指導への活用(長篤志)(目標2, 3)
第14回:興味関心を高める指導や情報活用能力向上に向けた教材開発Ⅰと学習指導への活用 (音楽演奏ソフトの作成を含む)(長篤志)(目標2, 3)
第15回:興味関心を高める指導や情報活用能力向上に向けた教材開発Ⅱと学習指導への応用(長篤志)(目標2, 3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">研究テーマを選択させ、文献調査やネットでの情報収集により、グループでの研究発表・質疑応答を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:毎回の演習課題提出、発表等の採点を総合的に評価する。
評価の基準:毎回の演習課題50点、研究課題や開発教材のプレゼン評価50点とする。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎回の課題等に、コメントをつけて返却し、指導する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:毎回の講義資料を前日までにTEAMSに掲示し予習を促す。可能であれば反転授業の形をとる。各回90分程度。
復習:前回の講義資料の閲覧を促し、次回の講義の始めに簡単な小テストを行う。各回90分程度。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:使用しない (講義資料等を適宜配布する)
参考書:ＰＣ１人１台時代の間違えない学校ＩＣＴ（堀田龍也著、小学館、２０２０年）</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">毎回の講義において、事前に講義資料がTEAMSにアップロードされているので、予習復習に活用すること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>生徒・進路指導論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">森 俊博
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-2012-001110</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td><td rowspan="3">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))</td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="7">生徒指導の理論及び方法</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="7">生徒指導, 集団指導, 個別指導, いじめ, 不登校, 関係機関との連携</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="7">生徒指導の意義や原理, 生徒指導の進め方を理解し, 関係機関等の校内外の連携を含めた対応の在り方についての知識と指導の実際を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">科目DP:(1)
DP番号 (1) (2) (3) (4)
1.生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 ◎ ○
2.すべての児童・生徒を対象とした生徒指導・進路指導・キャリア教育の進め方を理解する。 ◎ ○
3.自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方, 課題に向き合う指導の在り方を例示する。 ○ ◎
4.関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。 ○ ◎</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="7">授業の実施方法 : ①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">1. オリエンテーション・生徒指導とは(目標1)
2. 生徒指導・進路指導の背景(1)生徒指導と進路指導・キャリア教育の意義と原理(目標1, 2)
3. 生徒指導・進路指導の背景(2)現代の子どもとこれからの生徒指導(目標2, 3)
4. 生徒指導・進路指導の背景(3)教育活動における生徒指導と進路指導(目標1, 2)
5. 生徒指導・進路指導の背景(4)個人と集団理解の方法(目標1, 2)
6. 生徒指導・進路指導の背景(5)個人と学級集団の理解(目標1, 2)
7. 生徒指導・進路指導の背景(6)生徒指導体制・進路指導体制と組織的な取組(目標3, 4)
8. 生徒指導・進路指導の背景(7)生徒指導やキャリア教育に関する法令(目標3, 4)
9. 受講生による模擬授業(生徒指導)(目標3)
10. 受講生による模擬授業(キャリア教育)と小テスト(目標1, 3)
11. 生徒指導・進路指導の実際(1)不登校やいじめの理解と対応(目標1, 2)
12. 生徒指導・進路指導の実際(2)いじめの理解と対応・予防と発見(目標1, 2)
13. 生徒指導・進路指導の実際(3)生徒指導と特別支援教育(目標1, 2)
14. 生徒指導・進路指導の実際(4)授業崩壊の理解、キャリア・カウンセリングと小テスト(目標1, 2)
15. 生徒指導・進路指導の実際(5)家庭・地域・関係機関との連携・レポート(目標2, 4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="7">ディスカッション, グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="7">評価の方法:小テスト(30%), 授業内レポート(50%)、受講者の発表(20%)
評価の基準:小テスト(生徒指導を進めていくために必要な知識を理解できる), 授業内レポート(根拠を明確にして論理的に自説を述べている), 受講者の発表(基礎的な指導技術を活用することができる)</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="7">授業中にコメントを述べる</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="7">予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。各回90分程度
復習:授業内で紹介した生徒指導の内容について書籍や論文などで調べ, まとめること。各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="7">テキスト:生徒指導・進路指導の理論と実際 改訂版 (2019年 河村茂雄(編著) 図書文化社)
参考書:平成29年告示学習指導要領 生徒指導提要
参考資料等:授業中に適宜配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="7">グループ活動を行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。
小学校教員経験:いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育相談</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">森 俊博
(実務経験)
名島潤慈</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM4-2013-011110</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
</table>

教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))
各科目に含めることが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
授業テーマ	教育相談, カウンセリング, 幼児・児童・生徒の問題行動や障害, 関係機関
授業概要	発達の状況に即しつつ, 個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え, 支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身につける。

達成目標

DP番号	科目DP:(1) (1)	(2)	(3)	(4)
1.学校における教育相談の意義と内容を理解する。	◎			○
2.教育相談を進める際に必要な基本的な姿勢や技法を理解する。		◎		○
3.子どもの問題行動と対応について理解を深める。	◎			○
4.組織的な取組みや園・学校内外の専門家との連携についての理解を深める。		○	◎	

履修条件・注意事項	授業の実施方法 : ①面接授業のみ
授業計画	1. オリエンテーション・教育相談の意義と課題(担当:森俊博)(目標1, 3) 2. 教育相談の背景(1)子どもの心理と発達課題(担当:森俊博)(目標3) 3. 教育相談の背景(2)カウンセリングの基礎知識(担当:森俊博)(目標2) 4. 教育相談の背景(3)教育相談の技法(1) アセスメント(担当:森俊博)(目標1, 2) 5. 教育相談の背景(4)教育相談の技法(2) イメージ・身体技法(担当:名島潤慈)(目標1, 2) 6. 教育相談の実際(1)校内体制と組織的な教育相談(担当:森俊博)(目標3, 4) 7. 教育相談の実際(2)学級集団づくりとともに進める教育相談(担当:森俊博)(目標3) 8. 教育相談の実際(3)教育活動とともに進める教育相談(担当:森俊博)(目標1, 2, 3) 9. 教育相談の実際(4)配慮が必要な子どもの理解と対応・小テスト(担当:森俊博)(目標3) 10. 教育相談の実際(5)障害のある子どもの理解と対応(担当:森俊博)(目標3, 4) 11. 教育相談の実際(6)不登校の理解と対応 (担当:森俊博)(目標2, 3, 4) 12. 教育相談の実際(7)いじめの理解と対応(担当:森俊博)(目標2, 3, 4) 13. 教育相談の実際(8)非行の理解と対応・小テスト(担当:森俊博)(目標3, 4) 14. 教育相談の実際(9)自殺・自傷行為の理解と対応(担当:名島潤慈)(目標3, 4) 15. 教育相談の実際(10)家庭・地域・関係機関との連携・レポート(担当:森俊博)(目標4)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク
成績評価基準	評価の方法:小テスト(50%), 授業内レポート(50%) 評価の基準:小テスト(教育相談に関わる基礎的な知識を理解することができる), レポート(根拠を明確にして論理的に自説を述べている)
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる
時間外の学習について	予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。各回90分程度 復習:授業内で紹介したカウンセリングの内容について書籍や論文などで調べ, まとめること。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:教育相談の理論と実際 改訂版 (2019年 河村茂雄(編著) 図書文化社) 参考書:平成29年度告示 学習指導要領 参考資料等:授業中に適宜配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	グループ活動を行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。 小学校教員経験:いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>国語（書写を含む）</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">上田 保明
（実務経験）
（単独）</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2014-001000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項（小学校）</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">小学校国語科教育の充実のために小学校学習指導要領の内容と学習理論の理解</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">小学校学習指導要領国語科の各領域を概観し、教材研究の仕方、教材の味わい方、さらに学習理論を名作の読解をとおして学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.小学校国語科の各領域の学習内容を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2.小学校国語科の各領域の評価方法を知る。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.小学校国語科の指導案の作成の仕方を習得する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 人格形成に関わる国語科教育の重要性と意義(目標 1,2)
2. 小学校学習指導要領国語編「話すこと」 自己紹介(目標 1)
3. 小学校学習指導要領国語編「聞くこと」 自己紹介(目標 1)
4. 小学校学習指導要領国語編「書くこと」 日記指導(目標 1)
5. 物語を読み味わう価値と楽しさを体験する。志賀直哉『小僧の神様』を読む(目標 1,2)
6. 小学校学習指導要領国語編「読むこと」 「たぬきの糸車」を読む(目標 2,3)
7.「書写」の指導(1) 書写指導の基本 硬筆・毛筆の実技(目標 1.2)
8.「書写」の指導(2) 毛筆の実技(目標 1,2)
9. 国語科授業理論 壷井栄『二十四の瞳』を読む 感想の交流(目標 1,2,3)
10.『二十四の瞳』から課題解決的な学習理論を学ぶ(目標 2)
11. 教材研究「たぬきの糸車」(目標 1,2)
12. 説明文を読む 「じどう車くらべ」(目標 1,2)
13. 小学校国語科学習指導案の書き方 (1)教材研究と授業構想(目標 3)
14. 小学校国語科学習指導案の書き方 (2)指導案作成(目標 3)
15. 模擬授業 まとめ(目標 1,2,3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">問題解決型の学習 グループワーク 模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:ノート提出(50%)、提出物(指導案)(30%)、学習への取組状況(20%)
評価の基準:小学校学習指導要領国語科の指導内容を理解している。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業初めに前回の学習を問答することで重要点を確認する。提出物の添削を参考にする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:「小学校学習指導要領国語編」を項目ごとに整理する。(各回 90 分程度)
復習:添削項目を参考にして重要事項を確認する。(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:平成 29 年告示『小学校学習指導要領国語編』(文部科学省) 他適宜資料配布する。壷井栄『二十四の瞳』
参考書:上田保明編著『 段落技能を磨く説明文の指導』『行間を読む力をつける物語文の指導』(明治図書)他 適宜資料配付する。
参考資料等:鷲田清一著『「ぐずぐず」の理由』(角川選書)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等 実務経験について</td><td colspan="6">小学校教員として国語科の授業を実践してきた私とともに、「小学校学習指導要領解説国語編」をひもとこう。
小学校教員経験・実務経験をもとに国語教育や教員としてのあり方について話をします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>社会</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">川野 哲也
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2015-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">3年前期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">小学校社会科、教科内容、社会事象の見方・考え方</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">小学校社会科の教科内容の全体的傾向と特色を理解するとともに、社会科学的手法に裏付けられた社会事象のとらえ方を修得し、社会科指導に必要な知見を得る。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="5">科目 DP:(1)</td></tr><tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.小学校社会科の教科内容について、学習指導要領に即して理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2.社会科の教科内容や教材に関する明確な観点を持つ。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3.社会科学的手法により社会事象をとらえる。</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 社会科の目標と内容。 (目標 1,2)
2. 地域学習(小学3年の内容) (目標 1,2)
3. 地域学習(小学4年の内容) (目標 1,2)
4. 日本の国土と産業(小学5年の内容) (目標 1,2)
5. 日本の歴史と政治(小学6年の内容) (目標 1,2)
6. 地理的内容①(気候、地形、地図) (目標 3)
7. 地理的内容②(日本の産業、農業、工業) (目標 3)
8. 地理的内容③(世界の産業、農業、工業) (目標 3)
9. 歴史的内容①(古代の歴史) (目標 3)
10. 歴史的内容②(中世の歴史) (目標 3)
11. 歴史的内容③(近世・近代の歴史) (目標 3)
12. 公民的内容①(日本国憲法、国会・内閣・裁判所) (目標 3)
13. 公民的内容②(市場経済、景気変動、国際経済) (目標 3)
14. 公民的内容③(安全保障、南北問題、環境問題) (目標 3)
15. まとめと補足。ディスカッション (目標 1,2,3)
情報機器の活用について</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク、ディスカッションを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20%
評価の基準:小学校社会科の教科内容を理解したか。
社会科学的手法に基づいて社会事象を説明できるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:事前に配布したプリントを読み、用語や内容について調べること。(90 分程度)
復習:プリント、ノートを見て確認すること。資料を見ずに内容を語ること。(90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『小学校学習指導要領 社会』
参考書:適宜、プリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>算数</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">中村 浩司
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2016-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項(小学校)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">算数・数学の歴史から算数のよさや本質に気付いたり、日常の事象から算数を見出し働きかけたりすることを通して、考えることの楽しさを味わい、数学的な見方・考え方を培う。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">五つの領域の概要と課題を把握し、具体的な指導のあり方や楽しい算数教材に触れることで、考えることの楽しさを実感する。また、日常から算数の素材を見出し、教材化を図る等、実践力を育み高める。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.算数・数学の歴史から算数を学ぶことの意義と考えることの楽しさを理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.五つの領域の概要と課題、課題解決に向けての教材・授業のあり方を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.児童のつまずきの内容と原因について考察し、つまずきを少なくするための指導法を考える。</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>4.グループ活動を通じて、思考力・コミュニケーション力を培い、指導力を高めることに生かす。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 算数を学ぶことの意義や考えることの楽しさについて(目標 1,2)
2. 「A 数と計算」領域の内容と課題、計算の原理について(目標 2,3)
3. かけ算九九を活用した発展教材について(目標 1,2,3,4)
4. 「B 図形」領域の内容と課題、図形の見方について(目標 2,3)
5. 図形をイメージする力を育む、楽しい教材について(目標 1,2,3,4)
6. 「C 測定」領域の内容と課題、測定の方法について(目標 2,3)
7. 測定を使って日常の事象を解決する、考える問題について(目標 1,2,3,4)
8. 「C 変化と関係」の内容と課題、二つの数量の関係について(目標 2,3)
9. 数量の規則性を見つけて解決する問題について(目標 1,2,3,4)
10. 「D データの活用」の内容と課題、データの特徴と多面的な考察について(目標 2,3)
11. 二つのグラフをもとに考察する、表現力が必要な問題について(目標 1,2,3,4)
12. 指導が難しい教材・分数のわり算「なぜ、ひっくり返してかけるの？」(目標 1,2,3,4)
13. 児童の定着の割合が低い教材・割合「割合は難しい？」(目標 1,2,3,4)
14. 指導方法が一定しない教材・筆算「なぜ筆算するの？」「繰り上がりはどこに書くの？」(目標 1,2,3,4)
15. 身近なところ(日常の事象)から算数の教材化を図る(目標 1,2,3,4)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション・グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験 70%、授業内レポート 10%、授業態度・授業への参加度・課題等の提出物 20%。
評価の基準:・五つの領域の概要と課題について理解し、算数教材を考えることができるか。
・指導や定着に難のある教材の指導について理解しているか。
・グループワークで協力し、よりよい教材を考え作ることができるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学んだことをもとに、児童の視点で教材を考えるようにする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:特に必要としないが、事前に指示した物品は必ず持参すること。(各回 90 分)
復習:学んだことを生かし、日常の事象で教材化できそうな素材を見出す。(各回 90 分)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:プリント等
参考書:算数の教科書(1～6 年)、小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示す。
参考資料等:必要に応じて提示する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">小学校教員経験:児童は元来考えることが好きなのです。児童の課題を把握し、児童の知的好奇心を喚起する教材について学び、身近なところから、そういう教材を見出し、つくり出してみましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>理科</td><td>教員名</td><td>開地 元典
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2017-002000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">2年後期</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">小学校　理科4領域　物質　エネルギー　生命　地球　物理　化学　生物　地学</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">小学校教員として必要な、理科に関する基礎的基本的知識を修得する。「A 物質・エネルギー」、「B 生命・地球」の内容を理解し、さらに小学校での授業との関連も理解する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.物質概念(化学分野)に関する知識を修得できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2.エネルギー概念(物理分野)に関する知識を修得できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.生物概念(生物分野)に関する知識を修得できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.地学概念(地学分野)に関する知識を修得できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>5.小学校理科における基礎的な知識の活用や授業構成を考えることができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ(状況によって②も可能性あり)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 物質概念の中の物質の構造を理解する(目標 1)
2. 物質概念の中の物質の構成粒子、物理的・化学的変化を理解する(目標 1)
3. 物質概念の中の物質の保存、化学物質と環境の関連について理解する(目標 1)
4. 小学校における物質概念に関する知識の応用や授業構成を理解する(目標 5)
5. エネルギー概念の中の力学、電気に関する概念を理解する(目標 2)
6. エネルギー概念の中の光・音に関する概念を理解する(目標 2)
7. エネルギー概念の中の熱に関する概念および力学や電気との関連を理解する(目標 2)
8. 小学校におけるエネルギー概念に関する知識の応用や授業構成を理解する(目標 5)
9. 生物概念の中の細胞のつくり、生殖と発生のしくみについて理解する(目標 3)
10. 生物概念の中の生物の多様性や分類について理解する(目標 3)
11. 生物概念の中の生物と環境、生態系について理解する(目標 3)
12. 地学概念の中の地球や天体に関する概念について理解する(目標 4)
13. 地学概念の中の地球内部の構造、地層・岩石などについて理解する(目標 4)
14. 地学概念の中の大気と水の循環、気象についての概念を理解する(目標 4)
15. 小学校における生物概念および地学概念に関する知識の応用や授業構成を理解する(目標 5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">それぞれの領域毎に特定のテーマについてディスカッションを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:課題・授業外レポート(60%)、確認の小テスト(30%)、授業への取組(10%)
評価の基準:理科 4 領域に関する基礎的内容を理解したか。自然現象の不思議さに自ら気づき、他者と共有できるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業内に出した課題等については時間内あるいは次週に解説する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業に使用するテキストに目を通しておく。高校までの知識を見直す(各回 90 分程度)
復習:授業において修得した内容について調べる(レポート等を課す)(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:(編)森本信也・森藤義孝「小学校理科教育法」(建帛社 2018)
参 考 書:小学校学習指導要領解説(理科編)、高校教科書や参考書
参考資料等:別途資料を授業中に配布</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">これまでの実務経験をとおして、理科に関する基礎知識の定着とその活用方法について支援をします。</td></tr>
</table>

授業科目名	生　活	教員名	岡崎 智利 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保　育　士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UC1-2018-022000				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)、教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項(小学校)
授業テーマ	幼稚園から小学校へのスムーズな移行を目ざす学級生活の指導
授業概要	幼稚園のアプローチから小学校でのスタートカリキュラムを中心に生活科の学習内容、学習方法、どの教科・領域にも共通する学習規律の理論と実際的な指導方法の理解と技能の習得を目ざす。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.生活科誕生の経緯を知り、生活科の目標、意義、大まかな内容等を理解する。	◎			
2.幼児教育と小学校教育を結合する教科としての「生活科」の位置づけと特色を理解する。	○			
3.生活科への入門ともなるスタートカリキュラムや学級づくりも理解し、技能を習得する。	○			
4.生活科独自の内容・方法、そしてどの教科・領域にも共通する学習規律も理解し実践力を養う。	○			
5.A4ノートを各自で準備し、アクティブな調査活動とノート作りを進める。	○			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 生活科誕生の経緯を知り、戦後教育の概要を知る。(目標 1,5) 2. 小学校における生活科の位置づけと教科の目標を知る。(目標 1,2) 3. 生活科の学習内容の概要と学習活動の特質を知る。(目標 1,3) 4. 保育所・幼稚園のアプローチカリキュラムから、小学校のスタートカリキュラムの概要を知る。(目標 2,3) 5. 主体的・対話的な生活科の授業の始まりと指導内容、学級経営との関連を知る。(目標 3,4) 6. 発表会をめざして、グループで吉田松陰・金子みすゞの調査活動に取り組む。(目標 1,5) 7. 発表会に向け、グループワークを行う。(目標 1,5) 8. 調査活動の発表会を行う。(目標 5) 9. 幼児から小学校低学年のことばの習得の過程を学び、幼稚園教育の在るべき姿、本質を知る。(目標 2,4) 10. 小学校のことばの学びの過程を学び、小学校教育の在るべき姿、本質を知る。(目標 3,4) 11. 小学校低学年独特の「騒がしい学級・荒れる学級」の実態と指導法を知る。(目標 3,4) 12. 学年始めの騒がしい学級の実態を知る。(目標 3,4) 13. 騒がしい学級の子どもたちへの指導方法の実際を知る。(目標 3,4) 14. 1・2 学年の生活科カリキュラムと教科書の概要を知る。(目標 4,5) 15. 1・2 学年の生活科の学習内容をふり返り、3 学年以降の総合的学習への発展的内容を概観する。(目標 4,5)
アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、発表する(パワーポイント使用も)。 ②ディスカッション、グループ代表発表等を行う。
成績評価基準	評価の方法: 受講態度、授業中の発表など(20%)、毎回の授業終了時のミニレポート(20%)、ノートづくり(60%) 評価の基準:幼児教育と深い関わりのある生活科の指導内容が理解できたか。
フィードバックの方法	①毎回のミニレポートの提出と評価。②自主的な調査活動(課題の提出、ノートへの記録など)。
時間外の学習について	予習:テキストや資料を読んで講義に参加する。(事前に指示する)(各回 90 分程度) 復習:テキストや資料の一部を読んで、レポートを提出する。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 授業の中で適宜資料を配布する。 参考書:その都度紹介する。 参考資料等:新聞記事、資料等を配布して教師側から説明をしたり、学生の意見を求めたりする。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	出席回数、受講態度、グループ活動への参加の度合いや積極的な姿勢も重視する。毎回の講義でのノートづくり、講義外での自主的な調査活動等も進めてほしい。ノートも重要な評価対象である。 小学校教員経験:実務経験をもとに、学習指導要領に即した生活科教育のあり方や内容、そして教師としての構えについて話をします。

授業科目名	初等音楽	教員名	本廣 明美 坂本久美子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UC2-2019-002000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	発声の仕組みと歌い方、簡易楽器の演奏、鑑賞における基礎的な知識、メロディー創作
授業概要	歌唱では共通歌唱教材を中心に、CDやDVDの視聴を参考にしながら歌詞の内容や音楽的特徴を捉え、発声に留意しながら歌う。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、打楽器等の基礎的な奏法を学び、簡単な楽曲に合わせて演奏できる力を身に付ける。鑑賞においては、様々な楽曲を知ることで鑑賞教材を理解し、また音楽づくりではメロディーやリズムの創作を通して、基礎的な創作の仕方を習得する。これらにより、小学校教諭として必要な音楽の基礎知識や技術を学ぶ。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.発声に気をつけながら、メロディーや歌詞を正しく歌うことができる。	◎	○		
2.簡単な楽曲に合わせて、簡易楽器が演奏できる。	◎	○		
3.楽曲の背景や曲の構造を理解し、曲を知ることができる。	○	◎		
4.簡単なリズムやメロディーを作り、それを記譜することができる	◎	○		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 小学校学習指導要領における「歌唱」の内容と発声について (目標 1)(担当 坂本久美子) 2. 歌唱教材の研究(低学年) (目標 1)(担当 坂本久美子) 3. 歌唱教材の研究(中学年) (目標 1)(担当 坂本久美子) 4. 歌唱教材の研究(高学年) (目標 1)(担当 坂本久美子) 5. 小学校学習指導要領における「器楽」の内容について (目標 2)(担当 坂本久美子) 6. 鍵盤ハーモニカの導入方法と演奏法 (目標 2)(担当 坂本久美子) 7. リコーダーの導入方法と演奏法 (目標 2)(担当 坂本久美子) 8. 打楽器を用いた歌唱活動 (目標 2)(担当 坂本久美子) 9. 小学校学習指導要領と鑑賞教材 (目標 3)(担当 本廣明美) 10. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点(低学年教材) (目標 3)(担当 本廣明美) 11. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点(中・高学年教材) (目標 3)(担当 本廣明美) 12. 鑑賞教材の楽曲分析と授業展開 (目標 3)(担当 本廣明美) 13. 鑑賞と身体表現 (目標 3)(担当 本廣明美) 14. リズム遊びと創作 (目標 4)(担当 本廣明美) 15. メロディーと歌詞、メロディー創作 (目標 4)(担当 本廣明美)
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法: 歌唱(30%)リコーダー演奏(10%)鑑賞レポート(30%)メロディーの創作(10%)、平常点(20%) 評価の基準: 基礎的な歌唱力や楽器の演奏法が身に付いたか。鑑賞に必要な音楽基礎知識を持てたか。簡単なメロディーの創作ができたか。積極的に音楽活動に取り組んだか。
フィードバックの方法	実技試験後に、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習:授業で学習する楽曲について調べ、実技が可能な曲については練習しておく。(各回90分程度) 復習:毎時間の演習の復習をする。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『最新 初等科音楽教育法』(音楽之友社)、『小学生の音楽(1年～6年)』(教育芸術社) 参考書:『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』
担当者からのメッセージ等実務経験について	日常的に、様々な音楽を聴いたり、演奏したりする習慣を身に付けて下さい。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>図画工作</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">武田 雅行
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2020-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項(小学校)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">色彩論、絵画、工作、立体表現</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">豊かな感性や創造性を育てることは人間形成にとって重要である。作る喜びを味わい、それぞれの子どもが、個性を発揮しながら成長発達していくための基礎となる資質や能力を養うことが大切である。特に視覚表現の基礎となる「色と形」の仕組みを理論と演習を通して学習し、様々な平面および立体作品制作を通じて造形に関する技法や知識を身につける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 小学校教諭として図画工作を指導していく上において必要最低限の素養を身につける。</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2. 造視覚表現の基礎ともいえる色と形の仕組みについて理解する。</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 豊かな発想と色彩に対する感性を高める。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4. 制作物をまとめ、学んだことを記録して、知識や技術の定着を図ることができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 導入　授業の概要と準備物の説明「色・形」について (目標1.2)
2. 混色(3 原色の混色)① 下図作成(目標 1.2.3)
3. 混色(3 原色の混色)② 完成 (目標 1.2.3)
4. トーン(手の色面構成)① 下図作成 (目標 1.2.3)
5. トーン(手の色面構成)② 完成 (目標 1.2.3)
6. 風景画 写真を基に色鉛筆で着彩 (目標 1.3)
7. 自画像 鉛筆によるデッサン (目標 1.3)
8. 細密画(シャープペン) 身近なものをモチーフとして (目標 1.3)
9. 絵手紙 暑中見舞い (目標 1.3)
10. 玩具制作(コロコロ迷路)① 構想 (目標.3)
11. 玩具制作(コロコロ迷路)② 着彩 (目標 3)
12. 玩具制作(コロコロ迷路)③ 仕上げ (目標 3)
13. 立体表現(躍動する人物)① 紙粘土によるモデリング (目標 3)
14. 立体表現(躍動する人物)① 着彩・仕上げ (目標 3)
15. まとめ ファイリング・自己評価 (目標 4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:提出作品(80%) 授業中の態度、取り組みの姿勢(20%)
評価の基準:児童の発達と、材料用具の特性を理解して演習や作品作りに習得技能を発揮できること</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:前回に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。(各回 90 分程度)
復習:授業を振り返り、その都度課題をまとめる。なお、授業時間内に終わらなかった制作物は、次回に持ち越すことなく各自で完了させておく。(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「デザインの色彩」 日本色彩研究所 〈田中満雄・北畠燿・細野尚志〉
参考書 : 授業の中で適宜資料を配布する
参考資料等: 随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">A3 袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>家　庭</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">西　敦子
（単独）</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2021-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期
（集中講義）</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">家族と家庭生活　衣食住の生活　消費生活と環境</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">家族、家庭生活の基本的事項について知識・技術を学び、生活を総合的に捉えてそれらを活用できるようにするとともに、豊かな生活のあり方について追究する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.家庭科教育における各領域の基礎知識的手順について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.家庭生活を総合的に捉えることができる。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.知識や技能を児童の状況に応じて活用し、応用することができる。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>20授業計画</td><td colspan="6">1. ガイダンス（目標、内容、受講方法、評価について）と既習事項の確認 （目標 1）
2. 家族Ⅰ 数字で見る現代家族 （目標 1,2）
3. 家族Ⅱ 性別役割分業 （目標 1,2,3）
4. 家族Ⅲ 子ども・家族の生活時間 （目標 2,3）
5. 住居Ⅰ 家族と住まいの発展 （目標 1,2）
6. 住居Ⅱ 住まいと環境 （目標 1,2）
7. 住居Ⅲ 家庭ごみと地域の環境 （目標 1,2,3）
8. 被服Ⅰ 衣服の素材と洗濯の科学 （目標 1,2）
9. 被服Ⅱ ミシンの基本操作 （目標 1）
10. 被服Ⅲ 身近な物の製作 （目標 1,3）
11. 食物Ⅰ 子どもの食生活 （目標 1,2）
12. 食物Ⅱ 簡単な日本食の調理 （目標 1,2,3）
13. 食物Ⅲ 正しい栄養の知識 （目標 1,2,3）
14. 消費・環境 ものの選び方と金銭の使い方 （目標 1,2,3）
15. まとめ 共生の社会 （目標 2,3）
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">実習 ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験 60%、実習 20%、授業外レポート 20%
評価の基準:生活を総合的にとらえる応用力の習得</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">コメントシートによる</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業計画にそって、学習者自身が課題を定め、授業で発言できる準備をしておく。（各回 90 分程度）
復習:毎週定めた課題をまとめる。（各回 90 分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:
参考書:
参考資料等:
授業中に適宜資料を配付する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>初等体育</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">舩場 大資
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2022-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">体育指導・スポーツの特性・ルール学習・スポーツ理解。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">学年ごとの目標を理解し、指導上の基本的技能を学ぶ。また、集団行動、体操、ボール競技など演習ごとの基礎的知識、技能やスキルの向上のポイントや補助の技術、またレクリエーションによって楽しさと喜びえを与えられる技術について学び、小学校教育の現場で生か せる知識技能を身につける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.クラス運営等に役立つレクリエーションの技術の習得。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2.体育の目標と意義の理解と基本的指導法の習得。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.各種目の理解と指導技能の習得。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 体育の目標と意義、基本的指導法 (目標 1)
2. レクリエーション(からだつくり) (目標 2)
3. レクリエーション(アイスブレイク) (目標 2)
4. 演習(スポーツテスト) (目標 2)
5. 演習(ボールの投げ方) (目標 2)
6. 演習(縄) (目標 3)
7. 演習(ターゲット型) (目標 3)
8. 演習(跳び箱・鉄棒) (目標 3)
9. 演習(ダンス作品企画) (目標 3)
10. 演習(ダンス作品作り) (目標 3)
11. 演習(ダンス作品作り) (目標 3)
12. 演習(ダンス発表会) (目標 3)
13. 演習(バレーボール) (目標 3)
14. 演習(バレーボール) (目標 3)
15. 演習(模擬クラスマッチ) (目標 3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:ダンス作品発表 50% レポート 30% 授業への参加度 20%
評価の基準:子どもの体育活動について理解し、それらに関する知識や技能を身につけられたか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">演習ごとに内容に対する意見や反省を言いあう時間をとる。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:各種目の基礎理論の習得 各回90分程度
復習:技能の向上・実践 各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:適宜、資料を配布する。
参考書:『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">担当者の教育現場での経験を基に、子どものつまずきのポイントを説明していきます。それを踏まえた上で、見本が示せる指導者になれるよう努力してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>初等英語</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">中垣 謙司
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM4-2023-002000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
</table>

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	グローバル社会に対応したコミュニケーション能力の育成が求められる中、小学校外国語活動・外国語について理解し、具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法等)を学ぶとともに、それをクラスルーム・イングリッシュや指示・説明などの授業場面に活用することができるなど、小学校外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身につける。また、小・中学校の連携を視野に入れ、小学校外国語活動・外国語の現状・背景的知識を理解し、CEFRでB1レベルの英語運用能力を身に付ける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.授業実践に必要な4技能「聞く力」「話す力(やり取り・発表)」「読む力」「書く力」を身につけている。	○	◎		
2.第二言語習得・異文化理解に関する事柄や児童文学(子ども向けの歌等)について理解している。	◎	○		
3.英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法等)について理解するとともに、それをどのように児童への指導にいかすかについて検討することができる。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:原則として①面接授業(場合によっては遠隔授業)
授業計画	1. 小学校外国語導入の経緯と現状・求められる教員の資質と英語力 肯定文/否定文/疑問文(目標 1,3) 2. 異文化理解と英語学習 様々な疑問文 (目標 2,3) 3. 4技能を統合した英語学習 進行形/受動態 (目標 1,3) 4. リーディング活動(多読と精読) (目標 1,3) 5. 英語の音声 方位 (目標 3) 6. 第二言語習得のプロセス 分詞の形容詞的用法 (目標 1,2,3) 7. 絵本や子ども向けの歌等 比較/最上級 (目標 2,3,) 8. 絵本や歌を通した異文化理解 時刻 (目標 1,2,3) 9. 授業実践に必要な聞く力と話す力(やり取り・発表) 数に関わる表現 (目標 1,2,3) 10. 授業実践に必要な読む力と書く力 様々な構文① (目標 1,2,3) 11. やり取りと発表 様々な構文② (目標 1,2,3) 12. 英語運用力(聞く・話す・読む・書く)の向上 道案内に関わる表現 (目標 1,2,3) 13. ロール・プレイによる英語運用能力向上 使役動詞 (目標 1,2,3) 14. 4技能を統合した活動による英語運用能力の向上 (目標 1,2,3) 15. 授業場面に求められる英語運用能力 (目標 1,2,3)
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法:授業への取組:20% 課題・小テスト:30% 模擬授業:50% 評価の基準: 小学校学習指導要領における外国語活動・外国語の目標・内容等を踏まえ、クラスルーム・イングリッシュを活用した授業が実践できる。 英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法等)について理解している。
フィードバックの方法	随時個別還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元を読んで、概要を理解しておく。各回90分程度 復習:既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:自作プリント 参考書: 岡 秀夫・金森 強 編『小学校外国語活動の進め方』(成美堂)、文部科学省著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、吉田研作編『小学校英語教科化への対応と実践プラン』(教育開発研究所)、文部科学省著『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』、随時プリント配布 参考資料等:随時プリント配布
担当者からのメッセージ等実務経験について	「外国語を学んで楽しい、中学校へ進学して役に立った」と児童に感じてもらえるような授業を実践するという強い意志をもち、毎回の予習・復習を徹底してください。 県教委指導主事の実務経験をもとに授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。

授業科目名	国語科教育法	教員名	岸本 憲一良 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UC2-2024-001000				中学校教諭(英語)	
		年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	国語科教育、制度、歴史、理念、動向
授業概要	小学校国語科で扱う教材を取り上げ、教材研究、学習指導の在り方などについて考究する。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.学習指導要領に示された小学校国語科の目標及び主な内容評価並びに全体構造を理解している。	◎	○		◎
2.「知識及び技能」の重要性を理解し、小学校国語の授業を構想することができる。	◎			○
3.「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「話すこと・聞くこと」の授業を構想することができる。		◎	◎	○
4.「 思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「書くこと」の授業を構想することができる。		◎	◎	○
5.「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「読むこと」の授業を構想することができる。		◎	◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:オリエンテーション(シラバス説明、国語科の目標と内容について等)(目標1) 第2回:「話すこと・聞くこと」とコミュニケーションについて1(ICTを活用した対話学習)(目標2, 3) 第3回:「読むこと」の指導について1(国語と読書指導)(目標1, 5) 第4回:「読むこと」の指導について2(昔話の考究)(目標2, 3, 5) 第5回:「読むこと」の指導について1(主として低学年説明的文章)(学習指導案の作成)(目標2, 5) 第6回:「読むこと」の指導について2(主として高学年説明的文章)(ICTを効果的に活用した学習指導案の作成)目標2, 5) 第7回:「読むこと」の指導について3(説明的文章)(学習指導案の検討)(目標2, 5) 第8回:「読むこと」の指導について4(説明的文章)(ICT活用による模擬授業と振り返り)(目標2, 5) 第9回:「読むこと」の指導について5(主として低学年文学的文章)(学習指導案の作成)(目標2, 5) 第10回:「読むこと」の指導について6(主として高学年文学的文章)(ICTを効果的に活用した学習指導案の作成)(目標2, 5) 第11回:「読むこと」の指導について7(文学的文章)(学習指導案の検討)(目標2, 5) 第12回:「読むこと」の指導について8(文学的文章)(ICT活用による模擬授業と振り返り)(目標2) 第13回:「書くこと」の指導について1(主として説明的文章)(目標2, 4) 第14回:「書くこと」の指導について2(主として韻文)(目標2, 4) 第15回:まとめ(目標1, 2, 3, 4, 5) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、模擬授業
成績評価基準	評価の方法: 定期試験(60%)、提出課題の内容(20%)、授業態度等(20%)を考慮し、総合的に評価する。 評価の基準:国語科の指導を進める上で留意すべき点について説明することができる。
フィードバックの方法	課題回収後、解説を行う。
時間外の学習について	予習:次回までに課題が出た場合は、必ずそのことについて学習すること。 各回90分程度 復習:本時のまとめを復習しておくこと。 各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:岸本憲一良・中野登志美監修『小学校国語科「提案読み」「批評読み」の課題・発問モデル』(明治図書 2021) 小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成29年度版) 参考書:特になし
担当者からのメッセージ等実務経験について	授業の際に、小テストを実施したり課題を出したりすることがある。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>社会科教育法</td><td>教員名</td><td>浦田 敏明
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2025-001000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">小学校社会科の学習指導法(目標、学習内容、指導法、評価)を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">現代社会における社会科教育の果たす役割と、社会科で育てる子供像を明らかにするとともに、小学校学習指導要領解説社会編に示された目標、内容、育成されるべき資質・能力について理解を深める。小学校社会科の教材研究、教材開発、指導方法、学習評価等の授業設計を、実践事例の考察と学習指導理論を踏まえた具体的な授業を構想することを通して理解する。いずれも学び合う中で自己との対話を促進し、授業実践の意欲を高める。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.社会科成立の歴史的経緯を知り、今日求められる社会科教育の役割と特質を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.小学校社会科の学習指導要領における目標、内容、評価、全体構造を理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.小学校社会科の授業構成と学習指導理論を理解して授業を設計し、具体的な学習指導案を作成する。</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>4.模擬授業と振り返り、グループワーク等を通して、実践的な教材研究及び授業改善の視点を身に付ける。</td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">履修人数は、50 名程度とする。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 社会科教育の役割と社会科で育てる子供像・社会科のめざす方向について(目標 1)
2. 小学校社会科の目標・内容・評価・全体構造について(情報機器及び教材の活用)(目標 2)
3. 第3学年の目標・内容と授業(1)－単元「学校のまわり」の具体について(目標 1,2,3)
4. 第3学年の目標・内容と授業(2)－単元「市のようす」の具体について(目標 1,2,3)
5. 大単元「はたらく人とわたしたちのくらし」3年:選択単元の構成と考え方①(目標 1,2,3,4)
6. 大単元「わたしたちの国土」5年:選択単元の構成と考え方②(目標 1,2,3,4)
7. 子供の側に立つ社会科の授業Ⅰ－教材研究・教材開発について(情報機器及び教材の活用)(目標 1,2,3,4)
8. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅱ(目標 1,2,3)
第4学年の目標・内容と授業(1)－単元「ごみのゆくえ①」の計画、授業構成の実際について
9. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅲ(目標 1,2,3)
第4学年の目標・内容と授業(2)－単元「ごみのゆくえ②」の授業の実際、評価について
10. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅳ(目標 1,2,3,4)
第4学年の目標・内容と授業(3)－単元「ごみのゆくえ③」の模擬授業、振り返りについて
11. 社会科学習指導案の作成(演習)－具体的な授業設計と評価の概観について(目標 1,2,3)
12. 第5学年の目標・内容と授業(1)－単元「米づくり①」授業展開と学び合いについて(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4)
13. 第5学年の目標・内容と授業(2)－単元「米づくり②」授業展開と自己との対話について(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4)
14. 第6学年の目標・内容と授業(1)－単元「縄文のむらから古墳のくにへ①」ポスターセッションについて(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4)
15. 第6学年の目標・内容と授業(2)－単元「縄文のむらから古墳のくにへ②」ポスターセッションについて
小学校社会科の学習指導法について確かな授業観・指導観・児童観をもつ(模擬授業と振り返り) (目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">課題解決型学習・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク・ロールプレイ・模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 毎回の授業の最後に提出するレポート 40% 宿題・授業外レポート 20% 模擬授業・演習 20%
授業への参加態度 20%
評価の基準: 子どもが主体的に学ぶ社会科授業の教材開発、学習指導法、評価の仕方が理解できているか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業内レポート返却時等に講評及び質疑応答を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 参考資料および振り返りレポートを読み、レポートを含めた次回学習への準備をしておくこと。各回 90 分程度
復習:本時のまとめを復習しておくこと。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 小学校学習指導要領解説社会編(平成29年告示)文部科学省 日本文教出版 定価142円 検定済み教科書:「新しい社会3」東京書籍 定価 715円, 検定済み教科書:「楽しく学ぶ小学生の地図帳 3・4・5・6年」帝国書院, 帝国書院編集部 定価 485円
参 考 書:山口県及び山口市小学校社会科副読本(こちらで用意する)
参考資料等:授業中に適宜資料を配付する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">グループワークなどを用いた演習があります。
主体的・協働的な学びの姿が「授業力」を高めるとは何かを一緒に考えましょう。Email : urata.t@yamaguchi-u.ac.jp
山口大学教職センターに勤務。実務経験:小学校教員経験、基本的な社会科教育の指導方法のあり方について学生が互いに学び合う授業を行います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>算数科教育法</td><td>教員名</td><td>中村 浩司
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2026-001000</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">特別支援学校教諭</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">算数科教育の目標、内容及び指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">算数科教育の目標・学習内容、指導方法、児童の理解の仕方、児童のつまずき(課題)への対応について理解する。また、具体的事例をもとに、指導案作成や授業づくりについて学ぶことで、授業実践力を養う。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 学習指導要領に示された算数科教育の目標(数学的な見方・考え方、数学的活動、数学的に考える資質・能力の育成等)について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 1年生から6年生までの学習内容を把握し、領域の系統を理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 児童の発達段階や児童のつまずき(課題)への対応を理解し、主体的・対話的で深い学びのある算数授業の実現を目指した指導方法を学ぶ。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>4. 1年生から6年生までの学習内容から選択した内容、評価について指導案・板書案、または板書型指導案を作成して、それらの検討及び模擬授業を通して指導方法を理解し、体得していく。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 学習指導要領と算数科教育の目標と内容について－6項目、領域の構成、数学的活動(目標 1,2)
2. 各学年の目標及び内容と領域の系統について(目標 1,2)
3. 授業の組み立て方、指導案、板書案の書き方、児童のノートの取り方について(目標 1,2,3,4)
4. 指定された内容の板書型指導案の作成、班別内評価について(目標 1,2,3,4)
5. 模擬授業の実施と評価、反省についてⅠ(目標 1,2,3,4)
6. 第1学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
7. 第2学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
8. 第3学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
9. 第4学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
10. 第5学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
11. 第6学年の教材と指導の実際(目標 1,2,3,4)
12. 学習指導要領に対応した授業について(目標 1,2,3,4)
13. 学年と内容を選択しての指導案の作成(目標 1,2,3,4)
14. 模擬授業の実施と評価、反省についてⅡ(目標 1,2,3,4)
15. 授業づくりと学級経営(目標 3,4)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク、模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験 60%、授業内レポート10%、授業態度・授業への参加度、指導案・板書案の作成等の提出物 30%
評価の基準:・算数科教育の目標、学習内容について理解しているか。
・授業のあり方や指導方法、児童のつまずき(課題)について理解しているか。
・算数の楽しさやよさを意識して、授業案や板書案等の作成ができるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">常に児童が目の前にいることをイメージし、課題の解決や見直しに取り組むようにする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:必要に応じて指示する。 各回90分程度
復習:必要に応じて指示する。 各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:プリント等
参考書:小学校学習指導要領
算数の教科書(1年～6年)、小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示します。
参考資料等:</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">小学校教員経験:授業は教師一人がするものではなく、児童とともにつくるものです。主体的・対話的で深い学びのある楽しい算数授業について、一緒に考えていきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>理科教育法</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">源田 智子
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2027-001000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">3年前期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">＜教科教育法、理科実験法、安全教育＞</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">この講義では指導要領に示された理科の目標、内容、評価について理解し、小学校で行われている理科実験に対する基礎的基本的事項を学ぶとともに、安全に行える実験授業の方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.学習指導要領に示された理科の目標、内容を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.安全に実験を行う手法を修得する。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.理科4領域の基礎を理解する。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.理科4領域の実験方法を修得する。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5.小学校理科に対応した実験方法や教材について考えることができる</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6.授業を設計し指導法の検討を行うと共に、指導案の作成や模擬授業を通して指導方法を修得する。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ(実践的な授業を行いたいので)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 小学校理科教育の目標を知る。安全教育とは何かを学ぶ(目標 1,4)
2. 実験器具の説明、取り扱い上の注意点を学ぶ(情報機器及び教材の活用)(目標 1,4,5)
3. 化学領域の内容及び実験授業(1)ものの溶け方(アルコールランプの使い方)(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
4. 化学領域の内容及び実験授業(2)溶解度(天秤の使い方)(目標 2,3,4)(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
5. 化学領域の内容及び実験授業(3)酸・塩基反応(学習指導案の作成及び模擬授業)(目標 1,2,3,4,6)
6. 物理領域の内容及び実験授業(1)てこの原理(指導法の検討)(目標 2,3,4,6)
7. 物理領域の内容及び実験授業(2)振り子の運動(指導法の検討)(目標 2,3,4,6)
8. 物理領域の内容及び実験授業(3)電気回路(電流計、テスターの使い方)(学習指導案の作成及び模擬授業)
(目標 1,2,3,4,6)
9. 生物領域の内容及び実験授業(1)植物の生長(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
10. 生物領域の内容及び実験授業(2) 気孔の観察 (顕微鏡の使い方)(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
11. 生物領域の内容及び実験授業(3) 動物の行動 (反射実験を含む)(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
12. 生物領域の内容及び実験授業(4) 植物の形態 (スケッチの手法)(学習指導案の作成及び模擬授業)(目標 1,2,3,4,6)
13. 地学領域の内容及び実験授業(1)土と砂(粒度分析、機器の使い方を含む)(指導法の検討)(目標 1,2,3,4,6)
14. 地学領域の内容及び実験授業(2)気象(資料を用い問題を解く、VTR 等を利用)(指導法の検討)(目標 2,3,4,6)
15. 地学領域の内容及び実験授業(3) 天体(星座早見表の使い方)(学習指導案の作成及び模擬授業)(目標 2,3,4,6)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">本授業は班活動を主体とする。実験を行うときや結果をまとめるときには班員同士で話し合いながら進めることができる。また教員の投げた課題に個人、あるいは班で話し合った上で全体での共有を図ることができる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">・ 毎回の授業後に授業に対するレポートを次回に提出または当日配布の小テストを提出(90%)・・・各時間の目標、実験方法などを理解できているかどうか。また科学における再現性に従事した記述ができているかどうか。
・グループ内での実験への参加度(10%)・・・話し合い等に積極的に意見をだせているかどうか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">レポートにコメントを返す。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 次回の授業課題を予告するので、内容や実験法について調べ、理解しておく。各回 90 分程度
復習:授業後レポート作成を行う際に関連する原理や定義などを調べ報告できるようにする。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「小学校理科の指導」建帛社
参考書: 小学校学習指導要領、小学校教科書「理科 3～6」、その他、授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">実験を行うので、汚れても良い服装、安全面を重視した服装を心がけて下さい。小さなタオルを持参すると良い。
(最初の授業で注意事項を説明する。)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>生活科教育法</td><td>教員名</td><td>岡崎 智利
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2028-001000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">2年前期</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">生活科のカリキュラム作りと実践的な指導の方法と技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">低学年児童の活動できるカリキュラムの要件、具体例を知り、実際的な指導方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr><tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.小学校低学年児童が取り組めるカリキュラムのあり方と作成の手立てを知る。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.幼稚園から小学校へ、入学直後からのスタートカリキュラムの内容とあり方を知る。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.生活科授業と学級指導(学級づくり)の関連を知るとともに、学級づくりの指導技術も習得する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4.具体的な活動や体験を通した生活科の指導原理が「間接指導」であることを知る。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5.A4ノートを各自で準備し、自主的な調査活動とノート作りを進める。</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 入学式および入学直後の学級指導(オリエンテーション)。 (目標 2,5)
2. 新1年生、学年始めの学級づくりと指導方法(着席、呼名の指導から)。 (目標 2)
3. 最初の授業での指導内容と指導技術。 (目標 1,2)
4.「言葉の力」の指導は入学の日から始まる―対話的な発言・発表指導。 (目標 2,3)
5.「入学式から研究授業までの 17 日間」(1)―班の編成と班活動。 (目標 2,3)
6.「入学式から研究授業までの 17 日間」(2)―発表の仕方と聞き方。 (目標 2,3)
7.「入学式から研究授業までの 17 日間」(3)―授業始まりの指導。 (目標 2,3)
8. アサガオと1年生(1)―アサガオ栽培と理科・生活科(情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り)。 (目標 2)
9. アサガオと1年生(2)―アサガオ栽培が誘発する活動と言葉。 (目標 2)
10. アサガオと1年生(3)―情報機器を利用した教材収集と指導案づくり。 (目標 2)
11. 2年間を見通した生活科のカリキュラム(事例の検討)。 (目標 1,3)
12. 生活科と表現活動(話す・書く・描く・動作化・劇表現の特質)(模擬授業と振り返り)。 (目標 1,4)
13. アクティブ・ラーニングを促す生活科の指導案づくりと授業指導の実践(模擬授業など)。 (目標 1,3)
14. S児4年夏休みの体験学習「のぞみが通った駅と府県」の指導過程(模擬授業と振り返り)。 (目標 1,4)
15. 生活科から総合的学習へ(幼児「駅の名前」の学習、1 年国語「り」の学習)(模擬授業と振り返り) (目標 1,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">①事前に課した特定のテーマを調査し、ノートを提出する。発表もする(パワーポイント使用も)。
②少人数グループを決めてあるので、ディスカッション、グループ代表発表等を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:受講態度(20%)、毎回講義終了時のミニレポート(20%)、ノート(60%)
評価の基準:達成目標に到達したか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">①毎回授業の最後にミニレポートを課し、次回の始めに返却、解説する。
②ノートのやりとりを通して、その時々の到達度を確認する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べてノートに書く。 各回90 分程度
復習:発展的な専門用語や課題について自主的な調査をしてノートに書く。 各回90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 小学校学習指導要領、栗原昭徳著『入学式から研究授業までの 17 日間』、栗原昭徳著『講義補充資料』
栗原昭徳著『学習規律のゴールイメージ』の前半。以上を、講義の中で適宜配布する。
参 考 書:生活科のカリキュラムづくりや間接指導などの文献を、適宜、紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">出席回数、受講態度も重視する。毎回A4 ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。
ノートも重要な評価対象とする。
小学校教員経験:実務経験をもとに生活科教育や教員としてのあり方について話をします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>音楽科教育法</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">河北 邦子
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2029-001000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">音楽科の教科特性、目標、指導内容、表現、歌唱活動、器楽活動、音楽づくり活動、鑑賞、評価</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">学習指導要領に示される初等音楽科の目標や内容、全体構造、及び評価を理解する。小学校現場の DVD 視聴により、指導計画の意義を知り、指導者の音楽や指導言語の在り方、表現力の必要性、板書や情報機器の用い方等を理解する。授業を構想し指導案作成、模擬授業実践、グループ(G)ディスカッションにより実践力を養う。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.学習指導要領に示された音楽科の目標や内容、全体構造を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.音楽科の学習内容について理解する。(指導上の留意点を理解/学習評価の考え方を理解)</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.基礎的な学習指導理論を理解する。(子どもの認識や思考、学力などを考慮した授業設計を理解)</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.授業場面を想定した授業設計を行う。(学習指導案の構成理解/具体的な授業を想定し学習指導案を作成/個別の学習内容理解/情報機器等の活用法の理解/他学問領域との関係を教材研究に活用)</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>5.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 学習指導要領に示される初等音楽科の目標、内容、全体構造の理解 (目標 1)
2. 学習内容の流れ 共通事項の理解 (目標 1,2,3)
3. 歌唱教材の研究(低・中学年) 歌唱活動の実践 (目標 1,2,3)
4. 歌唱教材の研究(中・高学年) 教育現場 DVD の視聴と G ディスカッション (目標 2,3,4)
5. 器楽教材の研究(低・中学年) 器楽活動の実践 (目標 1,2,3)
6. 器楽教材の研究(中・高学年) 教育現場 DVD の視聴と G ディスカッション (目標 2,3,4)
7. 音楽づくり教材の研究(全学年)教育現場 DVD の視聴と G ディスカッション (目標 1,2,3,4)
8. 鑑賞教材の研究(全学年)教育現場 DVD の視聴と G ディスカッション (目標 1,2,3,4)
9. 電子教材の研究(全学年)デジタル教材の視聴と操作 (目標 3,4)
10. 音楽科の指導法(指導言語、板書、音楽表現等) (目標 3,4)
11. 音楽学習の評価 学習指導案作成の在り方について (目標 2,3,4)
12. 学習指導案作成 (目標 2・3・4)
13. 1～4G 歌唱活動系模擬授業と G ディスカッション (目標 2,3,4,5)
14. 5～8G 器楽活動系模擬授業と G ディスカッション (目標 2,3,4,5)
15. 9～12G 音楽づくり・鑑賞系模擬授業と G ディスカッション まとめ (目標 2,3,4,5)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">課題、及び模擬授業実践において、グループ・ディスカッションとグループを超えた意見交流を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験(70%), 指導案の作成と模擬授業の発表内容(30%)
評価の基準:初等音楽科の基本的事項を理解し、指導案を作成の上、模擬的に授業実践ができる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">提出物について、コメントを添えて返却する。
模擬授業について、改善点をコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。 各回 90 分程度
復習:毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。 各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:小学校学習指導要領
『 初等音楽科学習指導要領解説』文部科学省(平成 29 年度版)、『小学生の音楽1～6』教育芸術社
参 考 書:指導者用音楽デジタル教科書「小学生の音楽1～6」教育芸術社 DVD-ROM 版</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">教育現場のデータを用い、また歌唱や器楽、創作活動などの演習を伴いながら、講義を進める。
高等学校教員(音楽)の実務経験をもとに、歌唱表現の指導について行っています。</td></tr>
</table>

授業科目名	図画工作科教育法	教員名	小野 素子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UC3-2030-001000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)
授業テーマ	図画工作科の特性とねらいを踏まえ、学習指導要領に示された内容について理解する。
授業概要	学習指導要領に示された図画工作科の表現領域や鑑賞領域と〔共通事項〕の内容について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.学習指導要領に示された表現の内容や鑑賞の内容の指導法について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ。(教科の特性としての社会的意義とねらいを踏まえた内容について理解する)	◎			○
2.図画工作科の領域・年間指導計画等について理解できる。(全教科内の図画工作科の位置付けと役割について理解する)	○	◎		
3.図画工作科の指導法や評価規準・評価の仕方等について理解できる。(教科の特性を生かし、地域に合った教材の大切さや必要性を理解する)		○	◎	
4.図画工作科の題材研究を通して指導案作成方法を修得する。(主に表現活動と鑑賞活動の題材研究を通して教科の魅力と楽しさを味わい意欲を高める)			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 授業説明(図画工作科の特性と内容及び授業計画等)について (目標 1) 2. 図画工作科の目標と内容について (目標 1) 3. 図画工作科の学年別目標と内容について (目標 1) 4. ①図画工作科の領域について (目標 1,2) 5. 表現領域の内容Ⅰ 造形あそびの活動について(情報機器及び教材の活用) (目標 1,2) 6. 表現領域の内容Ⅱ 絵や立体、工作の活動について(情報機器及び教材の活用) (目標 1,2) 7. 鑑賞領域の内容 作品などの鑑賞活動について(情報機器及び教材の活用) (目標 1,2) 8. ②年間指導計画について (目標 1,2) 9. 図画工作科の指導法Ⅰ 指導計画作成上の配慮事項について (目標 1,3) 10. 図画工作科の指導法Ⅱ 内容の取扱と指導上の配慮事項について (目標 1,3) 11. 図画工作科の指導と評価について (目標 1,3) 12. 評価規準と評価の仕方について (目標 1,3) 13. 学習指導案の研究Ⅰ 表現領域について(模擬授業) (目標 1,3,4) 14. 学習指導案の研究Ⅱ 鑑賞領域について(模擬授業) (目標 1,3,4). 15. 授業のまとめ 模擬授業の反省及び事後評価 (目標 1,2,3,4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・模擬授業
成績評価基準	評価の方法: 試験(50%) レポートや小テスト(30%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準: 学習指導要領に示された内容について理解し、図画工作科の指導法や評価のあり方を修得しているか
フィードバックの方法	授業後の振り返りのため、感想やレポートを提出し、知識・理解の定着を図る。
時間外の学習について	予習:学習指導要領(図画工作編)について解説予定範囲の下調べ(各回90分程度) 復習:解説内容の振り返りレポート(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説(図画工作編)(平成29年度版) 参考書:造形教育の探求(林 建造著) これからの鑑賞指導を求めて(山口県造形教育研究会発行) 美術科教育の基礎知識(福田隆眞・福本謹一・茂木一司著)建帛社
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもの好きな図画工作科(教育法)を学ぶことで楽しい指導方法を身につけよう。 山口県小学校教諭(図画工作)専科教員としての実務経験をもとに指導法や評価について話をします。

授業科目名	家庭科教育法	教員名	西　敦子 (単独)	免許・資格との関係	保　育　士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UC3-2031-001000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	家庭科教育 歴史 目標 教材 指導法
授業概要	小学校家庭科の歴史的変遷をたどることで教科の特徴を概観するとともに、家庭科授業の目標、教材、指導法について学び、教員としての資質能力を高める。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.家庭科の本質及び小学校家庭科の学習指導要領に示された目標・内容を理解する。	◎			
2.学習内容に応じた指導上の留意点を理解する。	◎		○	
3.家庭科の教材研究の方法を理解し、教材の収集及び作成ができる。	○	◎		
4.情報機器を活用した、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成ができる。		○		
5.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善に努めるとともに授業づくりの方法を習得する	○	○	◎	◎

履修条件・注意事項	履修人数は, 50 名程度とする。　授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 家庭科とは何か～これまでの学習経験を振り返り、自分の家庭科観を捉える （目標 1) 2. 小学校学習指導要領の変遷から家庭科教育の歴史を読み解く （目標 1,2) 3. 現行学習指導要領を読み解く （目標 1,2) 4. ガイダンスの授業について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 5. 家族の授業について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 6. 家族の触れ合いと食生活について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 7. 家族の触れ合いと衣生活について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 8. 家族に触れ合いと住生活について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 9. 消費生活と環境について～教材と指導法 （目標 1,2,3) 10. 家族の授業について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議 （目標 1,2,3,4,5) 11. 家族の触れ合いと食生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議(目標 1,2,3,4,5) 12. 家族の触れ合いと衣生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議(目標 1,2,3,4,5) 13. 家族の触れ合いと住生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議(目標 1,2,3,4,5) 14. 消費生活と環境について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議(目標 1,2,3,4,5) 15. まとめ～家庭科の授業づくりをどう考えるか(模擬授業の振り返り) （目標 1,2,3,5)
アクティブ・ラーニング	模擬授業 グループワーク　ディスカッション
成績評価基準	模擬授業の発表内容(40%)…目標の達成、教材研究、指導の態度などが適切か 模擬授業に関するディスカッションやレポート(40%)…授業の振り返りや授業改善の視点を適切に捉えているか 家庭科教育の歴史に関する小テスト(20%)…家庭科教育の歴史に関する基本的事項を理解しているか
フィードバックの方法	コメントシートによる
時間外の学習について	予習:テキストを読むこと。課題をすること。(各回 90 分程度) 復習:学習資料を読み返し、要点を整理すること。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領の解説　家庭編』平成 29 年度告示版 『 小学校家庭科教科書　わたしたちの家庭科　5・6』開隆堂 参 考 書:日本家庭科教育学会編『生活をつくる家庭科』第 1 巻～第 3 巻、ドメス出版、2007 その他、授業中に適宜資料を配付する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	体育科教育法	教員名	舩場 大資 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UC2-2032-001000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	学校教育における体育授業の役割・体育方法論・学習指導要領の理解
授業概要	本講義では、教員としての基本的な資質を身に付けるとともに、体育授業の方法論について学ぶことを目的とする。その中で、新たに学習指導要領に加わったダンス(表現運動)を始め、体育教育における黒板の活用など、子どもにとって分かりやすい体育とは何かを考察する。また、学校内で行われるスポーツイベントの運営も学ぶことで、学校運営における個人の役割や組織についても検討する。

達成目標

	科目 DP:(2)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.わが国における今日の学校教育を理解する。(公教育の目的を理解し、その担い手である教員の存在意義を理解する。また現代社会の課題を理解し、学校教育に結び付けることができる。)		◎	◎	
2.学校教育の歴史を理解し、学習指導要領に示された体育科の目的及び指導法を理解する。(日本の教育史の変遷、とりわけ体育史を学習した上で、体育教育の在り方を理解する。)	◎			◎
3.基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。(学習指導要領に記載される指導領域及び目的を網羅し、指導要領に沿って指導案を作成できる。)	◎			○
4.授業の実践及びその振り返りと授業評価(指導案や計画書に沿った授業実践とその反省を行えるようになり、かつ改善するための視野を身に付ける。また、体育授業における評価の方法を理解する。)	◎			○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 遊戯論―遊びとは何か。体育と何か。学習指導要領の運動遊びとは何か。―(目標 1,2) 2. 学校教育史―戦前の教育から現代の教育まで。求められる現代教育とは―(目標 1,2) 3. 体育教育史―現代体育の課題と変遷(体育におけるケガの予防や体罰問題など)―(目標 1,2) 4. 体育科授業法―教室経営における体育の役割(自発的な準備が生み出す教室の規律)―(目標 3) 5. 体育科授業法―体育の「わかる」と「できる」と評価―(目標 3,4) 6. 体育科授業法―体育の音読と体育ノートとその評価―(目標 3,4) 7. 学習指導要領―三つの球技、球技の目的と指導方法―(学習指導案の作成)(目標 3,4) 8. 体育科授業法―体育授業の視点―(情報機器及び教材(動画媒体)を活用した模擬授業と振り返り)(目標 3,4) 9. 学習指導要領―体つくり運動と陸上競技の目的と指導方法―(学習指導案の作成)(目標 3,4) 10. 学習指導要領―水泳の目的と指導方法―(学習指導案の作成)(目標 3,4) 11. 学習指導要領―ダンスの目的と指導方法―(学習指導案の作成)(目標 3,4) 12. ダンスサテライト運営―スポーツイベントの組織づくりと情報機器(動画撮影と映像分析)を利用した練習方法―(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4) 13. ダンスサテライト運営―スポーツイベントの準備及び情報機器(音響と Bluetooth・プロジェクターとタイトルの作成)の活用方法―(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4) 14. ダンスサテライト運営―スポーツイベントの実践及び運営と反省―(模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4) 15. 健康の指導および総括―体育授業の改善方法と評価方法―(情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り)(目標 1,2,3,4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	「ディスカッション」、「グループワーク」、「ロールプレイ」、「模擬授業」
成績評価基準	評価の方法:中間レポート 20%　スポーツイベント運営の実践 20%　期末試験 60% 評価の基準:達成目標に到達したか。
フィードバックの方法	指導案作成等においての重要な部分は、通低して指示を行う。 また、前回の復習を行うことで、重要な部分を再確認できるようにする。
時間外の学習について	予習:事前にテキストをよく読むこと 復習:適宜指示する
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領 体育授業のためのやさしい教授学・学習指導要領小学校体育編解説(平成 29 年度版) 参考書:山口県ダンスサテライト DVD 内海和雄『戦後スポーツ体制の確立』・小林一久『体育の授業づくり論』・阪田尚彦『体育の授業と技術』 坂上康博『権力装置としてのスポーツ』
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	英語科教育法(小・中)	教員名	中垣謙司 ダグラス・パーキン (実務経験) 二五義博	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM2-2033-001120				中学校教諭(英語)	必修
					高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校 英語) 大学が独自に設定する科目 (高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	グローバル社会に対応したコミュニケーション能力の育成が求められる中、小・中学校の連携を意識した外国語科教育を理解するとともに、具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	小学校における外国語活動・外国語及び中学校における英語の学習・指導に関する知識を身に付ける。第二言語習得研究の知見を取り入れた英語科指導、ICTの活用及びALTとのティーム・ティーチング等を視野に入れた模擬授業等を通して、実践的な授業指導について理解を深める。

達成目標

	科目DP: (2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.小学校における外国語活動・外国語及び中学校における外国語(英語)の学習指導要領について理解し、その学習・指導・評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。	○		◎	
2.小・中・高等学校の連携の在り方及び教科書・教材の趣旨・構成・特徴を理解し、「3つの資質・能力」の育成を視野に入れた年間指導計画・単元計画等が理解できる。	○	◎	○	
3.4技能5領域の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。	○	◎		
4.ICTの効果的な活用方法及びALTとのティーム・ティーチングによる指導の在り方や評価について理解し、授業指導に生かすことができる。		○	○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:原則として①面接授業(場合によっては遠隔授業)
授業計画	授業計画 第1回:学習指導要領の変遷及び小学校の外国語活動・外国語教育の目標の理解(中垣謙司) [到達目標 1] 第2回:中学校学習指導要領及び小中連携を通した「3つの資質・能力」の育成(中垣謙司)[到達目標 1,2] 第3回:第二言語習得プロセスに基づいた指導(ダグラス・パーキン)[到達目標 1,2] 第4回:音声と文字の指導(ダグラス・パーキン) [到達目標2,3] 第5回:リスニング指導(二五義博) [到達目標 2,3] 第6回:スピーキング(やり取り/発表)指導(二五義博) [到達目標 2,3] 第7回:リーディング指導(二五義博) [到達目標 2,3] 第8回:ライティング指導(二五義博) [到達目標 2,3] 第9回:ICTの効果的な活用方法(二五義博) [到達目標 1,2,4] 第10回:ALTとのティーム・ティーチングによる指導の在り方)(ダグラス・パーキン) [到達目標 1,2,4] 第11回:授業準備:指導案作成・教材準備(ICT及び教材の活用)(ダグラス・パーキン) [到達目標 1,2,3,4] 第12回:受講生による模擬授業(導入)・振り返り(ダグラス・パーキン) [到達目標 1,2,3,4] 第13回:受講生による模擬授業(コミュニケーション活動)・振り返り (ダグラス・パーキン)[到達目標 1,2,3,4] 第14回:受講生による模擬授業(ICT/デジタルテキスト)・振り返り(ダグラス・パーキン)[到達目標 1,2,3,4] 第15回:授業についての振り返り・成果と課題の確認(複数) [到達目標 1,2,3,4] 定期試験は実施しない。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法: Question Crazy Card System:10% 授業での貢献(発表・質問):20% レポート:20% 模擬授業:50% 評価の基準: クラスルームイングリッシュ等の表現ができる。 小・中学校の連携を意識した外国語科教育が理解できている。
フィードバックの方法	模擬授業等への指導、助言 レポート等に対する随時個別還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元等を読んで、概要を理解しておく。各回90分程度 復習:授業中に配布された資料の復習。授業で出てきた新しい表現等の習得。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』『中学校学習指導要領解説 外国語編』 文部科学省『Let's Try! 1/2』 東京書籍『New Horizon English Elementary Course 5/6』『New Horizon English Course 1/2/3』 参考書:佐藤久美子.(2017)『今すぐ教えられる小学校英語指導案集』朝日出版社 JACET教育問題研究会(編)『新しい時代の英語教育の基礎と実践』
担当者からのメッセージ等 実務経験について	母国であるカナダでの小学校教員としての経験や国内小学校でのALTの経験を生かして、小学校英語教育に携わる上での英語運用能力や指導法の授業をします。また、e-ラーニングを活用し、個々人の習熟度に応じた学習を進めます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>英語学概論</td><td>教員名</td><td>西田 光一
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL1-2034-000110</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期
(集中講義)</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">学問としての英語学がいかに奥が深く、重要で、且つ面白いものであるかを学び取ります。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">英語学が対象とする範囲は広範囲に及ぶ。本講義では 1500 年前までは僅か 15 万人しか話者人口がいなかった弱小言語が如何にして地球規模の言語にまで成長してきたかをまず歴史的に概観し、以下、その進化の過程で起こった諸々の事象を具体的に示し、最後は 21 世紀の、激変していく英語の姿を概観することにする。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.英語学の全体像が習得できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.英語学の基礎知識及び各項目における重要な鍵語が習得できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.毎回、教育現場で役立つであろう英語学の知識(発音、文法、統語論等)が習得できる。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:英語の時代区分:古英語、中英語、近・現代英語 (目標 1)
第2回:How languages work (目標 1,2,3)
第3回:Put it in writing (目標 1,2,3)
第4回:Still more about writing it down (目標 1,2,3)
第5回:Passing the cranberry test (目標 1,2,3)
第6回:Clustering beyond the cranberries (目標 1,2,3)
第7回:Sentences grow on trees (目標 1,2,3)
第8回:A middle ground(目標 1, 2, 3)
第9回:How many languages can fit on a planet? (目標 1,2,3)
第 10 回:Nuclear English (目標 1,2,3)
第 11 回:Multiple meanings(目標 1,2,3)
第 12 回:Language in context (目標 1,2,3)
第 13 回:How humans learn their languages (目標 1,2,3)
第 14 回:Geographical and diachronic linguistics(目標 1,2,3)
第 15 回:A linguistic bestiary (目標 1,2,3)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッションとロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験(70%)、毎回の授業での積極的姿勢(発表等) (30%)
評価の基準:定期試験、授業への取り組み態度</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">それぞれの授業の翌週に要所の理解ができているか確認する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回 90 分程度
復習:授業で特に力説された部分を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:What is Language?(三修社、2,052 円)
参考資料等:教室でその都度、関連文献を呈示します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記しておいて欲しいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>英語史</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">松浦 加寿子
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL3-2035-000220</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期
(集中講義)</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">1500 年に及ぶ英語の歴史を鳥瞰図的に眺め、各時代の出来事などを簡潔にまとめる。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">テキストは 180 頁に亘り、古英語期から中英語期、そして近・現代英語期に至るまでの個々の資料の呈示と簡潔な説明がなされているので、その要点を掻い摘んで平易に解説を加えていくことにする。英語の長い歴史の知識・習得が如何に利するかが分かる授業となる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">科目 DP: (1)
DP 番号 | (1) | (2) | (3) | (4)
1.絶えず歴史的観点から英語の成長と発達を知ることができる。 ◎ ○
2.各時代ごとの要点を確実に脳裏に叩き込むことができる。 ◎ ○
3.児童や生徒からの英語史に関する質問に答えられるような知識が獲得できている。 ○ ◎</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:序論;英語の系統、ゲルマン語の特徴、英語史の時代区分 (目標 1,2,3)
第2回:英語の綴り字の変遷;古英語、中英語、近・現代英語 (目標 1,2,3)
第3回:語形態の変遷;名詞、人称代名詞、動詞 (目標 1,2,3)
第4回:統語法の変遷;語順の確立 (目標 1,2,3)
第5回:統語法の変遷;迂言法の発達 (目標 1,2,3)
第6回:統語法の発達;未来・完了時制、叙想法、進行形、比較変化 (目標 1,2,3)
第7回:語彙の変遷;消滅と増加 (目標 1,2,3)
第8回:語彙の変遷;ケルト語、ラテン語、古ノルド語 (目標 1,2,3)
第9回:語彙の変遷;フランス語、ギリシャ語、外来語からの借入 (目標 1,2,3)
第 10 回:英語の地方言;古英語の地方言 (目標 1,2,3)
第 11 回:英語の地方言;西サクソン方言と他の地方言との比較 (目標 1,2,3)
第 12 回:英語の地方言;中英語の地方言区分とその資料 (目標 1,2,3)
第 13 回:英語の地方言;中英語地方言と近・現代英語 (目標 1,2,3)
第 14 回:英語の地方言;近代標準語の系譜 (目標 1,2,3)
第 15 回:英語の地方言;現代英語の地方言 (目標 1,2,3)
レポート</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッションとロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:レポート(50%)、受講態度(30%)、発表(20%)
評価の基準:レポート、授業への取り組み態度、発表を総合的に評価</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">それぞれの授業の翌週に要所の理解ができているか確認する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回 90 分程度
復習:授業で特に力説された箇所を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「英語史入門」(慶応出版、2,640 円)
参考資料等:授業のなかでその都度関連文献を呈示します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">英語の歴史を紐解きながら、現代英語をより深く理解していきましょう。
実務経験:なし</td></tr>
</table>

授業科目名	英文法演習	教員名	福屋 利信 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL2-2036-000220				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英文法は、ノンネイティブが英語を理解する最短の道であることを理解する。 Content and Language Integrated Learning(CLIL)的手法を使い、content (The History of J-POP)の中で英文法を理解していく。
授業概要	1. 英文法は、規則手はなく、人間の英知の宝庫だと知る。 2. 英文法から逃げると真の英語力は身につかない。 3. CD, DVD を鑑賞しながら、日本の大衆文化への理解を深め、それを英語学習への能動的学び(動機づけ強化)につなげる。 4. 英文法を巧みに駆使した人間の感情表現を体感する。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.英文の構造がしっかり把握できている	◎	◎	○	○
2.文法に関する多くの専門語彙をその都度、確実に習得・暗記できている	○	◎	○	○
3.毎回、英語文法と日本語文法の相互理解に努めている	○	○	○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. ガイダンス:授業形態、授業への貢献度(目標 3) 2. 英文法の骨格は動詞理解(目標 1,2,3) 3. be 動詞の分類:存在の be とイコールの be(目標 1,2,3) 3. 動詞 get は、英語表現のオールマイティ(目標 1,2,3) 4. 動詞の後の out が表す世界観(目標1. 2. 3) 5. 過去時制と現在完了時制の相違点(目標 1,2,3) 6. 現在時制は時空を越える:永遠の真理、普遍的価値観、習慣等を表す(目標1. 2. 3) 7. 未来時制への理解度を深める: be going to と will の違い(目標 1,2,3) 8. 不定冠詞 a の示す世界と定冠詞 the が示す世界(目標 1,2,3) 9. 関係詞は後置形容詞と考えればよく分かる(目標 1,2,3) 10. 関係詞 what の特徴(目標 1,2,3) 11. 推量の助動詞の推量確定度グラデイション(目標 1,2,3) 12. 前置詞 on の本当の意味(目標 1,2,3) 13. 仮定法は人間の弱さを表す文法(目標 1,2,3) 14. 英語の意味拡張は物質的世界から精神世界へ(目標 1,2,3) 15. まとめ:英文法は決して君の敵」じゃない、頼りになる味方なのだ(目標 1,2,3) 定期試験(最終レポート提出)
アクティブ・ラーニング	学生間でのディスカッション、ディベイト
成績評価基準	評価の方法: 最終レポート 50%、授業への参加度 50% 評価の基準: 定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	授業中での質問に、答える。
時間外の学習について	予習復習とも自ら能動的に行う姿勢が大切。自分で計画的に行うこと。
教材にかかわる情報	Toshinobu Fukuya *The History of J-POP: From "Sukiyaki" to "Take a Picture"*
担当者からのメッセージ等 実務経験について	身近な J-POP の文脈を英文法学習に結びつけて、英文法を楽しく学びましょう!

授業科目名	英語音声学	教員名	尊田 望 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	CM1-2037-002220				中学校教諭(英語)	選択
					高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語のリズムとイントネーション
授業概要	英語音声学の理論に基づき英語の音声的特徴について理解を深め、英語教師として相応しい発音を身に付ける。さらに小学生や中高生を対象とした効果的な発音指導について理解を深め、英語教師としての実践力を高める。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.英語の調音音声学に関する理論を理解できる。	◎			○
2.国際社会で通用する英語発音が習得できている。	◎			○
3.日本人英語学習者を対象として効果的に発音指導を行うことができる。	◎			○
4.アルファベットと音の関係を体系的に説明することができる。	◎			○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用
授業計画	第1回:英語音声学とは?・英語の音声的特徴 (目標 1) 第2回:音声器官:名称と役割 (目標 1) 第3回:日本語のアクセントと英語のアクセント (目標 1,2) 第4回:アルファベットと発音の関係:子音字・母音字の読み方 (目標 1,2,4) 第5回:アルファベットと発音の関係:フォニックス (目標 1,2,4) 第6回:日本人英語学習者のための発音指導:強音節と弱音節 (目標 1,2,3) 第7回:日本人英語学習者のための発音指導:閉音節 (目標 1,2,3) 第8回:日本人英語学習者のための発音指導:強音節の等時性 (目標 1,2,3) 第9回:弱音節と強音節:母音の弱化 (目標 1,2,3) 第 10 回:日本人英語学習者の発音の特徴と問題点 (目標 1,2,3) 第 11 回:音声学の理論:子音と母音 (目標 1,2,3,4) 第 12 回:音声学の理論:音素と異音 (目標 1,2,3,4) 第 13 回:音声学の理論:同化と消失 (目標 1,2,3,4) 第 14 回:コミュニケーションにおける発音の重要性 (目標 1,2,3,4) 第 15 回:英語のリズムと日本語のリズム (目標 1,2,3,4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループでプロジェクト活動に取り組む。
成績評価基準	評価の方法: 授業での貢献(発表・ディスカッション):40% 発音テスト:30% 定期試験:30% 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の授業で振り返りシートの記入を行います。
時間外の学習について	予習:テキストの指定された箇所を理解した上で、授業に臨んでください。各回 90 分程度 復習:発音練習が復習(授業後の活動)として課されます。各回 90 分程度
教材にかかわる情報	テキスト:竹林滋 他(2013)『初級英語音声学』大修館書店 参 考 書:武田千代城(2011)『驚異のフォニックスワーク 35』明治図書
担当者からのメッセージ等実務経験について	面接授業を基本とするが, 状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>第二言語習得論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">檜垣 英夫
岩中 貴裕</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM1-2038-002220</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="8">第二言語習得のメカニズム</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="8">第二言語習得研究は「人がどういうメカニズムで第二言語を習得するのか」を科学的に明らかにする学問である。本講義では，人が第二言語を習得するメカニズムを理解し，その知見をいかに教育場面で役立てるのかについて考察を加える。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">達成目標</td><td colspan="5"></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td colspan="5">DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.第二言語習得研究がどのような学問であるのかを説明することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="5">2.学習者の個人差を理解し各自に適した指導・学習方法を提案することができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td colspan="5">3.第二言語習得研究から得られた知見を英語教育に生かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="8">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="8">第1回:ガイダンス(授業の概要・発表担当決定)(岩中貴裕) (目標 1)
第2回:第二言語習得とはどのような学問分野か？(岩中貴裕) (目標 1)
第3回:第二言語習得のプロセス(岩中貴裕) (目標 1)
第4回:第二言語習得に必要なインプット量とは？(檜垣英夫) (目標 1,2,3)
第5回:インプットの「量」「質」を増やすための手段(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第6回:アウトプットはなぜ必要か？(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第7回:第二言語習得におけるアウトプットの役割(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第8回:アウトプットの「量」「質」を増やすための手段(檜垣英夫) (目標 1,2,3)
第9回:動機づけ(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第 10 回:動機づけの向上と下降(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第 11 回:自己決定理論:3 つの心理的欲求を取り入れた学習活動(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第 12 回:学習方略(檜垣英夫) (目標 1,2,3)
第 13 回:メタ認知・メタ認知をトレーニングする方法(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第 14 回:学習スタイル(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
第 15 回:学習スタイルと指導スタイル(岩中貴裕) (目標 1,2,3)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="8">受講生による発表とディスカッションを中心とした授業を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="8">評価の方法:授業での貢献(発表・ディスカッション):50% レポート:20% 定期試験:30%
評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="8">毎回の授業でワークシートを用いて理解度を確認します。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="8">予習:教科書以外の資料を授業内で配布します。内容を理解した上で授業に臨んでください。各回 90 分程度
復習: 授業終了時に振り返りの指示を出します。指示に従って授業で学んだ内容をまとめ、提出してください。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="8">テキスト:廣森友人(2015)『英語学習のメカニズム』大修館書店
参考書:白井恭弘(2012)『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店
鈴木渉(2017)『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="8">面接授業を基本とするが，状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>英語文学概論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">福屋 利信
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL2-2039-000110</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
</table>

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語文学の理解が、深い英語理解につながり、英語世界の文化への興味にもつながる。
授業概要	1920年代アメリカ文学の代表作『偉大なるギャツビー』(*The Great Gatsby*)の英文を精読していく。その過程で、この作品の社会背景(アメリカン・ドリーム実現の場が大地から高層ビル群に変質した背景)を理解する。英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語の授業に生かすことができる。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。	◎	○	○	○
2.文学作品で描かれている国や地域の文化について理解している。	○	○	○	◎
3. 英語で書かれた代表的な文学について理解している。	○	◎	○	○

履修条件・注意事項	②面接授業とオンライン授業の併用
授業計画	第1回:ガイダンス(授業の形態、文学概論等)(目標 2,3) 第2回:1920年代アメリカの概説(目標 2,3) 第3回:ギャツビーの呼吸したジャズ・エイジ(目標 2,3) 第4回:アイビーリーグのアメリカ社会におけるステイタス(目標 2,3) 第5回:アイリッシュアメリカンの社会的地位:アメリカの国家形成と移民(目標 1,2,3) 第6回:オンライン授業「アメリカンの狂騒と喪失1」(目標 1,2,3) 第7回:オンライン授業「アメリカンの狂騒と喪失2」(目標 1,2,3) 第8回:映画『『偉大なるギャツビー』(レオナルド・ディカプリオ主演版)鑑賞(目標 1,2,3) 第9回:映画『偉大なるギャツビー』(レオナルド・ディカプリオ主演版)鑑賞目標 1,2,3) 第 10 回:映画『タイタニック』の中のアイルランド性(目標 2,3) 第 11 回:『偉大なるギャツビー』の語り手選択が作品にもたらす重要性(目標 2,3) 第 12 回:『偉大なるギャツビー』の中の英語表現(目標 1,2,3) 第 13 回:『偉大なるギャツビー』の中の英語表現(目標 1,2,3) 第 14 回:『偉大なるギャツビー』の中の英語表現(目標 1,2,3) 第 15 回:まとめ「グレートの両義性:偉大さと愚かさ」(目標 1,2,3) 定期試験は、最終レポート提出
アクティブ・ラーニング	音読、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法: 定期試験 50%、授業への取り組み態度50% 評価の基準: 定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	毎回の授業で質問を受け、それに答えていく。
時間外の学習について	大学生には、予習復習とも自発的に行う姿勢が求められる。自分で時間配分を決めて行うこと。
教材にかかわる情報	テキスト:福屋利信『ギャツビー&レノン:アイリッシュソウルの系譜』(近代文藝社) 第1回目の授業で販売(1500円:税込み)
担当者からのメッセージ等実務経験について	文学は人間研究の宝庫です。生涯にわたって公私ともに人生のランニングメイトになります。

授業科目名	Creative English I	教員名	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	CM1-2040-002110				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。		○		○
2. 様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。		○		○
3. 様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。	◎	○		○
4. プロジェクト活動を通して英語で様々なトピックについて英語で書くことができる。		○		○
5. 4技能を統合した言語活動を遂行することができる。		○		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用
授業計画	第1回:授業についての説明(目標 1,2,3) 第2回:英語での自己紹介・他己紹介(目標 1,2,3,4,5) 第3回:E-learning ・英語での自己紹介・プレゼンテーション課題の説明(目標 1,2,3) 第4回:E-learning ・Question Crazy Card System・英語での自己紹介・振り返り(目標 1,2,3,4) 第5回:E-learning ・英語での自己紹介・プレゼンテーション準備(目標 1,2,3,4,5) 第6回:E-learning ・グループでのプレゼンテーション準備(目標 1,2,3,4,5) 第7回:E-learning ・英語での自己紹介・振り返り・グループでのプレゼンテーション準備(目標 1,2,3) 第8回:E-learning ・英語での自己紹介・相互評価・プレゼンテーション進捗状況確認(目標 1,2,3) 第9回:E-learning ・プレゼンテーション原稿作成(目標 1,2,3,4,5) 第10回:E-learning ・プレゼンテーション原稿完成・スライド作成(目標 1,2,3,4) 第11回:E-learning ・グループプレゼンテーションリハーサル(目標 1,2,3,4) 第12回:グループプレゼンテーション(1)・自己評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第13回:グループプレゼンテーション(2)・自己評価・ピア評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第14回:グループプレゼンテーション(3)・自己評価・ピア評価・教師による評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第15回:授業全体の振り返り・各自の課題の確認(目標 1,2,3)
アクティブ・ラーニング	Students must create presentations as individuals, to introduce themselves to the class using ICT. They must proactively communicate in English with faculty members, using the Question Crazy Card System. The students must also work in groups to prepare original presentations supported by research, creative writing, and well-rehearsed performances.
成績評価基準	評価の方法: 授業内での貢献・予習・復習:10% Tell Me More Software:10% Question Crazy Card System:10% 自己紹介:10% 自己紹介振り返り:5% プレゼンテーション:45% プレゼンテーション振り返り:10% 評価の基準: Criteria used for evaluation are English skill level, group work skills, research ability, the ability to fully understand questions, and presentation skills.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習: Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: Fettig, C., Najafi, K. (2014). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ¥2,800 ISBN: 9781285177489 参考書:授業内で資料を配付する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教員育成のための専門教育を指導します。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	Creative English Ⅱ	教員名	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL2-2041-000220				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。		○		○
2. 様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。		○		○
3. 様々な話題について英語で話すこと[やりとり・発表]ができる。	◎	○		○
4. プロジェクト活動を通して様々なトピックについて英語で書くことができる。		○		○
5. 4技能を統合した言語活動を遂行することができる。		○		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用
授業計画	第1回:授業についての説明(目標 1,2) 第2回:e-learning・1分間スピーチ・スキット説明 (目標 1,2,3,4,5) 第3回:1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・グループプレゼンテーション説明 (目標 1,2,3) 第4回: 1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・スキット準備・グループプレゼンテーション説明 (目標 1,2,3,4) 第5回:1分間スピーチ・QC Cards・スキット上演 (目標 1,2,3,4,5) 第6回:1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション打合せ (目標 1,2,3,4,5) 第7回:1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿完成 (目標 1,2,3,4) 第8回:1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿修正 (目標 1,2,3) 第9回:1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーションスライド作成 (目標 1,2,3) 第10回:スキット上演・グループプレゼンテーション原稿スライドチェック (目標 1,2,3,4,5) 第11回:スキット上演・グループプレゼンテーション準備物最終確認 (目標 1,2,3,4) 第12回:グループプレゼンテーションその1・アイコンタクト・振り返り (目標 1,2,3,4,5) 第13回:グループプレゼンテーションその2・ジェスチャー・振り返り (目標 1,2,3,4,5) 第14回:グループプレゼンテーションその3・聞き手に対する配慮・振り返り (目標 1,2,3,4,5) 第15回:授業の振り返り・到達目標の確認 (目標 1,2,3)
アクティブ・ラーニング	Students create individual presentations, prepare and perform group skits while using costumes and ICT, plus make a creative group presentation/performance which is presented in front of the class. Students actively engage in questioning and answering challenging questions, as part of their final presentation test. Students must be active to be successful!
成績評価基準	評価の方法: 授業内での貢献・予習・復習:10% e-learning:10% Question Crazy Card System:10%、1分間スピーチ:10% 1分間スピーチ振り返り:5% スキット:10% グループプレゼンテーション:35%、グループプレゼンテーション振り返り:10% 評価の基準: Criteria used for evaluation are English writing and presentation skills, group work skills, and the ability to effectively use ICT and costumes to give presentations and performances.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習: Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth.(予習・復習とも90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: Fettig, C., Najafi, K.(2014). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800 ISBN: 9781285177489 参考書:授業内で資料を配付する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教師育成のための専門教育を指導します。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	Applied English I	教員名	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL2-2042-000220				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	2年後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成
授業概要	この授業では英語運用能力を向上させると同時に望ましい英語指導方法について検討します。認知的負荷の高いアウトプット活動に従事することによって英語使用に対する自信を育てます。ペア、小グループでの活動を通して自律的な学習習慣を確立します。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 4 技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。		○		○
2. 自信を持って人前で英語のスピーチやプレゼンテーションを行うことができる。		○		○
3. 仲間と協力して英語のプロジェクト活動を行うことができる。	◎	○		○
4. 英語で認知負荷の高い活動に従事することができる。		○		○
5. 自信を持って英語を使うことができる。		○		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用
授業計画	第1回:授業についての説明(目標 1,2,5) 第2回:e-learning・プレゼンテーション準備・グループプレゼンテーション説明(目標 1,3,4,5) 第3回:プレゼンテーションその 1・グループプレゼンテーション打合せ(目標 1,2,3,4,5) 第4回:プレゼンテーションその 2・グループプレゼンテーション準備(目標 1,2,3,4,5) 第5回:プレゼンテーションその 3・グループプレゼンテーション進捗状況確認(目標 1,2,3,4,5) 第6回:プレゼンテーション振り返り・ グループプレゼンテーションスライド作成(目標 1,2,3,4,5) 第7回:e-learning・QC Card 進捗状況確認・グループプレゼンテーション進捗状況報告(目標 1,2,3,4,5) 第8回:プレゼンテーションその 4・グループプレゼンテーション草稿提出(目標 1,2,3,4) 第9回:プレゼンテーションその 5・グループプレゼンテーション内容確認(目標 1,2,3) 第 10 回:プレゼンテーションその 6・グループプレゼンテーション最終原稿完成(目標 1,2,3) 第 11 回:グループプレゼンテーション最終準備(原稿・スライド・ICT)(目標 3,4) 第 12 回:グループプレゼンテーションその 1・自己評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 13 回:グループプレゼンテーションその 2・他己評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 14 回:グループプレゼンテーションその 3・教師による評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 15 回:授業に対する振り返り・到達目標の確認(目標 1,4)
アクティブ・ラーニング	Students reflect on their past learning and experiences, project what they want and need for the future, and create an individual presentation to be given to the class. In groups they must create an original skit, then prepare and present it to the class. In groups they create a presentation/performance as teachers, who also give a test to the class.
成績評価基準	評価の方法: 授業での貢献:5% e-learning:10% Question Crazy Card System:10% プレゼンテーション:10% リフレクション(プレゼンテーション):5% 10 分間活動:10% グループプレゼンテーション:40% リフレクション(グループプレゼンテーション):10% 評価の基準: Criteria used for evaluation are the ability to reflect and apply information, presentation skills, creativity, performance ability, as well as English and team work skills.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習: Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: Chase, B. (2013). Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ¥2,800 ISBN: 9781133307679 参考書:授業内で必要な資料を配布します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員や ALT の経験を生かして、英語を用いたアクティブラーニングの手法やティームティーチングの基礎などの指導をします。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	Applied English Ⅱ	教員名	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL3-2043-000220				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成					
授業概要	この授業では受講生は英語を教授言語として英語指導を行うという活動に従事します。英語を用いて英語を教えるという活動に従事することによって、生徒の英語コミュニケーション運用能力向上をもたらす活動の在り方に対する理解を深めます。					

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 4 技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。		○		○
2. 英語を指導するスキルを実践することができる。		○		○
3. コミュニケーション能力を育てる英語指導を行うことができる。	◎	○		○
4. 認知負荷の高いトピックについて英語で話すように生徒を動機づけることができる。		○		○
5. 英語を教授言語として自信を持って使用することができる。		○		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用
授業計画	第1回:授業概要についての説明(目標 1,2) 第2回:e-learning・10 分間授業の説明・Debate/Discussion フォーラム説明(目標 1,2,3) 第3回:e-learning・10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム(目標 1,2,3,4,5) 第4回:10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム・ティームティーチング説明(目標 1,2,3,4,5) 第5回:10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム・ティームティーチング準備(目標 1,2,3,4,5) 第6回:10 分間授業振り返り・ Debate/Discussion フォーラム振り返り・ティームティーチング準備(目標 1,2,3,4,5) 第7回:e-learning 進捗状況確認・QC Card 進捗状況確認・ティームティーチング進捗状況確認(目標 1,2,3,4,5) 第8回:10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム・ティームティーチング指導案作成(目標 1,2,3,4,5) 第9回:10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム・ティームティーチング指導案確認(目標 1,2,3,4,5) 第 10 回:10 分間授業・ Debate/Discussion フォーラム・ティームティーチング実施詳細確認(目標 1,2,3,4,5) 第 11 回:ティームティーチング教材作成(目標 1,2,3,4) 第 12 回:ティームティーチング(グループ 1・2)・自己評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 13 回:ティームティーチング(グループ 3・4)・他己評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 14 回:ティームティーチング(グループ 5・6)・教師による評価・振り返り(目標 1,2,3,4,5) 第 15 回:授業に対する振り返り・到達目標の確認(目標 2,4)
アクティブ・ラーニング	Students become much more active as teachers, by conducting 10 minute mini lessons to the class. In pairs they also conduct a 25-30 minute debate or discussion with the class, being responsible for the creation and implementation of everything. The final test, is a 40 minute pair team teaching test, where students become either an ALT or a JTE.
成績評価基準	評価の方法: 授業での貢献:5% e-learning:10% Question Crazy Card:10% 10 分間授業:10% 10 分間授業振り返り:5% Debate/Discussion フォーラム:10% ティームティーチング:40% 授業振り返り:10% 評価の基準: The criteria used for evaluation are critical thinking skills, group work skills, ability to state and support opinions, plus the ability to teach English at a junior and senior high schools, using appropriate language levels.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習: Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. Understanding teaching methodology, is an import item to prepare for in this course. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: Chase, B. (2013). Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800 ISBN: 9781133307679 参考書:授業内で必要な資料を配布します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員や ALT の経験を生かして、英語を用いたアクティブラーニングの手法やティームティーチングの基礎などの指導をします。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	Basic English Expression	教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL2-2044-000220				中学校教諭(英語)	選択
					高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.音声モードの英語インプットを理解することができる。	◎			
2.文字モードの英語インプットを理解することができる。	◎			
3.様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。		◎		○
4.様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。		◎		○
5.複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。		○		◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:ガイダンス (授業の進め方・課題について)(目標 1,2,3,4,5) 第2回:パラグラフの構成 (目標 4) 第3回:エッセイ執筆:Choosing a Pet (目標 2,4,5) 第4回:エッセイ評価・ディスカッション:Choosing a Pet (目標 1,2,3,4,5) 第5回:エッセイ執筆:School Subjects (目標 2,4,5) 第6回:エッセイ評価・ディスカッション:School Subjects (目標 1,2,3,4,5) 第7回:エッセイ執筆:School Lunch Menu (目標 2,4,5) 第8回:エッセイ評価・ディスカッション:School Lunch Menu (目標 1,2,3,4,5) 第9回:エッセイ執筆:Best Friends (目標 2,4,5) 第 10 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:Best Friends (目標 1,2,3,4,5) 第 11 回:エッセイ執筆:Person to Remember (目標 2,4,5) 第 12 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:Person to Remember (目標 1,2,3,4,5) 第 13 回:エッセイ執筆:You Are the Teacher (目標 2,4,5) 第 14 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:You Are the Teacher (目標 1,2,3,4,5) 第 15 回:プレゼンテーション:My Goals (目標 1,3,5)
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い, 受講生による発表が授業活動の中心となる。
成績評価基準	評価の方法:プレゼンテーション・ディスカッション:40%　エッセイ:40%　授業での貢献:20% 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。
時間外の学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。(予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 日本国際教養学会(編著). The Intersection of Arts, Humanities, and Science: Fifteen Selected Passages for University Students. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-4897-0 ￥2,000 参考書:文法学習のために E-learning を使用する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。

授業科目名	Intermediate English Expression	教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL2-2045-000220				中学校教諭(英語)	選択
					高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.音声モードの英語インプットを理解することができる。	◎			
2.文字モードの英語インプットを理解することができる。	◎			
3.様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。		◎		○
4.様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。		◎		○
5.複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。		○		◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:ガイダンス (授業の進め方・課題について)(目標 1,2,3,4,5) 第2回:パラグラフの構成 (目標 4) 第3回:エッセイ執筆:Travel (目標 2,4,5) 第4回:エッセイ評価・ディスカッション:Travel (目標 1,2,3,4,5) 第5回:エッセイ執筆:Your School (目標 2,4,5) 第6回:エッセイ評価・ディスカッション:Your School (目標 1,2,3,4,5) 第7回:エッセイ執筆:Good Person (目標 2,4,5) 第8回:エッセイ評価・ディスカッション:Good Person (目標 1,2,3,4,5) 第9回:エッセイ執筆:Career Decisions (目標 2,4,5) 第 10 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:Career Decisions (目標 1,2,3,4,5) 第 11 回:エッセイ執筆:Leadership (目標 2,4,5) 第 12 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:Leadership (目標 1,2,3,4,5) 第 13 回:エッセイ執筆:Special Place (目標 2,4,5) 第 14 回:エッセイ評価・プレゼンテーション:Special Place (目標 1,2,3,4,5) 第 15 回:プレゼンテーション:Goals (目標 1,3,5)
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い, 受講生による発表が授業活動の中心となる。
成績評価基準	評価の方法: プレゼンテーション・ディスカッション:40%　エッセイ:40%　授業での貢献:20% 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。
時間外の学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。(予習・復習とも 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 日本国際教養学会(編著). The Intersection of Arts, Humanities, and Science: Fifteen Selected Passages for University Students. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-4897-0 ￥2,000 参考書:文法学習のために E-learning を使用する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>Upper-Intermediate
English Expression</td><td>教員名</td><td>ダグラス・パーキン
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格
との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL3-2046-000220</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">3年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">英語コミュニケーション能力の育成</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">授業ではまとまりのある量の英文を書いてその原稿をベースにして発表を行うという活動に従事します。自分の考えや意見を英語で表現する技術を修得します。個人、またはグループでの発表を通してリーディング力、ライティング力、スピーキング力、リスニング力の向上を目指します。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">達成目標</td><td colspan="5"></td><td>科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td colspan="5">DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.文法と語彙に配慮して英文を書くことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="5">2.各自の興味や関心のあるトピックを選んで英文で書くことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="5">3.必要な情報を収集して英文を書くことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="5">4.収集した情報を聞き手の理解を促すように構成し発表することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="5">5.文字モード、音声モードで収集した情報を発表することができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:授業説明・ライティングプロセス(目標 1,24)
第2回:日記・My Life(作文)・ニュース報告(ペアライティング)(目標 1,2,3,4,5)
第3回:Pen Pals・My Life(発表)・ニュース報告(ペアでの発表)(目標 1,4,5)
第4回:Pen Pals・My Life・ニュース報告・トークショーグループ決定(目標 1,2,3,4,5)
第5回:書き出し文・My Life・ニュース報告・トークショーグループワーク(目標 1,2,3,4,5)
第6回:書き出し文・Pen Pals・トークショー原稿作成(目標 1,2,3,4,5)
第7回:ライティングプロセス・ピアエディティング・トークショー原稿完成(目標 1,2,5)
第8回:Pen Pals・トークショー原稿提出(目標 1,4,5)
第9回:Pen Pal・トークショー原稿書き直し(目標 1,4,5)
第 10 回:Pen Pals・トークショーグループ練習(目標 1,4,5)
第 11 回:トークショーリハーサル・準備物確認(目標 3,4)
第 12 回:トークショー(グループ1/2)・自己評価(目標 1,5)
第 13 回:トークショー(グループ3/4)・他己評価(目標 1,5)
第 14 回:トークショー(グループ5/6)・教師による評価(目標 1,5)
第 15 回:授業振り返り・到達目標の確認(目標 1,2,3,4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">Students will work individually and in groups to express their thoughts and ideas in writing. They will create a class journal, a daily diary, write about their lives, write about news, and produce a final test on current events in the form of a talk show. Students will share many written pieces with the rest of the class in various ways.</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 日記:25% Pen Pals:10% News Reporting: 10% My Life(作文・発表):15%
トークショー:30% 振り返り:10%
評価の基準: The criteria used for evaluation are English writing skills level for grammar usage and vocabulary, creativity, and the ability to clearly express thoughts and feelings.</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: Students must prepare for class by regularly writing in their diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course.
復習: Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course. (予習・復習とも 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:授業内で必要な資料を配布します。
参考書:授業内で必要な資料を配布します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な4技能の総合力を高める指導をします。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>Advanced English Expression</td><td>教員名</td><td>ダグラス・パーキン
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL3-2047-000220</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">3年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">英語コミュニケーション能力の育成</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">4技能を統合的に扱う上級レベルの授業です。自分で作成した英語の原稿を用いてプレゼンテーションを行います。聞き手を納得させるためにはどのような点に気をつけるべきかを体験的に学びます。個人、グループで様々なプロダクション活動に従事します。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.目的に焦点を合わせてその内容を文字モードで表現することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.収集した情報を論理性に考慮しながら文字モードで表現することができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.内容を効果的に伝える方法に配慮しながら文字モードで表現することができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>4.聴衆の反応に配慮しながら伝えるべき意味内容を効果的に伝えることができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:ライティングプロセスについての説明(目標 1,3)
第2回:自由日記・スピーチライティング(目標 1,2,3)
第3回:Mini Group Plays・ファンタジー・スピーチライティング(目標 1,2,3,4)
第4回:Mini Group Plays・スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 準備(目標 1,2,3,4)
第5回:スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 原稿作成(目標 1,2,3,4)
第6回:ファンタジー・Mini Group Plays・Final Group Plays 進捗状況確認(目標 1,2,3,4)
第7回:スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 草稿完成(目標 1,24)
第8回:ファンタジー・スピーチ・自叙伝・Final Group Plays 原稿提出(目標 1,4)
第9回:ファンタジー・Final Group Plays 原稿修正(目標 1,24)
第 10 回:ファンタジー・Final Group Plays 準備物確認(目標 1,4)
第 11 回:Final Group Plays リハーサル・順番決定(目標 3,4)
第 12 回:Final Group Plays(グループ 1/2)・自己評価・振り返り(目標 4)
第 13 回:Final Group Plays(グループ 3/4)・他己評価・振り返り(目標 4)
第 14 回:Final Group Plays(グループ 5/6)・教師による評価・振り返り(目標 4)
第 15 回:振り返り・到達目標の確認(目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">This course is advanced actively as students are to express themselves using every skill they have achieved in English writing and in creative expression. They will work individually and in groups to create a fictional daily diary, research and present a speech, create a memoir, produce a class manga fantasy book, and produce plays.</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 自由日記:20% ファンタジー(Manga):10% スピーチ:10% Mini Group Plays:15%
Final Group Plays:35% 振り返り:10%
評価の基準: The criteria used for evaluation are students’ ability to express themselves in written and in spoken form, as well as creativity and the ability to clearly express thoughts and feelings.</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: Students must prepare for class by regularly writing in their fictional diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course.
復習: Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course. (予習・復習とも 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:授業内で必要な資料を配布します。
参考書:授業内で必要な資料を配布します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な4技能の総合力を高める指導をします。面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目名</td><td rowspan="2">異文化理解</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">福屋 利信
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-2048-002110</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教科に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">異文化受容・他者理解</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">世界の多様な文化を学び、その背後にある精神性・思考回路を理解するとともに、交流を通した体験型学習によって、それらを自分の文化的背景と比較し、英語でそれを発信していくコンピテンシーを身につけていく。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身につける。
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.多様な文化的背景を持った人々との交流を通して文化の多様性及び異文化理解の意義について体験的に理解している。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4.価値観や考え方の異なる人と協力して協同作業に取り組むことができる。</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:ガイダンス(授業の進め方・異文化理解の重要性について)(目標 1,2)
第2回:1950 年代のアメリカン・グラフィティ/アメリカン・ポップスの世界(目標 1,2,3)
第3回:戦後日本のアメリカ文化受容:(目標 1,2,3)
第4回:イギリス社会の価値観:アフタヌーンティとパブ文化(目標 1,2,3)
第5回:ロックンロールと綿花貿易と産業革命との相関性(目標 1,2,3)
第6回:ビートルズがアメリカとイギリスを攪拌した(目標 1,2,3)
第7回:ビートルズ東京公演の社会的意義:イギリス文化と日本文化の化学反応(目標 1,2,3)
第8回:ビートルズが日本の若者と世界の若者に与えた影響(目標 1,2,3)
第9回:ロックンロールからロックへ:非言語的怒りから言語的怒りへ(目標 1,2,3)
第10回:カントリーからフォークへ:アメリカの保守的音楽から脱却してリベラルな改革派の音楽へ(目標 1,2,3)
第11回:アメリカ大衆文化を形成したアイルランド移民(目標 1,2,3)
第12回:ジーンズに込められた精神性:ヒッピーからヤッピー(IT エグゼクティヴ)へ(目標 1,2,3)
第13回:ミニスカートに込められた精神性:ロンドンファッションの逆襲(目標 1,2,3)
第14回:アメリカの黒人音楽とイギリスのレゲエ音楽((目標 1,2,3)
第15回:英語圏の文化や価値観についてディスカッションする(目標 1,2,3,4)

定期試験:最終レポート提出</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッションやディベイトを積極的に行う</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業での貢献(発表・ディスカッション):50%　レポート:50%
評価の基準:学習者の能動的学習態度を評価の基準におきます。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">課題等は授業担当者のコメントを添えて返却する</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:指定された単元について概要を理解しておく(各回90 分程度)
復習:授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りをする(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:福屋利信『ロックンロールからロックへ』(近代文藝社)　第1回目の授業で販売(1500円:税込み)
参考書:その他必要な資料は授業内でプリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">新たな時代(異文化共存社会)では、知識を知恵に変換して発言・行動することが求められている。そのための基礎力を、この授業では身につけて欲しい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>英語科教育法Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">二五 義博
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL2-2049-000110</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">英語指導方法に対する理解</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">本講義によって中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身に付ける。ディスカッション、グループプレゼンテーション、授業観察、模擬授業を通して生徒がコミュニケーションのツールとして英語を使えるようになるためにはどのような授業を行うべきかについて理解を深める。また、英語の授業におけるICTの活用法についての基本的知識を身に付け、ICTを効果的に授業指導へ生かす方法を考える。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領と教科用図書について理解している。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.聞くことの指導と読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>3.話すことの指導と書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4.学習到達目標に基づく授業の組み立てを理解し、授業指導に生かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>5.教材及びICT機器の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:英語教育と英語科教育の違い・教科用図書とは？ (目標 1)
第2回:英語の授業構成・DVDによる授業観察 (目標 4)
第3回:音声と文字の指導 (目標 2)
第4回:リスニング指導 (目標 2)
第5回:スピーキング(やり取り)指導 (目標 3)
第6回:スピーキング(発表)指導 (目標 3)
第7回:リーディング指導 (目標 2)
第8回:ライティング指導 (目標 3)
第9回:英語の授業におけるICT機器の活用 (目標 5)
第10回:授業担当者による模範授業に生徒として参加 (目標 4)
第11回:教室の使用言語 (目標 4)
第12回:授業の準備と計画・学習指導案の作成 (目標 4)
第13回:学生による模擬授業第一グループ・リフレクション (目標 1,2,3,4,5)
第14回:学生による模擬授業第二グループ・リフレクション (目標 1,2,3,4,5)
第15回:現状と課題の確認 (目標 1,2,3,4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">模擬授業, グループワークを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:成績は下記の点を考慮して総合的に判定します。
授業での貢献(発表・質問):25% 授業内ミニレポート:25% 模擬授業:30% レポート:20%
評価の基準:意欲と態度を重視した評価を行う。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">課題等は授業担当者のコメントを添えて返却します。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストの指定された箇所を読んで、内容をまとめた上で授業に臨んでください。各回90分程度
復習:振り返りのレポートが課されます。授業内の指示に従って作成し、提出してください。各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、文部科学省(著)『中学校学習指導要領解説 外国語編』
文部科学省(著)『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、笹島準一他『New Horizon English Course 1/2/3』
参考書:JACET教育問題研究会(編)『新しい時代の英語教育の基礎と実践』</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。</td></tr>
</table>

授業科目名	英語科教育法Ⅱ	教員名	中垣 謙司 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL3-2050-000110				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	グローバル社会の急速な進展により、実践的なコミュニケーション能力の育成が喫緊の課題となり、小・中・高等学校を通じた系統的な外国語教育の充実が求められている。令和の日本型学校教育を視野に入れ、学習指導要領を理解し、具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	小・中・高等学校の学習指導要領及び教科用図書等の教材について理解するとともに、3つの資質・能力の育成ついて理解する。また、学習者が第二言語・外国語を習得するプロセス及び英語でのインタラクション、異文化に関する指導について理解を深める。模擬授業を通してICTを実際の授業における指導に生かすことができるようにするとともに、観点別評価の在り方を理解する。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.小・中・高等学校の学習指導要領及び教科用図書等について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解している。	◎		○	
2.小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携を視野に入れた英語教育の在り方の基本について理解している。		◎	○	
3.第二言語習得プロセス・異文化理解指導について理解し、授業指導に生かすことができる。	○		○	◎
4.ICTの効果的な活用及び指導の在り方について理解し、授業指導に生かすことができる。		◎	○	○
5.観点別学習状況の評価について理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:原則として①面接授業(場合によっては遠隔授業)
授業計画	第1回:小学校外国語活動の現状・小学校外国語導入の経緯及び小・中・高等学校の連携 [到達目標1] 第2回:小学校外国語活動・外国語の学習指導要領及び教科用図書等教材等 [到達目標1,2] 第3回:小・中・高等学校を通した英語教育の在り方 [到達目標1,2] 第4回:第二言語習得プロセス／英語でのインタラクション [到達目標3] 第5回:異文化理解・異文化に関する指導の方向性 [到達目標3] 第6回:ICTの効果的な活用・指導の在り方 [到達目標4] 第7回:観点別学習状況の評価 [到達目標5] 第8回:小・中連携を視野に入れた学習指導案(導入部分)の作成 [到達目標1,2,3,4,5] 第9回:小・中・高等学校連携を視野に入れた学習指導案(導入部分)の作成 [到達目標1,2,3,4,5] 第10回:学習指導案(展開部分)の作成 [到達目標1,2,3,4,5] 第11回:学習指導案(まとめ・振り返り部分)の作成 [到達目標1,2,3,4,5] 第12回:導入部分を中心とした模擬授業 [到達目標1,2,3,4,5] 第13回:展開部分を中心とした模擬授業 [到達目標1,2,3,4,5] 第14回:まとめ・振り返り部分を中心とした模擬授業 [到達目標1,2,3,4,5] 第15回:現状と課題の確認 [到達目標1,2,3,4,5] 定期試験は実施しない
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法:授業への取組:20% 課題・小テスト:30% 模擬授業:50% 評価の基準:クラスルームイングリッシュを活用し、小・中学校の連携を意識した授業が実践できる。 学習指導要領を踏まえた4技能を育成するための教科書の活用・教材研究の在り方を理解している。
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元について概要を理解しておく。各回90分程度 復習:既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:資料配付 参考書:中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、伊東治己 著『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社 馬場今日子他 著『第二言語習得論講義―英語学習への複眼的アプローチ』大修館書店、 村野井仁他 著『実践的英語科教育法 総合的コミュニケーション能力を育てる指導』 成美堂、文部科学省 著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 著『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 参考資料等:随時プリント配布
担当者からのメッセージ等実務経験について	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料(文法知識等)の詰め込みにならず、また英語が苦手な生徒に配慮するという視点を忘れず、学習指導要領を理解し、英語が使用される場面や目的を意識した言語活動を実践していくという姿勢を身につけてください。 県教委指導主事の実務経験をもとに授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。

授業科目名	英語科教育法Ⅲ	教員名	中垣 謙司 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL3-2051-000120				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)
授業テーマ	グローバル社会の急速な進展により、実践的なコミュニケーション能力の育成が喫緊の課題となり、外国語教育の充実が求められている。令和の日本型学校教育を視野に入れ、評価の視点を意識した具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	ICTの活用、ALT等とのT・Tの方法、生徒の特性や習熟度に応じた指導を学んだ上で、中・高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、評定への総活の仕方について理解する。また、生徒が話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法等、言語能力の測定と評価の方法についても理解する。最終的に、指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案(ICT・ALT等の活用を含む)を作成し、その指導案に沿って授業ができることをめざす。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. ICTの効果的な活用及びALT等とのティーム・ティーチング(T・T)について理解し、授業指導に生かすことができる。	○	◎		○
2. 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。	○	○	◎	
3. 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や総括、並びに言語能力の測定と評価(パフォーマンス評価等を含む)について理解し、指導に生かすことができる。	○	◎	○	○
4. 4技能5領域の指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案の基本的な作成ができる。		◎		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:原則として①面接授業(場合によっては遠隔授業)
授業計画	第1回:ICTの活用及びALT等とのT・Tの在り方 [到達目標1] 第2回:生徒の特性・習熟度への対応 [到達目標2] 第3回:観点別学習状況の評価及びそれに基づく評価規準の設定 [到達目標3] 第4回:CAN-DO リスト・評価規準の総括 [到達目標3] 第5回:言語能力の測定と評価 [到達目標3] 第6回:指導と評価の一体化 [到達目標3,4] 第7回:ICT・ALT等を活用した学習指導案(導入部分)の作成 [到達目標1,2] 第8回:ICT・ALT等を活用した学習指導案(展開部分)の作成 [到達目標1,2,3] 第9回:ICT・ALT等を活用した学習指導案(まとめ・振返り)の作成 [到達目標1,2,3,4] 第10回:模擬授業① [到達目標1,2,3,4] 第11回:模擬授業② [到達目標1,2,3,4] 第12回:模擬授業③ [到達目標1,2,3,4] 第13回:模擬授業④ [到達目標1,2,3,4] 第14回:模擬授業⑤ [到達目標1,2,3,4] 第15回:現状と課題の確認 [到達目標1,2,3,4] 定期試験は実施しない
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法:授業への取組:20% 課題・小テスト:30% 模擬授業:50% 評価の基準: クラスルームイングリッシュを駆使し、意味内容・言語形式・言語機能を意識した授業が実践できる。 評価の視点をもち、4技能を育成するための教科書の活用・教材研究の在り方を理解している。
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元について概要を理解しておく。各回90分程度 復習:既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:資料配付 参考書: 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、望月昭彦他 編『英語4技能評価の理論と実践―CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで』大修館書店、望月正道他 著『 英語で教える英語の授業―その進め方・考え方』大修館書店 文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 著『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 参考資料等:随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料(文法知識等)の詰め込みにならず、また英語が苦手な生徒に配慮するという視点を忘れず、学習指導要領を理解し、英語が使用される場面や目的を意識した言語活動を実践していくという姿勢を身につけてください。 県教委指導主事の実務経験をもとに授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。

授業科目名	保育内容の理解と方法・健康Ⅰ	教員名	舩場 大資 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC1-2052-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	子どもの健康理解・生活習慣と健康・子どもの体力・子どもの発育発達
授業概要	乳幼児期の発達段階に応じた心身の特徴や、基本的な生活習慣や運動の知識を身に付ける。また、5領域の中の「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成、運動遊びや危機管理など、保育に必要な専門的知識などについて考えていく。あわせて現場や自治体で行われている取り組みについても学び、子どもの健康的な生活習慣を考察する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.現代的な子どもの健康理解	◎		○	
2.現代的な子どもの体力理解	◎		○	
3.子どもの発育発達の理解	◎		○	
4.5領域と健康の理解		◎		○
5.子どもの遊びとケガへの理解		○		◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:オリエンテーション・領域「健康」と健康の概念について(目標 1) 第2回:現代における乳幼児期の健康課題―体力調査・生活調査から―(目標 2) 第3回:乳幼児期の心と体の発育過程とその特徴(目標 3) 第4回:乳幼児期の基本的な生活習慣と援助方法(目標1) 第5回:乳幼児期の健康的な生活習慣の改善事例―教育機関や各地域の取り組みから―(目標 1) 第6回:乳幼児期の健康管理や衛生に関する基本的な理解(目標 4) 第7回:起こりやすいケガの特徴や熱中症の理解と対策―安全な生活のための予防と処置―(目標 5) 第8回:月齢毎における所作の習得とその意義について(目標 3) 第9回:乳幼児の生活にみられる動作と発育理解―粗大運動と微細運動を通じて―(目標 3) 第10回:神経系に関わる運動と巧緻性の獲得の重要性について(目標 3) 第11回:5領域と健康の関わり(目標 4) 第12回:乳幼児期の外遊びと教材の特性理解(目標 5) 第13回:乳幼児期の室内遊びと教材の特性理解(目標 5) 第14回:多様な動きの獲得の意義と自由運動遊びへの理解(目標 5) 第15回:乳幼児期における基本的な生活について―まとめ―(目標 4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション
成績評価基準	評価の方法:レポート40点・定期試験60点 評価の基準:健康への理解度。子どもの発育発達の理解度
フィードバックの方法	各演習ごとに内容に対する意見や質問の確認時間をとる。
時間外の学習について	予習:各回に相当する教科書の予習45分程度 復習:ノート整理・課題等45分程度
教材にかかわる情報	テキスト:前橋明著『コンパス 保育内容健康』建帛社 参考書:出村慎一監修『幼児のからだとこころを育てる運動遊び』杏林書院 大西文子編著『子どもの健康と安全』中山書店 参考資料等:適宜配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもの健康課題や対策は日々変化しています。まず基本をしっかりと理解して欲しいです。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の理解と方法・健康Ⅱ</td><td>教員名</td><td>舩場 大資
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-2053-220000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">運動環境・運動機能の理解と実践方法・データの読み方と理解・幼保小の連携と健康</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">５領域における「健康」の内容について理解し、幼児期の子どもの健康的な生活を支援できる保育方法について学ぶ。また、遊びにおける人間関係の形成や自発的な遊びのメリットなどの遊びがもたらす成長について理解できるようになる。最終的に、幼児期の子どもの発育発達の順序や特性を理解し、領域「健康」を踏まえた環境構成や指導計画を作成することができるようになる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(1)</td></tr><tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.運動環境構成を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2.データを理解し、活用できるようになる</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>3.幼保小の連携理解</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td>○</td></tr><tr><td>4.体力調査を理解し、活用できるようになる</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>5.環境構成の理解と活用</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">授業計画
第1回:オリエンテーション・健康の定義と「健康」の領域について (目標 1)
第2回:発達段階に応じた乳幼児期の生活習慣の確立―睡眠や運動、食事が果たす役割― (目標 1)
第3回:園内および園外活動の環境構成―安全管理とリスクマネジメント― (目標 1)
第4回:発育・発達を踏まえた習得したい運動技能の理解 (目標 2)
第5回:運動技能の習得を目指した保育目標の立て方と指導方法―教材理解― (目標 1)
第6回:よく転倒する幼児の特徴と運動による改善方法―現代的健康課題― (目標 2)
第7回:多様なケガに対する応急手当とAEDの理解 (目標 2)
第8回:子どもの健康を支える保育実践―地域の幼保小の活動をモデルに― (目標 3)
第9回:大規模調査からみる現代の子どもの発育課題と遊び仲間と地域の遊び場の理解 (目標 4)
第10回:ICT(動画と静止画)を活用した運動指導 (目標 2)
第11回:幼児期の遊びを通じた人間関係の形成 (目標 1)
第12回:自発性を重視する運動あそび実践例と環境構成 (目標 5)
第13回:MKS幼児運動能力調査における運動科学と発育理解 (目標 4)
第14回:配慮が必要な子どもとアダプテッドな運動遊びの理解 (目標 5)
第15回:健康的な子どもを育てるために―指導計画・環境構成の理解― (目標 5)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:レポート40点・定期試験60点
評価の基準:健康への理解度。子どもの発育発達の理解度</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">各演習ごとに内容に対する意見や質問の確認時間をとる。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:各回に相当する教科書の予習45分程度
復習:ノート整理・課題等45分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:前橋明著『コンパス 保育内容健康』建帛社
参考書:出村慎一監修『幼児のからだとこころを育てる運動遊び』杏林書院
大西文子編著『子どもの健康と安全』中山書店
参考資料等:適宜配布する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	保育内容の理解と方法・人間関係	教員名	冨田まり子	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2054-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特性や保育者の役割についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識、技術、実践力)
授業概要	学生が、自分の乳幼児期の家族や地域の人との関係や関わりについて振り返り、領域「人間関係」への関心や学習意欲が持てるようにする。そして、家庭・地域・生活環境がどのように変わっていったか事例と合わせながら説明し、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴や課題について理解できるようにする。子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項については、子どもの発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、園生活のエピソードを通して、発達の時期と関連づけて学べるようにする。併せて、具体的な場面を通して保育者の関わり方や役割・資質についての理解を深め、専門的知識を身に付ける。また、学生自身が自分の人間関係や関わりを意識しながら、学生生活の中で人とかかわる力を磨いていけるようにする。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的特徴と課題を理解する。(子どもを取り巻く人間関係の特徴・現代的課題・社会的背景を理解する／人とかかわる力の育ちが生きる力の原点となることを理解する)	◎			
2.乳幼児期の人と関わる力の発達が、園生活における保育者・友達等、人とのかかわりによって育つことを理解する。(乳児期の人とかかわる力の育ちと身近な大人との関係について理解する／幼児期の園生活の中で育つ人とかかわる力の発達と、保育者・友達・集団との関係について理解する／自立心・協同性の育ちについて発達の姿と合わせて理解する／道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて理解する／家族や地域との関わりと育ちについて発達の姿と合わせて理解する)	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1.子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的特徴と課題について[目標1] (園、家庭、地域の生活と人とのかかわりについて～今むかし) 2.領域「人間関係」のねらい及び内容と、大学生活で求められる人と関わる力の関連について[目標1, 2] 3.乳幼児期における人とのかかわりの発達について(0～2歳児の人とのかかわり)[目標2] 4.集団保育の中で人とのかかわりの発達①他の子どもとの出会いについて[目標2] 5.集団保育の中で人とのかかわりの発達②仲間意識の強まりについて[目標2] 6.集団保育の中で人とのかかわりの発達③いざこざの経験について[目標2] 7.集団保育の中で人とのかかわりの発達④共通の目的に向かって共同する姿について[目標2] 8.遊びのなかで育つ人とのかかわり①触れ合うことの喜びと楽しさ・つながりを求める姿について[目標2] 9.遊びのなかで育つ人とのかかわり②イメージを共有して遊ぼうとする姿について[目標2] 10.遊びのなかで育つ人とのかかわり③いざこざ・葛藤・仲直りを通してかかわりが深まる姿について[目標2] 11.遊びのなかで育つ人とのかかわり④育ち合う姿・相手の気持ちを考える姿について[目標2] 12.園生活のきまりとその意味について[目標2] 13.人とのかかわりが難しい子どもへの支援について[目標2] 14.人とのかかわりを育てる保育の実践・保育者の役割について[目標1, 2] 15.人とのかかわりを育てる保育者としての資質・学生生活で身に付けたい力について[目標1, 2] 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育
成績評価基準	評価の方法:試験(小テストを含む)40%　授業内レポート40%　課題20% 評価の基準:課題、レポートで関心・意欲の測定。小テストで知識・理解の定着度を測定。
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的な方法を示すことで理解を深められるようにする。
時間外の学習について	予習:テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと。(各回45分程度) 復習:配布資料整理・授業の振り返り　適宜レポートを課題とする。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:・新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係(無藤隆監修、萌文書林出版) 参考書:平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ 参考資料等:
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	保育内容の理解と方法・環境	教員名	冨田まり子	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2055-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	領域「環境」のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探求心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門的知識や技術を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)
授業概要	領域「環境」の指導において、ねらい及び内容については、背景となる専門領域と関連させながら、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明し、理解を深める。乳幼児と環境との関わりや発達における重要性については、実際に学生が身近な自然や生物に触れたり、調べたり、観察したりする中で、学生自身の気付きや感動を伝え合いながら学ぶ。また、数量・図形、標識・文字等を遊びに取り入れたり、身近な施設や情報について調べたりする等、体験を通して理解を深めることを重視する。その中で保育者としての感性を養い、領域「環境」における主体的・対話的な学びについて理解し、保育者のかかわり方や役割について専門的知識が身に付くようにする。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解する。(身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する)	◎			
2.身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解する。(乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する/乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する/乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する)	◎			
3.身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解する。(身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する/乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する)	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1.保育の基本と保育内容のとらえ方・領域「環境」に示されている保育内容[目標1] 2.幼児の主体的な生活と領域「環境」～幼児を取り巻く環境の現代的課題[目標1] 3.乳幼児の発達について～生活の中でとらえる[目標1] 4.乳幼児の発達と物へのかかわりについて[目標2, 3] 5.乳幼児の発達と自然、生物へのかかわりについて[目標2] 6.乳幼児の発達と人、社会へのかかわりについて[目標2, 3] 7.乳幼児の発達と1日の生活へのかかわりについて[目標2, 3] 8.乳幼児の発達と時間、季節の理解について[目標2, 3] 9.乳幼児の発達と文字、数への親しみについて[目標2] 10.領域「環境」と幼児理解について①好奇心を育てる[目標2, 3] 11.領域「環境」と幼児理解について②探求心を育てる[目標2, 3] 12.領域「環境」と幼児理解について③数量や図形を遊びに取り入れる[目標2] 13.領域「環境」と幼児理解について④文字や標識を遊びに取り入れる[目標3] 14.保育の実際～主体的・対話的な学びについて～[目標2, 3] 15.指導上の配慮事項・保育者の役割について[目標2, 3]
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育
成績評価基準	評価の方法:小テスト・レポート(40%)復習・調べるなどの自主的な学習記録ノート(20%)課題(40%) 評価の基準:提出物、レポートで関心・意欲の測定。小テストで知識・理解の定着度を測定。
フィードバックの方法	小テストや課題回収後に解説を行う。 課題・レポートにコメントを入れ、良い点・改善点などを示す。
時間外の学習について	予習:授業内容に合わせて事前に調べ、理解を深めておく。(各回45分) 復習:授業内容をまとめ、考察を深める。(各回45分)
教材にかかわる情報	テキスト:体験する・調べる・考える 領域「環境」<第2版>(田宮緑著、萌文書林出版) 参考書:平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> 植物図鑑 動物図鑑 参考資料等:
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の理解と方法・言葉Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">上田 保明
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2056-110000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2" rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">乳幼児の言葉の発達特性を理解し、言葉の意義や機能等の専門的知識を修得する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉」のねらい及び内容を究明し、さらに乳幼児が体験を通して身に付けていく内容と指導上の留意点、小学校教育とのつながりなどについて理論を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.領域「言葉」と小学校教育とのつながりを理解する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>3.乳幼児の言語の発達過程や特性について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.絵本の読み聞かせの基礎理論を実践を通して修得する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>5.言葉に関する現代的課題や保育実践の動向を学び、保育構想の向上に取り組む。</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①対面授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1, 乳幼児期の「言葉」の獲得に関する過程の概要について(目標 1,2,3)
2, 社会における「言葉」の意義と役割を、乳幼児の「言葉」の獲得と関連づけてとらえる。(目標 1,2)
3, 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉」の比較検討(目標 1)
4, 幼稚園要領における幼児教育の基本、育てたい資質能力について(目標 1,3)
5, 幼稚園教育要領「言葉」の歴史的変遷について(目標 1)
6, 領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いについて(目標 1,2)
7, 領域「言葉」と小学校教育とのつながりについて(目標 2)
8, 乳幼児期の言語の発達過程や特性について① 乳児期の言語発達(目標 3)
9, 乳幼児期の言語の発達過程や特性について② 幼児期の言語発達(目標 3)
10, さまざまな言葉遊びを体験し、言葉遊びの意義や支援のあり方について(目標 4,5)
11, 「言葉」と保育構想の基本的な考え方について(目標 3,5)
12, 言葉遊びの意義や支援のあり方について(目標 3,4)
13, 絵本の読み聞かせの基礎理論(目標 4)
14, 「言葉」を育てる教材の種類や保育への取り入れ方について(目標 5)
15, 現代の子どもを取り巻く環境と領域「言葉」(目標 5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:レポート(50%)、グループワーク(30%)、授業態度(20%)
評価の基準:「言葉」の意義や役割が理解できているか。積極的に参加し、友と声を掛け合い協力できたか。
進んで発言する姿勢や発言内容からとらえる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">ノート、レポートについて改善点を指摘する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:次時の予告をするので、事前に調べておく。(各回45分)
復習:講義内容をノートにまとめ、疑問点を調べてノートに記録する。(各回45分)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">参考書:「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」
参考資料等:必要に応じて適宜指示・配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">絵本や小説を読み合って、自らの感性を高め、言葉を豊かにしよう。</td></tr>
</table>

授業科目名	保育内容の理解と方法・言葉Ⅱ	教員名	上田 保明 (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2057-220000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	選択必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	1.乳幼児の言葉の発達特性を理解する。 2.乳幼児にとっての児童文化財(絵本、お話、紙芝居等)について、基礎的知識を理解し、実践できるようにする。 3.保育者としての言語表現技術を実践をとおして修得する。
授業概要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい及び内容を確認し、乳幼児期の言語的発達を踏まえ、「言葉」の発達をより豊かにするために、保育者にとって必要な言語表現技術の基礎的知識を演習をとおして実践的に身に付ける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 幼児教育の基本を確認し、保育者としての心構えや意識を醸成する。	◎		◎	
2. 言葉の課題を明らかにし、その重要性を理解する。	◎	○		○
3. 日本語豊かさ、楽しさを体験を通して修得する。	◎	◎		◎
4. 語り方、読み方、聞かせ方を修得する。	◎	○		
5. 友と協力することによって大きな成果を生む出すことができることを体感する。			◎	◎

履修条件・注意事項	授業に実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 幼稚園要領における幼児教育の基本、育てたい資質能力の確認(目標 1,3,4) 2. 1 分間スピーチを行って、話し言葉の課題を明らかにする。(目標 2,3) 3. 言葉遊びの種類や意義について理解し、言葉をもとにした想像を楽しむ。(目標 3.4) 4. 語り1 口承文学である昔話の意義を知り、語りを楽しむ。(間、抑揚、表情など)(目標 2,3,4) 5. 語り2 昔話の語りの技法を実践的に学ぶ。(目標 2,3,4) 6. 語り 3 お気に入りの昔話を語り合って紹介し、技法を身に付ける。(目標 2,3,4) 7. 定型詩の朗読をとおして、日本語のリズムについて理解する。(目標 3,4) 8. 朗読の技法を詩の朗読をとおして体得する。(目標 3,4) 9. 絵本の読み聞かせの意義と保育における絵本の読み聞かせの実態を把握する。(目標 1,2) 10. 絵本の読み聞かせ1 読み聞かせ時の絵本の持ち方、読み方等の技法を習得する。(目標 4,5) 11. 絵本の読み聞かせ2 お気に入りの絵本を読み聞かせて紹介する。(目標 3,4,5) 12. 人形劇、エプロンシアター、ペープサートなどの技法を体得する。(目標 3,4,5) 13. 紙芝居の教育意義と効果を理解する。(目標 1,2) 14. 紙芝居の技法を学び、紙芝居を創作して実践し合う。(目標 3,4) 15. 得意とする活動を紹介し合い、学びの成果を確認する。(発表会)(目標 1,2,3,4,5)
アクティブ・ラーニング	グループワーク 昔話の語り・定型詩の朗読・絵本の読み聞かせ・人形劇・紙芝居等の実演
成績評価基準	評価の方法:・レポート提出50% ・小テスト30% ・授業態度20% 評価の基準:“語り”の特色や楽しさを体得できたか記述内容からみる。知識や技法の理解度の程度をみる。 友と積極的に関わり、自分の思いを進んで発表できたか。
フィードバックの方法	発表についてふり返り、講評する。
時間外の学習について	予習:次回の課題の準備(実演の練習)をする。(各回45分程度) 復習:授業内で出てきた課題について自分なりに考え問いを求める。また、グループで解決策を練る。(各回 45 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」 参考資料等は必要に応じて適宜指示・配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育者としての表現力を実践をとおして楽しく身に付けよう。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の理解と方法・音楽表現</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">坂本 久美子
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2058-210000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">1年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">子どもの発達、身体の諸感覚、音楽あそび、幼児歌曲、あそびうた</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">乳幼児の音楽的表現が生まれる過程と、それらを見逃さず受け止め共感することの重要性を理解する。基礎的音楽技能である聴く・歌う・動く・演奏するなどの活動に取り組み、身体の諸感覚を通した音楽あそびの楽しさを感じると共に、音楽力の向上に努める。わらべうたなど、自然・文化・生活における様々な伝承遊びに取り組み、その面白さや文化財としての重要性を理解する。協同して表現することを通し、学生同士が表現の多様性を共有し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.領域「表現」の内容やねらいを踏まえ、乳幼児の素朴な表現を受け止める視点を持つことができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.音楽表現の基礎的な知識や技能を身に付ける。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.音楽遊びの楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.幼児の音楽表現を促す環境構成や、保育者の役割について理解できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>5.協同して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感することができる。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.:ガイダンス 領域「表現」のねらいと内容（目標1）
2.:乳幼児の発達と表現への道筋（ICTを活用して）（目標1）
3.:表現を育む環境構成（目標1.4）
4.:表現遊び①（声による感情表現）（目標2.3.5）
5.:表現遊び②（リズムと身体表現）（目標2.3.5）
6.:表現遊び③（音探しと手作り楽器）（目標2.3.5）
7.:自然・生活における伝承わらべうた遊び（目標2.3.4.5）
8.:季節や年中行事における伝承わらべうた遊び（目標2.3.4.5）
9.:音楽遊びと表現する子どもの姿（ICTを活用して）（目標1.3.4）
10.:音楽表現の題材と展開方法①（身体表現）（目標2.3.4.5）
11.:音楽表現の題材と展開方法②（楽器演奏）（目標2.3.4.5）
12.:音楽表現の題材と展開方法③（言葉遊び）（目標2.3.4.5）
13.:音楽表現の題材と展開方法④（絵本と音楽）（目標2.3.4.5）
14.:音楽表現のグループ発表と意見交換（目標12.3.4.5）
15.:全体の振り返りと省察（目標1.2.3.4.5）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:レポート（40%） 授業の取り組み（30%） 実技（30%）
評価の基準:子どもの表現を支える保育者の役割を理解できたか。積極的に授業に取り組み、音楽表現の基礎的技能の習得に努めたか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実技の評価後にコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業計画に沿って、次回の教材の譜読みをしておく。（各45分程度）
復習:授業内容を復習し、自己課題の克服に努める。（各45分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 河北邦子・坂本久美子編著『幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123』（ミネルヴァ書房）
参考書: 高野牧子編著『うきうきわくわく 身体表現あそび』（同文書院）
参考資料等: 本廣明美・加藤照恵共編『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』（ドレミ楽譜出版）
平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社）</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">講義だけでなく演習を通して学びますので、動きやすい服装で参加してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の理解と方法・造形表現</td><td>教員名</td><td>武田 雅行
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2059-210000</td><td rowspan="5"></td><td rowspan="5"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>年次配当</td><td>1年後期</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼児の造形遊び　平面の基本的な基礎技法の習得</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">領域「表現」の位置付けやねらい及び内容を理解し、乳幼児期の感性や創造性の働きに着目しながら子どもの発達について考える。造形表現の基本的な材料・用具等の特性や正しい使い方と、造形遊びへの展開を具体的・実践的に学び、保育者としての必要な知識・技能や表現力を身につける。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.幼児の生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を身につける。</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.造形素材の特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を理解し活用することができる。</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現することができる。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4..学んだことを記録して、知識や技術の定着を図り、分かり易くまとめることができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 導入　授業の概要と準備物の説明　幼児の絵の見方　（目標1）
2. 平面の基礎技法を用いた造形遊び①　にじみ・ドリッピング　（目標1.2.3）
3. 平面の基礎技法を用いた造形遊び②　スパッタリング・スタンピング　（目標1.2.3）
4. 平面の基礎技法を用いた造形遊び③　マーブリング・ステンシル　（目標1.2.3）
5. 平面の基礎技法を用いた造形遊び④　デカルコマニー・フロッタージュ　（目標1.2.3）
6. 紙を使った造形活動　折り紙の基本・新聞紙の遊び　（目標1.2）
7. 新聞紙を使った造形遊び①　かぶと・ツリー・紙でっぽう　（目標1.2）
8. 新聞紙を使った造形遊び②　ゲーム・変身遊び　（目標1.2.3）
9. ペープサートによる表現　キャラクター制作　（目標1.2.3）
10. コーンカップ人形制作　ピエロ　（目標1.2.3）
11. 張り子人形①　キャラクター創作・頭部張り子制作　（目標1.2.3）
12. 張り子人形②　芯棒固定・モデリング　（目標1.2.3）
13. 張り子人形③　顔作り・ボディー組み立て　（目標1.2.3）
14. 張り子人形④　頭部・手足・服　完成　（目標1.2.3）
15. まとめ　ファイリング・自己評価　（目標4）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">プレゼンテーションン、グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:提出作品（80%）　授業中の態度、取り組みの姿勢（20%）
評価の基準:○用具、技法を正しく理解し、意欲をもって制作できる。
○授業での経験や学びを、記録として残し確実に自身の知識や技能として定着が図られている。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:前回に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。（各45分程度）
復習:時間内に終わらなかった課題は、次回に持ち越すことなく各自で完了しておくこと。（各45分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:コンパクト版　保育内容シリーズ⑥　造形表現
参考資料等:　随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">A3袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子どもと芸術表現Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">武田　雅行
坂本 久美子</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2060-010000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">人形劇、造形表現、音楽表現、言語表現</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">対象年齢の子どもたちの発達段階や興味関心などを想定し、テーマや物語の設定を考える。
造形的表現を工夫して舞台装置や棒人形を制作し、人形劇としてふさわしい音楽や効果音・歌について考える。後期の本格的な舞台練習に必要な準備を整える。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.造形表現や音楽表現を、子どもの発達と関連付けながら考えることができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.子どもが楽しむ表現活動の、企画や制作ができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.教育者・保育者としての多面的な表現力を高める。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>4.教育・保育現場における表現活動の意義を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">後期の「子どもと芸術表現Ⅱ」を併せて履修すること。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. オリエンテーション(目標 1,4)
2. 様々な人形劇の人形の特徴と演じ方(目標 1,4)
3. 演目の検討(目標 1,2)
4. 脚本の作成(目標 1,2,3)
5. 脚本の検討・推敲(1)内容や登場者(目標 1,2,3)
6. 脚本の検討・推敲(2)物語の構成(目標 1,2,3)
7. 脚本の検討・推敲(3)台詞(目標 1,2,3)
8. 脚本の検討・推敲(3)効果音や音楽(目標 1,2,3)
9. 人形制作(1)頭部(目標 1,2,3)
10. 人形制作(2)本体(目標 1,2,3)
11. 人形制作(3)手足(目標 1,2,3)
12. 人形制作(4)衣装(目標 1,2,3)
13. 小道具制作(目標 1,2,3)
14. 舞台制作(目標 1,2,3)
15. 棒人形の扱い方(目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 制作作品(30%) レポート(20%) 授業への取り組み(50%)
評価の基準:子どもが楽しめる内容に基づいた脚本を作成し、物語に相応しい造形表現で、人形や小道具などを丁寧に制作している。主体的な活動であったかを自己分析し、今後の課題を明らかにする。グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">脚本や製作物について、改善点をコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:前回までの活動の概要を踏まえて授業に臨むこと。(各回90分程度)
復習:時間内に終わらなかった課題は次回までに完了しておくこと。(各回90分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参考資料等:適宜プリント配布</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子どもと芸術表現Ⅱ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">武田　雅行
坂本 久美子</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2061-010000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">領域に関する専門的事項</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育・保育における劇表現、表現力(造形的・音楽的・劇的)</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">人形の動かし方や台詞の言い回しなどを工夫し、劇的効果を高める音楽や歌などを加え、演目の魅力を十分に伝えられるよう、表現豊かに演じる。教育・保育現場での発表を振り返り、その記録から五領域の横断的表現活動である人形劇の発表意義について考察し、今後の課題を考える。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.子どもの発達と関連付けた造形表現や音楽表現を、実践することができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.人形劇に必要な、豊かな表現力を身につける。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.教育・保育現場における表現活動の意義を理解し、実践に活かすことができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>4.グループ活動を通して、教育者・保育者として必要な協調性や責任感を身につける。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">前期の「子どもと芸術表現Ⅰ」を履修したものに限る。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 人形の動きと音楽　(目標 1,2,3)
2. 人形の動きと効果音　(目標 1,2,3)
3. グループ練習(1)　(目標 2,4)
4. グループ練習(2)　(目標 2,4)
5. 授業内発表会　(目標 1,2,3,4)
6. 改善点の検討　(目標 2,3,4)
7. 改善点の修正(1)　(目標 2,3,4)
8. 改善点の修正(2)　(目標 2,3,4)
9. 学内での発表　(目標 1,2,3,4)
10. 改善点の修正(3)　(目標 2,3,4)
11. 改善点の修正(4)　(目標 2,3,4)
12. 保育現場での発表　(目標 1,2,3,4)
13. 教育現場での発表　(目標 1,2,3,4)
14. 発表の振り返りと考察　(目標 1,2,3,4)
15. 制作と発表を通してのまとめ　(目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 作品発表(60%)　レポート(20%)　授業中の取り組み(20%)
評価の基準: 表現力の向上に努め、子どもにとっての文化財の意義を踏まえた人形劇の発表をする。
活動を振り返り、事例に基づいた考察と自己課題を簡潔に述べる。グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">教育・保育現場での発表について、振り返りの後に講評する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:脚本を熟読し、前回までの活動の概要を踏まえて授業に臨むこと。(各回90分程度)
復習:時間内に終わらなかった課題は、次回までに完了しておく。(各回90分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参考資料等:適宜プリント配布</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">主体的なグループ活動により成立する授業であり、各自が役割に責任を持ち、活動してほしい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の指導法・健康</td><td>教員名</td><td>増原 恵子
(単独)
(実務経験)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2062-110000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域の「健康」についての基礎的知識をもとに、具体的保育の実践・保育者の援助について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」のねらい・内容について他領域と関連させながら理解を深める
・ 乳幼児の心と体の発達を理解し、健康で安全な生活をつくり出す力を養う具体的な保育を構想し実践する方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr><tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「健康」について、ねらい及び内容(並びに全体構造)を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成・模擬保育・振り返り・保育の改善等を通して保育を構想する力を身に付ける</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td></tr><tr><td>3.幼児の健康についての現代的な課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 領域「健康」のめざすもの　(目標 1)
2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について (目標 1)
3. 乳幼児の身体・運動機能の発達について (目標 1)
4. 子どもの健康と遊び (1)　遊具を使って　(目標 1・2)
5. 子どもの健康と遊び (2)　ルールのある遊び　(目標 1・2)
6. 子どもの健康と遊び (3)　鬼遊び　(目標 1・2)
7. 子どもの健康と遊び (4)　興味を引き出す環境の構成 (目標 1・2・3)
8 園生活と生活習慣 (1)　基本的な生活習慣　(目標 1・2・3)
9. 園生活と生活習慣 (2)　食への関心 (情報機器及び教材の活用　(目標 1・2・3)
10. 園生活と生活習慣 (3)　生活習慣と家庭との連携(情報機器及び教材の活用)　(目標 1・2・3)
11. 子どもの健康と安全教育　健康・安全への関心　(目標 1・2)
12. 健康で安全な生活をつくり出す保育の実践 (1)　日常的な安全指導　(目標 1・2・3)
13. 健康で安全な生活をつくり出す保育の実践 (2)　計画的な安全指導　(目標 1・2・3)
14. 健康で安全な生活を保障する環境について (目標 2・3)
15. 今日的課題と保育者の役割について　(目標 2・3)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・模擬保育</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験(50%) 宿題・授業外レポート(30%) 授業態度・授業への参加度(20%)
評価の基準:定期試験・・・領域「健康」に関する基礎的事項・保育との関連性について深く理解できているか
レポート・・・・幼児理解・保育者の視点に基づいた思考・表現になっているか
授業態度・・・グループワーク・模擬保育等において主体的に行動し他者と協同できているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">個別にコメントを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について示し理解を深められるようにする</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:演習課題を検討し、関連情報や教材を準備する (各回45分程度)
復習:授業の振り返り ・ 適宜レポートを課題とする (各回45分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 事例で学ぶ保育内容 領域 健康　倉持清美 編集代表　萌文書林
参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針
参考資料等:適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等 実務経験について</td><td colspan="6">日頃から子どもの健康や安全な生活について関心を向け、新聞・ニュース等様々な媒体からの情報に対して敏感であってほしいと思います。保育者として「命」を預かる立場であることを常に意識して授業に臨みましょう。
幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに健康で安全な生活を支える保育者の役割について話をします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の指導法・人間関係</td><td>教員名</td><td>中原 久子
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2063-110000</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">2年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼稚園教育要領・保育所保育指針に示す領域「人間関係」の基本的な知識、人とのかかわりの具体的保育の実践、保育者の役割について理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">この講義で、領域「人間関係」の「他の人々と親しみ支えあって生活するために自立心を育て人と関わる力を養う」ことを目指し、幼稚園教育で育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させながら理解を深め、幼児の発達に即した主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえた、保育を構想し実践する方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr><tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr><tr><td>1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案作成・模擬保育・振り返り・保育の改善(PDCA)などを通して保育を構想する力を身につける。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.幼児期の集団生活を通して、様々な人と関わる経験で培われる人間性と小学校教育との円滑な接続の重要性について学ぶ。</td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr><tr><td>4.具体的な事例をロールプレイにより体験することで、様々な人の気持ちを理解し内面の育ちを重視し、領域「人間関係」の視点をより深める。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 幼稚園教育において育みたい資質・能力の 3 つの柱について(目標 1)
2. 幼児期の終わりまでに育ててほしい 10 の姿と領域「人間関係」の関連について(目標 1,2)
3. 幼稚園教育における評価の考え方について(目標 1,2)
4. 領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取り扱いとその構造について(目標 1,2,3)
5. 領域「人間関係」のねらいと内容(1)－幼稚園生活を楽しみ主体的に行動することで育つ自立心について(目標 1,2,3)
6. 教師との信頼関係に支えられて自己発揮する姿を想定した保育指導案の作成について(目標 1,2)
7. 領域「人間関係」のねらいと内容(2)－一人一人を生かした集団形成と人と関わる力の育成について(目標 1,2,3,4)
8. 領域「人間関係」のねらいと内容(3)－協同性の育ちと人間関係について(目標 1,2,3,4)
9. 共通の目的が実現する喜びを味わう保育を計画し、模擬保育とその振り返り・改善について(目標 1,2,3,4)
10. 領域「人間関係」のねらいと内容(4)－道徳性と規範意識の芽生えについて(目標 1,2,3,4)
11. 領域「人間関係」のねらいと内容(5)－地域・社会・家庭の中で育つ人間関係について(目標 1,2,3,4)
12. ロールプレイで考える「人との関わりが難しい子どもへの支援」と「トラブル」について(目標 1,2,3,4)
13. 領域「人間関係」の特性と幼児の体験との関連を踏まえた教材及び情報機器などの活用について(目標 1,2,3)
14. 領域「人間関係」においての小学校「道徳」教育との接続について(目標 1,2,3)
15. 領域「人間関係」をめぐる現代的課題と保育構想の向上について(目標 1,2,3)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">テーマを決めてのディスカッションやグループワーク、ロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法・基準:・ 指導案作成・模擬保育(30%)…ねらい・内容を理解し意欲的に取り組めたか
・ 試験(70%)…幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本と、領域「人間関係」のねらい・内容を深く理解しているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">コメントをそえて返却する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストや参考文献を読み、次回の授業に備える(各回 45 分程度)
復習:授業での学びを簡単にまとめる(各回 45 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:岩立京子・西坂小百合 (編著)『保育内容 人間関係』株式会社光生館
参 考 書: 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">人が人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどう育っていくかを具体的に学ぶ中で、保育者・教育者としてどのように子どもや保護者とのコミュニケーションをとっていくか、演習を交えながら進めて行きます。
幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育内容の指導法・人間関係について話をします。</td></tr>
</table>

授業科目名	保育内容の指導法・環境	教員名	渡邉 二美子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2064-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼児期は「環境による教育」といわれ、その意義を理解し、領域「環境」の保育の基本的知識として「ねらい・内容・内容の取り扱い」、「保育者の適切な援助」について理解する。
授業概要	領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指し、幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達に即して、主体的で対話的深い学びのための体験と実感を大切にし、領域「環境」の具体的な保育を構想する力を学ぶ。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ領域「環境」のねらいと内容を理解する。	◎			
2.領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成や模擬保育とその振り返り又、その保育の改善等を通して保育を構想する方法を身につける。		◎		
3.幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のために、領域「環境」において遊びを通した指導の中で、知識、技能、思考力、判断力などの資質や能力が、小学校において生活し学習していくための基盤をつくっていることを理解する。		◎	○	
4.子どものおかれた様々な地域の環境の特殊性、文化、伝統などを踏まえ、地域の行事、自然の特徴、公共施設などを深く学び、保育に取り入れて子どもたちの地域愛につながっていることを理解する。			◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 幼稚園教育の基本－資質・能力の3の柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について(目標 1,2) 2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と領域「環境」の関連について(目標 1) 3. 幼稚園教育における評価の考え方について(目標 1) 4. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造について(目標 1,2) 5. 領域「環境」のねらいと内容(1)－身近な環境に親しみ自然との関わりについて(目標 1,2) 6. 子どもの身近な環境や自然を想定した保育の指導案を作成することについて(目標 1,2) 7. 領域「環境」のねらいと内容(2)－身近な環境の中から子どもの「見つけた」の扱い方とそれを生活に取り入れようとすることについて(目標 1,2) 8. 領域「環境」のねらいと内容(3)－身近な事象と思考力の芽生えについて(目標 1,2) 9. 領域「環境」のねらいと内容(4)－数量・図形・文字への関心と感覚について(目標 1,2) 10. 数量・図形の保育を計画し、模擬保育とその振り返り、保育を改善することについて(目標 1,2) 11. 領域「環境」のねらいと内容(5)－社会生活との関わりについて(目標 1,2) 12. 様々な地域の環境や行事、公共の場所などとの関わりを深めることについて(目標 1) 13. 領域「環境」の特性を踏まえ、どのような教材・情報機器などをどのように活用するかについて(目標 1,2) 14. 領域「環境」での小学校教育への接続について(目標 1) 15. 現代的課題や保育実践の動向について(目標 2) 定期試験
アクティブ・ラーニング	授業の中でプレゼンテーションやグループワーク、ディスカッション等を取り入れ模擬保育を行う
成績評価基準	・演習として指導案・模擬保育(30%)意欲をもって取り組めているか ・試験(70%)…幼稚園教育に関する基礎的事項を理解し、領域「環境」を深くとらえることができているか
フィードバックの方法	授業の理解度や定着度がわかる質問について単元ごとに説明させ、理解度が低いところ、定着していない内容については再度解説する
時間外の学習について	予習:テキストや参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく 復習:授業内容を日々まとめてノートを作成する (予習・復習とも45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:柴崎正行・若月芳浩(編) 『最新保育講座9 保育内容「環境」』 ミネルヴァ書房 参考書: 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもに様々な環境を用意できるのは保育者です。子どもにとって豊かな環境とはどんな環境かを一緒に考えましょう。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の指導法・言葉</td><td>教員名</td><td>増原 恵子
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2065-110000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域の「言葉」についての基礎的知識をもとに、具体的保育の実践・保育者の援助について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい・内容について理解を深め、幼児の発達に即した具体的な保育を構想していく力を養う。保育現場での様々な事例を通して考察することで、より具体的に他領域との関連・小学校教育とのつながりについて理解を深める。指導案作成・教材研究・実践・振り返り等を通して、幼児の主体的・対話的な学びにつながる保育について考え、実践力につなげていく。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容について理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2 幼児期の言葉に関する経験や内容の関連性・小学校の教科とのつながりを理解する</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>3 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成・模擬保育・振り返り・保育の改善等を通して保育を構想する方法を身に付ける</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4 言葉に関する現代的な課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む</td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 言葉のもつ意味について　(目標 1)
2. 乳幼児の言葉の育つ道筋　(目標 1)
3. 領域「言葉」と保育方法　ねらい・内容・指導上の留意点について　(目標 1)
4. 言葉の育ちを支える保育の実際(1)　人とのかかわりと言葉　(目標 1・2)
5. 言葉の育ちを支える保育の実際(2)　思いを伝えあう　(目標 1・2)
6. 言葉の育ちを支える保育の実際(3)　話すことと聞くこと　(目標 1・2)
7. 言葉の育ちを支える保育の実際(4)　文字に親しみをもつ　(目標 1・2)
8. 教材研究と実践　「言葉や文字に親しむ保育」　指導案作成　(目標 1・3)
9. 教材研究と実践　「言葉や文字に親しむ保育」　教材作成　(目標 2・3)
10.教材研究と実践　「言葉や文字に親しむ保育」　模擬保育と振り返り (1) (目標 1・2・3)
11.教材研究と実践　「言葉や文字に親しむ保育」　模擬保育と振り返り (2) (目標 1・2・3)
12.教材研究と実践　保育文化財と言葉(1)　言葉を豊かにする遊び(情報機器及び教材の活用)　目標(2・3・4)
13.教材研究と実践　保育文化財と言葉(2)　言葉を豊かにする遊び(情報機器及び教材の活用)　目標(2・3・4)
14. 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもについて　(目標 2・4)
15. 言葉をめぐる相談への対応について　(目標 2・4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション・グループワーク・模擬保育</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:宿題・授業外レポート(60%)授業態度・授業への参加度(20%)教材研究・発表(20%)
評価の基準:レポート・・幼児理解に基づいた論理的思考・表現になっているか
授業態度・・グループワーク・模擬保育等に積極的に参加し、他者と協力して進めることができたか
教材研究・発表・・言葉への関心をもって自ら教材研究をし、実践力を身に付けたか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:演習課題を検討し、関連情報や教材を準備する　(各回45分程度)
復習:授業の振り返り・適宜レポートを課題とする　(各回45分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針
参考資料等:適宜資料を配布する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">絵本や紙芝居の読み聞かせを随時実践してもらいます。多くの絵本に親しみ自らの感性や言葉を豊かにしていく時間をもちましょう。
幼稚園教諭としての実務経験をもとに幼児が、人とかかわりながら言語表現を豊かにしていく姿、そしてその育ちを支える保育者の役割について話をします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容の指導法・音楽表現</td><td>教員名</td><td>坂本 久美子
（単独）</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2066-210000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">音楽表現、子どもの発達、保育指導案、模擬保育</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">「幼稚園教育要領」等に示される、領域「表現」のねらいと内容および全体構造を理解すると共に、乳幼児期の発達及び表現の特徴を知る。世界の音楽メソッドや保育音楽教材の実践を通して、自身の音楽的感性を高めると共に、子どもの発達と身に付けていく音楽的内容の関連を考える。具体的な保育指導案を構想する力を身に着け、模擬保育実践とその振り返りを通して具体的な指導や援助の在り方を考え、保育を改善する力を養う。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:（2）</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育における、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.子どもが経験し身に付けていく音楽的内容と、指導上の留意点を理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な音楽活動を想定した保育指導案を作成できる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.指導案に基づいた模擬保育を実践し、評価を基に活動を振り返り、保育を改善する視点を身に付ける。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>5.情報機器や音楽教材の活用法を理解し、小学校音楽科へのつながりをもった保育の構想に活用することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法：①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1：領域「表現」のねらい及び内容について （目標 1）
2：子どもの発達と音楽表現 （（目標 2）
3：音楽メソッドの理論と演習①ダルクローズ （目標 2）
4：音楽メソッドの理論と演習②コダーイ（目標 2）
5：音楽メソッドの理論と演習③オルフ（目標 2）
6：歌う活動の展開方法と援助の留意点（目標 2.3）
7：動く活動の展開方法と援助の留意点（情報機器や教材の活用） （目標 2.3.5）
8：楽器を用いた活動の展開方法と援助の留意点（目標 2.3）
9：保育指導案の作成と小学校音楽科とのつながり（目標 3.5）
10：グループディスカッションによる指導案の改善（目標 2.3.4）
11：模擬保育実践とディスカッション①対象児とねらい（目標 2.3.4.5）
12：模擬保育実践とディスカッション②教材と活動内容（目標 2.3.4.5）
13：模擬保育実践とディスカッション③活動の展開方法（目標 2.3.4.5）
14：模擬保育と実践ディスカッション④保育者の援助（目標 2.3.4.5）
15：模擬保育のまとめ（目標 1.4）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">模擬授業・グループワーク・ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法：保育指導案（30%）、模擬保育実践（40%）、授業の取り組み（30%）
評価の基準：ねらいや題材、活動内容、援助方法等を子どもの発達と関連付け、保育指導案を作成できたか。こどもが主体的に活動できる模擬保育実践であったか。音楽活動に興味を持ち、積極的に授業に参加したか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">模擬保育実践後、改善点をコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習：次回の授業のテーマについて、テキスト等で予め学習しておく。（各 45 分程度）
復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。 （各 45 分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト： 駒 久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』（建帛社）
参考書： 今川恭子監修『音楽を学ぶということ』（教育芸術社）
開 仁志編著『これで安心 保育指導案の書き方』（北大路書房）
平成 29 年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">講義だけでなく、音楽活動や模擬保育等、実践を通して学びますので、動きやすい服装で参加してください。</td></tr>
</table>

授業科目名	保育内容の指導法・造形表現	教員名	小野 素子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2067-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	模擬保育実践を通して幼児への関わり方を学び、保育者としての実践的な能力の育成の向上を図る。
授業概要	幼児の造形表現に関する指導案の作成、模擬保育実践、事後評価をセットで行い、保育実践の基礎的事項について学ぶ。

達成目標

	科目DP:(2)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.幼稚園教育要領の基本を理解する。	◎			○
2.幼児の発達段階に応じた造形表現に関わる保育指導について修得する。	○		◎	
3.幼児造形で用いる主な材料・用具の特性と基本的な扱い方を修得する。	○	◎		
4.保育指導案の書き方を理解し、造形表現の保育のポイントについて修得する。		○	◎	
5.模擬保育の実践を通して環境構成のあり方や幼児への関わり方、及び評価について修得する。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 授業説明、授業の目標、題材研究、指導案作成、模擬保育、評価のあり方、内容の関連や小学校教科との関連について (目標 1,2) 2. ①幼児の造形遊び「新聞紙で遊ぼう」― 題材研究について (目標 2,3) 3. 保育指導案の作成について (目標 4) 4. 模擬保育の実践について(情報機器及び教材の活用) (目標 3,5) 5. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて (目標 2,4,5) 6. ②幼児の造形遊び「コロッコで遊ぼう」― 題材研究について (目標 2,3) 7. 保育指導案の作成について (目標 4) 8. 模擬保育の実践について(情報機器及び教材の活用) (目標 3,5) 9. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて (目標 2,3,4,5) 10. ③幼児の造形遊び「木片で遊ぼう」― 題材研究について (目標 2,3) 11. 保育指導案の作成について (目標 4) 12. 模擬保育の実践について(情報機器及び教材の活用) (目標 3,5) 13. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて (目標 2,4,5) 14. 造形表現の指導法(造形表現Ⅰ)のまとめ ① 環境構成,指導案作成について(目標 1,2,3,4,5) 15. 造形表現の指導法(造形表現Ⅰ)のまとめ ② 保育の展開と幼児への援助について(目標 1,2,3,4,5)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法:保育指導案作成と模擬保育の活動内容(70%) 授業態度(30%) 評価の基準:造形表現を通して保育実践の基礎的な事柄を理解することができる。
フィードバックの方法	授業後の感想、気付きを記述し理解を深める。
時間外の学習について	予習:テーマにそった実践したい題材研究 (各 45 分程度) 復習:模擬保育実習後の反省 (各 45 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:自作資料 参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、「新造形表現 (理論・実践編)」、「新造形表現(実技編)」 花篤 實・岡田慥吾編著、「保育の中の造形活動」林 建造・岡田慥吾編著、「乳幼児の絵画指導」松岡義和著書
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育内容の指導法(造形表現)を学ぶことで保育実践の基礎を身に付けよう。 幼稚園指導講師としての実務経験をもとに造形表現を通した指導法について話をします。

授業科目名	保育内容指導法	教員名	澄田 悦子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2068-020000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業テーマ	子どもの発達やさまざまな状況に応じた望ましい援助のありかたを理解する
授業概要	幼児期の保育(教育)は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、環境を通して行うものである。乳幼児の発達や特性、状況に応じた保育者の適切な指導(援助)を通してより充実していくものである。充実した保育を行うために大切な子ども理解・子どもが喜ぶ遊びや、遊びを豊かにする素材、教材、環境構成等、これまでの保育・教育実習やさまざまな事例、保育指導案作成、模擬保育等を通して子どもの成長発達に大切な保育内容、保育指導(援助)方法、保育の環境等について学びを深める。

達成目標

	科目 DP: (1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された保育(教育)の基本を理解し小学校に就学するまでに育みたい資質、能力について理解する。	◎			
2.幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されたねらい及び内容指導について理解を深める。	◎			
3.乳幼児の発達や学びの過程を具体的なエピソードを通して理解し子ども理解、保育方法、保育形態について理解する。		◎		
4.保育指導案を作成、模擬保育等を通して具体的な指導場面を構想することが出来る。		◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 保育内容と指導→園の一日の流れと保育者の指導(援助)について考える。 (目標 1,2,3) 2. 保育内容と指導→保育の先駆者の言葉や、実習等さまざまな保育場面を通して保育の指導(援助)について考え話し合い子どもへの望ましい関わりを考える。(目標 1,2,3,4) 3. 3 歳未満児の生活場面における指導(援助)を考える。(目標 1,2,3,4) 4. 3 歳未満児の五領域におけるさまざまな指導(援助)を考える。(目標 1,2,3,4) 5. 3 歳以上児の五領域における指導(援助)を考える。(目標 1,2,3,4) 6. 園での生活や遊び等具体的場面を通して保育形態・方法・環境・評価について考える。(目標 1,2,3,4) 7. 保育指導案を作成(1 題材五領域)、発表し指導のポイントについて考える。(目標 1,2,3,4) 8. 保育指導案を作成(子どもの自発的活動をもとに)、発表し指導のポイントについて考える。(目標 1,2,3,4) 9. 子ども達が喜ぶ遊びや素材にはどのようなものがあるか考える。(目標 1,2,3,4) 10. 前回考えた遊びから選び保育指導案を作成する。(目標 3,4) 11. さまざまな配慮を必要とする子どもと保育内容について考える。(目標 1,2,3,4) 12. 家庭や地域との連携のあり方を考える。(目標 1,2,3,4) 13. 小学校との連携について学ぶ。(目標 1,2,3,4) 14. 3 歳未満児の模擬保育(情報機器及び教材の活用を含む)を通して指導について考える。(目標 1,2,3,4). 15. 3 歳以上児の模擬保育(情報機器及び教材の活用を含む)を通して指導について考える。(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:授業への取り組み態度(20%) 提出物・発表(30%) レポート(50%) 評価の基準:達成目標に到達しているか。
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習:授業で必要なことについて事前に考える。準備する。 復習:授業での学び、自分以外の他の学生からの学びを簡単にまとめる。 (予習・復習とも各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 参考書:佐々木正美「子どもへのまなざし」 鯨岡峻「保育のためのエピソード入門」「死を招いた保育」「明日をひらく子」「育ての心」 他 紹介 参考資料・映像等適宜紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育士として保育所(園)に勤務。実務経験をもとにこれまでの保育・教育実習や様々な保育事例、模擬保育などを通して子どもの発達や理解を深め、さまざまな状況に応じた望ましい援助(指導)の在り方、保育内容を考えるとともに、活動を豊かにする素材、教材、環境構成、保育形態、保育方法を子どもの園での生活や遊びをもとに理解していくようにする。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>幼児教育概論</td><td>教員名</td><td>松村 納央子
（単独）</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2069-210000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">2年前期</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の本質・目的に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼児教育の基礎基本および方法の初歩を理解する</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">幼児教育の基本的概念は何か、また、幼児教育の理念にはどのようなものがあり、幼児教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて19世紀ドイツの幼稚園創設者フレーベルに注目して学ぶとともに、これまでの幼児教育及び幼稚園の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6"><table><tr><td></td><td>科目DP:（1）</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>DP番号</td><td>（1）</td><td>（2）</td><td>（3）</td><td>（4）</td></tr><tr><td>1.幼児教育の基本的概念：幼児を対象とする教育に関わる諸概念並びに教育の本質、目標を理解する／幼児、家庭、幼稚園、家庭を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.幼児教育に関する歴史：幼児を対象とした家庭・社会による教育の歴史を理解している／幼稚園の成立と展開を理解する／現代社会における幼児教育の課題を歴史的な視点から理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.幼児教育に関する思想：家庭での教育、幼児を対象とする教育思想を理解する／学校制度の一端を担う幼稚園教育の思想を理解する／フレーベル及びその周辺の主な幼児教育に関する提唱者の思想を理解する</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法：①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回：　幼児教育とはどのような教育かー幼児教育へのイメージを整理する（目標 1）
第2回：　歴史に見る「こども」（1）－日本における「こども」の捉え方の歴史（目標 1,2）
第3回：　歴史に見る「こども」（2）－ヨーロッパ史においてはいつから教育の対象となったか（目標 1,2）
第4回：　ヨーロッパ幼児教育史の展開（1）－ルソー『エミール』に描かれた乳幼児の教育（目標 1,2,3）
第5回：　ヨーロッパ幼児教育史の展開（2）－ペスタロッチ「居間の教育」（目標 1,2,3）
第6回：　ヨーロッパ幼児教育史の展開（3）－フレーベルの登場－幼年期・青年期の取り組み（目標 1,2,3）
第7回：　ヨーロッパ幼児教育史の展開（4）－「幼稚園」設立の背景と実践（目標 1,2,3）
第8回：　ヨーロッパ幼児教育史の展開（5）－『母の歌と愛撫の歌』から読み解く「教育する母親（女性）」像と幼稚園教師の資質（目標 1,2,3）
第9回：　フレーベルの遊戯教育学－幼児にとって「遊び」とは（目標 1,2,3）
第10回：　フレーベルの教育遊具（1）－球、立方体、円柱（目標 1,2,3）
第11回：　フレーベルの教育遊具（2）－積み木を手にすることでどんな遊びがうまれるか（目標 1,2,3）
第12回：　フレーベルの教育遊具（3）－平面（色板）にヒントを得た遊び（目標 1,2,3）
第13回：　フレーベルの教育遊具（4）－線や点を用いた遊び（目標 1,2,3）
第14回：　フレーベルの教育遊具（5）－遊び（幼児教育）から学び（初等教育）へ仲介する教育遊具（目標 1,2,3）
第15回：　現代に連なる幼児教育の諸課題（目標 1,2,3）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク、プレゼンテーション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法：毎回授業終了時の小レポート（30%）、学修ポートフォリオ（70%）
評価の基準：幼児教育に関しての新たな発見や確認した事柄を表明できるか／毎回の学びを記録するとともに、「自分が幼児を前にしたら」という意識を持って振り返りができるか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎回授業終了時にコメントシートに記入、次回の授業にて担当者がコメントを返す。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習：前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べ、ノートに記す。
復習：　発展的な専門用語や課題について、自主的な調査をしノートに記す。（予習・復習とも 90 分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト：M.ロックシュタイン（小笠原道雄監訳／木内陽一・松村納央子訳）『遊びが子どもを育てるーフレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉』福村出版、2014 年
参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
その他、授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">出席回数、受講態度も重視する。毎回A4 ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。
ノートも重要な評価対象とする。</td></tr>
</table>

授業科目名	保育者論	教員名	香川 智弘 澄田 悦子	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC1-2070-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	幼稚園・保育所の役割、幼稚園教諭・保育所保育士の役割及びその職務内容を学ぶ
授業概要	この講義で教員(保育者)としての基本的な資質を養うとともに、将来教職に就くにあたって基礎的基本的事項を考察する。教員(保育者)をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員(保育者)の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションや教育現場における見学・体験活動等を通じて教職への理解を深める。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義:公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義を理解する／受講生の進路選択に向け、他の職業と比較しつつ教職の職業的特徴を理解する	◎			
2.教員(保育者)の役割・資質能力:教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割を理解する／その役割を担うための基礎的な資質能力について理解する	◎			
3.教員(保育者)の職務内容の全体像並びに教員(保育者)に課せられる服務上・身分上の義務:幼児理解に基づく教育活動に関わる職務の全体像を理解する／「学び続ける教員」であるための研修の意義および制度上の位置づけを理解する／教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する	◎			
4.学校内外の専門家との連携・分担して対応することの必要性:学校が担う役割の拡大や多様化に対応するために、チームとして組織的に諸課題に対応する重要性を理解する	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	第1回:教職(保育職)の位置づけ－公教育の目的と教員(目標 1) 第2回:教員(保育者)養成の歴史－養成制度の変遷について(目標 1,2) 第3回:求められる保育者像－役割の多様性について(目標 1,2) 第4回:教員(保育者)の役割と仕事(1)－保育者モデルとその果たすべき役割について(目標 1,2,3) 第5回:教員(保育者)の役割と仕事(2)－校務分掌と職責について(目標 1,2,3,4) 第6回:教員(保育者)の役割と仕事(3)－研修制度について(目標 1,2,3,4) 第7回:教員 (保育者) の役割と仕事(4) －他の専門職・専門機関との連携「チーム学校」への対応(目標 1,2,3,4) 第8回:教員(保育者)の役割と仕事(5)－保護者支援・地域社会との連携(目標 1,2,3,4) 第9回:保育現場見学実習Ⅰ事前指導－幼稚園における一日見学体験活動を効果的に実施するための事前指導(目標 1,2,3,4) 第10回:保育現場見学実習Ⅰ－付属幼稚園における見学・体験活動によって教職の意義及び教員(保育者)の役割・職務内容を実践的に学ぶ(目標 1,2,3,4) 第11回:保育現場見学実習Ⅰ事後指導－見学・体験活動による学びをより深めるため学生によるグループディスカッションと意見発表を行う(目標 1,2,3,4) 第12回:保育現場見学実習Ⅱ事前指導－保育所における一日見学・体験活動を効果的に実施するための事前指導(目標 1,2,3,4) 第13回:保育現場見学実習Ⅱ－保育所における見学・体験活動によって教職の意義及び教員(保育者)の役割・職務内容を実践的に学ぶ(目標 1,2,3,4) 第14回:保育現場見学実習Ⅱ事後指導－見学・体験活動による学びをより深めるため学生によるグループディスカッションと意見発表を行う(目標 1,2,3,4) 第15回:教員(保育者)の任用と服務－教員の職業倫理や服務規定について(目標 1,2,3)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法:・レポート3回(75%)…教職に対する適性や意欲を表明できるか。 ・見学・体験活動(25%)…取組への積極性や・適性など活動状況。
フィードバックの方法	レポートを返却し講評する。発表させ講評する。
時間外の学習について	予習:学修内容をノートにまとめる(90分) 復習:学修内容をノートにまとめる(90分)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領他授業中に適宜資料を配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育の心理学</td><td>教員名</td><td>堂野 佐俊
（単独）</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2071-110000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の対象の理解に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">幼児・児童及び生徒の心身の発達、特別支援児童・生徒、学習過程</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">人間発達のメカニズムについて心理学的に理解する。現代社会における子どもの成長発達に関して実態に即して把握し、日常生活や教育場面、家庭・地域における人間の生涯発達の様相について理解を深める。誕生からの発達の過程、子どもの心性と発達のメカニズム、仲間集団の体験が及ぼす発達への影響、特別支援児を含めた子ども達の発達の特徴について、ハードとソフトの両面から現代社会に焦点を当てて人間発達を捉え、その発達段階を踏まえた学習指導や学習過程の基礎を理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">達成目標</td><td colspan="4"></td><td colspan="3">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td colspan="4">DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td colspan="4">1.人間の発達に関して、その原理と要因について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">2.心理学的発達課題及び各発達段階における特徴について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">3.子どもから高齢者、特別支援者の視点も含めながら生涯発達の観点から理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">4.発達加速現象とモラトリアムの意義について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">5.人格的発達の観点からパーソナリティ形成について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">6.学習過程・学習指導の基礎を理解する</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">基礎となる「心理学」関係の授業を履修していることが望ましい
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:人間発達の概念 （目標 1）
第2回:発達の過程と可能性 （目標 1）
第3回:発達の要因と発達環境 （目標 1）
第4回:発達の原理と「個性化・社会化」（目標 1）
第5回:発達段階と発達課題（目標 2）
第6回:乳幼児期の発達 （目標 3）
第7回:幼児期から児童期への思考の発達 （目標 3）
第8回:児童期の発達と脱中心化 （目標 3）
第9回:青年期の発達と自我の確立 （目標 3）
第 10 回:発達加速現象と青年期の長期化 （目標 4）
第 11 回:成人期から老年期への発達 （目標 3）
第 12 回:人格的発達とパーソナリティの形成並びに学習の概念・領域・過程 （目標 5,6）
第 13 回:認知及び言語的発達と適応の発達並びに学習の動機づけ・集団づくり・評価 （目標 5,6）
第 14 回:情動の分化と発達を踏まえた学習指導 （目標 5,6）
第 15 回:社会的発達の側面と学習過程 （目標 5,6）
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:毎回提出のレポート（30%）、定期試験（70%）の結果を総合的に評価する
評価の基準:達成目標の到達度や理解度から測る。60 点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。（90 分程度）
復習:作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。（90 分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし。毎回資料を配付する。
参考書:「発達理解の心理学」（堂野佐俊・堂野恵子 〈著〉）ブレーン出版。講義内容に関する資料を適宜配布する。講義は毎回パワーポイント等（IT）を使用して視聴覚的にも提示する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">毎回の授業後の質問・コメントカードを積極的に活用してほしい
Where there is a will, there is a way.</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育方法論</td><td>教員名</td><td>中原 久子
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2072-210000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">乳幼児期に経験させたい保育内容や保育実施のための保育形態・保育方法について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">この講義で幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成や、保育を構想する方法を学ぶ。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4.各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことの重要性を学ぶ</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について(目標 1)
第2回:幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について(目標 1,2)
第3回:幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて(目標 1,2)
第4回:幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿について(目標 1,2,3)
第5回:幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について(目標 1,2,3,4)
第6回:幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクルについて(目標 1,2,3,4)
第7回:幼稚園教育における評価のとらえ方について(目標 1,2,3)
第8回:保育の計画と実践(1)－日案作成と保育実践の評価・反省:3 歳児について(目標 1,2,3,4)
第9回:保育の計画と実践(2)－日案作成と保育実践の計画・反省:4 歳児について(目標 1,2,3,4)
第 10 回:保育の計画と実践(3)－日案作成と保育実践の計画・反省:5 歳児について(目標 1,2,3,4)
第 11 回:こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について(目標 1,2,3,4)
第 12 回:模擬保育とその振り返り・保育の改善について(目標 1,2,3)
第 13 回:幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について(目標 1,2,3,4)
第 14 回:幼児が5領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について(目標 1,2,3,4)
第 15 回:教師の役割とその専門性について(目標 1,2)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">テーマを決めてディスカッション・グループワーク、模擬保育</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">・ 毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成(30%)…教職に対する受講生の適性や意欲を表明できるか
・ 試験(70%)…幼稚園教育に関する基礎的基本的事項を理解し、保育を構想する方法を修得しているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">コメントをつけて返却する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。(各回 90 分程度)
復習:授業で扱った内容をもう一度見返しておくこと。(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎 (編著)『保育方法論』株式会社光生館
参 考 書:文部科学省『幼稚園教育要領』／厚生労働省『保育所保育指針』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
その他、授業中に適宜資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">幼稚園教諭・保育士が熟知しなければならない保育方法の基本を学ぶとともに、実践事例に接する。
幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。</td></tr>
</table>

授業科目名	子どもの理解と援助	教員名	大田 紀子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2073-110000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)
各科目に含めることが必要な事項	幼児理解の理論及び方法
教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	子どもの発達、子ども理解、保育実践、子どもの経験や学習の過程、保育における発達援助
授業概要	保育実践の基盤は保育者の子ども理解にあると言われるように、保育者がその子どもをどう理解するのかによって保育のありようは大きく異なると考えられる。保育者の子ども理解は保育実践の出発点であると捉え、子ども理解にはじまる保育者の援助とその方法について考えていく。また、保育の心理学で学んだことをもとに、子どもの心身の発達と保育実践についての理解を深める。さらに、観察や保育記録などを通して子どもの心身の状態や行動を把握する技術を高め、子ども理解に基づく適切な発達援助を行う実践力の習得を目指す。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.子どもの心身の発達や子どもを理解するための知識や理論を身につけ、子ども理解に基づく保育実践の考え方及び基礎的態度を理解する。	◎	○	○	
2.生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。	◎	○		
3.観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等、子どもを理解するための方法を具体的に理解する。	○	◎		
4.保育における子ども理解に基づく発達援助について理解する。	○	○	○	◎

履修条件・注意事項	保育の心理学を履修済み、もしくは同時履修していることが望ましい。 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1.保育の方法を支える専門性ー養護と教育の一体的展開〔到達目標1〕 2.子ども理解と保育者の援助〔到達目標1・4〕 3.子どもの行動の理解と観察法〔到達目標1・3〕 4.幼児観察演習①:3歳児〔到達目標1・2・3〕 5.幼児観察演習②:4歳児〔到達目標1・2・3〕 6.幼児観察演習③:5歳児〔到達目標1・2・3〕 7.子どもの遊びと発達〔到達目標2〕 8.子どもの生活と学び〔到達目標2〕 小テスト 9.保育における子どもの理解と関わり①:個の理解〔到達目標1・2・4〕 10.保育における子どもの理解と関わり②:集団の理解〔到達目標1・2・4〕 11.様々な記録から読み取る子どもの発達ーエピソード記録〔到達目標3・4〕 12.子どもの発達とアセスメントー特別な配慮を要する子どもの関わりと援助〔到達目標4〕 13.保育者の省察とカンファレンス①:省察と保育カンファレンス〔到達目標2・3・4〕 14.保育者の省察とカンファレンス②:個人と共同の省察〔到達目標2・3・4〕 15.保育者の省察とカンファレンス③:保育者の援助と保護者対応〔到達目標2・3・4〕 まとめと確認テスト
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法:演習やロールプレイ等授業への取り組み(20%)、小テスト・確認テスト・課題・レポート(80%) 評価の基準:身につけた知識や理論を活用して積極的に演習へ参加している。他者と協力して学びを深めようとしている。 授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。身につけた知識や理論を反映させて自分なりの意見を述べることができる。
フィードバックの方法	課題やレポートに対してコメントを出す。
時間外の学習について	予習:保育に関する時事的な新聞記事等に目を通す。(各回45分程度) 復習:授業内で完成できなかった課題および小テスト・確認テストに向けて授業内容の整理、復習を行う。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。適宜資料を配布する。 参考書:「子どもと保育の心理学ー発達臨床と保育実践」 寺見陽子編著 2004年 教育情報出版 「発達と教育の心理学」 麻生武 2007年 培風館 「3年間の保育記録(DVD)」 神長美津子・小田豊監修 2005年 岩波映像株式会社 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等:平成29年告示 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	保育原理	教員名	渡邉 二美子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC1-2074-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	保育の原理(保育の基礎基本)・保育に関する法令や制度の理解・保育の目標・内容・方法・保育の歴史・保育の課題
授業概要	保育に関する法令や制度を理解する。保育に関する基礎的知識(保育の原理・意義・子ども理解・保育の計画及び内容の理解)を保育所保育指針(幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領)を通して理解するとともに保育の歴史・保育の課題について理解する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.保育の原理・意義について理解する。	◎			
2.保育における子ども理解を深める。	◎			
3.保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領における保育の基本、内容、計画について理解する。	◎			
4.保育の歴史について知る。	◎		○	
5.保育の現状と今後の課題について考察する。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 保育の原理・意義→子ども子育てをめぐる状況と保育の基本・方向性・保育に関する諸法令(目標 1) 2. 保育の原理・意義→子どもの最善の利益を考慮した保育・保護者との協働(目標 1,3) 3. 保育所保育指針等(幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領)と保育の基本 →養護と教育の一体性・家庭及び地域社会との連携・子育て支援(目標 1,2,3) 4. 保育所保育指針等と保育の基本→保育の目標・保育の方法・保育の環境(目標 1,2,3) 5. 保育所保育指針等と保育の基本→子ども理解(発達の捉え方・子ども観・発達観(目標 2,3) 6. 保育所保育指針等と保育の基本→ 保育で育みたい資質・能力・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(目標 1,2,3) 7. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法 →乳児保育・1 歳以上3 歳未満児・3 歳以上児保育に関わるねらい及び内容(5 領域)(目標 2,3) 8. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法 →乳児保育・1 歳以上3 歳未満児・3 歳以上児保育に関わる保育実施上の配慮・留意事項(目標 2,3) 9. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→保育所の一日の流れ・保育形態 10. 保育所保育におけるさまざまな配慮 → 健康及び安全・食育・危機管理・災害対策・多様な子どもの保育への対応・園生活における行事について理解する。(目標 1,2,3) 11. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→保育の計画の異議・保育の計画の種類(目標 1,2,3) 12. 保育指導案について→ 乳幼児期の生活や遊び(活動)(素材・教材・個と集団)を中心に保育指導案の立案・実践・記録・評価について理解(目標 1,2,3) 13. 保育の歴史→日本及び海外の保育の先駆者と保育思想(目標 4) 14. 保育者の専門性→保育者の専門性・資質向上(目標 1,3) 15. 保育の現状と今後の課題・多様な保育ニーズへの対応(目標 1,2,3,5) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:提出物・定期試験(80%)、 授業への取り組み姿勢(20%) 評価の基準: 保育の原理・意義・保育の歴史・保育所保育指針についての理解・知識・関心を深めている。
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習:関連する資料・書籍を読む。 復習:「 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」を読む、倉橋惣三著「育ての心」を読む。(予習・復習とも各回90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考資料等:DVD 保育実践事例等適宜紹介
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子ども家庭福祉</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">松村 納央子
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2075-100000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">2年後期</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の本質・目的に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">現代社会における子ども家庭福祉の重要性</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て支援、ひとり親家庭、児童虐待やDVの実態を含む）について理解するとともに、子ども家庭福祉制度の歴史や児童の権利について理解を深める。また、援助活動に必要となる子ども家庭福祉制度や、子ども家庭福祉に関連する法律についても理解の上、どのような援助が可能か考察する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:（1）</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.子どもの人権擁護について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷（目標 1,2）
2. 現代社会における子ども家庭福祉の歴史的変遷（目標 1,2）
3. 子どもの人権擁護に関わる歴史的変遷（目標 1,2）
4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題・諸外国の動向（目標 1,2,3）
5. 子ども家庭福祉の制度と実施体系（目標 3）
6. 子ども家庭福祉における援助の基本（目標 3,4,5）
7. 母子保健・子どもの健全育成と子ども家庭福祉（目標 3,4,5）
8. 地域子育て支援と子ども家庭福祉（目標 3,4,5）
9. 就学前の拠点型保育・教育と子ども家庭福祉（目標 3,4,5）
10. 社会的養護と子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5）
11. 虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5）
12. 心理的支援の必要な子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5）
13. 子どもの貧困と子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5）
14. 障がいのある子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5）
15. 子ども家庭福祉サービスの動向と展望（目標 3,5）
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">各授業終了時にミニレポートを課す。ロールプレイを行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:受講態度（15%）、定期試験（85%）
評価の基準:①授業から表層では見えなかった課題を発見したか、②子どもをケアする観点をもって、受講生なりにどのように子ども家庭福祉に関わればよいか、その理論や方法を追及したか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">ミニレポートから受講生の理解度を解説する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストを一読し、わからない語句を事前に調べる。（各回90分程度）
復習:授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭福祉の諸場面を想定して説明する。（各回90分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 山縣文治『子ども家庭福祉 第2版（シリーズ・福祉を知る 3））』ミネルヴァ書房
参考書: 山縣文治・福田公教・石田慎二（監修）『ワイド版社会福祉小六法2019』ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>社会福祉</td><td>教員名</td><td>佐藤 真澄
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC1-2076-100000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">1年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の本質・目的に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">社会福祉に関する専門的知識、相談援助の専門的技能とコミュニケーション力</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">社会福祉の理念、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心となるが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.社会福祉の理念、意義、制度や実施体系等について理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.社会福祉における相談援助について理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5.社会福祉の動向と課題について理解する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 社会福祉の理念と概念、歴史的変遷(目標 1,2)
2. 子ども家庭支援と社会福祉(目標 1)
3. 社会福祉の制度と法体系(目標 2)
4. 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設(目標 2)
5. 社会福祉の専門職(目標 2)
6. 社会保障および関連制度の概要(目標 2)
7.【小テスト】／相談援助の理論(目標 3)
8. 相談援助の意義と機能(目標 3)
9. 相談援助の対象と過程(目標 3)
10. 相談援助の方法と技術(目標 3)
11.【小テスト】／社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み(目標 4)
12. 少子高齢化社会における子育て支援(目標 1,2)
13. 共生社会の実現と障害者施策(目標 2,5)
14. 在宅福祉・地域福祉の推進(目標 2,5)
15.【小テスト】／総括(目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:①小テスト3回(80%)、②授業への参加度(20%)
評価の基準:①教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
②演習課題やレスポンスシートの記述内容が適切である。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。
演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:テキストの該当ページを一読し、わからない用語等をピックアップしておく。(各回 90 分程度)
復習:ノートを作成し、授業内容を整理しておく。小テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可。(各回 90 分程度)
日頃から社会福祉の制度や社会問題に関するニュース(テレビ・新聞等)に関心をもち、情報収集をしておく。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『新・基本保育シリーズ第 4 巻 社会福祉』中央法規出版
参考資料:必要に応じて都度配布する</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	子ども家庭支援論	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2077-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	現代の家族を取り巻く社会的状況の特質と子育て家庭の抱える困難、並びにこれまでの子育て支援政策の思想と現実を吟味し、今日、どのような子育て支援が必要とされているかを明らかにする。
授業概要	家庭・家族の諸機能の変化について考察する。そして、子どもにとって最初の環境である家庭・家族支援の実際について、幼稚園・保育所における支援、児童福祉施設における支援ならびに地域における支援を取り上げる。最後に、子育て支援を中心としたネットワークの構築の可能性について論及する。これをとおして、今日求められている幼稚園・保育所における子育て支援の機能と保育者の役割についての認識を深めることを目指す。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。	◎	○		
2.保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	◎	○		
3.子育て家庭に対する支援の体制について理解する。	◎	○	◎	
4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	◎	○		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 子ども家庭支援の意義と必要性(目標 1,2,3,4) 2. 保育士による専門性を活かした家庭支援の基本(目標 1,2,3,4) 3. 子どもの育ちを共有することの重要性(目標 1,2,3,4) 4. 保護者の子育て実践力の向上に資するための支援とは(目標 1,2,3,4) 5. 保育者に求められる基本的態度(目標 1,2,3,4) 6. 家庭の状況に応じた支援(目標 1,2,3,4) 7. 子育て家庭の福祉を図るための社会支援(目標 1,2,3,4) 8. 地域の資源や自治体・関係機関との連携と協力(目標 1,2,3,4) 9. 子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進(目標 1,2,3,4) 10. 多様な支援の展開に向けて－子ども家庭支援の内容と対象(目標 1,2,3,4) 11. 多様な支援の展開に向けて－保育所等を利用する子どもの家庭への支援(目標 1,2,3,4) 12. 多様な支援の展開に向けて－地域の子育て家庭への支援(目標 1,2,3,4) 13. 多様な支援の展開に向けて－要保護児童等及びその家庭に対する支援(目標 1,2,3,4) 14. 子ども家庭支援に関する現状(目標 1,2,3,4) 15. 子ども家庭支援に関する今後の課題(目標 1,2,3,4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	各授業終了時にミニレポートを課す。授業中、ロールプレイを行う。
成績評価基準	評価の方法: 受講態度(15%)、定期試験(85%) 評価の基準: ①授業から表層では見えなかった課題を発見したか、②子どもをケアする観点をもって、受講生なりに子ども家庭支援に向けて求められている資質や能力、及び現代の議論について考察したか
フィードバックの方法	ミニレポートから受講生の理解度を解説する。
時間外の学習について	予習: 配布資料を一読し、わからない語句を事前に調べる。(各回90分程度) 復習: 授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭支援の諸場面を想定して説明する。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 山縣文治・福田公教・石田慎二(監修)『ワイド版社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 参考資料等:授業中適宜紹介する
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	社会的養護Ⅰ	教員名	川村 宏司 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2078-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	社会的養護の理念と概念、子どもの人権擁護、保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度・法体系・仕組み・支援のあり方、被措置児童等の虐待防止の現状と課題について理解する。
授業概要	子どもを取り巻く社会的状況を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利を保障する支援のあり方を理解する。社会的養護の理念、制度、方法(実践)など基本的な内容について理解する。また、社会的養護の歴史的変換、先駆者の業績を学ぶことで、現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。	◎		○	○
2.児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。	◎		◎	○
3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。		◎		○
4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。	◎	○	○	
5.社会的養護の現状と課題について理解する。		○		◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 現代社会と社会的養護のあり方について理解し、社会的養護の果たす役割について理解する。(目標 1,2,3) 2. こどもの権利と社会的養護についての基本原則を学ぶ。(目標 2.3.5) 3. 施設養護・家庭養護、家庭的養護について学ぶ。(目標 2,3) 4. 社会的養護に関わる機関について学ぶ。(目標 2,3) 5. 措置制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 2,3,4) 6. 保育士としての資質と倫理について学ぶ。(目標 2) 7. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。(目標 2,3,4,5) 8. 利用・契約制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 3,4) 9. 日本における社会的養護の歴史的変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1,2) 10. 欧米における社会的養護の歴史的変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1,2) 11. 社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性について学ぶ。(目標 2,4) 12. 児童養護施設での実際の支援を学び、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点を理解する。(目標 3,4) 13. ソーシャルワークの基本を理解し、施設養護でのソーシャルワークの展開について理解する。(目標 2,4) 14. 里親の種類・制度・里親に対する支援制度について学ぶ。(目標 1,2,3,5) 15. 施設の運営管理・費用の仕組み等について学ぶ。(目標 2,3,4) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:授業態度(30%)、小テスト(30%)・定期試験(40%) 評価の基準:○授業態度 ＊関心・意欲の測定 ＊態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ○小テスト 定期試験 ＊知識・理解の定着度を測定 ＊思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・社会的養護の理念・概要・制度について理解している。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べることができる。
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。
時間外の学習について	予習:次回の授業のテーマについて予め学習しておく。(各回90分程度) 復習:テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚編著, 萌文書林 参考書:特になし 参考資料等:適宜配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	児童養護施設実務経験: 社会的養護の理念、制度、実践内容について、子どもや家庭への支援を通してお話します。 社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	教員名	堂野 佐俊 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2079-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	人間の健康生活の維持に関する心理学的側面からの理解
授業概要	ストレス社会ともいわれる現代社会で、心身の健康の維持という観点から、健康的生活の意義、生活習慣と健康、ストレス対処などのトピックスを取り上げ、子どもとおとなのメンタルヘルスについて理解する。その際、子ども達の精神発達に寄与すべき教育・保育や援助のあり方について、家庭生活支援の面からの理解を通して、適応・不適応の概念について認識を深める。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.生涯発達に関する心理学の基礎的は知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。	◎			
2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達心理学的観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	◎	○		
3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。	◎			
4.子どもの精神保健とその課題について理解する。	◎			
5.現代社会における子どものストレスとその対処について理解する。	◎			

履修条件・注意事項	基礎となる「心理学」関係の授業を履修していることが望ましい。 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 現代社会における生涯発達と子育て 2. 人間の発達と「家族心理学」(1):“ Mind-Body Question ”と健康生活 3. 家族と家庭の心理学(1):意義 4. 家族と家庭の心理学(2):機能 5. 家族と家庭の心理学(3):包括的理解 6. ストレスの心理学 7. ストレスと人間関係 8. ストレス対処の理論 9. 精神保健とソーシャルサポート・ソーシャルスキル 10. パーソナリティと適応 11. 適応と適応機制・フラストレーション耐性 12. 生活習慣と生体リズム 13. 睡眠と意識水準 14. メンタルヘルスとアセスメント 15. 情緒的安定と精神的健康 定期試験
アクティブ・ラーニング	毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。
成績評価基準	評価の方法: 中途での保育心理学ノートの作成<参加態度>(30%)、及び期末試験(70%)の結果を総合的に評価する。 評価の基準:60点以上を合格とする。
フィードバックの方法	毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習:予め配布された資料(次回講義の為の)に基づいてノートを作成する。(各回90分程度) 復習:作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。毎回資料を配付する。 参考書: 講義内容に関する資料を適宜配布する。講義は毎回パワーポイント等(IT)を使用して視聴覚的にも提示する。 参考資料等:特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後の質問・アクション・シートを積極的に活用してほしい。 Where there is a will, there is a way. 米国Maryland大学大学院精神医学教室での留学研修において経験した研究やその教育の方法の実態等に基づく話題を提供します。

授業科目名	子どもの保健	教員名	浜本 史明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2080-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	幼児保健の理解、幼児の疾病・事故等予防及び管理
授業概要	小児保育の実践において、小児保健の基礎と身体発育と生理機能を理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。幼児期から学童期における変化の多い身体・精神を理解させ、健康と病気の違いを認識させる。 小児期における感染症の知識と病気に関しては、集団生活に関する最も重要な問題であり、実際の症例等、スライド・ビデオを利用し病気の実際を覚えることにより、より正確な知識や対処を医学的な見地から学ばせる。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.小児保健の基礎、身体発育と生理機能の理解(各年代における違い)。	◎			
2.小児期の感染症の理解と予防。	◎			
3.小児期の病気の理解と知識。	◎			
4.小児期の事故と予防 以上の基本的な知識を教え実践できるよう指導する。	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 子ども保健序論 (目標 1) 2. 発育 (目標 1) 3. 子どもの栄養と食生活 (目標 1) 4. 子どもの心理、知能、情緒、社会性の発達とその保健 (目標 1) 5. 発達障害 (目標 1,3) 6. 日常生活と環境 (目標 1) 7. 小児在宅医療 (目標 1,3) 8. 集団の保健(目標 1) 9. 主な疾病 小児期の病気 感染症、食中毒、発育と栄養障害、アレルギー、消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器と生殖器、代謝、内分泌、皮膚、臍、運動器、目・耳・鼻、精神・神経系、悪性腫瘍、その他(川崎病、リウマチ熱、乳幼児突然死症候群)感染症と予防接種(目標 1,2,3) 10. 主な症状と救急処置 応急処置、手当、異物事故、救命処置(目標 1,2,3,4) 11. 子どもの保健に関わる法規と母子保健行政(目標 1) 12. 事故とその対策 小児と事故、発生と種類、事故防止、(目標 1,4) 13. 事故と応急処置 小児と事故、発生と種類、事故防止、応急処置・手当、異物事故、救命処置(目標 1,4) 14. 感染症と予防接種 感染症、予防接種(目標 2,3) 15. 小児期の病気 感染症、食中毒、発育と栄養障害、アレルギー、消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器と生殖器、代謝、内分泌、皮膚、臍、運動器、目・耳・鼻、精神・神経系、悪性腫瘍、その他(川崎病、リウマチ熱、乳幼児突然死症候群) (目標 2,3) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法: 試験・レポート(60%)授業への取り組みと授業態度(40%)及び総合判断により評価する。 評価の基準:知識・理解、小児保健に関する関心と取り組み、疾病に対する対処等を基準にする。
フィードバックの方法	レポートの結果を個別に具体的に評価する
時間外の学習について	予習:講義の終わりに次回の講義範囲を伝えるので質問事項を考えておくこと。(各回90分程度) 復習:講義内容の重要なキーワードを伝え、それに対して答えられるように復習すること。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『最新子ども保健』 沢田 淳 細井 創 編(日本小児医事出版社) 参考書:『 小児保健実習』佐藤益子 編著 みなみ書房 『保健所・幼稚園児の保健』日本医師会第一法規出版 『日本の子ども資料年鑑』 KTC 中央出版『学校医の手引きー第4版ー』山口県医師会
担当者からのメッセージ等実務経験について	小児科医として大学病院等に勤務。その後小児科開業医としての実務経験をもとに小児保健について話をします。

授業科目名	子どもの食と栄養	教員名	白土 由利枝 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2081-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	健康や発育・発達と食生活, 栄養の基礎知識, 食育, 家族・保護者支援, 特別な配慮を要する子どもの食
授業概要	食と栄養の基礎知識、子どもの食生活の現状と課題をもとに, 食育を推進する実践力を養う。また、食物アレルギーや疾病, 障害のある子どもへの対応, 地域・家庭や各職員間の連携等についても学習する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。	◎	○		
2.子どもの健康や発育・発達と食生活の関連について理解する。	○	◎		
3.食育の基本とその内容を理解し, 地域社会・文化とのかかわりの中で展開できる実践力を身に付ける。	○	○	◎	◎
4.家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題を把握できる。		○	◎	○
5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		○	◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 子どもの心身の健康と食生活(目標 1,2) 2. 子どもの食生活の現状と課題。食生活の変化と子どもの食生活上の問題点。(目標 1,4) ＜レポート作成＞ 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(目標 1) 4. 食事摂取基準、食事バランスガイド 5. 乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活(目標 2) 6. 乳幼児期の心身の発達と食生活(目標 2) ＜小テスト＞ 7. 食育における養護と教育の一体性(目標 3) 8. 食育の内容と計画及び評価。食育計画指導案作成(目標 3) 9. 食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携(目標 3) 10. 食生活指導及び食を通した保護者への支援(目標 4) 11. 家庭における食事と栄養。人間形成の基盤としての食事のあり方(目標 4) 12. 児童福祉施設における食事と栄養(目標 4) 13. 疾病及び体調不良の子どもへの対応(目標 5) 14. 食物アレルギーの子どもへの対応(目標 5) 15. 障害のある子どもへの対応(目標 5) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク　プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法:試験 50%, 小テスト 10%, レポート 20%, 授業への参加度 20% 評価の基準:○筆記試験　＊知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定 ・授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。 ・授業をもとに考察し, 明確な根拠を示し, 自説をわかりやすく説明できる。 ○授業態度　＊関心・意欲の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・相手にわかりやすく自説を述べ, 他者の意見を聴くことができる。 ○レポート　＊技能・表現を測定 ・授業で学んだことを発展させ, 豊富な情報やイラストを活用して, わかりやすくまとめることができる。 ・自主的に取り組むことができる。
フィードバックの方法	小テストや試験終了後, 内容を再確認する。レポートなど提出物については, コメントを記入し, 意欲付けを図る。
時間外の学習について	予習:次回の授業に関連する資料や情報を集め, 読んでおくこと。(各回 90 分程度) 復習:授業内容を整理して, 各章末に示されている課題について, まとめる。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:子どもの食と栄養　中央法規(新・基本保育シリーズ)　2000 円＋税
担当者からのメッセージ等実務経験について	この授業を通して, 自分自身の食生活に対しても積極的に向き合ってほしい。 中学校・高等学校の家庭科教員:子どもの食生活の現状と課題, 食育への対応について話をします。

授業科目名	保育の計画と評価	教員名	中原 久子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2082-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	保育の充実・質の向上に必要な保育の計画・記録と評価の関係を理解し立案の基礎を身につける。
授業概要	乳幼児の保育は、生涯にわたる生きる力の基礎となる資質・能力の"3つの柱"を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、全体的な計画(保育課程)を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を講述する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎を理解する。	◎			
2.児童福祉施設における計画と評価の意義を理解する。	◎			
3.「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性を理解する。	◎			
4.全体的計画(保育課程)　教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を理解する。	◎			
5.長期・短期の指導計画の作成と留意点を理解する。	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎理論 (目標 1) 2. 保育所における保育の計画と評価の意義 (目標 1,2,4) 3. 幼稚園・幼保連携型こども園・児童福祉施設における計画と評価の意義 (目標 1,2,3,4) 4. 計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上 (目標 4) 5. 保育所における保育の計画・保育所保育指針と幼稚園教育要領と幼保連携認定こども園教育保育要領 (目標 3) 6. 全体的計画(保育課程)と指導計画 (目標 4) 7. 全体的計画(保育課程)の編成と展開 (目標 3,4) 8. 指導計画(長期・短期)の実際と作成上の留意事項 (目標 5) 9. 指導計画の作成と展開 (月の指導計画) (目標 4,5) 10. 指導計画の作成と展開 (週の指導計画) (目標 4,5) 11. 指導計画の作成と展開 (週案から保育指導案へ) (目標 4,5) 12. 保育の省察及び記録 (目標 4) 13. 保育の計画の再編成 (目標 4) 14. 保育士及び保育所の自己評価 (目標 1) 15. 生活と発達の連続性を踏まえた保育所指導保育要録 (目標 1) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション　グループワークによるプレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法:試験 50%　受講態度 20%　レポート 30% 評価の基準: 全体的計画(保育課程)の編成と指導計画の作成について具体的に理解できたか口述する。
フィードバックの方法	課題にコメントをつけて返却する
時間外の学習について	予習:テキストを一読しておく。(各回 90 分程度) 復習:授業での学び(ポイント)を簡単にまとめる。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:松村和子　近藤幹生　柾島香代　著「就学前教育の計画を学ぶ」 みなみ書房 参考書:「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他、授業中に適宜資料を配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育は「計画」と「実践」と「評価」をサイクルにしてつくられていくことが基本である。この三つを一体にして考える視点を養ってほしい。 幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育・教育を支える柱、保育の計画と評価について話をします。

授業科目名	保育内容総論	教員名	澄田 悦子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2083-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	保育内容・保育方法・子ども理解
授業概要	幼児教育で育みたい資質能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・養護と教育など保育指針・幼稚園教育要領・認定子ども園教育・保育要領を通して理解する。 保育における生活や遊び・5領域の視点から子どもの発達や理解を深めるとともに年齢と保育内容について具体的に理解する。 保育の内容を深める遊びや環境構成、文化財等について学びを深める。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定子ども園教育保育要領における養護・教育・保育内容の理解。	◎		○	
2. 5領域の視点からこどもの発達をとらえ保育内容について具体的に理解する。	◎		○	
3. 保育所・幼稚園・子ども園の一日の保育の流れを理解し保育者の援助・関わりを理解する。	◎		○	
4. 保育事例や保育指導案立案を通して遊び(活動)内容や環境構成、保育方法、援助について理解する。	◎		○	○
5. 食育・保護者支援について理解する。	◎		○	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 保育内容について→保育所保育指針・幼稚園教育要領・子ども園教育保育要領における保育内容(育みたい資質・能力)(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)さまざまな支援・配慮を必要とする子どもの保育(目標 1) 2. 保育内容について→養護と教育(幼児教育)・生活や遊び・環境(人的・物的・自然物等)を通して行う保育、さまざまな支援・配慮を必要とする子どもの保育(目標 1,2,3) 3. 保育指針における養護→生命の保持・情緒の安定と保育者の援助、関わり①(目標 1) 4. 保育指針における養護→生命の保持・情緒の安定と保育者の援助、関わり②(目標 1) 5. 保育指針における教育→領域「健康」の理解・保育活動(健康安全・活動内容立案)(目標 2,4) 6. 保育指針における教育→領域「人間関係」の理解・保育活動(保育事例・活動内容立案)(目標 2,4) 7. 保育指針における教育→領域「環境」の理解・保育活動(保育事例・活動計画立案)(目標 2,4) 8. 保育指針における教育→領域「言葉」の理解・保育活動(文化財活用)(素話・保育指導案立案)(目標 2) 9. 保育指針における教育→領域「表現」の理解・音楽的表現活動(保育指導案立案・発表)(目標 2,4) 10. 保育指針における教育→領域「表現」の理解・造形的表現活動(保育指導案立案・発表)(目標 2,4) 11. 園の一日→3歳未満児の保育園の一日及び保育者の援助(目標 3) 12. 園の一日→3歳以上児の保育園・幼稚園の一日と保育者の援助(目標 3) 13. 食育・行事について→保育所の特性を生かした食育・行事を考える(目標 1,5) 14. 保護者支援や地域との連携→保育事例から考える(目標 5) 15. 保育における危機管理・災害対応→保育事例を通して考える(目標 1,4,5) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法: 授業参加度(20%)、保育指導案・レポート(40%)、定期試験(40%) 評価の基準:保育所保育指針の保育内容について理解し、レポートや試験において自分の意見を述べることができる。保育所保育指針の内容を踏まえて保育指導案を立案することができる。
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習:関連する資料・書籍を読む。(各回45分程度) 復習:授業での学び(ポイント)を簡単にまとめる。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『保育内容総論』ミネルヴァ書房、『保育所保育指針』(H29年告示) 参考書:保育実践事例・DVD等適宜紹介
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育士として保育所(園)に勤務。実務経験をもとに保育指導案立案や保育事例を通して幼児教育で育みたい資質能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿、養護と教育などの理解ができるようにする。またより良い保育環境や保育者の援助・関わりの在り方などについて考え保育事例をもとに個あるいはグループで話したりなどしながら理解が深まるようにしていく。

授業科目名	乳児保育Ⅰ	教員名	渡邉 二美子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC1-2084-100000				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	乳幼児(0・1・2 歳児)の発達と保育の内容
授業概要	乳幼児保育の意義と必要性や乳幼児保育の現状を理解し、乳児期の発達を理解した上で「乳児保育」や「1 歳以上 3 歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容や保育者との関わりの重要性について学ぶ。グループでの学び合いを中心にプレゼンテーションや模擬保育を行う。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.乳幼児保育の意義と必要性・乳幼児保育の現状を知る。			◎	
2.乳幼児の発達を理解し、発達一覧表を作って、より発達の連続性を確かにする。	◎			
3.保育所が目指す目標や幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿について、0・1・2 歳児として考えてみる。	◎			
4.「乳児保育(0 歳児)」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる。	◎	○		
5.「1 歳以上 3 歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる。	◎	○		

履修条件・注意事項	発達理解のための一覧表を作成することが望ましい。 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 本科目の目標や概要について知り、本科目に興味・関心を持ち、予習の必要性を知り積極的に学ぶ(目標 1,2,3,4,5) 2. 予習したことをもとに乳幼児保育の意義・必要性、乳幼児保育の現状について深く考えてみる(目標 2) 3. 0 歳児の発達を理解する①発達の一覧表の作成(身体運動・手指の操作) (目標 2) 4. 0 歳児の発達を理解する②発達の一覧表の作成(対人関係・言葉・認識・生理的特徴) (目標 2) 5. 1・2 歳児の発達を理解する①発達一覧表の作成(身体運動・手指の操作) (目標 2) 6. 1・2 歳児の発達を理解する②発達一覧表の作成(対人関係・言葉・認識・生理的特徴) (目標 2) 7. 0・1・2 歳児の発達を自分で作成した発達一覧表をもとに、映像を見ながら実際を確認し発達のイメージをつかむ (目標 2) 8. 保育所が目指す目標について養護と教育が一体的に行われることの大事さをグループで学び合い子どもの「最善の利益」最もふさわしい生活場はどのようなものかを考え合う (目標 3) 9. 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を 0・1・2 歳児として考え、保育のあり方、保育者としてのはたらきかけ方を考えてみる (目標 3) 10. 乳児保育(0 歳児保育)に関わるねらい及び内容を学び、保育のねらいとしての「3 つの視点」について、また養護についてグループで深め合う (目標 4) 11. 乳児保育(0 歳児保育)の指導案を各自作成してみる (目標 4) 12. 1 歳以上 3 歳児未満児の保育に関わるねらい及び内容を学び 5 領域をまとめ、発達の特性と重なっていることをグループで深め合う (目標 5) 13. 1 歳以上 3 歳児未満の保育の指導案を各自作成してみる (目標 5) 14. 0・1・2 歳児の健康・安全や保育所の衛生、食育(アレルギーを含む)について、また災害についての備え等、保育者として特に知っておいて欲しいことを、子どもを守る立場で考え、調べたことを発表する (目標 4,5) 15. 0・1・2 歳児の保育の今後の課題について考え、本科目のまとめとして 0・1・2 歳児の保育を担当する時、特に大切にしたいことを発表する
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、模擬保育
成績評価基準	評価の方法: ノートの内容(予習・復習)(30%)、グループ討議の取組(30%)、発達一覧表(10%)、指導案(10%)、まとめの発表(20%)を総合的に判断 評価の基準:授業の取組み、授業の理解度、提出物の内容、予習復習ノートの内容 等
フィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の定着度を確認、解説。授業に終わりに質問を受け、解説する。
時間外の学習について	予習:参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく。(各回 90 分程度) 復習:授業内容を日々まとめてノートを作成する。 (各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『乳児保育』 民秋言・小田豊・朽尾勲・無藤隆編集、増田まゆみ編著 参考書:『保育所保育指針』
担当者からのメッセージ等実務経験について	人間が生まれて、成長発達しながら大きくなりますが、0・1・2 歳の時にしか育たないことがあります。 それは一生にかかわることです。それを一緒に学びましょう。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>乳児保育Ⅱ</td><td>教員名</td><td>渡邉 二美子
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2085-100000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">2年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">0・1・2歳児の発達理解と、健やかな成長を援助することのできる専門性の高い保育者としての視点及び具体的な保育の方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">乳幼児保育の内容を踏まえ、具体的な援助の方法や配慮を実践し、乳幼児の生活援助の方法を身につける。又、発達にともなう遊びの内容を理解する。グループワークを中心にディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ主体的に学習できる様にする。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 0・1・2歳児の発達理解を説明でき、保育の実際の知識・技能を身につける。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 0・1・2歳児のよりよい保育環境と保育条件等を考え、質の高い専門性を身につける。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 乳幼児保育の特性や保護者支援等について、社会背景を分析考慮しながら、保育者のあり方を考える。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 乳幼児の発達過程の理解と保育の実際①誕生～6ヵ月 (目標 1)
2. 乳幼児の発達過程の理解と保育の実際②6ヵ月～1歳3ヵ月 (目標 1)
3. 乳幼児の発達過程の理解と保育の実際③1歳3ヵ月～2歳 (目標 1)
4. 乳幼児の発達過程の理解と保育の実際④2歳～3歳 (目標 1)
5. 授業1～4までの内容の定着度確認と解説 (目標 1)
6. 乳幼児保育の内容と実際①玩具、遊具、環境設定等年齢別に考える (目標 2)
7. 乳幼児保育の内容と実際②遊びと学びについて、養護と教育の一体的な関わりについて考える(目標 2)
8. 乳幼児保育の内容と実際③心身の発達の個別性の理解と知識を身につける (目標 2)
9. 乳幼児保育の内容と実際④生活習慣 (目標 2)
10. 授業6～9の内容の定着度確認と解説 (目標 2)
11. 乳幼児保育を支える保育計画と記録 (目標 1,2)
12. 0・1・2歳児の環境及び衛生管理、安全管理についてどうあるべきか考える (目標 3)
13. 0・1・2歳児の保護者に対する子育て支援のあり方を考える (目標 3)
14. 乳幼児がおかれている社会背景を分析考慮し保育のあり方を考える (目標 3)
15. 乳幼児の健やかな成長を援助するための専門性の高い保育者とはどのようなことか、学んだことや身につけたことをふり返る (目標 1,2,3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、プレゼンテーション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: ノートの内容(予習・復習)(30%)、実践・実技の内容(30%)、乳幼児玩具の作成の取組み(20%)、グループでの話し合いの態度(20%) を総合的に判断
評価の基準:授業の取組み、授業の理解度、提出物の内容、予習復習ノートの内容 等</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">テーマごとに目標が達成でき定着しているかを単元ごとに授業内で確認する。(授業5,10,15)</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:予習ノートを作成、製作物の作成、等(各回45分程度)
復習:授業で行ったことをまとめ、ノート作りを行う。(各回45分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『乳児保育』民秋言・小田豊・朽尾勲・無藤隆編集、増田まゆみ編著
参考書:『保育所保育指針』</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">乳幼児の保育内容の質を上げ、よりよい保育者となるために実技を充実させましょう。</td></tr>
</table>

授業科目名	子どもの健康と安全	教員名	金子 正枝 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2086-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	保育における保健・衛生・危機管理
授業概要	厚労省の関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における保育環境や衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。更に、保育における保健的対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応、及び感染症対策について理解する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.保育における感染症対策、事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインや近年のデータに基づく危機管理について理解し、行動に移すことができる。	○	◎		○
2.保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。	○		○	◎
3.子どもの発達や状態等に即した対応について具体的に理解できる。	◎	○		
4.子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解できる。	◎	○		
5.保育所における危機管理・災害への備えに関わる組織的取組の計画及び評価について理解できる。	○		◎	

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 保育における厚労省の関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保健及び危機管理の重要性が理解できる。(目標 1,2,3,4,5) 2. 子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理について理解できる。(健康観察)(目標 1,2,3,4) 3. 感染症の集団発生の予防、感染症発症時と罹患後の対応について理解できる。(目標 1,2,5) 4. 子どもの発育状態の測定と評価ができる。(身長、体重、胸囲、頭囲測定)実技(目標 2,3) 5. 子どもの体調不良の早期発見ができる。(バイタルサイン測定)実技(目標 2,3,4) 6. 子どもに多い症状への対応ができる。(発熱、熱中症、けいれん)(目標 1,2,3,4) 7. 子どもに多い症状への対応ができる。(嘔吐、脱水、下痢、便秘)(目標 1,2,3,4) 8. 子どもに多い症状への対応ができる。(アレルギー、アナフィラキシーショック)(目標 1,2,3,4,5) 9. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(外傷、熱傷)(目標 1,2,3,4,5) 10. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(頭部打撲、骨折、異物の誤飲・誤嚥)(目標 1,2,3,4,5) 11. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(衛生材料の使用法、保育所での与薬)実技(目標 1,2,3,4,5) 12. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(心肺蘇生法、窒息時の応急処置)実技(目標 1,2,3,4,5) 13. 保育における危機管理について理解できる。(目標 1,5) 14. 事故(災害)発生時の対応について理解できる。(目標 1,4,5) 15. 事故防止の組織的取組や事故対応について分析・評価できる。(目標 1,5) 定期試験
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、グループワーク
成績評価基準	評価の方法:定期試験・小テスト・課題(70%)、授業への取組(30%) 評価の基準:目標の内容理解と授業への取組の姿勢を観て判断します。
フィードバックの方法	実技後に学び、感じ、疑問に思った内容をレポート。次回の授業にてコメントして返却します。
時間外の学習について	予習:授業計画の項目について、テキスト等を使い事前学習してください。(各回45分程度) 復習:小テストを行うので、復習をしておいてください。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:大西文子編集／執筆「子どもの健康と安全」中山書店 参考書:添田久美子/石井拓児編著「事例で学ぶ学校の安全と事故防止」ミネルヴァ書房
担当者からのメッセージ等実務経験について	・報道されている新しい情報は、資料として配布します。 ・科学的に考える習慣をつけましょう。科学的な根拠をもって行う技術は、自信につながります。 ・実技では、準備から後始末まで積極的に関わり、指示待ちにならないようにしましょう。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>障害児保育Ⅰ</td><td>教員名</td><td>岡本　実
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2087-100000</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">インクルーシブ保育、発達期の障害と発達支援、ストレングス視点、障害の社会モデル</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">保育所や幼稚園、児童発達支援センターなどにおける障害児保育の意義を知り、現状を把握する。また、障害をもつ子どもの援助法や指導法について、具体的かつ実践的に学習する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(1)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.障害児を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児およびその保育について理解する。</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.様々な障害について理解し、子どもの理解援助の方法、環境構成等について学ぶ。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 障害児保育を支える理念(障害の概念と障害児保育の歴史的変遷) (目標 1)
2. 障害児保育の基本 (目標 1)
3. 障害児の理解と保育における発達の援助(肢体不自由・視覚・聴覚障害) (目標 2)
4. 障害の種類および特徴と保育①:肢体不自由 (目標 2)
5. 障害の種類および特徴と保育②:言語障害児 (目標 2)
6. 障害の種類および特徴と保育③:知的障害とダウン症 (目標 2)
7. 障害の種類および特徴と保育④:情緒障害児 (目標 2)
8. 障害の種類および特徴と保育⑤:自閉症児 (目標 2)
9. 障害の種類および特徴と保育⑥:アスペルガー症候群・高機能自閉症等 (目標 2)
10. 障害児への保育支援①:食事・排泄・更衣等 (目標 2)
11. 障害児への保育支援②:肢体不自由児の支援 (目標 2)
12. 障害児への保育支援③:知的障害児の支援 (目標 2)
13. 障害児への保育支援④:情緒障害児の支援 (目標 2)
14. 障害児の相談機関～障害手帳 (目標 2)
15. ADHD・TEACCH プログラムとは何か、まとめと確認テスト (目標 1,2)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:定期試験(50%)、ワークシート・レポート(20%)、授業への取り組み(30%)
評価の基準:様々な障害の種類や特徴を理解し、適切な支援方法を考えることができる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">ワークシート、レポートについてコメントをする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:次回の学習内容について、テキストの関連個所に目を通し、ポイントを整理する。(各回 45 分程度)
復習:授業内容の整理、復習を行う。(各回 45 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「障害のある子どもの保育・教育の実践」中山智哉編著 2022 年 学文社 ISBN:978-4-7620-3121-2
参 考 書:その都度紹介します。
参考資料:その都度紹介します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">近年、障害児支援の分野では、国連の障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正、発達障害者支援法の成立、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。
障害のある子の早期支援、家族支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。</td></tr>
</table>

授業科目名	障害児保育Ⅱ	教員名	岡本　実 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2088-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	保育計画、保育における個別支援、保護者支援、関係機関との連携、障害児保育の課題
授業概要	障害の種類・特徴を知り、その子どもたちをどのように保育の中で支援するのか、また支援すればよいのかを見出し、保育実践に生かせるようにする。また、障害の子どもがいることにより、他の子どもの反応、家族、特に兄弟の気持ちを実践例・アンケート等により探り、その現状と課題について理解する。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。	◎		○	◎
2.障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。		○	○	◎
3.障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。		◎		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 知的障害児の理解と援助 (目標 1) 2. 発達障害児の理解と援助①:ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害 (目標 1) 3. 発達障害児の理解と援助②:PDD－広汎性発達障害 (目標 1) 4. 発達障害児の実際:保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 (目標 1) 5. 個々の発達を促す生活や遊びの環境 (目標 1) 6. 子ども同士の関わりと育ち合い (目標 1) 7. 職員間の連携 (目標 1,2) 8. 家庭および関係機関との連携:保護者や家族に対する理解と支援 (目標 2) 9. 地域の専門機関との連携 (目標 2) 10. 小学校との連携 (目標 2) 11. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題①:保健・医療における現状と課題 (目標 3) 12. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題②:福祉・教育における課題 (目標 3) 13. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題③:支援の場の広がりとつながり (目標 3) 14. 保育計画の作成① (目標 1) 15. 保育計画の作成②、まとめと確認テスト (目標 1)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法:定期試験(50%)、ワークシート・レポート(20%)、授業への取り組み(30%) 評価の基準:様々な障害の種類や特徴を理解し、適切な支援方法を考えることができる。
フィードバックの方法	ワークシート、レポートについてコメントをする。
時間外の学習について	予習:次回の学習内容について、テキストの関連個所に目を通し、ポイントを整理する。(各回 45 分程度) 復習:授業内容の整理、復習を行う。(各回 45 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:「障害のある子どもの保育・教育の実践」中山智哉編著 2022 年 学文社 ISBN:978-4-7620-3121-2 参考書:その都度紹介します。 参考資料:その都度紹介します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	近年、障害児支援の分野では、国連の障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正、発達障害者支援法の成立、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。 障害のある子の早期支援、家族支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。

授業科目名	社会的養護Ⅱ	教員名	川村 宏司 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2089-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	社会的養護の方向性と、家族・子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」という視点で探求し、考察する。 (広い見識、専門的知識、技能、実践力)
授業概要	子どもの権利や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実際を学ぶ。事例を通して、日常生活支援・治療的支援・自立支援の支援内容を具体的に検討し考察後の振り返りを行う。相談援助の知識・技術・方法を理解し、具体的な実践の場を想定し、ソーシャルワークの知識や視点を持った対応の方法を学ぶ。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。

達成目標

DP番号	科目DP:(1) (1)	(2)	(3)	(4)
1. 社会的養護における子どもの権利擁護と保育士等の倫理について理解する。	○		◎	○
2. 施設養護及び家庭養護の生活特性を理解する。	◎		○	○
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価について理解する。		○	◎	
4. 社会的養護におけるソーシャルワークの方法・技術について理解し、事例を通して理解を深める。		○	◎	
5. 社会的養護の課題とこれからの展望について、児童家庭福祉、地域福祉について理解する。			◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 子どもの権利擁護について理解し、その取り組みや支援の質の向上を図るための方法について学ぶ。(目標 1,3) 2. 社会的養護における子どもの理解について学ぶ。(目標 1,2) 3. 日常生活支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4) 4. 治療的支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4) 5. 自立支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。(目標 1,3,4) 6. 施設養護の生活特性及び実際(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)について理解する。(目標 2,3) 7. 施設養護の生活特性及び実際(児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設)について理解する。(目標 2,3) 8. 家庭養護の生活特性及び実際(里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度)について理解する。(目標 2,3) 9. 自立支援計画策定について理解し、アセスメントを行う上での視点を学ぶ。(目標 1,2,3,4) 10. 事例をもとに、自立支援計画の策定を通して、子どもの自立への理解を深める。(目標 1,2,3,4) 11. 記録の意義と役割・自己評価について学び、理解を深める。(目標 1,2,3) 12. 児童福祉施設における保育士の位置づけを理解し、社会的養護における保育士の専門性について学ぶ。(目標 1) 13. ソーシャルワークの意味,必要性,知識を理解し、実践におけるソーシャルワークについて考察する。(目標 1,3,4) 14. 社会的養護における家庭支援について理解を深める。(目標 1,3,4) 15. 社会的養護の課題と展望について理解を深め、考察する。(目標 2,4)
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:授業態度 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (40%) 評価の基準:○授業態度 ＊関心・意欲の測定 ＊態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ○小テスト・レポート 定期試験 ＊知識・理解の定着度を測定 ＊思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べることができる。
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。
時間外の学習について	予習:次回の授業のキーワードを提示し、それについて調べておく。(各回45分程度) 復習:テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料等:適宜配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	児童養護施設実務経験:子どもとのかかわりを通して、子どもがどのように感じていたか等のエピソードを話します。 社会的養護社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子育て支援</td><td>教員名</td><td>野村 不二子
（単独）</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-2090-100000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">4年前期</td><td>中学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭（英語）</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目（保育士）</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の内容・方法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育の専門性を背景とした保護者支援、保育士の行う子育て支援</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">保育士の専門性を背景とした保護者支援について理解を深める。また、実践例やロールプレイ等を通して保育士の行う子育て支援について具体的に理解することを目指す。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:（1）</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援について、その特性と展開を理解する。</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.保育士の行う子育て支援の内容と方法および技術を理解する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.実践例等を通して、子育て支援について具体的に理解する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 子どもの保育とともに行う保護者支援 （目標 1,2）
2. 日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 （目標 1,2）
3. 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解 （目標 1,2）
4. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 （目標 1,2）
5. 支援の計画と環境の構成 （目標 2,3）
6. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス （目標 2,3）
7. 職員間の連携・協働 （目標 3）
8. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 （目標 2,3）
9. 保育所等における支援 （目標 1,2,3）
10. 地域の子育て家庭に対する支援 （目標 3）
11. 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援 （目標 2,3）
12. 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 （目標 2,3）
13. 子ども虐待の予防と対応 （目標 2,3）
14. 要保護児童等の家庭に対する支援 （目標 2,3）
15. 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解、まとめと確認テスト （目標 1,2,3）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 演習やロールプレイ等授業（40%）、確認テスト・課題・レポート（60%）
評価の基準: 身につけた知識や理論を活用して積極的に演習へ参加しているか、他者と協力して学びを深めようとしているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">課題やレポート、ロールプレイ等に対してコメントをする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:子育てに関する時事的な新聞記事等に目を通す。（各回 45 分程度）
復習:授業内で完成できなかった課題および確認テストに向けて授業内容の整理、復習を行う。（各回 45 分程度）</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参 考 書:「新保育シリーズ 19 子育て支援」公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴＝編集 2019 年 中央法規出版
参考資料等:適宜紹介・配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	特別支援教育総論	教員名	佐藤真澄、門脇弘樹、松田信夫、川間弘子 松岡勝彦、林田真志 須藤邦彦、船橋篤彦	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2091-000001				中学校教諭(英語)	
		年次配当	2年前期 (集中講義を含む)		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	必修
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目(特別支援学校)
授業テーマ	特別支援
授業概要	本科目では, 特別支援教育の理念・歴史・法律・政策等に関する基礎的内容を解説する。また, 対象となる各障害の障害特性や指導方法, 特別支援教育を支えるシステムやツール等, 実践的な内容について解説し, 事例検討等の演習も行う。最後に, 特別支援教育を巡る最新の動向を解説し, 今後の課題について考察する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.特別支援教育の理念および歴史・法律・政策等に関する基礎的な内容を理解する。	◎			
2.特別支援教育の対象である各障害の障害特性やアセスメント, 指導方法について理解する。		◎	○	
3.特別支援教育を支えるシステムやツールについて理解する。		◎	○	
4.特別支援教育を巡る最新の動向について理解する。	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	※随時, グループワークや事例検討等の演習を行う。 1. イントロダクション(目標 1) (担当教員:門脇弘樹) 特別支援教育の対象や制度について簡単に解説するとともに, 本科目の概要や予定を説明する。 2. 特別支援教育の歴史と制度(目標 1) (担当教員:門脇弘樹) 特別支援教育の歴史や法律, 政策, 教育システムについて, 特殊教育と対比しながら解説する。 3. 特別支援教育の理念とその背景にある障害観(目標 1) (担当教員:門脇弘樹) 障害観の変遷についてICIDHやICFの観点から解説し, 特別支援教育の理念について解説する。 4. 学習指導要領と教育課程(目標 3) (担当教員:松田信夫) 特別支援学校学習指導要領をはじめとして, 学習指導要領と教育課程の内容について解説する。 5. 視覚障害(目標 2) (担当教員:門脇弘樹) 視覚障害の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 6. 聴覚障害(目標 2) (担当教員:林田真志) 聴覚障害の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 7. 言語障害(目標 2) (担当教員:川間弘子) 言語障害の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 8. 知的障害(目標 2) (担当教員:松田信夫) 知的障害の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 9. 肢体不自由と病弱(目標 2) (担当教員:船橋篤彦) 肢体不自由と病弱の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 10. 自閉症と情緒障害(目標 2) (担当教員:須藤邦彦) 自閉症(高機能自閉症等を含む)と情緒障害の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 11. LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)(目標 2) (担当教員:松岡勝彦) LD(学習障害)とADHD(注意欠陥多動性障害)の障害特性やアセスメント, 指導法等について解説する。 12. 個別の指導計画と個別の教育支援計画(目標 3) (担当教員:門脇弘樹) 個別の指導計画と個別の教育支援計画の意義や作成手順等について解説する。 13. 通常の学校における特別支援教育(目標 3) (担当教員:門脇弘樹) 特別支援学級や通級指導教室とともに, 通常の学級での支援の在り方についても解説する。 14. 校外連携の在り方(目標 3) (担当教員:佐藤真澄) 医療、福祉、労働等、校外機関との連携の在り方について解説する。 15. インクルーシブ教育と合理的配慮(目標 4) (担当教員:門脇弘樹) インクルーシブ教育と合理的配慮について, 最新の法律や報告等から解説する。 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法:試験(100%) 評価の基準:特別支援教育の理念や制度、各障害の障害特性と指導方法などについて理解できる。
フィードバックの方法	各回でふりかえりの時間を設け、出された質問・意見についてコメントする。
時間外の学習について	予習:テキストや適宜配布する資料を読んでおく。各回90分程度。 復習:テキストや適宜配布する資料を中心に復習する。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:『 特別支援教育総論―インクルーシブ時代の理論と実践』、川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己編著、北大路書房 参考書:特になし。 参考資料等: 各授業において適宜資料を配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>知的障害児の心理・生理・病理</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">松岡 勝彦
元山 将</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2092-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期
(集中講義)</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する科目</td><td colspan="6">特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)</td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="7">心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="7">知的障害、心理・生理・病理、応用行動分析</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="7">知的障害教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の基礎的内容を解説したうえで、知的障害児の心理について具体的な事例を概観しながら理解を深める。その際には、疾病のみならず人的・物的・制度的環境や治療上の制約といった知的障害児を取り巻く状況と関係付けて、知的障害児の心理が理解できることをねらいとする。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.知的障害教育の対象となる子どもの病理・生理の基礎的内容について理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.知的障害のある子どもを取り巻く状況と心理について関連付けて理解できる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.知的障害のある子どもの心理と求められる指導・支援について自分なりの意見を述べることができる。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="7">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">1. 知的障害児とは （目標 1,2)(担当:松岡勝彦)
2. 知的障害教育の対象となる子どもの病理・生理 （目標 1)(担当:元山将)
3. 知的障害児の行動理解①:知的障害理解の枠組み （目標 1,2,3)(担当:松岡勝彦)
4. 知的障害児の行動理解②:行動原理の基礎 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
5. 知的障害児の行動理解③:状況要因ほか （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
6. 知的障害児の心理と指導法①:行動目標の立て方 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
7. 知的障害児の心理と指導法②:記録の仕方 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
8. 知的障害児の心理と指導法③:適切行動を増やす指導 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
9. 知的障害児の心理と指導法④:不適切行動を減らす指導 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
10. 知的障害児の心理と指導法⑤:行動問題の理解と指導 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
11. 子どもたちの特徴:知的障害 （目標 1,2,3)(担当:松岡勝彦)
12. 子どもたちの特徴:ダウン症 （目標 1,2,3)(担当:松岡勝彦)
13. 子どもたちの特徴:自閉症スペクトラム （目標 1,2,3)(担当:松岡勝彦)
14. 知的障害児に対する日常生活スキルの指導 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)
15. 知的障害児に対する言語行動の指導 （目標 2,3)(担当:松岡勝彦)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="7">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="7">評価の方法:授業態度(10%)、授業中に提示した課題の提出(40%)、最終レポート(50%)
評価の基準: 授業態度:積極的に参加している。課題の提出:学習内容の理解と毎回の提出
レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="7">授業中にコメントする</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="7">予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ 90 分程度
復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="7">テキスト:特になし
参考書:授業の中で適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理	教員名	船橋 篤彦 元山 将	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2093-000001				中学校教諭(英語)	
		年次配当	3年後期 (集中講義)		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	必修
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
授業テーマ	肢体不自由、心理・生理・病理、発達支援
授業概要	肢体不自由教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の内容を解説したうえで、肢体不自由児の発達と学習について理解を深める。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.肢体不自由児の生理・病理について理解する。	◎			
2.肢体不自由児の心理に関する姿勢・運動, 認知, コミュニケーションなどについて理解する。	◎			
3.姿勢・運動を支える感覚系と姿勢反射反応の神経生理について理解する。		◎		
4.肢体不自由児の発達における相互関連と調和的発達の重要性を理解する。		◎	○	

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. オリエンテーション:肢体不自由児の心理・生理・病理を学ぶ意義 (目標 1)(担当:船橋篤彦) 2. 肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理①:脳性麻痺他 (目標 1)(担当:元山将) 3. 肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理②:脊椎損傷他 (目標 1)(担当:元山将) 4. 姿勢・運動の発達 (目標 2,3)(担当:船橋篤彦) 5. 姿勢・運動の発達を支える感覚 (目標 2,3)(担当:船橋篤彦) 6. 姿勢・運動の発達を支える姿勢反射反応 (目標 2,3)(担当:船橋篤彦) 7. 肢体不自由児の身体の動き(姿勢・運動)とその発達 (目標 2,3)(担当:船橋篤彦) 8. 肢体不自由児の環境の把握(認知)とその発達 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 9. 肢体不自由児のコミュニケーションとその発達 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 10. 肢体不自由児の人間関係とその発達 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 11. 肢体不自由児の心理的安定とその発達 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 12. 肢体不自由児の健康の保持とその発達 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 13. 肢体不自由児の学習行動と障害による困難 (目標 2)(担当:船橋篤彦) 14. 肢体不自由児の各発達領域の相互関連の重要性 (目標 4)(担当:船橋篤彦) 15. 肢体不自由児の調和的発達の重要性 (目標 4)(担当:船橋篤彦)
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法:授業態度(10%)、授業中に提示した課題の提出(30%)、最終レポート(60%) 評価の基準: 授業態度(積極的に授業に参加する)、授業中に提示した課題の提出(記述内容が適切である)、最終レポート(授業で扱った内容を理解している、根拠を明確にして自説を述べている)
フィードバックの方法	課題回収後、解説を行う。
時間外の学習について	予習:テキストや講義資料を読んでおく(各回90分程度)。 復習:テキストや講義資料を中心に復習する(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:木舩憲幸『2011 脳性まひ児の発達支援―調和的発達を目指して』北大路書房 講義用に作成した資料も使用する。 参考書:授業時に随時紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>病弱児の心理・生理・病理</td><td>教員名</td><td>深澤 美華恵
名島 潤慈
元山 将(実務経験)
佐藤 真澄
前場 進治(実務経験)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2094-000001</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期
(集中講義)</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別支援教育に関する科目</td><td colspan="5">特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td colspan="2">各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="5">心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業テーマ</td><td colspan="5">病弱、心理・生理・病理、疾病、医療的ケア</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">病弱教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の基礎的内容を解説したうえで、病弱児の心理について具体的な事例を概観しながら理解を深める。その際には、疾病のみならず人的・物的・制度的環境や治療上の制約といった病弱児を取り巻く状況と関連付けて、病弱児の心理が理解できることをねらいとする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">達成目標</td><td colspan="5">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.病弱教育の対象となる子どもの病理・生理の基礎的内容について理解できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.病弱児を取り巻く状況と心理について関連付けて理解できる。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.病弱児の心理と求められる支援について自分なりの意見を述べることができる。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td colspan="2">履修条件・注意事項</td><td colspan="5">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業計画</td><td colspan="5">1. イントロダクション「 病弱児とは」 (目標 1,2,3) (担当:深澤美華恵)
2. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理①:呼吸器疾患 (目標 1) (担当:前場進治)
3. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理②:循環器疾患 (目標 1) (担当:元山将)
4. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理③:消化器疾患 (目標 1) (担当:前場進治)
5. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理④:腎・泌尿器疾患 (目標 1) (担当:元山将)
6. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑤:血液・腫瘍疾患 (目標 1) (担当:元山将)
7. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑥:内分泌疾患、生活習慣病 (目標 1) (担当:前場進治)
8. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑦:神経疾患 (目標 1) (担当:前場進治)
9. 病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑧:心の病 (目標 1) (担当:名島潤慈)
10. 病弱児の心理的特性 (目標 2,3) (担当:深澤美華恵)
11. 病弱児を取り巻く状況と心理①:医療的ケアを受ける子ども (目標 2,3) (担当:深澤美華恵)
12. 病弱児を取り巻く状況と心理②:入院中あるいは自宅療養中の子ども (目標 2,3) (担当:深澤美華恵)
13. 病弱児を取り巻く状況と心理③:死にゆく子ども・ターミナルケア (目標 2,3) (担当:深澤美華恵)
14. 教育・医療・保健・福祉の連携と支援 (目標 2,3,) (担当:佐藤真澄)
15. 総括「病弱児を取り巻く状況と求められる支援とは」(グループワークを含む) (目標 2,3) (担当:佐藤真澄)</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクティブ・ラーニング</td><td colspan="5">グループワーク</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">評価の方法:レポート等の提出物(70%) 授業への参加度(グループワークを含む) (30%)
評価の基準: レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加度:積極的に参加している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">フィードバックの方法</td><td colspan="5">授業中にコメントする</td></tr>
<tr><td colspan="2">時間外の学習について</td><td colspan="5">予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。毎回 90 分程度
復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。毎回 90 分程度</td></tr>
<tr><td colspan="2">教材にかかわる情報</td><td colspan="5">テキスト:『特別支援教育に生かす 病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房
参考書:適宜、都度紹介する</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="5">前場・元山…小児科専門医として、実践的な話を交えて進めます。</td></tr>
</table>

授業科目名	発達障害の心理アセスメント	教員名	名島 潤慈 須藤 邦彦	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2095-000001				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年後期 (集中講義)		特別支援学校教諭	必修
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
授業テーマ	心理検査、性格検査、発達検査、社会生活能力検査、知能検査
授業概要	知的障害を含む発達障害の臨床・支援場面で利用される心理検査の理論、実施法、活用事例に関する講義と演習を行う。

達成目標

	科目 DP:(1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 心理アセスメントとは何かを理解する。	◎	◎	○	
2. 性格検査について理解する。		◎	○	
3. 発達検査や社会生活能力検査について理解する。		◎	○	
4. 発達障害に関する検査について理解する		◎	○	
5. 知能検査について理解する。		◎	○	

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ(状況によっては遠隔授業)
授業計画	1. 心理アセスメント概説―心理アセスメントの意義・留意点、心理アセスメントの方法(心理検査・面接・行動観察)、心理検査における倫理(目標 1)(担当:名島潤慈) 2. パーソナリティ面のアセスメント―バウムテスト・動的家族画・人物画(目標 2)(担当:名島潤慈) 3. 発達面や社会生活面のアセスメント―遠城寺式乳幼児分析的発達検査法(九大小児科改訂版)・ KIDS 乳幼児発達スケール・新版 K 式発達検査 2001・新版 S-M 社会生活能力検査(目標 3)(担当:名島潤慈) 4. 発達障害に関するアセスメント―日本語版 M-CHAT・AQ・AQ 児童用(目標 4)(担当 :名島潤慈) 5. 発達障害に関するアセスメント―CAARS 日本語版・Conners3 日本語版・STRAW-R(目標 4)(担当:名島潤慈) 6. 知能・認知面のアセスメント 田中ビネー知能検査 V①―検査概要と下位検査(目標 5)(担当: 須藤邦彦) 7. 知能・認知面のアセスメント 田中ビネー知能検査 V②―下位検査と結果分析(目標 5)(担当: 須藤邦彦) 8. 知能・認知面のアセスメント WISC-Ⅳ①―検査概要と下位検査(目標 5)(担当:須藤邦彦) 9. 知能・認知面のアセスメント WISC-Ⅳ②―下位検査と結果分析(目標 5)(担当:須藤邦彦) 10. 知能・認知面のアセスメント WISC-Ⅳ③―結果分析と支援(目標 5)(担当:須藤邦彦) 11. 知能・認知面のアセスメント K-ABC①―検査概要と下位検査(目標 5)(担当:須藤邦彦) 12. 知能・認知面のアセスメント K-ABC②―下位検査と結果分析(目標 5)(担当:須藤邦彦) 13. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS①―検査概要と下位検査(目標 5)(担当:須藤邦彦) 14. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS②―下位検査と結果分析(目標 5)(担当:須藤邦彦) 15. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS③―結果分析と支援(目標 5)(担当:須藤邦彦)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の基準: 発達障害の心理アセスメントに関する基礎的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。 評価の方法:レポート(70%) 授業中の態度・取り組みの姿勢(30%)
フィードバックの方法	課題やレポートに対してコメントする。
時間外の学習について	予習:次回の授業について予め学習しておく。(各回 90 分程度) 復習:自分なりのまとめのノートを作る。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。 参考書:授業のなかで適宜紹介する。 参考資料等:資料は授業のなかで適宜配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	可能な限りいろいろなテストを実際にやってもらいます。

授業科目名	知的障害教育論	教員名	松田 信夫(実務経験) 門脇 弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2096-000001				中学校教諭(英語)	
		年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	必修
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
授業テーマ	知的障害、発達障害、教育課程と教育支援
授業概要	知的障害教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び知的障害児教育の実際についてふれる。知的障害の概念や知的障害児教育の歴史、知的障害児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、知的障害教育にかかわる教員の資質を考察したい。加えて、知的障害の近接領域である発達障害のある子どもへの支援についても理解する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.知的障害教育の概要を理解する。	◎			
2.知的障害児の教育課程と教育支援について理解する。	◎			
3.特別支援教育における知的障害教育の実践について理解する。		◎		
4.知的障害教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 特別支援教育の意義・歴史(古代～中世)(目標 1) 担当:松田信夫 2. 特別支援教育の意義・歴史(近代～平成)(目標 1) 担当:松田信夫 3. 知的障害児の成長・発達(目標 1) 担当:松田信夫 4. 個に応じた指導の必要性(目標 2) 担当:松田信夫 5. 教科等を合わせた指導～生活単元学習の指導～(目標 2) 担当:松田信夫 6. 教科等を合わせた指導～指導上の配慮点～(目標 2) 担当:松田信夫 7. 知的障害児への数量指導(目標 3) 担当:松田信夫 8. 知的障害児への言語指導(文字・文指導)(目標 3) 担当:松田信夫 9. 知的障害児への言語指導(コミュニケーション指導)(目標 3) 担当:松田信夫・門脇弘樹 10. 知的障害児への自立活動の指導(排尿指導、歩行指導)(目標 3) 担当:松田信夫 11. 学校教育終了後の人生を見通した指導(目標 4) 担当:松田信夫 12. 発達障害児の成長を学校全体で支えるために～応用行動分析の視点から～(目標 3) 担当:松田信夫 13. 発達障害児の成長を学校全体で支えるために～伝統的な学級経営の視点から～(目標 3) 担当:松田信夫 14. 児童生徒の側に立つ (目標 3) 担当:松田信夫 15. 思わぬ展開になることもある授業 (目標 3) 担当:松田信夫 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法: 授業態度(10%)、授業中に提示した課題の提出(10%)、最終レポート(30%)、学習課程の記録(ポートフォリオ)(10%)、試験(40%) 評価の基準: 授業態度(積極的に授業に参加する)、課題の提出(記述内容が適切である)、最終レポート(根拠を明確にして自説を述べている)、学習課程の記録(学習を適切に整理できている)、試験(講義で扱った内容を理解している)
フィードバックの方法	次回の授業の際に、コメントを述べる。
時間外の学習について	予習:講義で使用する資料を読んでおく(毎回90分程度)。 復習:講義で使用する資料を中心に復習する(毎回90分程度)。
教材にかかわる情報	テキスト:講義用に作成した資料を使用する。 参考書:授業時に随時紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	小学校特別支援学級教員経験:実践的な話を交えて進めます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>肢体不自由教育論</td><td>教員名</td><td>川間 弘子(実務経験)
一木　薫(実務経験)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保　育　士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-2097-000001</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期
(集中講義)</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="6"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する科目</td><td colspan="6">特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">肢体不自由、教育課程と教育支援</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">肢体不自由教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び肢体不自由児教育の実際についてふれる。肢体不自由の概念や肢体不自由児教育の歴史、肢体不自由児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、肢体不自由児教育にかかわる教員の資質を考察したい。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.肢体不自由教育の概要を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.肢体不自由児の教育課程と教育支援について理解する。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.特別支援教育における肢体不自由教育の実践について理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.肢体不自由教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 肢体不自由教育における対象児 (目標 1)(担当:一木 薫)
2. 肢体不自由教育の歴史 (目標 1)(担当:一木 薫)
3. 肢体不自由児の理解(1)～概念と就学基準～ (目標 1)(担当:一木 薫)
4. 肢体不自由児の理解(2)～心理と行動特性～ (目標 1)(担当:一木 薫)
5. 肢体不自由教育の場 (目標 1)(担当:一木 薫)
6. 肢体不自由教育の教育課程 (目標 2)(担当:一木 薫)
7. 肢体不自由児の教育支援(1)～学習指導要領、指導計画の作成～ (目標 2)(担当:川間弘子)
8. 肢体不自由児の教育支援(2)～自立活動、日常生活の指導～ (目標 2)(担当:川間弘子)
9. 肢体不自由児の教育支援(3)～支援機器、移動、摂食指導～ (目標 2)(担当:川間弘子)
10. 肢体不自由児の教育支援(4)～各教科、遊びの指導～ (目標 3) (担当:川間弘子)
11. 個別の教育支援計画をもとにした肢体不自由教育支援 (目標 3)(担当:一木 薫)
12. 特別支援学校、特別支援学級における肢体不自由児教育の実際 (目標 3)(担当:一木 薫)
13. 肢体不自由児のライフステージと教育 (目標 4)(担当:一木 薫)
14. 肢体不自由教育のこれから (目標 4)(担当:一木 薫)
15. 肢体不自由教育にかかわる専門性 (目標 4)(担当:川間弘子)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 授業態度(10%)、授業中に提示した課題の提出(30%)、最終レポート(30%)、学習過程の記録(ポートフォリオ)(30%)
評価の基準: レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加の態度:積極的に参加している。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントする</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ 90 分程度
復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:「自立活動の理念と実践」古川勝也・一木薫編著 2016 年 ジアース教育新社
特別支援学校学習指導要領(平成 29 年 4 月)
〃 解説(総則編)
〃 〃 (自立活動編)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">養護学校・特別支援学校教員経験:実践的な内容を交えて進めます。</td></tr>
</table>

授業科目名	病弱教育論	教員名	深澤 美華恵 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2098-000001				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	4年前期 (集中講義)		特別支援学校教諭	必修
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
授業テーマ	病弱、教育課程と教育支援
授業概要	病弱教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び病弱児教育の実際についてふれる。病弱の概念や病弱児教育の歴史、病弱児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、病弱児教育にかかわる教員の資質を考察したい。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.病弱教育の概要を理解する。	◎			
2.病弱児の教育課程と教育支援について理解する。	◎			
3.特別支援教育における病弱教育の実践について理解する。		◎	○	
4.病弱教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。		◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 病弱教育における対象児と疾患の理解 (目標 1) 2. 病弱教育の歴史 (目標 1) 3. 病弱児の理解(1)～概念と就学基準～ (目標 1) 4. 病弱児の理解(2)～心理と行動特性～ (目標 1) 5. 病弱教育の医療と教育の連携(院内学級) (目標 1) 6. 病弱教育の教育課程 (目標 2) 7. 病弱児の教育支援(1)～学習指導要領、指導計画の作成～ (目標 2) 8. 病弱児の教育支援(2)～自立活動、日常生活の指導～ (目標 2) 9. 病弱児の教育支援(3)～各教科、遊びの指導～ (目標 2) 10. 個別の教育支援計画をもとにした病弱教育支援 (目標 3) 11. 特別支援学級における病弱児教育の実際1 (目標 3) 12. 特別支援学校における病弱児教育の実際2 (目標 3) 13. 病弱児のライフステージと教育 (目標 4) 14. 病弱教育のこれから―情報機器の活用― (目標 4) 15. 病弱教育にかかわる専門性 (目標 4)
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法: 授業態度(10%)、授業中に提示した課題の提出(30%)、最終レポート(30%)、学習過程の記録(ポートフォリオ)(30%) 評価の基準: 授業参加の態度:積極的に参加している。レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。ポートフォリオ:既習事項を整理し、振り返りができる。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ 90 分程度 復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ 90 分程度
教材にかかわる情報	テキスト:講義用に作成した資料を使用する。 参考書:授業時に随時紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	特別支援学校教員経験:実践的な話を交えて進めます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>知的障害教育指導論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">松岡 勝彦
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-2099-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期
(集中講義)</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する科目</td><td colspan="6">特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">知的障害の特徴、教師としての心構え、応用行動分析に基づく指導の具体的方法論について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">知的障害のある人たちを支える「応用行動分析」の基礎について学習した後、知的障害(ダウン症、自閉症スペクトラムを含む)の特徴、日常生活スキル及びコミュニケーション並びに行動問題の理解と指導について、具体的実践事例を通して基本を抑える。
授業には DVD 等の映像を多めに使用する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">科目 DP: (1)
DP 番号 | (1) | (2) | (3) | (4)
1.知的障害のある人たちの基本的特徴について説明できる。 | ◎ | ○ | |
2.指導の基本的方法論について説明できる | ◎ | ○ | ○ | </td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 応用行動分析の基礎(応用行動分析の社会への貢献／行動の定義／ABC 分析ほか)(目標 1,2)
2. 応用行動分析の基礎(強化／罰(罰の危険性)／消去ほか)(目標 1,2)
3. 応用行動分析の基礎(行動目標の設定／行動の指標ほか)(目標 1,2)
4. 教育現場で使える指導方法(プロンプト法／トークンエコノミー法／レスポンスコストほか)(目標 1,2)
5. 教育現場で使える指導方法(モデリング／課題分析／チェイニングほか)(目標 1,2)
6. 教育現場で使える指導方法(回復過剰修正法／タイムアウトほか)(目標 1,2)
7. 研究計画(教育現場で応用できる研究計画ほか)(目標 1,2)
8. 知的障害の特徴(発達障害の分類／要素ほか)(目標 1)
9. 知的障害の特徴(知的障害の定義／診断基準／重症度ほか)(目標 1)
10. 知的障害の特徴(有病率／症状／教育的対応ほか)(目標 1)
11. 自閉症スペクトラムの特徴(対人的相互交渉／コミュニケーション／こだわりほか)(目標 1)
12. 自閉症スペクトラムの特徴(有病率／ことばに関する特徴ほか)(目標 1)
13. 知的障害のある人への指導事例(指導の前に／教師としての心構えほか)(目標 2)
14. 知的障害のある人への指導事例(日常生活スキル及びコミュニケーションの指導ほか)(目標 2)
15. 知的障害のある人への指導事例(行動問題のアセスメントとその結果に基づいた指導)(目標 2)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業参加度・授業態度 30%　レポート 70%
評価の基準: レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加の態度:積極的に参加している。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントする</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ 90 分程度
復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:講義で使用する資料はこちらで準備します。
参考書: 長澤正樹・関戸英紀・松岡勝彦(2005)『こうすればできる』:問題行動対応マニュアル.川島書店.</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>発達障害児の心理</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">名島 潤慈
(実務経験)
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-2100-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する科目</td><td colspan="6">免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(特別支援学校)</td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="7">・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="7">発達障害(神経発達症)、LD、ADHD、自閉症(自閉スペクトラム症)、知的障害(知的発達症)</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="7">いろいろな発達障害を有する子どもたちの心理や病理を理解し、適切な援助と対応を考える。なお、発達障害のなかでも特に自閉症について詳しく論ずる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 発達障害とは何かを理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2. LD の心理について理解する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3. ADHD の心理について理解する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4. 自閉症の歴史・定義について理解する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>5. 自閉症の心理と教育について理解する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="7">授業の実施方法:①面接授業のみ(状況によっては遠隔授業)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">1. 発達障害の定義と病理―DSM-Ⅳ-TR と DSM-5 と ICD-10 による診断基準(目標 1)
2. 障害児の早期発見と療育(目標 1)
3. 発達障害の二次障害・障害受容の問題(目標 1)
4. 発達障害に関する支援制度―教育支援・家族支援・法的支援・就労支援(目標 1)
5. 限局性学習症(LD)の心理と指導(目標 2)
6. 注意欠如多動症(ADHD)の心理と指導(目標 3)
7. 自閉症概念の歴史と変遷(目標 4)
8. アスペルガー症候群と高機能自閉症、自閉スペクトラム症(目標 4)
9. 知的障害と自閉症(目標 4)
10. 自閉症の心理(1)対人関係とコミュニケーションの障害・こだわり・感覚障害(目標 5)
11. 自閉症の心理(2)「心の理論(TOM)」(目標 5)
12. 自閉症の心理(3)高機能自閉症者の自伝から見る自閉症の内的世界ーその1(目標 5)
13. 自閉症の心理(4)高機能自閉症者の自伝から見る自閉症の内的世界ーその2(目標 5)
14. 自閉症の心理(5)「自閉症スペクトラム指数(AQ)」の児童用と成人用・「広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度(PARS)」(目標 5)
15. 自閉症の指導と教育(目標 5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="7">ディスカッション、グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="7">評価の方法:レポート(70%)　合計 3 回程度の小テスト(30%)
評価の基準:発達障害児の心理に関する基礎的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="7">小テストの結果をコメントする。レポートに対してコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="7">予習:次回の授業について予め学習しておく。各回 90 分程度
復習:自分なりのまとめのノートを作る。各回 90 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="7">テキスト:井澤信三・小島道生(編著)(2013)障害児心理入門[第 2 版] ミネルヴァ書房
参考書:Temple Grandin & Margaret M. Scariano(1986)カニングハム久子(訳)我、自閉症に生まれて 学習研究社
Donna Williams(1992)河野万里子(訳)自閉症だったわたしへ 新潮社
参考資料等: 資料は授業のなかで適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="7">スクールカウンセラー:20 年以上の経験に基づいて発達障害児の心理にアプローチします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>視覚障害児教育総論</td><td>教員名</td><td>牟田口 辰己(実務経験)
門脇 弘樹</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2101-000001</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期
(集中講義)</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="6">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する科目</td><td colspan="6">免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">視覚障害教育の教育課程と学習指導要領を解説するとともに，特別支援学校等(視覚障害)において展開されている授業の実際について，障害に応じた授業の特色を理解し，授業を構成するために必要な知識や技能，授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることをねらいとする授業である。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">盲教育や弱視教育における授業の計画，視覚障害を補うための配慮，教材・教具の工夫と評価等について，実践例を示しながら解説する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.視覚障害教育の概要を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.視覚障害児の教育課程と教育支援について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.特別支援教育における視覚障害教育の実践について理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 視覚障害者と点字1(日本点字の発明と6点点字の概要)(目標 1,2)(担当:牟田口辰己)
2. 視覚障害者と点字2(点字の読み書きの指導)(目標 1,2)(担当:牟田口辰己)
3. 視覚障害の状態の把握(目の機能と主要な眼疾患および心理学的知見)(目標 1,2)(担当:門脇弘樹)
4. 視覚障害児童生徒の就学基準と特別支援学校，弱視特別支援学級，弱視通級指導教室の概要(目標 2,3)
(担当:牟田口辰己)
5. 視覚障害教育の発展のあゆみ(目標 1,2,3)(担当:牟田口辰己)
6. 教育課程と学習指導要領(視覚障害自立活動の内容)(目標 1,2,3)(担当:牟田口辰己)
7. 特別支援学校(視覚障害)における教育の実際(幼稚部から職業教育)(目標 1,2,3)(担当:牟田口辰己)
8. 盲児に対する指導の配慮と工夫(学習指導要領で指摘される各教科に共通した配慮事項)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
9. 盲児に対する指導の配慮と工夫(点字教科書の編集)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
10. 弱視児に対する指導の配慮と工夫(見えにくさを補う光学補助具の活用)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
11. 弱視児に対する指導の配慮と工夫(拡大教科書の概要)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
12. 教科指導の実際1(国語における漢字・漢語の指導)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
13. 教科指導の実際2(算数における計算・図形の指導)(目標 2,3)(担当:牟田口辰己)
14. 視覚障害者と歩行(目標 1,2,3)(担当:門脇弘樹)
15. 視覚障害教育の課題と求められる専門性(目標 1,2,3)(担当:牟田口辰己)
定期試験</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:筆記試験(80%)、受講態度(20%)
評価の基準: 筆記試験(テキストの内容を扱った問題について回答できる)、受講態度(積極的に授業に参加する)</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業中にコメントを述べる。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業中に配布するテキストを講義までに読んでおく(各回 90 分程度)。
復習:授業中の配布資料を次回までに復習しておく(各回 90 分程度)。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:適宜資料を配布する。
参考書:講義の中で適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">盲学校教員経験:実践的な話を交えて進めます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>聴覚障害児教育総論</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">林田 真志
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-2102-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期
(集中講義)</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
</table>

特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(特別支援学校)
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
授業テーマ	聴覚障害の心理・生理・病理、ならびに教育課程と指導法に関する事項を学習し、聴覚障害幼児児童生徒にむけた教育を展開するための基礎的知識を習得する。
授業概要	聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級(聴覚障害)等における教育課程の編成、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実際について解説する。

達成目標

	科目 DP: (1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.聴覚障害教育の概要を理解する。	◎			
2.聴覚障害児の教育課程と教育支援について理解する。	◎		○	
3.特別支援教育における聴覚障害教育の実践について理解する。		◎	○	

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 聴覚の解剖学的構造と機能(目標 1,2,3) 2. 音の性質と聴覚の発達(目標 1,2) 3. 発達段階に応じたきこえの評価(目標 1,2) 4. 聴覚障害の原因ときこえの特徴(目標 1,2) 5. 聴覚障害の程度とその分類(目標 1,2) 6. 聴覚障害幼児児童生徒に対する教育課程の編成(目標 1,2) 7. 補聴器や人工内耳の原理と構造、ならびにその活用方法(目標 1,2) 8. 幼児期および児童期における聴覚学習の理論と実際(目標 1,2) 9. 聴覚障害幼児児童生徒に対するコミュニケーション指導(目標 2,3) 10. 聴覚障害児童生徒に対する書記言語指導(目標 2,3) 11. 聴覚障害児童生徒に対する教科指導(目標 2,3) 12. 聴覚障害生徒の肯定的な障害認識にむけた指導(目標 2,3) 13. 聴覚障害幼児児童生徒の社会性の発達を促す指導(目標 2,3) 14. 聴覚障害者にむけた福祉サービスとその活用方法(目標 2,3) 15. 聴覚障害教育を取り巻く動向(目標 1,2,3) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法:授業への参加意欲・態度(10%)、課題提出状況と課題達成度(15%)、筆記試験(75%) 評価の基準:授業への参加意欲・態度(積極的に授業に参加する)、課題提出状況と課題達成度(授業で扱った内容について理解している。記述内容が適切である)、筆記試験(授業で扱った内容について理解できている)
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習:配布する資料について、読んでおく。(各回 90 分程度) 復習:配布した資料を中心に、復習する。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:適宜資料を配布する。 参考書:・井澤信三 他(2010)『障害児心理入門』. ミネルヴァ書房. ISBN 9784623058143 ・脇中起余子(2009)『聴覚障害教育これまでとこれから』. 北大路書房. ISBN 9784762826900
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	現代教育課題Ⅰ	教員名	檜垣 英夫 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	CM3-2103-000000				小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					英語教育専攻	選択

授業テーマ	今日、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大している中、実践的指導力をもつ教員の育成は喫緊の課題である。 変化の激しい社会における教育的課題に柔軟に対応し、深い教育的愛情と使命感をもつ教師としての在り方を検討する。
授業概要	グローバル化や知識基盤社会の到来、少子高齢化の進展など、社会の急速な変化を理解した上で、学習指導要領がめざす教育、グローバル人材の育成、キャリア教育・職業教育の推進、いじめ・不登校等の児童生徒指導上の諸課題への対応、道徳教育、教職員の資質能力の向上等の様々な教育に関するトピックを収集するとともに、その具体的な支援や対応について検討する。

達成目標

	科目 DP: (1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.教育課題等を収集できる。	○	◎		
2.収集した教育課題等を理解できる。	○	◎	○	○
3.教育課題解決に向けての支援や対応を理解できる。	◎	○	○	
4.教育課題解決に向けての支援や対応を考えることができる。	◎	○		○
5.教育課題等について考え、発表することができる。	○	◎	◎	

履修条件・注意事項	小・中・高等学校の教員を希望している者 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. イントロダクション[授業の目的・内容・進め方／教育課題等の検討、収集の意義 他](目標 1) 2. 教育をめぐる現状と課題①――国の教育課題(目標 1,2,3) 3. 教育をめぐる現状と課題②――山口県の教育課題(目標 1,2,3) 4. 新学習指導要領がめざす教育(目標 1,2,3) 5. 学力向上の推進(目標 1,2,3) 6. キャリア教育・職業教育の推進(目標 1,2,3) 7. 学校安全・防災教育の在り方(目標 1,2,3) 8. 地域連携の在り方(目標 1,2,3) 9. 教育の情報化における現状と課題(目標 1,2,3) 10. 人権教育における現状と課題(目標 1,2,3) 11. 特別支援教育における現状と課題(目標 1,2,3) 12. 体罰・セクハラ・パワハラ等の現状(目標 1,2,3) 13. いじめへの対応(目標 1,2,3,4,5) 14. 不登校児童・生徒への対応(目標 1,2,3,4,5) 15. 教員に求められる資質・能力(目標 1,2,3,4,5)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等
成績評価基準	評価の方法: 小テスト(60%)レポート(30%)発表・グループワーク等への参加度(10%) 評価の基準: 教育課題等の現状と課題を理解し、その具体的な支援や対応について発表することができる。
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元について概要を収集しておく。各回90 分程度 復習:既習内容を理解し、実際に自分で発表できるようにする。各回90 分程度
教材にかかわる情報	テキスト:資料配布 参 考 書:『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版 『教員の最新事情がよくわかる本3』教育開発研究所 『最新の教育改革』教育開発研究所 『生徒指導提要』文部科学省 『文部科学省白書』文部科学省 参考資料等:随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ、児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。 授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします。

授業科目名	現代教育課題Ⅱ	教員名	檜垣 英夫 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	CM4-2104-000000				小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	今日、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大している中、実践的指導力をもつ教員の育成は喫緊の課題である。変化の激しい社会における教育的課題に柔軟に対応し、深い教育的愛情と使命感をもつ教師としての在り方を検討する。
授業概要	グローバル化や知識基盤社会の到来、少子高齢化の進展に伴った急速な社会の変化等を理解するとともに、第3期教育振興基本計画や国の答申・通知等を踏まえ、教育をめぐる様々な現状や課題等を収集、分析、検討する。また、その教育課題等に対する支援・対応にあたり、学校組織の一員として、学校及び家庭、地域・関係機関との連携の在り方を身につける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.教育課題等を収集・分析できる。	○	◎		
2.収集・分析した教育課題等を理解し、発表できる。	○	◎	○	○
3.教育課題等を整理し、その支援や対応を考えることができる。	◎	○	○	
4.教育課題等に対して、学校の一員としての支援や対応を考えることができる。	◎	○		○
5.教育課題等に対して、家庭、地域・関係機関との連携を視野に入れ、支援や対応を発表することができる。	○	◎	◎	

履修条件・注意事項	小・中・高等学校の教員を希望している者 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. イントロダクション[授業の目的・内容・進め方 他]／教育をめぐる現状と課題①(目標 1,2,3) 2. 教育をめぐる現状と課題②(目標 1,2,3) 3. 国の教育改革[第3期教育振興基本計画の概要 他](目標 1,2,3) 4. 新学習指導要領の方向性[育成すべき資質・能力／主な改定項目 他](目標 1,2,3) 5. 地域と連携した学校づくり[コミュニティスクール／カリキュラムマネジメント 他](目標 1,2,3,4,5) 6. 教員の資質・能力の向上(目標 1,2,3,4,5) 7. 授業改善、指導と評価の一体化による授業づくり 他(目標 1,2,3,4,5) 8. いじめ防止基本方針を踏まえた対応の在り方(目標 1,2,3,4,5) 9. 不登校児童生徒への支援の在り方(目標 1,2,3,4,5) 10. キャリア教育(目標 1,2,3,4) 11. 学校安全・学校事故・学校防災(目標 1,2,3,4,5) 12. 共生社会の形成[インクルーシブ教育／合理的配慮 他](目標 1,2,3,4,5) 13. 教育の情報化・プログラミング教育(目標 1,2,3,4) 14. 道徳教育(目標 1,2,3,4) 15. 働き方改革の動向(目標 1,2,3,4,5)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等
成績評価基準	評価の方法: 小テスト(60%)レポート(30%)発表・グループワーク等への参加度(10%) 評価の基準: 教育課題等の現状と課題を学校組織の一員としての視点から理解することができ、家庭、地域・関係機関との連携を踏まえて、その具体的な支援や対応について発表することができる。
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導
時間外の学習について	予習:指定された単元について概要を収集しておく。各回90分程度 復習:既習内容を理解し、実際に自分で発表できるようにする。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:資料配布 参考書:『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版 『教員の最新事情がよくわかる本3』教育開発研究所 『最新の教育改革』教育開発研究所 『生徒指導提要』『文部科学省白書』文部科学省 参考資料等:随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ、児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。 授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>資格英語Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">二五 義博
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM1-2105-000000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">1年前期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
</table>

授業テーマ	教育者に求められる英語運用力
授業概要	2020年度より小学校で英語が教科になりました。小学校教諭はCEFRの基準でB1，中高英語教員はB2以上の英語力を持つことが望ましいとされています。この授業を通じて，総合的な英語運用力の向上を目指します。

達成目標

以下の3点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.CEFRでB1相当の英語力を獲得している。	◎		○	◎
2.自分の考えを英語で表現しようとすることができる。			○	◎
3.与えられた英文をその意味を考えながら正しく調音化することができる。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 授業についての説明(目標 1,2,3) 2. 語彙問題演習(B1レベル)/テキストUnit 1(目標 1,2,3) 3. 語彙問題演習(B2レベル)/テキストUnit 1(目標 1,2,3) 4. Reading(B1レベル)/テキストUnit 2(目標 1,2,3) 5. Reading(B2レベル)/テキストUnit 2(目標 1,2,3) 6. Writing(B1レベル)/テキストUnit 3(目標 1,2,3) 7. Writing(B2レベル)/テキストUnit 3(目標 1,2,3) 8. Listening(B1レベル)/テキストUnit 4(目標 1,2,3) 9. Listening(B2レベル)/テキストUnit 4(目標 1,2,3) 10. Speaking(B1レベル)/テキストUnit 5(目標 1,2,3) 11. Speaking(B2レベル)/テキストUnit 5(目標 1,2,3) 12. 英語面接練習(B1レベル)/テキストUnit6(目標 1,2,3) 13. 英語面接練習(B2レベル)/テキストUnit6(目標 1,2,3) 14. 文法演習(B2レベル) (目標 1,2,3) 15. まとめ・到達目標の確認(目標 1,2,3)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表を中心とした授業を行う。
成績評価基準	評価の方法: グループワーク等への参加態度(20%)、発表(20%)、授業内で実施する小テスト(60%) 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。
時間外の学習について	予習:授業内で指定された箇所を予習した上で授業に臨むこと。(各回90分程度) 復習:授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 角山照彦・Simon Capper. (2016).『音読で極める基礎英語 Let's Read Aloud More!』 東京:成美堂 ISBN9784791947867 ￥2,200 参考資料等:授業内でプリント等を配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	資格英語Ⅱ	教員名	檜垣 英夫 二五 義博	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM1-2106-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	教育者に求められる英語運用力
授業概要	2020 年度より小学校で英語が教科になりました。小学校教諭は CEFR の基準で B1, 中高英語教員は B2 以上の英語力を持つことが望ましいとされています。この授業を通じて, 総合的な英語運用力の向上を目指します。

達成目標

以下の4点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。

	科目 DP: (1)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. CEFR で B1 相当の英語力を獲得している。	◎		○	◎
2.自分の考えを英語で表現しようとすることができる。			○	◎
3.与えられた英文をその意味を考えながら正しく調音化することができる。			○	◎
4. CEFR で B2 相当の英語力を獲得している、又は、目指している			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 授業についての説明(目標 1,2,3,4) 2. 語彙問題演習(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 7(目標 1,2,3,4) 3. 語彙問題演習(B2 レベル)/テキスト Unit 7(目標 1,2,3,4) 4. Reading(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 8(目標 1,2,3,4) 5. Reading(B2 レベル)/テキスト Unit 8(目標 1,2,3,4) 6. Writing(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 9(目標 1,2,3,4) 7. Writing(B2 レベル)/テキスト Unit 9(目標 1,2,3,4) 8. Listening(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 10(目標 1,2,3,4) 9. Listening(B2 レベル)/テキスト Unit 10(目標 1,2,3,4) 10. Speaking(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 11(目標 1,2,3,4) 11. Speaking(B2 レベル)/テキスト Unit 11(目標 1,2,3,4) 12. 英語面接練習(B1～B2 レベル)/テキスト Unit 12(目標 1,2,3,4) 13. 英語面接練習(B2 レベル)/テキスト Unit 12(目標 1,2,3,4) 14. 文法演習(B2 レベル)/テキスト Unit 13(目標 1,2,3,4) 15. まとめ・到達目標の確認/テキスト Unit 13(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表を中心とした授業を行う。
成績評価基準	評価の方法: グループワーク等への参加態度(20%)、発表(20%)、授業内で実施する小テスト(60%) 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。
時間外の学習について	予習:授業内で指定された箇所を予習した上で授業に臨むこと。 復習:授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。 (予習・復習とも各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 角山照彦・Simon Capper. (2016).『音読で極める基礎英語 Let's Read Aloud More!』 東京:成美堂 ISBN9784791947867 ¥2,200 参考資料等:授業内でプリント等を配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。

授業科目名	障害の理解と支援	教員名	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM1-2107-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	障害者福祉の思想、基本理念、制度
授業概要	「障がい」とは何かを、思想・理論の両面から理解したうえで、現代の障がい者を取り巻く諸問題とそれを克服しようとする実践事例、制度・政策について体系的に学ぶ。 さらに、障がいのある当事者との交流を通して、体験的に「障がい」とは何かを理解する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.障害者福祉の思想、基本理念について理解できる。	○	◎	○	
2.障害者福祉の理論、制度について理解できる。	◎	○		
3.障害児・者を取り巻く現代社会の状況について理解できる。	◎		○	○
4.ライフステージに応じた支援のあり方とその実践について理解できる。	○		○	◎
5.障害児・者が地域社会で暮らすために必要な支援について自分の考えを述べることができる。			○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 障害論:「障がいとは何か」を多面的に考察し、自分自身の障がい観を振り返る(目標 1, 5) 2. 障害論:国際生活機能分類からみた「障がい」(目標 2) 3. 障害論:制度上の「障がい」の定義と障がい児・者の実態(目標 2, 3) 4. 障害者福祉の思想、基本理念:人権思想、エンパワメント、自己決定 etc. (目標 1) 5. 障害者福祉の思想、基本理念:ノーマライゼーション、インクルージョン etc. (目標 1) 6. 障害者福祉の制度:制度の歴史的変遷 (目標 2) 7. 障害者福祉の制度:障害者福祉の新たな制度の動向 (目標 2) 8. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践:早期療育、障害児教育 (目標 1,2,3,4) 9. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践:地域生活支援、相談支援事業 (目標 1,2,3,4) 10. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践:自立生活、就労支援 (目標 1,2,3,4) 11. 障がいのある人との交流:知的障害 (目標 1,2,3,4,5) 12. 障がいのある人との交流・身体障害 (目標 1,2,3,4,5) 13. 障がいのある人との交流・精神障害／発達障害(目標 1,2,3,4,5) 14. 障がいのある人との交流・視覚障害／聴覚障害(目標 1,2,3,4,5) 15. 総括:これからの障害者福祉のあり方 (目標 3,4,5)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法:①レポート(50 点)、②授業への参加度(50 点) 評価の基準:①学んだ内容を踏まえて自説を述べているか ②レスポンスカードの記述内容が適切であるか
フィードバックの方法	授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習:各回のテーマに沿って、文献やインターネット等を活用して情報収集をしておく。(各回 90 分程度) 復習:配布した資料に沿って、授業内容をノートに整理すること。(各回 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:なし(都度適宜資料を配布する) 参考書:『よくわかる障害者福祉』ミネルヴァ書房 参考資料等:都度適宜配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	「障がい」とはなにかを一緒に考える授業です。障がいのある当事者との交流を図りながら、実践的に学びます。 特別支援教育、障害児保育に興味を持っている学生には受講をお勧めします。

授業科目名	自主課題演習Ⅰ	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM1-2108-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	創造的研究、個性的研究、個人発表
授業概要	図書館所蔵の書籍、インターネットから興味深い課題を発見し、それを自分なりに調べ、深く検討する。さらにそれを分かりやすく、面白さを含めて他者に伝える。練習を重ねて最後のプレゼンにつなげる。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 思想・政治・社会・文化・生活など多方面に興味関心を持つことができる。	◎		○	◎
2. 自分なりの課題を見つけ、自ら調べ、まとめることが出来る。	○	◎		
3. 分かりやすく発表し、聞き手の興味関心を高める発表ができる。		◎		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)
授業計画	1. イントロダクション(目標 1, 2, 3) 2. 自主活動および議題提供(勇気と恐怖) (目標 1, 2, 3) 3. 自主活動および議題提供(アイデンティティと喪失) (目標 1, 2, 3) 4. 自主活動および議題提供(笑い、ナンセンス) (目標 1, 2, 3) 5. 自主活動および議題提供(心の強さ、レジリエンス) (目標 1, 2, 3) 6. 自主活動および議題提供(恋愛と結婚) (目標 1, 2, 3) 7. 中間報告会および振り返り(目標 1, 2, 3) 8. 自主活動および議題提供(美しさ、かっこよさ) (目標 1, 2, 3) 9. 自主活動および議題提供(友情と協力) (目標 1, 2, 3) 10. 自主活動および議題提供(将来の夢、大人になること) (目標 1, 2, 3) 11. 自主活動および議題提供(宮沢賢治の世界) (目標 1, 2, 3) 12. 自主活動および議題提供(死ぬこと) (目標 1, 2, 3) 13. 自主活動および議題提供(宇宙の不思議) (目標 1, 2, 3) 14. 準備(目標 1, 2, 3) 15. 最終報告会および振り返り(目標 1, 2, 3)
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法: 毎時のミニレポート30%、最終報告の成果内容70% 評価の基準: 自分が納得できるまで十分に調べているかどうか。 調べたことを他者に分かりやすく興味を持たせるようにプレゼンできるかどうか。
フィードバックの方法	学生のプレゼンについて、改善のためのアドバイスをする。
時間外の学習について	授業中はグループワークやディスカッションを行います。 資料を読み、調べて準備をするのは授業時間以外で行ってください。 予習: 資料を読む、まとめる。90分程度 復習: プレゼンについて振り返り、再度修正する。90分程度
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:なし 参考資料等: 末永幸歩著『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社、2020年。 狩野みき著『「自分で考える力」の授業』PHP文庫、2020年。
担当者からのメッセージ等実務経験について	1年生の科目であるが、過年度生も遠慮なく受けて欲しい。

授業科目名	自主課題演習Ⅱ	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM1-2109-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	創造的研究、共同的研究、グループによる発表
授業概要	図書館所蔵の書籍、インターネットから興味深い課題を発見し、それを自分なりに調べ、深く検討する。必要に応じて学内外のより詳しい人にインタビューをする。さらにそれをグループで意見交換を行い、グループ単位での発表を行う。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. 思想・政治・社会・文化・生活など多方面に興味関心を持つことができる。	◎		○	◎
2. 自分なりの課題をみつけ、自ら調べ、まとめることが出来る。	○	◎		
3. 他者と意見交換を行い、グループ単位で良いプレゼンを行うことができる。		◎		○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)
授業計画	1. イントロダクション(目標 1, 2, 3) 2. 自主活動および議題提供(資本主義と貨幣) (目標 1, 2, 3) 3. 自主活動および議題提供(戦争と平和) (目標 1, 2, 3) 4. 自主活動および議題提供(ジェンダー) (目標 1, 2, 3) 5. 自主活動および議題提供(社会の一員としての責任) (目標 1, 2, 3) 6. 自主活動および議題提供(医療の進歩と老い) (目標 1, 2, 3) 7. 中間報告会および振り返り(目標 1, 2, 3) 8. 自主活動および議題提供(正義と犯罪) (目標 1, 2, 3) 9. 自主活動および議題提供(差別、ルッキズム) (目標 1, 2, 3) 10. 自主活動および議題提供(対話と会話) (目標 1, 2, 3) 11. 自主活動および議題提供(人々のつながり) (目標 1, 2, 3) 12. 自主活動および議題提供(まちづくり) (目標 1, 2, 3) 13. 自主活動および議題提供(数の不思議) (目標 1, 2, 3) 14. 準備(目標 1, 2, 3) 15. 最終報告会および振り返り(目標 1, 2, 3)
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法: 毎時のミニレポート30%、最終報告の成果内容70% 評価の基準: 自分が納得できるまで十分に調べているかどうか。 調べたことを他者に分かりやすく興味を持たせるようにプレゼンできるかどうか。
フィードバックの方法	学生のプレゼンについて、改善のためのアドバイスをする。
時間外の学習について	授業中はグループワークやディスカッションを行います。 資料を読み、調べて準備をするのは授業時間以外で行ってください。 予習: 資料を読む、まとめる。90分程度 復習: プレゼンについて振り返り、再度修正する。90分程度
教材にかかわる情報	テキスト: なし 参考書: なし 参考資料等:『文藝春秋オピニオン 2022年の論点100』文藝春秋、2021年。 出口治明ほか『高校生と考える日本の論点 2020-30』左右社、2020年。
担当者からのメッセージ等実務経験について	1年生の科目であるが、過年度生も遠慮なく受けて欲しい。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>デザインと造形</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">武田 雅行
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-2110-000000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">4年前期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">カラーイメージ、色面構成、PCの描画機能、廃材による造形</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">様々な造形・創作活動を通じて美術・造形の楽しさを知り、それらを生活や教育・保育現場で活かせる授業を展開する。廃材を活用した造形作品や、PC を使った Word や Excel の描画機能による表現にも挑戦する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (1)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.創造すること、描くこと、物を作り上げることの喜びを知る。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.造形物の制作にあたり用具の扱い方(関連する材料・用具を含む)知識・技術を身につける。</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現することができる。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.制作物をまとめ学んだことを記録して、知識や技術の定着を図ることができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 授業概要「私の原風景」 色鉛筆で表現(目標 1)
2. 人物のイラスト表現 顔の描き方・デッサン (目標 1.2)
3. 自画像の色面構成① 構想・配色 (目標 1.2)
4. 自画像の色面構成② 着彩・完成 (目標 1.2)
5. ポップアップカードの制作 バースデーカード (目標 1.2)
6. 音楽のカラーイメージ① 「クラシック」「ロック」 (目標 1.2)
7. 味覚のカラーイメージ② 「旨い」「不味い」 (目標 1.2.3)
8. コラージュによる表現 動きのあるロボット (目標 1.2.3)
9. パソコンの描画機能を使った表現① Word の描画機能による表現 (目標 1.2.3)
10. パソコンの描画機能を使った表現② Excel の描画機能による表現 (目標 1.2.3)
11. 広告誌による籠の制作① 構想・素材作り (目標 1.2)
12. 広告誌による籠の制作② 組み上げ (目標 1.2)
13. 広告誌による籠の制作③ ニス塗り・完成 (目標 1.2)
14. ワークショップ 「地図を作ろう」 (目標 1.2)
15 まとめ 自己評価 (目標 4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">プレゼンテーションン、グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:提出作品(80%) 授業中の態度、取り組みの姿勢(20%)
評価の基準:課題の意図を理解し、創造性を発揮して丁寧に作品制作に取り組めたかを評価する。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:前回に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。(90 分程度)
復習:時間内に終わらなかった課題は、次回に持ち越すことなく各自で完了しておくこと。(90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">参考資料等: 随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する。
9 回目、10 回目はノート PC を使用する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">A3 袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。</td></tr>
</table>

授業科目名	わらべうたと地域文化	教員名	河北 邦子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC4-2111-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

授業テーマ	うた, あそび, ことば, 伝承・伝播, 地域性, わらべうたの種類, 教材化
授業概要	わらべうたが伝承・伝播されたものであること、子どもの文化財であることを理解し、保育者・教育者としての実践力を養う。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.わらべうたの特徴を理解する。	◎	○		
2.多くのわらべうたを、演習を通して知る。		◎	○	
3.乳幼児の発達との関連を考える。	◎	○		
4.日本伝統音楽の音組織によることを理解する。	◎			○
5.わらべうたの教材化について考える。		○	○	◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:②面接授業と遠隔授業等の併用
授業計画	1. わらべうたと伝承, わらべうた演習1 (目標 1,2) 3. わらべうたと伝播, わらべうた演習2 (目標 1,2) 4. わらべうたの地域性 わらべうた演習3 (目標 1,2) 5. わらべうたの地域性についてポスター制作 (目標 1,2) 6. わらべうたの地域性についてポスター発表 (目標 1,2) 7. わらべうたと子どもの発達1(感覚・手行為) (目標 1,2,3) 8. わらべうたと子どもの発達2(運動能力・言語能力)(目標 1,2,3) 9. わらべうたと子どもの発達3(社会性)(目標 1,2,3) 10. わらべうたの音楽的特徴, わらべうた演習4 (目標 1,2,4) 11. 乳幼児期とわらべうた (目標 3,4,5) 12. 児童期とわらべうた (目標 3,4,5) 13. わらべ歌の教材化事例研究 (目標 3,4,5) 14. わらべうたの教材化演習 (目標 3,4,5) 15. まとめ 定期試験
アクティブ・ラーニング	少人数、小グループによるわらべうたの演習をおこなう中で、わらべうたの特徴やそれに伴う日本の伝統的な子ども文化について、互いに気づき合い、子どもの発達との関連や遊び方の工夫等についてディスカッションする中で見出す。
成績評価基準	評価の方法:筆記試験(70点)、実技試験(30点) 評価の基準:わらべうたの概要を理解し、教育・保育と関連づけて教材化し、実践できるか。
フィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する。演習の中で、評価を通して伝える。
時間外の学習について	予習:次の授業の課題をみつけ、自分なりに考察しておくこと。(各回90分程度) 復習:授業で扱った内容について復習し、理解できないことは調べておく。(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『保育者・教育者のための わらべうたあそび』河北邦子編著 参考書:『山口のわらべうた』日本わらべうた全集 柳原書店
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	ピアノ奏法Ⅰ	教員名	本廣 明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC1-2112-220000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)
教科目	選択必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び奏法、イメージの育成
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡にイメージを抱き、楽しみながら学習する。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.音楽の構成要素である音符、拍子、調、奏法について、基礎的な知識や技術を習得する。	◎	○		
2.イメージを持って、表現する。	◎	○		
3.子どもの動きを表現する曲(歩く、走る、飛ぶ・ジャンプ、ゆれる状態を表す曲)について、想像豊かに演奏する。	○	◎		
4.保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いに慣れる。	○	◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 音楽構成要素Ⅰ(読譜、音符と休符)の学習 (目標 1) 2. 音楽構成要素Ⅱ(基礎的なリズムと拍子の関係)の学習 (目標 1) 3. 音楽構成要素Ⅲ(基礎的な調、奏法)の学習 (目標 1) 4. 音楽構成要素Ⅳ(メロディ、基礎的なハーモニー)の学習 (目標 1) 5. 基礎的な動きの表現 Ⅰ (歩く曲の演習) (目標 2,3) 6. 基礎的な動きの表現 Ⅱ (走る曲の演習) (目標 2,3) 7. 基礎的な動きの表現 Ⅲ (とぶ、ジャンプの曲の演習) (目標 2,3) 8. 基礎的な動きの表現 Ⅳ (ゆれる曲の演習) (目標 2,3) 9. 童謡の弾き歌いⅠ(弾き歌いの仕方) (目標 4) 10. 童謡の弾き歌いⅡ(基本的な春の歌) (目標 4) 11. 童謡の弾き歌いⅢ(基本的な夏の歌)) (目標 4) 12. ペダルの使い方 (目標 1,2) 13. 応用的ピアノ曲の演習 (目標 1,2,3) 14. 基本的弾き歌い曲の演習 (目標 1,4) 15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習 (目標 1～4)
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法:ピアノ演奏(配点80%) ・弾き歌い演奏(配点10%) ・授業への取り組み(配点10%) 評価の基準: ピアノの基礎的な知識及び技術などを学び、イメージを持って、感性豊かに弾くことができたか。また、授業に意欲的に取り組めたか。
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努める。
時間外の学習について	予習:日々課題曲について練習をする。 (各回90分程度) 復習:同上 (各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう(CD付)』 ／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集 ／『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1,2,3』(ドレミ楽譜出版社)
担当者からのメッセージ等実務経験について	不断の努力が必要です。

授業科目名	ピアノ奏法Ⅱ	教員名	本廣 明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2113-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び技術、イメージを表現、自己表現力
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡・唱歌にイメージを持ちながら表現することを学習し、音楽を表現する喜びや楽しさを味わう。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.音楽構成要素の音符、拍子、調、奏法について理解を深め、基礎的な知識・技術を習得する。	◎	○		
2.イメージ豊かに表現することを学ぶ。	◎	○		
3.自由表現の曲(動物、乗り物、感情、物語・情景描写を表す曲)について想像豊かに演奏する。	○	◎		
4.保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いを高める。	○	◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 音楽構成要素Ⅰ(読譜の仕方)の学習 (目標 1) 2. 音楽構成要素Ⅱ(様々なリズムと拍子の関係)の学習 (目標 1) 3. 音楽構成要素Ⅲ(様々な調、奏法)の学習 (目標 1) 4. 音楽構成要素Ⅳ(メロディとフレーズの関係、様々な和音)の学習 (目標 1) 5. 自由表現Ⅰ (動物の曲の演習) (目標 2,3) 6. 自由表現Ⅱ (乗り物の曲の演習) (目標 2,3) 7. 自由表現Ⅲ (感情の曲の演習) (目標 2,3) 8. 自由表現Ⅳ (物語・情景描写の曲の演習) (目標 2,3) 9. 童謡の弾き歌いⅠ(弾き歌いの奏法) (目標 4) 10. 童謡の弾き歌いⅡ(基本的な秋の歌) (目標 4) 11. 童謡の弾き歌いⅢ(基本的な冬の歌)) (目標 4) 12. ペダルの生かし方 (目標 1,2) 13. 応用的ピアノ曲の演習 (目標 1,2,3) 14. 基本的弾き歌い曲の演習 (目標 1,4) 15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習 (目標 1～4)
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法:・ピアノ演奏(配点80%) ・弾き歌い演奏(配点10%) ・授業への取り組み(配点10%) 評価の基準: ピアノの基礎的な知識及び技術などが習得でき、イメージを持ち、それを表現に生かしながら、感性豊かに弾くことができたか、また授業に意欲的に取り組むことができたか
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努める。
時間外の学習について	予習:日々課題曲について練習する。 (各回90分程度) 復習:同上 (各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: 本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう(CD付)』 ／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集 ／『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1,2,3』(ドレミ楽譜出版社)
担当者からのメッセージ等実務経験について	不断の努力が必要です。

授業科目名	即興伴奏法Ⅰ	教員名	本廣 明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-2114-220000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)
教科目	選択必修科目(保育士)
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	教育・保育現場で必要な歌唱教材の簡易伴奏や変奏を学ぶ。
授業概要	グレード別の少人数クラスで行う授業で、基礎的な音楽の知識や読譜力を身につける。また、基本的な調の伴奏付けや伴奏変奏の方法を学びながら、並行してピアノ曲や弾き歌い曲の演奏を学ぶ。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.基礎的な読譜力を身につける。	◎	○		
2.ハ長調とト長調の伴奏付けができる。	◎	○		
3.簡単な伴奏変奏ができる。	◎	○		
4.カデンツに合ったメロディが作れる。	◎	○		
5.ピアノ曲の演奏力を高め、弾き歌いに慣れる。	○	◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. クラス分け検査・オリエンテーション (目標 1) 2. プロローグ・ハ長調の伴奏付け(音階とカデンツ)ピアノ曲・弾き歌い(かっこう) (目標 1,2,5) 3. ハ長調の伴奏付け(ステップ1・ⅠⅤの和音) ピアノ曲・弾き歌い(ぶんぶんぶん) (目標 1,2,5) 4. ヘ長調の伴奏付け(ステップ2・ⅠⅤⅤ7の和音) ピアノ曲・弾き歌い(日の丸) (目標 1,2,3,5) 5. ハ長調の伴奏付け(ステップ3・ⅠⅣⅤⅤ7の和音) ピアノ曲・弾き歌い(むすんでひらいて)(目標 1,2,3,5) 6. ハ長調の伴奏付け(ステップ4・いろいろなリズム) ピアノ・曲・弾き歌い(どんぐりころころ)(目標 1,2,3,5) 7. ハ長調の伴奏付け(ステップ4・いろいろなリズム)カデンツ (目標 1,2,3,4) 8. 中間テスト1及びハ長調の伴奏付け・伴奏変奏のまとめ (目標 1,2,3) 9. ハ長調の復習 ピアノ・曲弾き歌い(ふしぎなポケット)(目標 1,2,3,5) 10. ト長調の伴奏付け(ステップ1・ⅠⅣⅤⅤ7) ピアノ曲(目標 1,2,5) 11. ト長調の伴奏付け(ステップ2・ⅠⅣⅤⅤ7) ピアノ曲・弾き歌い(かえる)(目標 1,2,3,5) 12. カデンツ即興 ピアノ曲・弾き歌い (目標 4、5) 13. 中間テスト2及びピアノ曲・弾き歌い演奏)のまとめ(目標 5) 14. ハ長調・ト長調の伴奏付けの復習 (目標 1,2)・ 15. 期末試験及びハ長調・ト長調の新曲伴奏付けのまとめ (目標 1,2)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の基準:ハ長調・ト長調に簡単な伴奏付けができる。基礎的なピアノ曲・弾き歌いの演奏ができる。また、授業に意欲的に取り組めたか 評価の方法:中間テスト1(20%) 中間テスト2(40%) 期末試験(20%) 授業への取り組み(20%)
フィードバックの方法	各小テストの後にコメントをする。
時間外の学習について	予習:レッスンが受けられよう事前の練習をして授業に臨むこと。(各90分程度) 復習:習ったことは次の授業までに理解し弾けるよう練習しておくこと。(各90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト: テキスト:本廣明美・加藤照恵編著『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』、『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』、『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社)
担当者からのメッセージ等実務経験について	時間をかけた予復習が大切な科目です。地道な努力を期待します。

授業科目名	即興伴奏法Ⅱ	教員名	本廣 明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2115-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

授業テーマ	教育・保育現場で使用される歌唱教材の簡易伴奏の知識・技術を身につけ、簡易伴奏や伴奏変奏を学ぶ。
授業概要	グレード別の少人数クラスで行う授業で、即興伴奏法Ⅰに引き続きソルフェージュ力およびピアノ力を高めるとともに、基本的な調の伴奏付けを学ぶ。また、即興的に演奏できることを目指して、カデンツやコードによる伴奏付けを習得し、併せてピアノ曲や弾き歌い曲の演奏を学ぶ。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.ヘ長調の伴奏付けができる。	◎	○		
2.ピアノ演奏力及び即興的なピアノ表現を身につける。	○	◎		
3.弾き歌いの技術を身につける。	○	◎		
4.コードのカデンツの理解と基礎的なコード奏ができる。	○	◎		

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. オリエンテーション、ハ長調・ト長調の伴奏付け(前期の復習) (目標 1) 2. ヘ長調の伴奏付け(ステップ1)の伴奏付け (目標 1) 3. ヘ長調の伴奏付け(ステップ1) 、カデンツ6、ピアノ曲・弾き歌い(ゆきのこぼうず) (目標 1,2,3,4) 4. ヘ長調の伴奏付け(ステップ2)ピアノ曲・弾き歌い(ぞうさん)(目標 1,2,3) 5. ヘ長調の伴奏付け(ステップ2)いろいろなリズム, ピアノ曲・弾き歌い(ゆき) (目標 1,2,3) 6. ヘ長調の伴奏付け(ステップ2)、弾き歌い(たなばたさま) (目標 1,3) 7. ヘ長調の伴奏付け教科書課題復習、カデンツ即興7、 ピアノ曲 (目標 1,2,4) 8. 小テスト1及びヘ長調の教科書課題・カデンツ即興のまとめ(目標 1,4) 9. 両手伴奏(カデンツ)、弾き歌い(きらきら星) (目標 3,4) 10. 両手伴奏(コード CFGG7)ピアノ曲・弾き歌い (とんぼのめがね、富士山)(目標 2,3,4) 11. コードの知識(コードネーム)、ベースでの伴奏付け、弾き歌い(こぶたぬきつねこ) (目標 3,4) 12. 3 和音の伴奏付け、 ピアノ曲・弾き歌い(ふるさと) (目標 2,3,4) 13. 小テスト2及びピアノ曲・弾き歌い演奏のまとめ (目標 2,3) 14. 3 和音の伴奏付けの練習、弾き歌い(茶摘み) (目標 3,4) 15. 小テスト3及びコード理解と伴奏のまとめ (目標 4)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の基準: ヘ長調に簡単な伴奏付けができる。基礎的なピアノ曲・弾き歌い演奏ができる。カデンツ即興やコード理解と基礎的な伴奏付けができる。また、授業に意欲的に取り組めたか 評価の方法:小テスト1(20%) 小テスト2(40%) 小テスト3(20%) 授業への取り組み(20%)
フィードバックの方法	各テストの後にコメントをする。
時間外の学習について	予習:レッスンが受けられよう事前の練習をして授業に臨むこと。(各 90 分程度) 復習:習ったことは次の授業までに理解し弾けるよう練習しておくこと。(各 90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:テキスト:本廣明美・加藤照恵編著『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』、『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』、『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社)
担当者からのメッセージ等実務経験について	時間をかけた予復習が大切な科目です。地道な努力を期待します。

授業科目名	子どもとリトミックⅠ	教員名	植山 典子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2116-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

授業テーマ	リトミックを指導する上での基礎的な、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法(3歳児)、理論を習得する。
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. リズムを表現する基礎的な動きができるようになること。		◎		○
2. リトミック指導における基礎的なピアノ演奏ができること。	◎	○		
3. 3歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。	○		◎	
4. リトミックの理論を学ぶ。	○			◎

履修条件・注意事項	動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. オリエンテーション、リトミックについて、楽しいリトミックの経験(1)(目標 1,4) 2. 楽しいリトミックの経験(2)、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き(1)、基礎リズム(1)〈2拍子〉 (目標 1) 3. 3歳児指導法・リズムの演奏法…1学期(前半) (目標 2,3) 4. 〃 … 〃 (後半) (目標 2,3) 5. 楽しいリトミックの経験(3)、基礎的な動き(2)、基礎リズム(2)〈2拍子〉、拍子(1)(目標 1) 6. 3歳児指導法・リズムの演奏法…2学期(前半) (目標 2,3) 7. 〃 … 〃 (後半) (目標 2,3) 8. 楽しいリトミックの経験(4)、基礎リズム(3)〈2拍子〉、拍子(2) (目標 1) 9. 3歳児指導法・リズムの演奏法…3学期(前半) (目標 2,3) 10. 〃 … 〃 (後半) (目標 2,3) 11. 楽しいリトミックの経験(5)、基礎リズム(4)〈3・4拍子〉、拍子(3) (目標 1) 12. 楽しいリトミックの経験(6)、リズムカノン(1)〈導入〉、リズムフレーズ(1)〈2・3拍子〉 (目標 1) 13. リズムの演奏法(3歳児指導法－1～3学期) (目標 2) 14. 試験課題練習 15. リトミックの理論とダルクローズについて(1)、まとめ (目標 1,2,3,4) 定期試験→資格認定試験…14回と15回の間に行う。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:試験60% 課題に対する取組み20% 授業態度、授業への参加度20% 評価の基準:○試験 *知識・理解、技能・表現を測定 ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の認定条件 (70点以上)をクリアしている ○課題に対する取り組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ○授業態度、授業への参加度 *関心・意欲・積極性を測定 ・活動に意欲的である。
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入
時間外の学習について	予習:毎回の授業計画を確認し、「3歳児指導法・リズムの演奏法」の回はテキストを読みピアノの練習をしておくこと。(90分程度) 復習:実技小テストを行うので練習しておくこと。(90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『 幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～(3歳児)』(リトミック研究センター)
担当者からのメッセージ等 実務経験について	実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。

授業科目名	子どもとリトミックⅡ	教員名	植山 典子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC3-2117-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				英語教育専攻	

授業テーマ	リトミックを指導する上での実践的な、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法(4歳児及び5歳児)、理論を習得する。
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。

達成目標

	科目DP:(1)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1. リズムを表現する実践的な動きができるようになること。		◎		○
2. リトミック指導における実践的なピアノ演奏ができること。	◎	○		
3. 4歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。	○		◎	
4. 5歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。	○		◎	
5. リトミックの理論を学ぶ。	○			◎

履修条件・注意事項	「子どもとリトミックⅠ」の単位を取得済みの者。 動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。 授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 4歳児指導法・リズムの演奏法(1学期) (目標 2・3) 2. 4歳児指導法・リズムの演奏法(2 学期) (目標 2・3) 3. 楽しいリトミックの経験(7)、リズムカノン(2)〈3拍子〉、リズムフレーズ(2)〈2・3拍子〉 (目標 1) 4. 4歳児指導法・リズムの演奏法(3 学期) (目標 2・3) 5. リズムの演奏法(4 歳児指導法 1～3 学期) (目標 2・3) 6. 5歳児指導法・リズムの演奏法(1 学期) (目標 2・4) 7. 楽しいリトミックの経験(8)、リズムカノン(3)〈3・4拍子〉、複リズム(1)Ostinato(♩)(目標 1) 8. 5歳児指導法・リズムの演奏法(2 学期) (目標 2・4) 9. 5歳児指導法・リズムの演奏法(3 学期) (目標 2・4) 10. リズムの演奏法(5 歳児指導法 1～3 学期) (目標 2・4) 11. 楽しいリトミックの経験(9)、リズムカノン(4)〈3・4拍子〉、複リズム(2)Ostinato(♩)(目標 1) 12. リズムの演奏法(4歳児・5歳児総合) (目標 2・3・4) 13. 楽しいリトミックの経験(10)、リズムカノン(5)〈3・4拍子〉、複リズム(3)Ostinato(♩)(目標 1) 14. 試験課題練習 15. リトミックの理論とダルクローズについて(2)・まとめ (目標 1,2,3,4,5) 定期試験→資格認定試験…14 回と 15 回の間に行う。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:試験 60% 課題に対する取組み 20% 授業態度、授業への参加度 20% 評価の基準:○試験 *知識・理解、技能・表現を測定 ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級」の認定条件 (70 点以上)をクリアしている ○課題に対する取り組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ○授業態度、授業への参加度 *関心・意欲・積極性を測定 ・活動に意欲的である。
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入
時間外の学習について	予習:毎回の授業計画を確認し、「4歳児指導法、5歳児指導法・リズムの演奏法」の回はテキストを読みピアノの練習をしておくこと。(90 分程度) 復習:実技小テストを行うので練習しておくこと。(90 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:『 幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～(4歳児()5歳児)』(リトミック研究センター)
担当者からのメッセージ等 実務経験について	実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子ども表現実践演習</td><td>教員名</td><td>川野 哲也
大田 紀子
森 俊博
門脇 弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM1-3001-010000</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">1年後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">大学が独自に設定する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習・保育実習のための基礎的な知識・技能・態度の修得、見学実習</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">遊びや表現などを繰り返し練習することで基礎的な実践力を形成する。さらに教育現場や保育現場で実践することで基礎的な実践力の定着をはかる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (3)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.実習生としての心構えや意識、意欲を形成する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.子どもや入所者とのかかわりを深めるための技術(遊びや表現)を修得する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.自己の課題を明確化し、他者と協力しながら、自らの資質を高める。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.幼稚園と福祉施設の一日の様子や課題について基礎的な事項について理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 教職員への挨拶、記録 (目標 1,2,3)
2. 子ども向け自己紹介 (目標 1,2,3)
3. 歌遊び (目標 1,2,3)
4. 絵本読み (目標 1,2,3)
5. ペープサート (目標 1,2,3)
6. 一人芝居 (目標 1,2,3)
7. グループでのレクレーション (目標 1,2,3)
8. グループでの劇 (目標 1,2,3)
9. 福祉施設の概要と見学の準備 (目標 1,2,3,4)
10. 福祉施設での見学実習 (目標 1,2,3,4)
11. 全体の振り返り、グループでの討議、発表 (目標 1,2,3,4)
12. 幼稚園の概要と見学の準備 (目標 1,2,3,4)
13. 幼稚園での見学実習① (目標 1,2,3,4)
14. 幼稚園での見学実習② (目標 1,2,3,4)
15. 全体の振り返り、グループでの討議、発表 (目標 1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業、課題解決型学習、等による</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業時間内に数回実施するテスト 60%、見学実習での取り組み 20%、レポート 20%
評価の基準:遊びや表現の基礎的な技術を修得したか。
実習に向けての基礎的な知識・技能・態度を修得したか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">発表について振り返り、講評する。課題等について改善点をコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:次回の課題の準備をしておく。(90 分程度)
復習:授業内に出された課題について、グループで練習をすること。(90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:なし
参考書:適宜プリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子ども実地研究Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">川野 哲也
大田 紀子
森 俊博
門脇 弘樹</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-3002-000000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5"></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5" rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">実地調査、資料収集と分析、実践的取り組み、成果のまとめと発表</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">グループごとに課題やテーマを設定し、資料収集、教材づくり、学外ボランティア活動を通して、分析・考察する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目 DP: (3)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.自ら課題やテーマについて調べたり、考察したり、整理したりする。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.現実の子どもや子どもをめぐる環境と向き合い、いっそう深い課題やテーマを発見する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.他者と協力し、議論し、グループとして意見をまとめたりする。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.子どもとの豊かなかかわり方について実践力と分析力を形成する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ （状況によって②遠隔との併用の可能性もある）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. グループごとにテーマや課題を設定 （目標 1,2,3,4）
2. 資料の収集と分析、グループごとに討論1 （目標 1,2,3,4）
3. 資料の収集と分析、グループごとに討論2 （目標 1,2,3,4）
4. 発表と討論。 今後の課題を明確化 （目標 1,2,3,4）
5. 学外のボランティア活動等を通した実地調査 （目標 2,4）
（幼稚園・保育園・小学校・福祉施設・NPO 団体その他）
6. 学外のボランティア活動等を通した実地調査 （目標 2,4）
7. グループ討議1 （目標 1,2,3,4）
8. グループ討議2。 今後の課題を明確化 （目標 1,2,3,4）
9. 学外のボランティア活動等を通した実地調査1 （目標 2,4）
10. 学外のボランティア活動等を通した実地調査2 （目標 2,4）
11. グループ討議3 （目標 1,2,3,4）
12. 資料の収集と分析 （目標 1,2,3,4）
13. 報告書または作品の製作1 （目標 1,2,3,4）
14. 報告書または作品の製作2 （目標 1,2,3,4）
15. 発表と討論 （目標 1,2,3,4）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">課題解決型学習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク等を中心に実施する</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:取り組みの状況 50%、レポート 50%
評価の基準:授業の活動に、積極的かつ協力的に取り組んだか
いっそう深い課題やテーマを発見し、その課題について自分なりに追究したか
子どもと豊かにかかわるという観点を持ち、自分なりに追究したか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">発表について振り返り、講評する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:討論や話し合いが予定されている場合には、各自意見をまとめておくこと。
復習:活動の中で見出した課題について、積極的に調べること。(予習復習合わせて 180 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:なし
参考資料等:適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">この授業に限らず、各種ボランティア活動に取り組むことを勧める。その情報は適宜紹介する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子ども実地研究Ⅱ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">川野 哲也
大田 紀子
森 俊博
門脇 弘樹</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-3003-000000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
</table>

授業テーマ	実地調査、資料収集と分析、実践的取り組み、成果のまとめと発表
授業概要	グループごとに課題やテーマを設定し、資料収集、教材づくり、学外ボランティア活動を通して、分析・考察する。

達成目標

	科目DP:(3)			
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.自ら課題やテーマについて調べたり、考察したり、整理したりする。		◎		
2.現実の子どもや子どもをめぐる環境と向き合い、いっそう深い課題やテーマを発見する。			◎	
3.他者と協力し、議論し、グループとして意見をまとめたりする。		◎		
4.子どもとの豊かなかかわり方について実践力と分析力を形成する。	◎			

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔との併用の可能性もある)
授業計画	1. グループごとにテーマや課題を設定 (目標 1,2,3,4) 2. 資料の収集と分析、グループごとに討論1 (目標 1,2,3,4) 3. 資料の収集と分析、グループごとに討論2 (目標 1,2,3,4) 4. 発表と討論。 今後の課題を明確化 (目標 1,2,3,4) 5. 学外のボランティア活動等を通した実地調査 (目標 2,4) (幼稚園・保育園・小学校・福祉施設・NPO 団体その他) 6. 学外のボランティア活動等を通した実地調査 (目標 2,4) 7. グループ討議1 (目標 1,2,3,4) 8. グループ討議2。 今後の課題を明確化 (目標 1,2,3,4) 9. 学外のボランティア活動等を通した実地調査1 (目標 2,4) 10. 学外のボランティア活動等を通した実地調査2 (目標 2,4) 11. グループ討議3 (目標 1,2,3,4) 12. 資料の収集と分析 (目標 1,2,3,4) 13. 報告書または作品の製作1 (目標 1,2,3,4) 14. 報告書または作品の製作2 (目標 1,2,3,4) 15. 発表と討論 (目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク等を中心に実施する
成績評価基準	評価の方法:取り組みの状況 50%、レポート 50% 評価の基準:授業の活動に、積極的かつ協力的に取り組んだか いっそう深い課題やテーマを発見し、その課題について自分なりに追究したか 子どもと豊かにかかわるという観点を持ち、自分なりに追究したか
フィードバックの方法	発表について振り返り、講評する。
時間外の学習について	予習:討論や話し合いが予定されている場合には、各自意見をまとめておくこと。 復習:活動の中で見出した課題について、積極的に調べること。(予習復習合わせて 180 分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考資料等:適宜紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	この授業に限らず、各種ボランティア活動に取り組むことを勧める。その情報は適宜紹介する。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子どもと英語</td><td>教員名</td><td>二五 義博
(単独)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-3004-000000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">講義</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">3年前期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">子どもの第二言語習得</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">子どもが第二言語を習得するプロセスについての理解を深めます。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">以下の5点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。
1.子どもの言語習得のプロセスについて説明することができる。
2.英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
3.他の人と協力して課題に取り組むことができる。
4.英語の音声的特徴について説明することができる。
5.子どもの発達段階を考慮したコミュニケーション活動を立案することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">科目DP:(3)
DP番号 (1) (2) (3) (4)
◎ / ◎ ○ / ◎ ○ / ◎ / ◎</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 授業の目標及び進め方についての説明 (目標 1,2,3,4,5)
2. 子どもの言語習得プロセス (目標 1,3,5)
3. 小学校の外国語授業:授業づくりの 5 つの視点と授業の振り返りのポイント (目標 1,2,3,4,5)
4. 小学校の外国語授業:文字の指導 (目標 2,3,4,5)
5. 小学校の外国語授業:小中連携の工夫 (目標 2,3,4,5)
6. 英語音声のしくみ:英語の強勢とイントネーション (目標 2,3,4,5)
7. 英語音声のしくみ:日本語を母語とする学習者にとって難しい英語の音 (目標 2,3,4,5)
8. コミュニケーション能力の高め方:表現力の向上 (目標 2,3,4,5)
9. コミュニケーション活動立案 (目標 2,3,4,5)
10. 模擬授業(前半) (目標 1,2,3,4,5)
11. 模擬授業(後半) (目標 1,2,3,4,5)
12. 教授法に対する理解:5 技能の指導 (目標 1,2,3,4,5)
13. 授業実践に対する理解:授業案・授業運営 (目標 1,2,3,4,5)
14. 異文化リテラシーの必要性 (目標 1,2,3,5)
15. 小学校における異文化交流実践例 (目標 1,2,3,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">課題解決、グループワーク、発表を中心とした授業を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:グループワーク等への参加態度(30%)、発表(40%)、レポート(30%)
評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">振り返りシートを用いて行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業内でディスカッションが予定されている場合は、各自の意見をまとめておくこと。(各回 90 分程度)
復習:授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:小川隆夫(2007).『高学年のための小学校英語』 mpi
参 考 書:村野井仁(2018).『小学校英語教育の基礎知識』東京:大修館書店
参考資料等:小学校英語指導者のポートフォリオ(J-POSTL エレメンタリー)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。</td></tr>
</table>

授業科目名	子どもと教育	教員名	森　俊博 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保　育　士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM3-3005-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	就学前後の子ども，絵本の読み聞かせ，ソーシャルスキル
授業概要	就学前後の子どもの指導について，包括的な視点で捉えるために，絵本の読み聞かせやソーシャルスキルの指導の理論と実践を学ぶ。また，学んだことを活かして実践事例における指導についてグループ協議を行い発表する。指導のベースとして，実践者としてのコミュニケーション力や表現力をつけることも重視する。

達成目標

	科目 DP: (3)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.就学前後の子どもの指導の背景について理解する。		○	◎	
2.かかわり方のタイプから子どもの特徴を理解する。	○	◎		
3.かかわり方の指導の在り方を例示する。	◎			○
4.発達段階を考慮した具体的な指導を立案する。	○			◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. オリエンテーション・就学前の子どもの指導の背景①(目標1) 2. 就学前の子どもの指導の背景②(目標1, 3) 3. 就学前の子どもの指導の背景③(目標1, 3) 4. 就学前の子どもの指導(目標1, 3) 5. 就学前後の子どもについて(目標1, 4) 6. 人間関係づくりの取組①(目標1, 3) 7. 人間関係づくりの取組②(目標1, 3) 8. ソーシャルスキルの指導について(目標2) 9. ソーシャルスキルの発揮の背景①(目標2, 3) 10. ソーシャルスキルの発揮の背景②(目標2, 3) 11. ソーシャルスキルの発揮の背景③(目標2, 3) 12. ソーシャルスキルの獲得過程・グループ発表に向けて(目標1, 2, 3) 13. グループ発表に向けて(目標1, 3) 14. グループ発表①(目標3) 15. グループ発表②・レポート(目標3)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法: グループワークへの貢献度(10%)、グループ発表(内容:20%・発表の仕方:20%)、授業内レポート(50%) 評価の基準: グループワークへの貢献度(積極的に話し合いに参加している)、 グループ発表の内容(指導の理論を踏まえたかかわり方の指導の在り方を例示できる)、 グループ発表の発表の仕方(子どもたちに伝わる話し方をすることができる)、 授業内レポート(根拠を明確にして論理的に自説を述べることができる)
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。各回 90 分程度 復習:授業内で示した指導方法についての書籍や論文などで調べ，まとめること。各回 90 分程度
教材にかかわる情報	テキスト:授業の中で適宜資料を配布する。 参考書:特になし。 参考資料等:必要に応じて配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	グループ活動を行うため，欠席をする際は事前連絡が望ましい。 小学校教員経験:コミュニケーションや表現力等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>子どもの遊びと心理</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">大田 紀子
(単独)</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-3006-220000</td><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">大学が独自に設定する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の対象の理解に関する科目</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育、乳幼児心理学、子どもの遊び、子ども理解</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">子どもになりきって思いきり遊ぶ経験を通して子どもにとっての遊びの意味を理解する。幼児を対象とした様々な遊びを盛り込んだ遠足を計画し、学外で実施するロールプレイングを行う。これらの振り返りを通して出た課題をもとに議論を行う。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(3)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.子どもにとっての遊びの意味を考え理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.遊びを通して子どもの心理発達について考え、課題意識を持つ。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.子どもの心理発達を踏まえた指導計画を立案・実施することができる。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.オリエンテーション:子どものあそびについて〔目標1〕
2.子ども遊び体験①:子どもになりきって遊ぶ〔目標1.2〕
3.子ども遊び体験②:運動遊び〔目標1.2〕
4.子ども遊び体験③:自然物を使った遊び〔目標1.2〕
5.ロールプレイ:遠足の計画①目的地の移動手段の選定〔目標2.3〕
6.ロールプレイ:遠足の計画②目的地での活動計画の作成〔目標2.3〕
7.ロールプレイ:遠足の計画③雨天時の活動計画の作成〔目標2.3〕
8.ロールプレイ:遠足の計画④目的地及び移動手段の確認と下見〔目標2.3〕
9.ロールプレイ:遠足の実施①目的地への到着と活動〔目標1.2.3〕
10.ロールプレイ:遠足の実施②目的地での活動及び帰着〔目標1.2.3〕
11.ロールプレイ:遠足の振り返り〔目標2.3〕
12.子ども遊び体験⑥:表現遊び〔目標1.2〕
13.子ども遊び体験⑥:言葉遊び〔目標1.2〕
14.子ども遊び体験⑥:お正月の遊び〔目標1.2〕
15.まとめと今後の課題〔目標2〕</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:演習やロールプレイング等授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)
評価の基準:子どもにとっての遊びの意味を理解し、他者と協力して学びを深めようとしている。
子どもの遊びと心理発達について、自分なりの考えを述べることができる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">レポートや発表内容およびロールプレイについてコメントや助言を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:教材研究や関連する文献を読む。子どもの遊びについて書籍やインターネットで調べ、試す。各回90分程度
復習:授業内で完成できなかった課題および授業内容の整理、復習を行う。各回90分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

授業科目名	子どもと福祉	教員名	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM3-3007-220000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)
教科目	選択必修科目(保育士)
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	子どもを取り巻く福祉的課題についての知識理解、福祉教育の実践力
授業概要	社会構造の変化によって、子どもを取り巻く状況が大きく変化している。子どもは社会的弱者として福祉の対象となることもあるが、将来的には福祉の担い手となることが期待される存在でもある。 そんな子どもたちに「福祉」をどう伝えていくのかについて考える授業としたい。

達成目標

	科目 DP: (3)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.子どもを取り巻く現状と課題について社会福祉の観点から理解する。	○		○	◎
2.福祉教育の方法について理解する。	○	○		◎
3.子どもたちに「福祉」をどう教えていくのかについて、自分の考えを述べることができる。			◎	○

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ
授業計画	1. 社会福祉・児童福祉の基本理念 (目標 1) 2. 福祉教育の理論と方法 (目標 2) 3. 子どもを取り巻く現状と福祉的課題 ①少子・高齢化／家族機能と社会福祉との関係(目標 1) 4. 子どもを取り巻く現状と福祉的課題 ②地域社会の役割と地域福祉 (目標 1) 5. 子どもを取り巻く現状と福祉的課題 ③障害児・者福祉と特別支援教育 (目標 1) 6. 模擬授業・ディスカッション① 視聴覚教材や ICT を活用した授業(1 回目) (目標 2,3) 7. 模擬授業・ディスカッション② 視聴覚教材や ICT を活用した授業(2 回目) (目標 2,3) 8. 模擬授業・ディスカッション③ 視聴覚教材や ICT を活用した授業(3 回目) (目標 2,3) 9. 模擬授業・ディスカッション④ 疑似体験・技術体験による授業(1 回目) (目標 2,3) 10. 模擬授業・ディスカッション⑤ 疑似体験・技術体験による授業(2 回目) (目標 2,3) 11. 模擬授業・ディスカッション⑥ 疑似体験・技術体験による授業(3 回目) (目標 2,3) 12. 模擬授業・ディスカッション⑦ 当事者参加型の授業(1 回目) (目標 3) 13. 模擬授業・ディスカッション⑧ 当事者参加型の授業(2 回目) (目標 3) 14. 総括のディスカッション①:子どもたちを取り巻く社会と福祉課題とは何か (目標 1) 15. 総括のディスカッション②:子どもたちに「福祉」をどう教えていくのか (目標 3)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法:模擬授業・ディスカッションへの参加度(50%)、事前・事後課題(50%) 評価の基準:子どもたちを取り巻く福祉的課題について理解したうえで、福祉教育についての自分なりの考えを述べることができる。
フィードバックの方法	ディスカッション、プレゼンテーションでは振り返りの時間を設けてコメントする。 提出された振り返りシートについては次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習:ディスカッション、プレゼンテーションの前には、事前に示す課題を準備する。(各回 90 分程度) 復習:ディスカッション、プレゼンテーションについて、振り返りシートを記入し、提出する。 (各回 90 度) 日頃から福祉教育に関連する文献や新聞、インターネット等に関心をもち、教材として活用できそうな情報を収集しておく。
教材にかかわる情報	テキスト:なし(都度適宜資料を配布する) 参考書:新福祉教育実践ハンドブック(原田正樹・上野谷加代子著、全国社会福祉協議会) 参考資料等:都度適宜配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	ディスカッション、模擬授業を中心に授業を展開するため、各人の積極的な参加を求める。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>地域課題解決演習
(PBL) I</td><td>教員名</td><td>高下 正明</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-4001-000000</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">2年前期</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">ICT で可能な地域貢献のあり方を探る。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">超スマート社会(Society 5.0)は、情報化社会(Society 4.0)を、ICT 等の最新技術により人間中心の情報化社会に転換していこうとする未来志向の社会概念(social mindset)です。本 Project-based Learning(PBL)では、ICT 技術を地域貢献につなげる道を求めていきます。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">PBL で地域にイノベーションを起こす力を養成します。どのような力を目指すかは、以下に掲げてあります。
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 21 世紀の教員に求められる ICT 教育の基礎知識と実践を学ぶ</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 21 世紀の教員に求められる「課題解決能力」を身に着ける</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>3. 地域社会に出てプロジェクトで仕事をしていく際の基礎力を獲得する</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>4. 確かな方法論(デザイン思考)による課題解決手法を身に着ける</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>5. 世界に向けての発信力をつけるため、プレゼンテーションは多言語化する(英語、中国語、韓国語)</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">フィールドワークは、授業外学習時間にカウントします。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. PBL 概説(目標 1,2,3)
2. 指示待ち人間、リスクを取れない人間、知識を行動に移せない人間は、イノベーション(新たな価値の創造)を起こせない(目標 1,2,3)
3. 超スマート社会とは何か？(目標 1,2,3)
4. デザイン思考とは何か？(目標 1,2,3)
5.「思考の拡散」による「着想」(inspiration)の言語化(目標 2,3,4)
6.「仮説」の設定(目標 2,3,4)
7.「仮説」の検証から「発案」(ideation)へ(目標 2,3,4)
8. プロジェクトの「目標」(goal)設定(目標 2,3,4)
9. プロトタイプ案を出す(目標 2,3,4)
10. プロトタイプ・イベントの企画(目標 2,3,4)
11. 企画の「実装」(implementation)(目標 2,3,4)
12. プロトタイプ・イベントを実装してみての反省(目標 2,3,4)
13. プロトタイプから最終成果物へのプロセス・デザイン(目標 2,3,4)
14. 中間発表準備(目標 1,2,3,4,5)
15. 中間発表(目標 1,2,3,4,5)

定期試験(中間発表を論理的にプレゼンテーションしてもらいます。使用言語:世界共通語としての英語)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">地域でのフィールドワーク作業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:中間発表へのコミット度 50%、PBL 活動へのコミット度 50%
評価の基準:学習者の能動的態度を評価の基準に置きます。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">パートナー企業からのフィードバックを月 1 回のミーティングで受ける</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:地域から出された課題に関する先行研究文献を読む(各回 90 分程度)
復習:地域での活動を内省し、次のアクションに生かす(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 福屋利信著『大学教授よ、書をすてよ、街へ出よう！:プロジェクト型課題研究(PBL)進化論』(太陽出版、2020)
参考書: ジャスパー・ウ著『スタンフォード式デザイン思考』(インプレス、2019)
参考資料等:Brown, Tim. Change by Design (New York:HarperCollins Publishers, 2009)。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">スタンフォード大学 d スクール発・東京大学 i スクール経由の「デザイン思考」によって、山口の課題を解決していきましょう！
コンセプトは、「いかなる個人よりも、プロジェクトの方が賢い」(All projects are smarter than any individual.)です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>地域課題解決演習
(PBL) Ⅱ</td><td>教員名</td><td>高下 正明</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM2-4002-000000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">単位数</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td rowspan="2">初等幼児教育専攻</td><td rowspan="2">選択</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">ICT で可能な地域貢献のあり方を探る。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">超スマート社会(Society 5.0)は、情報化社会(Society 4.0)を、ICT 等の最新技術により人間中心の情報化社会に転換していこうとする未来志向の社会概念(social mindset)です。本 Project-based Learning(PBL)では、ICT 技術を地域貢献につなげる道を求めていきます。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">PBL で地域にイノベーションを起こす力を養成します。具体的にどのような力を目指すかは、以下に掲げてあります。
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 21 世紀の教員に求められる ICT 教育の基礎知識と実践を学ぶ</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 21 世紀の教員に求められる「課題解決能力」を身につける</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>3. 地域社会に出てプロジェクトで仕事をしていく際の基礎力を獲得する</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>4. 確かな方法論(デザイン思考)による課題解決手法を身につける</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>5. 世界に向けての発信力をつけるため、プレゼンテーションは多言語化する(英語、中国語、韓国語)</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">フィールドワークは、授業外学習時間にカウントします。
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. アンケート調査①(research)(目標 1,2,3,4)
2. アンケート調査②(research)(目標 1,2,3,4)
3. 地域の人たちとの交流会イベント企画(目標 2,3,4)
4. 地域の人たちとの交流会イベント実装(目標 2,3,4)
5. イベント自己評価(目標 2,3,4)
6. ICT を活用した最終成果物作成にむけての企画会議(目標 2,3,4)
7. 最終成果物作成に向けての実装①(目標 2,3,4)
8. 最終成果物作成に向けての実装②(目標 2,3,4)
9. 最終成果物作成に向けての実装③(目標 2,3,4)
10. 最終成果物に対する自己評価(目標 2,3,4)
11. 最終発表に向けての準備①(目標 2,3,4,5)
12. 最終発表に向けての準備②(目標 2,3,4,5)
13. 最終発表(目標 1,2,3,4,5)
14. プロジェクト全体の自己評価(目標 1,2,3,4)
15. ポートフォリオ作成(目標 1,2,3,4)

定期試験(最終発表を論理的にプレゼンテーションしてもらいます。使用言語:世界共通語としての英語)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">地域でのフィールドワーク作業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:中間発表へのコミット度 50%、PBL 活動へのコミット度 50%
評価の基準:学習者の能動的学習態度を評価の基準に置きます。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">パートナー企業からのフィードバックを月 1 回のミーティングで受ける</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:地域から出された課題に関する先行研究文献を読む(各回 90 分程度)
復習:地域での活動を内省し、次のアクションに生かす(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 福屋利信著『大学教授よ、書をすてよ、街へ出よう!:プロジェクト型課題研究(PBL)進化論』(太陽出版、2020)
参考書:ジャスパー・ウ著『スタンフォード式デザイン思考』(インプレス、2019)
参考資料等: Brown, Tim. Change by Design (New York:HarperCollins Publishers, 2009)。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6">スタンフォード大学 d スクール発・東京大学 i スクール経由の「デザイン思考」によって、山口の課題を解決していきましょう!
コンセプトは、「いかなる個人よりも、プロジェクトの方が賢い」(All projects are smarter than any individual.)です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>Global English</td><td>教員名</td><td>尊田 望</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-4003-000000</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">特別支援学校教諭</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">持続可能な開発目標(SDGs)・教育者に求められる英語運用力</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">まずは、著名人のスピーチを聞くことを通して、世界中の多様な人たちの話す英語に触れ、慣れる。次に与えられたテーマに関して、自らも英語を使って他者とのコミュニケーションを取る訓練をする。それにあたって、間違いを恐れずに英語を使う態度を養う。テーマは、世界で共通の社会問題や人生に関する問いを取り上げる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">以下の3点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。
1.世界中の多様な人たちの話す英語に慣れる。
2.間違いを恐れずに進んで英語を使い、コミュニケーションを取ろうとする。
3.与えられたテーマについて他者と会話や意見交換ができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">科目 DP:
DP 番号 (1) (2) (3) (4)
(1) ○ (4) ◎
(1) ○ (4) ◎
(1) ○ (4) ◎</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>4.</td><td colspan="6">1. Introduction & BTS (pop star) (目標 1,2,3)
2. Ichiro, Shohei Otani & Hideki Matsui (sports hero) (目標 1,2,3)
3. Malala Yousafzai (education) (目標 1,2,3)
4. Jack Ma (success & failure in life) (目標 1,2,3)
5. Mahatma Gandhi & Martin Luther King, Jr. (non-violent protest) (目標 1,2,3)
6. Emma Watson, Indira Gandhi & Benazir Bhutto (gender equality) (目標 1,2,3)
7. Audrey Hepburn & Arnold Schwarzenegger (movie hero) (目標 1,2,3)
8. Mid-term test (目標 1,2,3)
9. Barak Obama & Muhammad Ali (social justice & change) (目標 1,2,3)
10. Nelson Mandela & Desmond Tutu (freedom) (目標 1,2,3)
11 Japanese business people (business) (目標 1,2,3)
12. Helen Keller & Stephen Hawking (tests and difficulties in life) (目標 1,2,3)
13. Oprah Winfrey & Ellen Degeneres (TV personality) (目標 1,2,3)
14. Dalai Lama & Mother Teresa (happiness/emotion/service) (目標 1,2,3)
15. Review & summary & extra lesson (Japanese writers) (目標 1,2,3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ペアワークまたはグループワーク及び発表を中心とした授業を行う。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業演習 25%、プレゼンテーション 25%、宿題 25%、期末試験 25%
評価の基準:知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業内で指定された課題をした上で授業に臨むこと。(各回 90 分程度)
復習:授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りをしておくこと。(各回 90 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: Global English (Nozomu Sonda, One World International) ISBN 4-948773-08-5
参考資料等: 配布資料</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">英語はグローバルなコミュニケーションのツールです。世界中の多様な背景の人たちが使っています。誰でも参加できる世界です。恐れずに楽しく使ってみましょう。注:対面授業を基本としますが, 状況によっては遠隔授業を実施する場合があるので、念のためにネットワーク環境を整えておいてください。</td></tr>
</table>

授業科目名	国際論	教員名	福屋 利信	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	CM3-4004-000000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	選択

授業テーマ	国際論の基本は、自国に誇りを持ちつつも、その価値観を他者に一方的に押し付けるのではなく、他者の価値観も受け入れるマインドセットを形成しておくことである。そこからしか国際的相互理解は生まれない。
授業概要	国際的視点を身につけると、極論すれば日本理解が進む。言い換えれば、日本をグローバルな視点から客観的にとらえる能力が向上する。本授業は、そんなグローバル力の基礎を養成する

達成目標

過去の国際問題から何某かを学び、それを現在完了時制の分析につなげ、さらには未来時制の最適解につなげる原動力を養成する

DP番号	科目DP:(4) (1)	(2)	(3)	(4)
1.国際的な視野を持つ	○	○	○	◎
2.国際的な行動力を持つ	○	○	○	◎
3.国際的な視野から地域の課題に取り組む	○	○	○	◎
4.日本が抱える国際問題は東アジアに集中している現実を理解する	○	○	○	◎
5.世界の中の日本を考えられるマインドセットを形成する	○	○	○	◎

履修条件・注意事項: 授業の実施方法:①面接授業のみ

授業計画

1. 国際論の概説(目標1. 2. 3. 4)
2. インターナショナルとグローバルの違いを正しく理解する(目標1. 2. 3. 4)
3. 英語ができれば国際人という錯覚は、さすがにもう捨てよう(目標1. 2. 3. 4)
4. 国際外交では、一方的に勝つというのは最悪のシナリオ(それでは、しこりが残り、ときに戦争にまで発展)(目標1. 2. 3. 4)
5. 国際問題は、最良解ではなく最適解を求めるのが解決の近道(目標1. 2. 3. 4)
6. アメリカ社会の行き詰まり(目標1. 2. 3. 4)
7. 中国はどこへ向かうのか(目標1. 2. 3. 4)
8. 朝鮮半島南北統一の可能性(目標1. 2. 3. 4)
9. K-POPとJ-POPの文化比較論(目標1. 2. 3. 4)
10. 日本の歴史教育:近現代史回避主義 (歴史修正) vs. 韓国の歴史教育:近現代史拡大主義(反日教育)(目標1. 2. 3. 4)
11. 台湾の独立問題(目標1. 2. 3. 4)
12. 台湾の近代化と長州人(目標1. 2. 3. 4)
13. 台湾が親日な理由(目標1. 2. 3. 4)
14. 日本の国際的弱点としての「在日コリアンへの差別感情」(目標1. 2. 3. 4)
15. 日本の先進国としての地位の「持続可能性」(目標1. 2. 3. 4)

最終試験はレポート提出

アクティブ・ラーニング	ディベイト&ディスカッション
成績評価基準	評価の方法: 最終レポート50%、 授業への参画度50% 評価の基準: 学習者の能動的な学習態度
フィードバックの方法	常に質問があれば受け付け、その都度回答する。
時間外の学習について	予習:指定された単元について概要を理解しておく(各回90分程度) 復習:授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りをする(各回90分程度)
教材にかかわる情報	テキスト:授業ごとにプリントを配布する 参考書:福屋利信『グローバル・イングリッシュはフィルピンで』(近代文藝社)、『台湾の表層と深層』(かざひの文庫)、 『海峡から聞こえてきたブルース:関釜連絡船と関釜フェリーが帯びた記号論』(大学教育出版)
担当者からのメッセージ等実務経験について	国際人とは、責任とリスクが取れる人のことを言う。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習指導(幼・小)</td><td>教員名</td><td>坂本久美子・松村納央子
川野 哲也・上田 保明
森 俊博・門脇 弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-5001-012000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">3年前後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習の意義、教育実習の準備、</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">教育実習の目標、意義、内容、方法などを理解し、実習生として学校の教育活動に参加する意識をもつ。実習後はそこでの経験や現場の課題について深く考察する。振り返りの中で、今後の課題を認識する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 教育実習の目標、意義、実習生としての義務を理解する。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>2. 教育実習に参加する意欲と態度を備える。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 教育実習の内容、方法について理解する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4. 教育実習で得られた知識と経験について振り返り、考察する。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>5. 今後における自らの課題を理解する。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔授業の可能性もある)
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 教育実習の目的、意義 (目標1,2)
2. 観察と記録の視点① 学校の状況、課題 (目標3)
3. 観察と記録の視点② 子どもの課題、子どもとのかかわり (目標3)
4. 観察と記録の視点③ 担任教師の教育観、学級経営、授業 (目標3)
5. 指導案① ねらい、発問、教材など (目標3)
6. 指導案② 授業展開、支援のあり方 (目標3)
7. 指導案③ 教材研究、ICT機器の活用 (目標3)
8. 実習準備、心構え、自己課題の明確化 (目標3)
(前半実習)
9. 振り返り、反省① 観察記録より (目標4,5)
10. 振り返り、反省② 子どもとのかかわり (目標4,5)
11. 模擬授業とその検討(導入を中心に) (目標4,5)
12. 模擬授業とその検討(展開を中心に) (目標4,5)
(後半実習)
13. 振り返り、反省① 子どもとのかかわり (目標4,5)
14. 振り返り、反省② 授業 (目標4,5)
15. 全体の発表、振り返り (目標4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション・模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: レポートおよびノート50%、グループワークおよび個別面談50%
評価の基準: 実習に向けた意欲や態度を備えているか。
教育実習の目的や内容等について理解しているか。
実習後に、自己の体験について深く考察しているか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 関連書籍を読んでおくこと、関連する講義の学修内容を振り返っておくこと。(45分程度)
復習: 講義内容について、自分なりに説明できるようにすること。自らの実践について振り返りをすること。(45分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 小櫃智子ほか著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社。
玉川大学教師教育リサーチセンター『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』時事通信社。
参考書: 幼稚園教育要領、小学校学習指導要領
参考資料等:「実習に関するガイドブック」 「教育実習実施に当たってのガイドライン」(山口県教育委員会)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習(幼・小) I</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">坂本久美子・松村納央子
川野 哲也・上田 保明
森 俊博・門脇 弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-5002-012000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">教科及び教職に関する科目</td><td colspan="5">教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="5">教育実習</td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">授業テーマ</td><td colspan="7">教育実習、教育活動についての観察、</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="7">幼児、児童の様子、学習環境、指導者の様子等について観察を行い、それらの実際と課題について把握する。実習校(園)の方針や特色を理解するとともに学校実務の補助的な役割を担う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">達成目標</td><td colspan="7">科目DP:(4)
DP番号 (1) (2) (3) (4)
1. 教育実習校(園)の方針や特徴、組織体制を理解できる。 ◎ ○
2. 指導教員等の授業を観察し、ねらい、内容、方法等について理解できる。 ◎ ○
3. 幼児、児童との関わりを通して、実態や課題を把握できる。 ◎ ◎
4. 指導教員等の補助的な役割を担うことができる。 ◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">履修条件・注意事項</td><td colspan="7">授業の実施方法:①面接授業のみ
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業計画</td><td colspan="7">1. 実習校(園)の方針や特色を学ぶ。(目標1)
2. 指導教員等の授業、学習環境を観察し、記録する。(目標2)
3. 幼児、児童と教育的愛情をもって関わる。(目標3)
4. 幼児、児童の実態や課題について記録する。(目標3)
5. 指導教員等の補助的な役割を担う。(目標4)
6. 指導教員等の指導を受け、自らのかかわり方を振り返る。(目標3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクティブ・ラーニング</td><td colspan="7">教育実習</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="7">評価の方法: 実習中の取組状況40%、実習日誌およびレポート60%
評価の基準: 学校の現状や実態について理解したかどうか
課題や意味などについて考えたかどうか
積極的にかかわったかどうか</td></tr>
<tr><td colspan="2">フィードバックの方法</td><td colspan="7">学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">時間外の学習について</td><td colspan="7">予習: 実習校について情報を集める、実習に必要な資質能力を高めておく。実習先でのオリエンテーションに参加する。
復習: 日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">教材にかかわる情報</td><td colspan="7">テキスト: なし
参考書: 幼稚園教育要領、小学校学習指導要領
参考資料等: 適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習(幼・小)Ⅱ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">坂本久美子・松村納央子
川野 哲也・上田 保明
森 俊博・門脇 弘樹</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-5003-012000</td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習、指導案作成および授業実践</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">これまで学んできた専門的知識や技能を教育現場で実践する。幼児、児童と関わりながら教員の役割、職務内容について理解する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 適切な指導案を作成し、授業実践ができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2. 指導に必要な基礎的技術を修得する。情報機器を活用する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 教員の役割、職務内容を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4. 幼児、児童と適切にかかわる。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 幼児、児童と適切にかかわる。(目標3,4)
2. 教材研究を行い、指導案を作成する。(目標1)
3. 指導案に基づき適切な指導をする。(目標1,2,3)
4. 指導教員等の指導を受け、振り返る。(目標1,2,3,4)
5. 改善を加えた上で、新たに実践する。(目標1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 実習中の取組状況60%、実習日誌およびレポート40%
評価の基準: 教員の役割、職務内容を理解したかどうか
指導のための技術を修得したかどうか
実践できたかどうか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 実習に向けて教育内容を確認し、必要な教材研究を行う。実習先でのオリエンテーションに参加する。
復習: 日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: なし
参考書: 幼稚園教育要領、小学校学習指導要領
参考資料等: 適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習指導(小・中)</td><td>教員名</td><td>川野哲也・上田保明
森 俊博・門脇弘樹
二五義博・中垣謙司
檜垣英夫</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-5004-002200</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習の意義、教育実習の準備、</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">教育実習の目標、意義、内容、方法などを理解し、実習生として学校の教育活動に参加する意識をもつ。実習後はそこでの経験や現場の課題について深く考察する。振り返りの中で、今後の課題を認識する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.教育実習の目標、意義、実習生としての義務を理解する。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>2.教育実習に参加する意欲と態度を備える。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>3.教育実習の内容、方法について理解する。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.教育実習で得られた知識と経験について振り返り、考察する。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>5.今後における自らの課題を理解する。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②遠隔授業の可能性もある)
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.教育実習の目的、意義 (目標1,2)
2.観察と記録の視点① 学校の状況、課題 (目標3)
3.観察と記録の視点② 児童生徒の課題、児童生徒とのかかわり (目標3)
4.観察と記録の視点③ 担任教師の教育観、学級経営、授業 (目標3)
5.指導案① ねらい、発問、教材など (目標3)
6.指導案② 授業展開、支援のあり方 (目標3)
7.指導案③ 教材研究、ICT機器の活用 (目標3)
8.実習準備、心構え、自己課題の明確化 (目標3)
(前半実習)
9.振り返り、反省① 観察記録より (目標4,5)
10.振り返り、反省② 児童生徒とのかかわり (目標4,5)
11.模擬授業とその検討(導入を中心に) (目標4,5)
12.模擬授業とその検討(展開を中心に) (目標4,5)
(後半実習)
13.振り返り、反省① 児童生徒とのかかわり (目標4,5)
14.振り返り、反省② 授業 (目標4,5)
15.全体の発表、振り返り (目標4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション・模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: レポートおよびノート50%、グループワークおよび個別面談50%
評価の基準: 実習に向けた意欲や態度を備えているか。
教育実習の目的や内容等について理解しているか。
実習後に、自己の体験について深く考察しているか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 関連書籍を読んでおくこと、関連する講義の学修内容を振り返っておくこと。(45分程度)
復習: 講義内容について、自分なりに説明できるようにすること。自らの実践について振り返りをすること。(45分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 玉川大学教師教育リサーチセンター『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』時事通信社。
参考書: 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領
参考資料等:「実習に関するガイドブック」 「教育実習実施に当たってのガイドライン」(山口県教育委員会)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習(小・中) I</td><td>教員名</td><td>川野哲也・上田保明
森 俊博・門脇弘樹
二五義博・中垣謙司</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-5005-002200</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">実習</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習、教育活動についての観察、</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">児童、生徒の様子、学習環境、指導者の様子等について観察を行い、それらの実際と課題について把握する。実習校の方針や特色を理解するとともに学校実務の補助的な役割を担う。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 教育実習校の方針や特徴、組織体制を理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2. 指導教員等の授業を観察し、ねらい、内容、方法等について理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>3. 児童、生徒との関わりを通して、実態や課題を把握できる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4. 指導教員等の補助的な役割を担うことができる。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 実習校の方針や特色を学ぶ。(目標1)
2. 指導教員等の授業、学習環境を観察し、記録する。(目標2)
3. 児童、生徒と教育的愛情をもって関わる。(目標3)
4. 児童、生徒の実態や課題について記録する。(目標3)
5. 指導教員等の補助的な役割を担う。(目標4)
6. 指導教員等の指導を受け、自らのかかわり方を振り返る。(目標3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 実習中の取組状況40%、実習日誌およびレポート60%
評価の基準: 学校の現状や実態について理解したかどうか
課題や意味などについて考えたかどうか
積極的にかかわったかどうか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 実習校について情報を集める、実習に必要な資質能力を高めておく。実習先でのオリエンテーションに参加する。
復習: 日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: なし
参考書: 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領
参考資料等: 適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習(小・中)Ⅱ</td><td>教員名</td><td>川野哲也・上田保明
森 俊博・門脇弘樹
二五義博・中垣謙司</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM3-5006-002200</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">実習</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習、指導案作成および授業実践</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">これまで学んできた専門的知識や技能を教育現場で実践する。児童、生徒と関わりながら教員の役割、職務内容について理解する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="5">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 適切な指導案を作成し、授業実践ができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>2. 指導に必要な基礎的技術を修得する。情報機器を活用する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 教員の役割、職務内容を理解する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4. 児童、生徒と適切にかかわる。</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ
履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 児童、生徒と適切にかかわる。(目標3,4)
2. 教材研究を行い、指導案を作成する。(目標1)
3. 指導案に基づき適切な指導をする。(目標1,2,3)
4. 指導教員等の指導を受け、振り返る。(目標1,2,3,4)
5. 改善を加えた上で、新たに実践する。(目標1,2,3,4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 実習中の取組状況60%、実習日誌およびレポート40%
評価の基準: 教員の役割、職務内容を理解したかどうか
指導のための技術を修得したかどうか
実践できたかどうか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 実習に向けて教育内容を確認し、必要な教材研究を行う。実習先でのオリエンテーションに参加する。
復習: 日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: なし
参考書: 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領
参考資料等: 適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習指導(中・高)</td><td>教員名</td><td>二五義博
中垣謙司(実務経験)
檜垣英夫(実務経験)</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL4-5007-000210</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td rowspan="4">年次配当</td><td rowspan="4">3年前後期
4年前期</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習の準備・振り返り</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">中学校または高等学校での教育実習を、充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、中学校または高等学校の英語教育の特色・課題等を十分に理解して、教育実習に備えるための授業です。実習後は、実習先での経験を省察し、振り返ることによって今後の課題を認識し、学校現場における実践的な指導力を身につけます。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 中・高等学校での教育実習の意義・心得・責務を理解し説明することができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2. 中・高等学校での教育実習の目標・内容・活動を把握し、説明することができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3. 中・高等学校での教育実習の特色と課題を説明することができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4. 実習体験からの学びを省察し、自分の成長に活かすことができる。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>5. 今後の学習課題を理解し、その課題を解決するための方策を計画することができる。</td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:原則として①面接授業(場合によっては遠隔授業)</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">事前指導
1. 教育実習の意義と心得(実習生としての行動・態度・遵守事項)(目標 1)
2. 授業観察の視点と方法(授業とは・教師の出す指示)(目標 1,2)
3. 日本における英語教育の特色と課題(目標 3)
4. 学級経営の重要性(目標 3)
5. 教材研究の基本:教材と学習内容・ICTの効果的な活用(目標 2,3)
6. 学習指導案作成の基本(授業の組み立て)(目標 2,3)
7. 生徒理解と生徒指導(目標 3)
8. 実習校理解(目標 2)
9. 模擬授業Ⅰ(目標 1,2,3)
10. 模擬授業Ⅱ(目標 1,2,3)
事後指導
11. 教育実習報告Ⅰ(教科指導)(目標 4,5)
12. 教育実習報告Ⅱ(教科指導)(目標 4,5)
13. 教育実習報告Ⅰ(学級経営・生徒指導)(目標 4,5)
14. 教育実習報告Ⅱ(学級経営・生徒指導)(目標 4,5)
15. 今後の課題(目標 4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">模擬授業とグループでの話し合いが授業の中心となる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業での発表・貢献:30% グループワーク:30% レポート:40%
評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">指導案等について授業内での全体還元及び個別還元指導</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業内で事前に読んでおくべき資料を指示します。内容を理解した上で授業に臨んでください。(各回 45 分程度)
復習:振り返りのレポートが課されます。次の授業で必ず提出してください。(各回 45 分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:授業内で資料を適宜配布します。
参考書:授業内で資料を適宜配布します。
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領
参考資料等:授業内で資料を適宜配布します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">学校現場における実践的な指導力を身につけるということを絶えず意識して取り組んでください。
高等学校教員・県教委指導課・教職員課での実務経験をもとに学校現場で必要とされる資質・能力等について指導します。</td></tr>
</table>

授業科目名	教育実習(中・高) I	教員名	二五義博 中垣謙司(実務経験)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UL3-5008-000220				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	3年前後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				英語教育専攻	選択

教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
授業テーマ	教育現場における実習
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、中学校または高等学校の教育活動に主体的に適用する機会です。経験豊かな指導教諭のもと、生徒との直接的な交流を通して、大学における学びでは不足する部分を体験的に習得する場でもあります。自分自身の教職適性を確認し、教職に就く意思を強化する場としてください。

達成目標

	科目 DP: (4)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.学校現場と生徒の実態に触れ、その理解を深めることができる。	◎	○		
2.中学校または高等学校の役割、機能を理解することができる。	○	◎		
3.教育者の職務内容、役割を理解することができる。		○	◎	○
4.実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。		○	◎	
5.実践と理論を統合し、学習課題を発見することができる。		○	○	◎

履修条件・注意事項	所定の単位を修得した学生のみが教育実習に行くことを許可されます。また、授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがあります。
授業計画	【前半】主に見学・観察・参加実習とする。(目標 1,2,3,4,5) 1. 実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。 2. テーマを持って生徒を観察し、積極的に活動に参加する。 3. 助手的立場で教育活動や校務の一部を分担することによって、教育者の職務内容を理解する。 4. 教育環境の整備、構成を手伝う。 5. 実習校の担当者による指導を受ける。 【後半】主に観察・参加・授業実習とする。(目標 1,2,3,4,5) 1. 実習校の教育課程に基づき指導を経験する。 2. 指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について学ぶ。 3. 立案した指導案に基づいて授業を実施して指導方法及び評価について学ぶ。 4. 教育環境の整備、構成を手伝う。 5. 実習校の担当者による指導を受ける。
アクティブ・ラーニング	授業, グループでのディスカッションが中心となる。
成績評価基準	評価の方法:実習校評価、教育実習日誌、レポートによって総合的に評価します。 評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	実習記録によって学びを確認します。
時間外の学習について	予習:実習校の情報を収集し、理解を深めておくこと。 復習:実習後の自己研鑽のために、課題をまとめておくこと。
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:なし 参考資料等:必要に応じて資料を配布します。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	実習生であっても生徒にとってみれば先生です。教師としての自覚を忘れずに実習に取り組んでください。教師になる強い意志のない人は、教育実習へ行くことはできません。 原則として2週間、慶進中・高等学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教育実習(中・高)Ⅱ</td><td>教員名</td><td>二五義博
中垣謙司(実務経験)</td><td rowspan="8">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UL4-5009-000220</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>中学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">実習</td><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育現場における実習</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、中学校または高等学校の教育活動に主体的に適用する機会です。経験豊かな指導教諭のもと、生徒との直接的な交流を通して、大学における学びでは不足する部分を体験的に習得する場でもあります。教職適性を確認し教科の指導技術についての理解を深めると同時に、学級運営等実践的な指導力を学ぶ場としてください。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.学校現場と生徒の実態に触れ、その理解を深めることができる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.中学校または高等学校の役割、機能を理解することができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.教育者の職務内容、役割を理解することができる。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>4.実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>5.実践と理論を統合し、学習課題を発見することができる。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">所定の単位を修得した学生のみが教育実習に行くことを許可されます。また、授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがあります。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">【前半】主に見学・観察・参加実習とする。(目標 1,2,3,4,5)
1. 実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。
2. テーマを持って生徒を観察し、積極的に活動に参加する。
3. 助手的立場で教育活動や校務の一部を分担することによって、教育者の職務内容を理解する。
4. 教育環境の整備、構成を手伝う。
5. 実習校の担当者による指導を受ける。

【後半】主に参加・授業実習とする。(目標 1,2,3,4,5)
1. 実習校の教育課程に基づき指導を経験する。
2. 指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について学ぶ。
3. 立案した指導案に基づいて授業を実施して指導方法及び評価について学ぶ。
4. 教育環境の整備、構成を手伝う。
5. 実習校の担当者の指導の下、学級経営に携わる。</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">授業, グループでのディスカッションが中心となる。</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:実習校評価、教育実習日誌、レポートによって総合的に評価します。
評価の基準:態度と意欲を重視した評価を行う。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実習記録によって学びを確認します。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:実習校の情報を収集し、理解を深めておくこと。
復習:実習後の自己研鑽のために、課題をまとめておくこと。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:なし
参考書:なし
参考資料等:必要に応じて資料を配布します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">実習生であっても生徒にとってみれば先生です。教師としての自覚を忘れずに実習に取り組んでください。教師になる強い意志のない人は、教育実習へ行くことはできません。
原則として2週間、出身中・高等学校もしくは出身地区の中・高等学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>特別支援教育実習指導</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">田村 知津子(実務経験)
名島 潤慈
松田 信夫(実務経験)
門脇 弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-5010-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">教育実習の準備・振り返り</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">限られた期間の特別支援学校教育実習を充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、特別支援学校の特色・課題等を把握して、実習に備える。実習体験後、実習を省察し、今後の課題を認識する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.特別支援学校教育実習の意義・心得・責務を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2.特別支援学校教育実習の目標・内容・活動を把握する。</td><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.特別支援学校教育実習の特色と実際を把握する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.実習体験からの学びを省察する。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>5.今後の学習の課題を認識する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">実習の履修要件を満たしていること。
特に、原則2年次の通算 GPA が 2.5 以上で、2年次の免許状必修科目の GPA が 2.0 以上に留意のこと。
授業の実施方法:①面接授業と遠隔授業の併用</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">事前指導(目標 1,2,3)
1. 教育実習の意義、心構え、自己紹介票の書き方、留意事項
2. 特別支援学校の教育と特色、授業参観の視点と方法
3. 個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用方法
4. ティームティーチング、個別指導と集団指導(ロールプレイ)、環境調整
5. 教材教具とICTの活用
6. 学習指導案等の基本(単元(題材)選定、単元計画、目標設定、児童生徒観)
7. 学習指導案等の実際(指導過程、ICTを活用した授業づくり、個に応じた配慮、環境調整、評価等)
8. 教科等の指導
9. 自立活動の指導
10. 日常生活の指導と生活単元学習
11. 中・高等部の作業学習
12. 実習日誌の書き方と、実習校理解、礼状の書き方
事後指導(目標 4,5)
13. グループワークによる教育実習の振り返り(目標 4,5)
14. グループワークによる教育実習の学びの整理と課題の認識
15. グループ毎の討論結果の発表による学びや課題の共有と深化</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ロールプレイ、グループワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 授業での発表等 30%、グループワーク 20%、レポート等の提出 50%の割合で、総合的に評価する。
評価の基準: 実習への意欲を高めている。特別支援学校の教育を理解し、実態を踏まえた学習指導案が書ける。
事後には学びの深まりが見られる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">課題等に改善点をコメントする。発表について振り返り、講評する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:授業内容に関する情報収集・整理をし、意見交換できるようにしておく、または学習指導案の原案を考えてくる。(60 分)
復習:授業後の課題や実習後の学びをまとめる。(30 分)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:アクティブラーニングで学ぶ特別支援教育　一芸社(藤田久美編著)
参考書:特別支援教育のすべてがわかる　教員を目指すあなたへ　ジアース教育新社</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">教育実習の一環として大学内で実施される授業科目ですが、課題を自覚して積極的な姿勢で受講してください。
田村、松田…特別支援学校での勤務経験を活かして実践的に指導します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>特別支援教育実習</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">田村 知津子(実務経験)
名島 潤慈
松田 信夫(実務経験)
門脇 弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-5011-000001</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習(特別支援学校)</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">特別支援教育の現場を学ぶ</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、特別支援学校の教育活動に主体的に適用する機会である。経験豊かな指導教諭のもと、児童生徒との直接的な交流を通して、大学の学習では不足する部分を体験的に習得する場でもある。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.児童生徒の実態に触れ、その理解を深める。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.特別支援学校の役割、機能を理解する。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.教員の職務内容、役割を理解する。</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>4.実習の体験を通して教育の方法や技術を習得する。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5.実践と理論の統合をめざし、学習課題を発見する。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">実習の履修要件を満たしていること。特に、原則2年次の通算 GPA が 2.5 以上で、2年次の免許状必修科目の GPA が 2.0 以上に留意のこと。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。（目標 1,2)
2. テーマを持って児童生徒を観察し、積極的に活動に参加する。（目標 1,2)
3. 個別の教育支援計画について確認する。（目標 1,4)
4. 個別の指導計画について確認する。（目標 1,4)
5. 授業参観をする。（目標 1,3)
6. 学習指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について確認する。（目標 1,2,3)
7. 教材研究をする。（目標 1,2,3)
8. 学習環境の整備について確認する。（目標 2,3)
9. 実習校の教育課程に基づき指導を経験する。（目標 1,3,4)
10. 実施する授業の学習指導案を立案する。（目標 1,2)
11. 学習指導案に基づいた授業を実施する。（目標 1,2,3)
12. 実施した授業の指導方法及び評価について指導を受ける。（目標 2,4,5)
13. 実施した授業の検討後、反省に基づいた学習指導案を立案する。（目標 2,4,5)
14. 実習校の実習担当者・学級担任による指導を受ける。（目標 2,4,5)
15. 実習日誌に総合的な反省と今後の課題を記述する。（目標 5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">教育実習</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: 実習校の評価(70%)と実習日誌、実習レポートの状況等(30%)により総合的に評価する。
評価の基準:意欲的に情熱をもって実習に取り組み、成果をあげることが出来たか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">課題回収後、個別事項についてはコメントを記入し、全体で共有する事項については、次回確認する。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:実習校の実態や担当学級の幼児児童生徒の実態を日々観察し、記録し、理解を深めること。
復習:日々の自らの実践の評価を踏まえて、常に関わり方の改善を考えること。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参考書:『 特別支援学校幼稚部教育要領』、『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』、『特別支援学校高等部学習指導要領』(文部科学省)(各平成 29 年度版)
参考資料等: 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編、総則等編(幼・小・中)、総則等編(高) (文部科学省)</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">自ら求めて主体的に教育実習に取り組むこと。また、幼児児童生徒にとっては「先生」であることを常に意識して責任ある言動に努めること。障害のあるなしにかかわらず、また障害の程度や実態にかかわらず、子どもたちは実習生を実によく見ています。
田村…2週間、各特別支援学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。
松田…特別支援学校での勤務経験を活かして、実践的に指導します。</td></tr>
</table>

授業科目名	保育実習指導Ⅰ	教員名	佐藤 真澄 大田 紀子	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UC2-6001-100000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年前後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				英語教育専攻	

教科目	必修科目(保育士)
系列	保育実習
授業テーマ	保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括
授業概要	保育所実習と施設実習の事前および事後指導である。事前指導では、実習の意義・目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。実習手帳や保育指導案の書き方についても学ぶ。 VTR 視聴や現場の実習指導者による特別講義により、施設の概要、実習生としての基本的な心構えや姿勢を学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所および施設に対する認識を深めるとともに、今後の実習における自己課題を見出す。

達成目標

	科目 DP:(4)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.保育実習の意義・目的を理解できる。	◎			
2.実習の内容を理解し、自らの課題が明確になる。	◎			
3.実習生としての基本的な心構えや姿勢を理解できる。			◎	
4.実習の計画、実践、観察、記録、評価等について理解できる。	○	◎		
5.事後指導を通して、実習を総括、自己評価し、今後の課題が明確になる。		○		◎

履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ

授業計画

1. 保育実習の意義・目標・展開(目標 1)	16. 福祉施設の機能と保育士の役割(目標 2)
2. 保育所の機能と保育士の役割(目標 2)	17. 施設実習の意義・目標・展開(目標 1)
3. 実習テーマの設定／記録類の取り扱い(目標 2,4)	18. 児童養護施設の機能・役割(目標 2,3)
4. 保育指導案の考え方①(目標 2,4)	19. 障害児／障害者支援施設の機能・役割(目標 2,3)
5. 保育指導案の考え方②(目標 2,4)	20. 児童発達支援センターの機能・役割(目標 2,3)
6. 保育指導案の立案と保育の技術①(目標 2,4)	21. 乳児院の機能・役割(目標 2,3)
7. 保育指導案の立案と保育の技術②(目標 2,4)	22. 福祉施設の利用者の特性と支援方法(目標 2,3)
8. 保育所実習にむけての心構え(目標 1,2,3,4)	23. 実習テーマの設定(目標 2,4)
9. 保育所実習エピソード記録の書き方(目標 4,5)	24. 記録類の取り扱い(目標 2,4)
10. エピソード記録を用いた総括・自己評価(目標 5)	25. 外部講師による講義:児童養護施設(目標 2,3)
11. 実習レポートの書き方(目標 4,5)	26. 外部講師による講義:障害者支援施設(目標 2,3)
12. 実習レポートを用いた総括・自己評価(目標 4,5)	27. 外部講師による講義:児童発達支援(目標 2,3)
13. 個人面談／グループ討議による総括①(目標 5)	28. 先輩の実習体験からの学び(目標 2,3)
14. 個人面談／グループ討議による総括②(目標 5)	29. 巡回教員との面談(目標 1,2,3)
15. 討議による保育所実習での学びの共有(目標 5)	30. 施設実習にむけての心構え(目標 1,2,3,4)

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法:授業態度 50%、レポート等の提出物 50% 評価の基準:(事前)保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。 (事後)実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。(各 30 分程度) VTR 視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。(各 30 分程度)
時間外の学習について	予習:保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習園についてホームページ等で理解を深める。各回 45 分程度 復習:毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する。各回 45 分程度
教材にかかわる情報	テキスト:『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参考書:適宜紹介する。 参考資料等:福祉小六法
担当者からのメッセージ等実務経験について	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育実習Ⅰ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC2-6002-100000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">2年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>4</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育内容、保育技術、対象の理解、施設の理解</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">保育実習Ⅰは保育所での10日間の実習と児童福祉施設等の施設での10日間の実習で構成される。見学・観察・参加実習を中心に、保育所実習では、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。施設実習では、子ども(利用者)への理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解することができる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.乳幼児の発達や利用者等の個別のニーズを理解することができる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.保育や養護等のねらいについて実践を通して理解することができる。</td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。</td><td></td><td></td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">保育実習指導Ⅰを履修していること</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">【保育所実習】
1. 実習園の方針や概要についての説明を受ける （目標 1,）
2. 保育の一日の流れを理解し、参加する （目標 2,3,4）
3. 環境構成、子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録する （目標 2,3,4）
4. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達や個人差について考察する （目標 2,3,4）
5. 手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分保育を行う （目標 2,3,4）
6. 保育指導案を立案し、実践する （目標 2,3,4）
【施設実習】
1. 施設の方針や概要についての説明を受ける （目標 1）
2. 養護等の一日の流れを理解し、参加する （目標 2,3,4）
3. 環境構成、利用者の生活場面、職員の支援について観察し、記録する （目標 2,3,4）
4. 利用者の観察や関わりを通して利用者の個別のニーズや社会的背景について考察する （目標 2,3,4）
5. 生活場面における利用者への援助を行う （目標 2,3,4）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">実習・フィールドワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:実習施設の評価(60%)、実習日誌等の記録(40%)
評価の基準:実習態度、保育技術、記録、倫理</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。
実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指導Ⅰ・ⅡもしくはⅡで行う)。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:実習指導(事前)の内容について整理しておく。
復習:実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 実習に関するガイドブック
参考書:保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社
参考資料等:福祉小六法</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育実習指導Ⅱ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-6003-200000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅱの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR 視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅱの意義・目的を理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.保育所の役割や機能、および保育士の専門性について理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.保育課程を踏まえた保育計画の考え方や方法を理解できる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べることができる。</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">1～7回は保育実習指導Ⅱと同時開講
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅱの位置づけ （目標 1)
2. 実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価 （目標 1)
3. 個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括① （目標 1)
4. 個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括② （目標 1)
5. 保育実習Ⅱの意義・目標・内容 （目標 1,2)
6. 外部講師による特別講義:保育士の専門性について （目標 1,2)
7. 外部講師による特別講義:施設における保育士の役割 （目標 1,2)
8. 保育課程と保育計画の連続性 （目標 2,3)
9. 保育指導案立案:設定保育 （目標 2,3)
10. 保育指導案立案:全日保育 （目標 2,3)
11. 模擬保育実践 （目標 2,3)
12. 保育実習Ⅱに向けた心構え （目標 1,2,3)
13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価 （目標 4)
14. 個別面談による実習の総括 （目標 4)
15. 討議による保育実習での学びの共有 （目標 4)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業態度 50%、レポート等の提出物 50%
評価の基準:(事前)保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。
(事後)実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。
VTR 視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習で使用する教材(パネルシアター、ペープサート等)を作成する。各回 45 分程度
復習:毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する(期限厳守)。各回 45 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社
参 考 書:適宜指示する。
参考資料等:福祉小六法</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育実習Ⅱ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-6004-200000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育内容、保育技術、乳幼児理解、保護者支援</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">認可保育所における 10 日間の保育実習</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育所の役割や機能について、実践を通して理解できる。</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.乳幼児理解を通した保育者の援助について理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.保育指導案を立案し、実践することができる。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>4.保育実践の振り返りを通して、乳幼児理解を深めることができる。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td></td></tr>
<tr><td>5.保育所保育士としての自己の課題を明確化できる。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">保育実習Ⅰを履修していること
保育実習指導Ⅱを履修していること</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 養護と教育が一体となった保育に参加し、観察・記録する。（目標 1,2,3,4）
2. 入所している子どもの保護者や地域の子育て家庭への支援について観察し、理解する。(目標 1)
3. 関わりなどの援助を通して、乳幼児理解を深める。（目標 2,4）
4. 保育指導案を立案・実践し、振り返りを行う。（目標 3,4）
5. 記録や実践の振り返りを通して、保育所保育士の専門性について考察する。（目標 1,2,4,5）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">実習・フィールドワーク</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:実習施設の評価(60%)、実習日誌等の記録(40%)
評価の基準:実習態度、保育技術、記録、倫理</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。
実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指導Ⅱで行う)。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:実習指導(事前)の内容について整理しておく。
復習:実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: 実習に関するガイドブック
参 考 書:保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社
参考資料等:福祉小六法</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育実習指導Ⅲ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-6005-200000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">選択必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育実習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅲの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR 視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、社会福祉施設に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP: (4)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1.保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲの意義・目的を理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2.社会福祉施設の社会的意義と保育士の果たす役割について理解できる。</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3.社会福祉施設における支援の考え方と方法について理解できる。</td><td>○</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4.事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べることができる。</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">1～7回は保育実習指導Ⅱと同時開講
授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅲの位置づけ （目標 1）
2. 実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価 （目標 1）
3. 個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括① （目標 1）
4. 個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括② （目標 1）
5. 保育実習Ⅲの意義・目標・内容 （目標 1,2）
6. 外部講師による特別講義:保育士の専門性について （目標 1,2）
7. 外部講師による特別講義:施設における保育士の役割 （目標 1,2）
8. 実習を行う社会福祉施設の制度的位置づけ、機能、設置基準 （目標 2,3）
9. 保育実習Ⅲの実習課題と実習テーマの設定 （目標 1,2,3）
10. 社会福祉施設における個別支援計画と支援の方法 （目標 2,3）
11. プロセスレコードを用いた社会福祉援助技術の方法 （目標 2,3）
12. 保育実習Ⅲにむけて心構え （目標 1,2,3）
13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価 （目標 4）
14. 個別面談による実習の総括 （目標 4）
15. 討議による保育実習での学びの共有 （目標 4）</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、グループワーク、模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:授業態度 50%、レポート等の提出物 50%
評価の基準:(事前)保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。
(事後)実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。
VTR 視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習施設で行うレクリエーション等の企画書を作成する。各回 45 分程度
復習:毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する(期限厳守)。各回 45 分程度</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社
参 考 書:適宜指示する。
参考資料等:福祉小六法</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育実習Ⅲ</td><td rowspan="2">教員名</td><td rowspan="2">佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="5">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC3-6006-200000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">3年前後期</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
</table>

教科目	選択必修科目(保育士)
系列	保育実習
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象の理解、地域社会の理解
授業概要	児童厚生施設又は知的障害児通園施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で 10 日間の実習を行う。保育実習Ⅰ(施設実習)での体験的な学びを基礎として、専門職としての知識、技術、倫理等を高め、実践力を身につける。さらには、多職種間、地域社会(家族を含む)との連携の方法についても学ぶ。

達成目標

	科目 DP:(4)			
DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
1.利用者の個別のニーズについて、障害特性や社会的背景に関連付けて理解できる。	◎			
2.利用者の最善の利益を具体化する方法について理解できる。	◎			
3.地域社会との連携の方法について具体的に理解できる。			◎	
4.保護者支援、家庭支援のための方法について具体的に理解できる。		◎		
5.社会福祉の専門職としての自己の課題を明確化できる。		○		◎

履修条件・注意事項	保育実習Ⅰを履修していること。 保育実習指導Ⅱを履修していること。
授業計画	1. 施設における養護・療育・支援等の全般に観察・参加し、記録する。(目標 1,2,3,4) 2. 利用者の個人差や個別の事情について情報を収集し、考察することができる。(目標 1,2,3,4) 3. 行事や日常的な交流への参加、記録等を通して、地域社会との連携の方法について学ぶ。(目標 1,2,3,4) 4. カンファレンスや記録等を通して、保護者支援や家庭支援の方法について学ぶ。(目標 1,2,3,4) 5. 関わった事例や支援の経験を振り返り、社会福祉の専門職としてのあり方を考察する。(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法:実習施設の評価(60%)、実習日誌等の記録(40%) 評価の基準:実習態度、保育技術、記録、倫理
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指Ⅲで行う)。
時間外の学習について	予習:実習指導(事前)の内容について整理しておく。 復習:実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。
教材にかかわる情報	テキスト:実習に関するガイドブック 参考書:保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参考資料等:福祉小六法
担当者からのメッセージ等実務経験について	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>教職実践演習</td><td>教員名</td><td>川野哲也・中垣謙司
上田保明・二五義博
森 俊博・門脇弘樹</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM4-7001-021110</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年次配当</td><td rowspan="2">4年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(幼稚園、小学校、中学校・高等学校(英語))</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教職実践演習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">大学の授業内外で修得してきた資質能力を振り返りながら、資質能力を活用する実践的課題に取り組む。自らの課題を認識しつつ、弱い部分については補い、専門的な資質能力の完成を目指す。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">これまでの学びを振り返り、教職員としての資質能力を高めていく。議題に即して自分なりに考えたり、グループで意見交換を行ったり、さらにはプレゼンテーションを行ったりする。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">以下の資質能力の修得を確認する。
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 使命感や責任感、教育的愛情等、</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2. 社会性や対人関係能力、</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 児童生徒の理解や学級経営の能力、</td><td></td><td>○</td><td></td><td>◎</td></tr>
<tr><td>4. 教科の指導力、</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5. 表現力、</td><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ (状況によって②の可能性もある)
履修条件: 教員免許取得予定の者、履修カルテを作成してきた者</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回目:オリエンテーション、教職実践演習について。(目標1,2,3,4,5)
第2回目:個人課題(教育法規、幼稚園教育要領、学習指導要領) (目標1,2,3,4)
第3回目:個人課題(使命感、責任感、教育的愛情) (目標1,2,3)
第4回目:個人課題(学校運営、地域とのかかわり、危機管理) (目標1,2,3)
第5回目:個人課題(情報機器の活用) (目標3,4,5)
第6回目:役割演技(子どものトラブルへの対応) (目標1,2,3)
第7回目:役割演技(学級経営) (目標1,2,3)
第8回目:役割演技(保護者対応) (目標1,2,3)
第9回目:模擬授業(子どもの発達に合わせたねらいの設定) (目標1,2,3,4,5)
第10回目:模擬授業または模擬保育(アクティブラーニング) (目標1,2,3,4,5)
第11回目:模擬授業または模擬保育(板書、話法、教材教具の活用、ICT機器活用) (目標1,2,3,4,5)
第12回目:模擬授業または模擬保育(学習規律、学級経営との関連) (目標1,2,3,4,5)
第13回目:発展課題または模擬保育(豊かな表現) (目標1,2,3,4,5)
第14回目:発展課題または模擬保育(深い教材研究) (目標1,2,3,4,5)
第15回目:発展課題または模擬保育(新任教師の成長) (目標1,2,3,4,5)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">グループワーク・ディスカッション・ロールプレイ・模擬授業</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: レポート50%、グループワーク50%
評価の基準: 以下の点から総合的に評価を行う。
実践的課題についてこれまでの学びを活かして考えることができるか。
幼児児童生徒の視点、あるいは保護者の視点で考えることができるか。
優れた授業実践を目指して計画を立案できるか、さらにその計画を改善できるか。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習: 事項につき十分に調べること、過去の学修内容を復習すること、与えられた課題に取り組むこと。(90分程度)
復習: 振り返りを行うこと。自らの課題を克服するためのボランティア活動に参加すること。関連する書籍を読むこと。(90分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト: なし
参考書:赤井悟ほか著『教師力を鍛えるケースメソッド123: 学校現場で生じる事例とその対応』ミネルヴァ書房、2014年。
参考資料等: 平成29年度版学習指導要領、平成29年度版幼稚園教育要領
中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』平成17年</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育・教職実践演習(幼稚園)</td><td>教員名</td><td>松村納央子
佐藤 真澄
大田 紀子</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">UC4-7002-120000</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業形態</td><td rowspan="3">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">年次配当</td><td rowspan="3">4年後期</td><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td>特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語教育専攻</td><td></td></tr>
<tr><td>教科及び教職に関する科目</td><td colspan="6">教育実践に関する科目(幼稚園)</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="6">教職実践演習</td></tr>
<tr><td>教科目</td><td colspan="6">必修科目(保育士)</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">総合演習</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">保育者としての資質能力の形成・定着、保育実践力の向上</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">大学での授業や実習を通して習得してきた知識や技術等が、保育士、幼稚園教諭として最小限必要な資質能力として形成されているかを確認する。また、模擬保育等のロールプレイングやディスカッションを通してこれまでの学びを振り返り、保育における現代的な課題も含めた新たな課題を見出す。これらを踏まえ、自己の課題を明確化し、保育実践において必要となる資質を高めていくことを目指す。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目DP:(4)</td></tr>
<tr><td></td><td>DP番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 保育士、幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術、判断力、倫理観等が習得、形成されているか確認する。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>2. 授業や実習等を通じた体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的な課題について現状分析・検討・考察する。</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3. 自己の課題を明確にし、保育士、幼稚園教諭として保育実践において必要となる基礎的な資質能力の定着と向上を図る。</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第1回:オリエンテーション 〔到達目標1・2〕
第2回:特別講義「保育のマナーとコミュニケーション」〔到達目標1・3〕
第3回:子ども理解ー個の理解と集団づくり 〔到達目標1・3〕
第4回:ロールプレイング①:4・5月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第5回:ロールプレイング②:6・7月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第6回:ロールプレイング③:8・9月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第7回:ロールプレイング④:10・11月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第8回:ロールプレイング⑤:12・1月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第9回:ロールプレイング⑥:2・3月の模擬保育 〔到達目標1・2・3〕
第10回:ロールプレイングの振り返り①:個人の省察 〔到達目標1・2・3〕
第11回:ロールプレイングの振り返り②:共同の省察 〔到達目標1・2・3〕
第12回:ICT活用について 〔到達目標2・3〕
第13回:保育における相談援助について 〔到達目標2・3〕
第14回:特別講義「関係機関・地域との連携・協同」〔到達目標2・3〕
第15回:まとめと今後の課題 〔到達目標1・2・3〕</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ロールプレイング、ディスカッション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法: ロールプレイング・ディスカッションへの参加度(50%)、課題・レポート(50%)
評価の基準:これまで習得してきた保育者として必要な知識や技術を用いて自分なりの意見を述べることができる。自己を振り返ることで課題を明確化し、保育者としての資質を向上させようとしている。</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">ロールプレイングやディスカッションした内容を振り返り、コメントをする。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習:資料収集、模擬保育に関する教材研究や準備を行い、保育指導案を推敲する。(各回90分程度)
復習:授業内容を整理する。自分や他者の模擬保育を振り返り、改善点や課題を見出す。(各回90分程度)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:平成29年度告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書・参考資料等:適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>卒業研究</td><td rowspan="3">教員名</td><td rowspan="3">武田雅行 他</td><td rowspan="6">免許・資格との関係</td><td>保育士</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナンバリングコード</td><td rowspan="2">CM4-8001-000000</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">演習</td><td>中学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td>高等学校教諭(英語)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">特別支援学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>4</td><td>年次配当</td><td>4年前後期</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>初等幼児教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td><td>英語教育専攻</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業テーマ</td><td colspan="6">論文の執筆、研究発表、討論</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="6">本学での学びの集大成として、子どもに関わるテーマを設定し、各自の論点の明確化と整理、参考文献・資料収集、論文としての表現に関する指導を行う。受講者各自の卒業論文の論旨、及び、重要部分に関する報告を踏まえて討論をおこなう。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">科目 DP:(2)</td></tr>
<tr><td>DP 番号</td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td>1. 教育研究活動を企画・立案し、効果的に実践し、その意義を明確にすることができる。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>2. 自らの研究内容を整理した上で、その成果と主張を明確に伝える。</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>3. 研究成果を報告し、質疑応答をすることで相互のコミュニケーションを確保して、建設的に議論し合うことができる</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">授業の実施方法:①面接授業のみ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">授業としては概ね 30 時間、学生の進行状況に応じて担当教員から以下の項目に関する学習支援を受ける。それを通じて論文を執筆する。

・教育学が解明の対象とする諸現象を文化的社会的な観点やグローバルな観点から広く理解する(目標 1)
・現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して情報を収集する (目標 1)
・外国語運用能力、統計分析、史料解析、観察法、情報処理など研究手法の基礎を習得する(目標 1)
・具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味する (目標 1)
・グループワークに必要となる協働的態度を習得する (目標 1,2,3)
・教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得する (目標 1,2,3)
・研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得する (目標 1,2,3)
・研究成果への自他の評価を踏まえて、発展的に研究・実践を継続する (目標 1,2,3)</td></tr>
<tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td colspan="6">ディスカッション、プレゼンテーション</td></tr>
<tr><td>成績評価基準</td><td colspan="6">評価の方法:①指導教員(主査)による総合的評価(80%)、②副査による研究成果の評価(20%)
評価の基準: ①履修者自身の明確でオリジナルなテーマ設定がなされているか、②先行研究が適切に把握されているか、
③論文構成・また各部分の立論や記述に論理性があるか、④適切な参考文献・資料が引用されているか、
⑤建設的な議論が展開されているか</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="6">受講生それぞれに個別の課題に対し、その都度助言を行う。</td></tr>
<tr><td>時間外の学習について</td><td colspan="6">予習：
復習：} 受講生それぞれの課題に応じて資料の整理と分析を行う(各回 90 分以上)</td></tr>
<tr><td>教材にかかわる情報</td><td colspan="6">テキスト:特になし
参考書:
参考資料等:適宜紹介する。</td></tr>
<tr><td>担当者からのメッセージ等
実務経験について</td><td colspan="6">自学自習の態度で臨むこと。</td></tr>
</table>

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号
TEL 083－972－3288
FAX 083－972－4145